

開講科目名	アカデミック・ライティング（英語）		
担当教員	木原 恵美子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

- [ 本授業の課題] 自分の専門分野を紹介するエッセイ(Personal Statement)を書き上げる。  
 [ 本授業の目的] 英語作文の基本的技巧に習熟する。

本授業で目指すのは主に2つのことである。第1に、英文を書く上で必要な基礎的スキルに習熟する。ここで想定されている英文とは、大学で学ぶ程度の知的内容を、文化的背景の異なる他者に効果的に伝える水準のものである。第2に、こうした基礎的スキルの習熟にはどのような経験を積むことが必要であるかを会得してもらう。ここで会得したことが、今後の自己研鑽に永く役立つことを期待したい。

### 授業の概要と計画

ライティングの技能向上で重要なのは、練習の質と量である。練習の質を高めて、できるだけ多くの練習をすることが欠かせない。そして、練習の質を高める上では、読み手からのコメントを受けて、書き手は何度も英文を書き直すことが有効である。書き手は何度も英文を書き直す中でコツがつかんでゆくのである。また、同時に、多くの英文を書くことで、覚えたコツを身体に染み込ませないとライティングの技能は向上しない。

本授業では全部で12題のパラグラフ・ライティング問題を通して、ライティングの基礎を実習する。このうちの9題は実践練習（小テスト、TOEFL TWE）である。問に対して、適切な英文を自然な速度で組み立てて応答する練習を行う。残りの3題は何度も書き直しながら仕上げる形で練習を行う。この3題は連携していて、最終的に有機的に繋ぎあわせて1つのエッセイにまとめあげる実習となる。このエッセイの内容は（外資系）企業への応募や海外留学の際に求められるPersonal Statement（一種の自己推薦書）を想定したものになっている。（実際に、英文エッセイを企業へ提出するか否か、留学するか否かは不問であり、あくまでもエッセイを書き上げるために設定する想定である。）

授業は以下のように Unit 1 と Unit 2 とに分かれて進行する。

#### Unit 1

- 事前に提出された答案（授業前課題）から教員が幾つかを選び出し、サンプル答案として抽出して授業中に示す。
- 執筆者以外の受講者は審査員となり、サンプル答案を吟味する。（日本語でpeer-reviewを行う。）
- 授業での質疑応答・討論を踏まえて、全員が自分の答案を書き直す。（授業後の課題）
- 修正版を次の授業までにメールで提出する。

#### Unit 2

- 一定時間内に一貫性のある英文を仕上げる練習（小テスト、TOEFL TWEとアカデミック英語表現を確認するテスト）を行う。

\*この答案は、英語圏からの留学生（博士課程の院生）に添削されてから翌週に返却される。

### 成績評価と基準

- 毎週の宿題：20%
- 每講の小テスト (TOEFL TWEとCROWN I & II)：20%
- 中間テスト（2回）：30%
- 学期末エッセイ：30%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

本授業の定員は15名である。

（本授業は、国際文化学研究科の前期課程（修士）の院生のみ履修可能である。同研究科の後期課程（博士）の院生、その他の研究科の院生、研究生、聴講生の履修は認められないで注意すること。）

受講生15名を決定するにあたって、第1講でPlacement Testを実施する。  
 受講希望者はこのテストを受験すること。

受講者15名は第1講終了後（4月16日正午頃まで）に決定する。  
 （Placement Test受験者全員に受験結果をemailで連絡するので、  
 履修が許可された学生のみ履修登録を済ませること。）

したがって、本授業は第3講から授業を開始する。

（第3講から（成績に加算される）小テストを実施する。）

（最初の課題の英文の提出期限は4月28日（土）23時59分である。以後、毎週土曜日の夜が課題の提出期限となる。）

## オフィスアワー・連絡先

研究室 : D620

email : e.sakubun@gmail.com

前期 & 後期 : 月曜2限

注意 : 必ず事前にアポイントメントを取って下さい。

## 学生へのメッセージ

提出物は全てemailで提出、授業に関する補足や指示もemailとblogで行われるため、少なくとも以下の3つのITスキルが必須となります。

[ 1 ] ワードプロセッサーによる英文作成 ( Spelling Check含む )

[ 2 ] ワードプロセッサーで作成した文書の保存形式の選択

[ 3 ] 電子メールによる添付ファイルの送受信

## 今年度の工夫

本授業は、後期に開講される「アカデミック・コミュニケーション」と合わせて履修されることがぞましい。  
( 本授業で使用される2冊の教科書は「アカデミック・コミュニケーション」で使用される教科書と同じである。 )

## 教科書

"The Elements of Style"は各自で読み、ライティングのルールを頭に入れておくこと。( いずれの教科書も神戸大学の図書館に所蔵されています。 )

The Elements of Style (4th ed.) / Strunk Jr., William & White, E. B. : Longman ,2000年 ,ISBN:020530902X

Giving Academic Presentations (Michigan Series in English for Academic & Professional Purposes) illustrated edition版 / Susan M. Reinhart : University of Michigan Press ,2002年 ,ISBN:047208884X

## 参考書・参考資料等

参考書も自主的に読んでおくこと。

( いずれの参考書も神戸大学の図書館に所蔵されています。 )

A Pocket Style Manual: Includes 2009 MLA & 2010 APA Updates / Diana Hacker, Nancy Sommers, Tom Juhn, Jane Rosenzweig : Bedford/St Martins ,2010年 ,ISBN:031266480X

First moves : an introduction to academic writing in English / Paul Rossiter : 東京大学出版会 ,2004年  
,ISBN:4130821210

Writing for Academic Purposes 英作文を卒業して英語論文を書く / 田地野 彰、ティム・スチュワート、デビッド・ダルスキー : ひつじ書房 ,2010年 ,ISBN:4894764903

成功する科学論文 ライティング・投稿編 / Janice R. Matthews (著), Robert W. Matthews (著), 畠山 雄二 (翻訳), 秋田 カオリ (翻訳) : ,2009年 ,ISBN:4621081357

## 授業における使用言語

講義は日本語で行ないますが、提出物はすべて英語で書いてもらいます。

## キーワード

アカデミック英語、パラグラフライティング、ピアレビュー、TOEFL TWE

開講科目名	外国語アカデミック・スキル演習		
担当教員	木原 恵美子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

- [ 本授業の課題] 自分の専門分野を紹介するエッセイ(Personal Statement)を書き上げる。  
 [ 本授業の目的] 英語作文の基本的技巧に習熟する。

本授業で目指すのは主に2つのことである。第1に、英文を書く上で必要な基礎的スキルに習熟する。ここで想定されている英文とは、大学で学ぶ程度の知的内容を、文化的背景の異なる他者に効果的に伝える水準のものである。第2に、こうした基礎的スキルの習熟にはどのような経験を積むことが必要であるかを会得してもらう。ここで会得したことが、今後の自己研鑽に永く役立つことを期待したい。

### 授業の概要と計画

ライティングの技能向上で重要なのは、練習の質と量である。練習の質を高めて、できるだけ多くの練習をすることが欠かせない。そして、練習の質を高める上では、読み手からのコメントを受けて、書き手は何度も英文を書き直すことが有効である。書き手は何度も英文を書き直す中でコツがつかんでゆくのである。また、同時に、多くの英文を書くことで、覚えたコツを身体に染み込ませないとライティングの技能は向上しない。

本授業では全部で12題のパラグラフ・ライティング問題を通して、ライティングの基礎を実習する。このうちの9題は実践練習（小テスト、TOEFL TWE）である。問に対して、適切な英文を自然な速度で組み立てて応答する練習を行う。残りの3題は何度も書き直しながら仕上げる形で練習を行う。この3題は連携していて、最終的に有機的に繋ぎあわせて1つのエッセイにまとめあげる実習となる。このエッセイの内容は（外資系）企業への応募や海外留学の際に求められるPersonal Statement（一種の自己推薦書）を想定したものになっている。（実際に、英文エッセイを企業へ提出するか否か、留学するか否かは不問であり、あくまでもエッセイを書き上げるために設定する想定である。）

授業は以下のように Unit 1 と Unit 2 とに分かれて進行する。

#### Unit 1

- 事前に提出された答案（授業前課題）から教員が幾つかを選び出し、サンプル答案として抽出して授業中に示す。
- 執筆者以外の受講者は審査員となり、サンプル答案を吟味する。（日本語でpeer-reviewを行う。）
- 授業での質疑応答・討論を踏まえて、全員が自分の答案を書き直す。（授業後の課題）
- 修正版を次の授業までにメールで提出する。

#### Unit 2

- 一定時間内に一貫性のある英文を仕上げる練習（小テスト、TOEFL TWEとアカデミック英語表現を確認するテスト）を行う。

\*この答案は、英語圏からの留学生（博士課程の院生）に添削されてから翌週に返却される。

### 成績評価と基準

- 毎週の宿題：20%
- 每講の小テスト (TOEFL TWEとCROWN I & II)：20%
- 中間テスト（2回）：30%
- 学期末エッセイ：30%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

本授業の定員は15名である。

（本授業は、国際文化学研究科の前期課程（修士）の院生のみ履修可能である。同研究科の後期課程（博士）の院生、その他の研究科の院生、研究生、聴講生の履修は認められないで注意すること。）

受講生15名を決定するにあたって、第1講でPlacement Testを実施する。  
 受講希望者はこのテストを受験すること。

受講者15名は第1講終了後（4月16日正午頃まで）に決定する。

（Placement Test受験者全員に受験結果をemailで連絡するので、  
 履修が許可された学生のみ履修登録を済ませること。）

したがって、本授業は第3講から授業を開始する。

（第3講から（成績に加算される）小テストを実施する。）

（最初の課題の英文の提出期限は4月28日（土）23時59分である。以後、毎週土曜日の夜が課題の提出期限となる。）

## オフィスアワー・連絡先

研究室 : D620

email : e.sakubun@gmail.com

前期 & 後期 : 月曜2限

注意 : 必ず事前にアポイントメントを取って下さい。

## 学生へのメッセージ

提出物は全てemailで提出、授業に関する補足や指示もemailとblogで行われるため、少なくとも以下の3つのITスキルが必須となります。

[ 1 ] ワードプロセッサーによる英文作成 ( Spelling Check含む )

[ 2 ] ワードプロセッサーで作成した文書の保存形式の選択

[ 3 ] 電子メールによる添付ファイルの送受信

## 今年度の工夫

本授業は、後期に開講される「アカデミック・コミュニケーション」と合わせて履修されることがぞましい。  
( 本授業で使用される2冊の教科書は「アカデミック・コミュニケーション」で使用される教科書と同じである。 )

## 教科書

"The Elements of Style"は各自で読み、ライティングのルールを頭に入れておくこと。( いずれの教科書も神戸大学の図書館に所蔵されています。 )

The Elements of Style (4th ed.) / Strunk Jr., William & White, E. B. : Longman ,2000年 ,ISBN:020530902X

Giving Academic Presentations (Michigan Series in English for Academic & Professional Purposes) illustrated edition版 / Susan M. Reinhart : University of Michigan Press ,2002年 ,ISBN:047208884X

## 参考書・参考資料等

参考書も自主的に読んでおくこと。

( いずれの参考書も神戸大学の図書館に所蔵されています。 )

A Pocket Style Manual: Includes 2009 MLA & 2010 APA Updates / Diana Hacker, Nancy Sommers, Tom Juhn, Jane Rosenzweig : Bedford/St Martins ,2010年 ,ISBN:031266480X

First moves : an introduction to academic writing in English / Paul Rossiter : 東京大学出版会 ,2004年  
,ISBN:4130821210

Writing for Academic Purposes 英作文を卒業して英語論文を書く / 田地野 彰、ティム・スチュワート、デビッド・ダルスキー : ひつじ書房 ,2010年 ,ISBN:4894764903

成功する科学論文 ライティング・投稿編 / Janice R. Matthews (著), Robert W. Matthews (著), 畠山 雄二 (翻訳), 秋田 カオリ (翻訳) : ,2009年 ,ISBN:4621081357

## 授業における使用言語

講義は日本語で行ないますが、提出物はすべて英語で書いてもらいます。

## キーワード

アカデミック英語、パラグラフライティング、ピアレビュー、TOEFL TWE

開講科目名	ITスキル実習		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

大学院で研究活動を行うために必要な、コンピュータとネットワークに関する技術の習得を目標とする。

### 授業の概要と計画

以下のような内容を計画しているが、受講者のレベルによっては内容を変更する場合がある。

- 神戸大学におけるコンピュータとネットワークの利用法
- レポート・論文作成のためのワードプロセッシング
- 情報整理・データ分析のための表計算
- その他研究に役立つオンラインソフトウェアの利用

### 成績評価と基準

実際に機器操作をしながら学習するため、出席することが大切である。開講回数の三分の二以上の出席がないと成績評価されないこともある。さらに、例え欠席したとしても自分で補うこと。成績評価は出席(10%)、課題(90%)とする。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

神戸大学学術情報基盤センターから発行されたIDを必要とする。初回には配布されたアカウント通知書を必ず持参して下さい。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	IT技術習得法演習		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

大学院で研究活動を行うために必要な、コンピュータとネットワークに関する技術の習得を目標とする。

### 授業の概要と計画

以下のような内容を計画しているが、受講者のレベルによっては内容を変更する場合がある。

- 神戸大学におけるコンピュータとネットワークの利用法
- レポート・論文作成のためのワードプロセッシング
- 情報整理・データ分析のための表計算
- その他研究に役立つオンラインソフトウェアの利用

### 成績評価と基準

実際に機器操作をしながら学習するため、出席することが大切である。開講回数の三分の二以上の出席がないと成績評価されないこともある。さらに、例え欠席したとしても自分で補うこと。成績評価は出席(10%)、課題(90%)とする。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

神戸大学学術情報基盤センターから発行されたIDを必要とする。初回には配布されたアカウント通知書を必ず持参して下さい。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	アカデミック・ライティング（日本語）		
担当教員	水野 マリ子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ある程度専門性を含んだレポートや、修了レポート作成につながる日本語の論理的な文章を構成する力を養う。

### 授業の概要と計画

まず、各自専門内容を含む小論文をいくつか選んで、その分野に特徴的な表現や語彙を抽出し、それを使った短文練習から長文、さらにはまとまった文章へと練習をつなげる。宿題として作文を課し、教師が添削ののち、クラスでフィードバックして全員の共有知識とする。論文の基本的な書き方のほか、発表時のレジュメの作成法についても学習する。

### 成績評価と基準

最終課題(作文) 60%、出席20%、授業活動(発表他) 20%で評価する。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

授業活動には発表のほか、各自の誤用訂正などの宿題の検討も含むので、出席点は重視される。

### オフィスアワー・連絡先

学期開始後に連絡。

### 学生へのメッセージ

主として上級レベルの外国人留学生を対象とするが、日本人の参加も歓迎する。なお、日本語レベルが日本語能力試験2級、N2レベルの留学生は状況により参加を認めることがあるので、相談に来ること。

### 今年度の工夫

日本語での論文作成能力を中心に学習するほか、レジュメの作成法についても練習する。

### 教科書

学期開始後に連絡。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

### キーワード

開講科目名	文化情報リテラシー専門演習		
担当教員	金田 純平	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

フィールドワークや実験をおこなう人文・社会系の研究において、語り・音・映像・動作・表情といった「不定形な情報」を取り扱うことが重要になっています。そのためには、画像・動画・音声などのメディアを使いこなすことが同時に必須になってきます。また、Web上での研究データや研究成果を世界に向けて公開することが一般的になります。データの管理・共有の必要性が日々増してきています。

本講義では、人文・社会系研究者・専門家に必要あるいは必須となっている、画像・音声・動画のデジタルデータについて、その収録・編集・管理について学びます。

授業は演習形式で行います。実際に機材やPCの操作を行って、画像・音声・動画コンテンツを作成します。最終的には、自力でこれらのデータ・コンテンツを自由自在に扱い、研究や業務に適用できるようになることを目指します。

### 授業の概要と計画

本講義では、次の内容について実習を通じて学習し、基礎的な知識を身につけます。

- ・画像のデジタル化と加工
- ・音声データ・動画データの収録・編集・書き出し
- ・既存の画像・音声・動画データを用いたメディアのオーサリング
- ・作成したメディアのWeb上での公開
- ・著作権・人格権・個人情報などの保護

また、どのようなコンテンツを扱うかについては、授業中に受講者の学習・研究上のニーズを考慮して相談のうえで決定します。

### 成績評価と基準

講義への積極的な参加：20%

授業内課題（最終課題含む）：80%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

特別な予備知識は必要としません。ただし、講義ではPCを使った演習を行いますので、最低限のPCの操作ができることを前提とします。

### オフィスアワー・連絡先

メールにてご連絡ください。アドレス: its.annex [at] gmail.com ([at]を@に置き換えてください)

### 学生へのメッセージ

これからのお研究者・専門家も、音声・映像など非テキスト情報を用いることが求められています。文章を書いたりプレゼンテーションを行ったりするのと同じく、これらのデータを収集・加工し公開していくことも、リテラシーとして身に付ける必要があります。文化情報リテラシーはみなさんの研究や仕事の役に立てられます。実験系の方はもちろん、ICレコーダーやビデオカメラを使ってフィールドワークやインタビューを行うことを考えている方、あるいは画像・映像・音声などマルチメディアに興味のある方の受講をお待ちしています。

### 今年度の工夫

受講者の皆さんのお専攻分野や研究テーマ、あるいは身につけたいことを考慮し、それに沿った内容を可能な範囲で授業で取り扱います。

### 教科書

教科書は使用しません。必要に応じて資料を配付します。

### 参考書・参考資料等

昔の映像・音楽・写真をデジタル化する方法 / 村上俊一 : 翔泳社 ,2010 ,ISBN:978-4798120171

準デジタル・アーキビスト / 後藤忠彦・高納成幸・片桐郁至・谷口知司 : 日本文教出版 ,2008

,ISBN:978-4536600088

デジタルアーカイブ基点・手法・課題(文化とまちづくり叢書) / 笠羽 晴夫 : 水曜社 ,2010 ,ISBN:978-4880652450

### 授業における使用言語

日本語（ただし、日本語の運用に自信のない受講者には英語で補助説明を行う）

### キーワード

デジタルメディア、Web、アーカイブ化、音声、動画

開講科目名	コミュニケーション論特殊研究		
担当教員	山田 玲子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

外国語学習における音声の役割について、音声科学、音響学の側面から知識と技術を得るとともに、デモや実習を通して外国語学習への応用について考察する。

### 授業の概要と計画

**概要**  
音声言語情報処理に関する関連諸分野の基本的な知識を得、英語学習・教育への応用について考察する。具体例としてTOEIC?テストをとりあげた様々な学習方法を体験し、自らも教材作成をすることにより、外国語の育成方法について理解を深める。さらに、発音を客観的に評価するために不可欠な音響分析を体験し、特にスペクトログラム（声紋）から何という英語発話かを読み取るスペクトログラムリーディングの基礎を学び、英語音声の特徴を理解する。

**計画**

1. 外国語学習における音声の役割
2. 音声言語情報処理に関する実習
3. 外国語学習教材の学習体験と作成
4. 英語音声の分析：基礎
5. 英語音声のスペクトログラムリーディング：基礎

### 成績評価と基準

平常点50%、期末のレポート50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習（教材作成、実習、データ処理）は授業内と授業時間外の双方で進めます。授業時間外での作成に使用するパソコン、ソフト（PowerPoint、Excel等）は受講者が準備してください。

復習として毎回講義のまとめや課題に関する小レポートを作成し、次回講義までにメールで送付していただきます。課題については講義時に指示します。

受講者の人数によって内容を調整しながらすすめます。

### オフィスアワー・連絡先

yamada@atr-lt.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

音声、外国語、L2、第2言語、英語、スペクトログラム、音声分析、TOEIC、eラーニング

開講科目名	アジア・太平洋文化論演習		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

この演習のテーマは、「満洲語入門と満洲語史料の読解訓練」とする。目標は、清王朝の公用語であった満洲語を習得して、清代の満洲文歴史史料を読めるようになることである。

### 授業の概要と計画

満洲語は、文法構造が日本語、朝鮮語、モンゴル語に近いため大変習得しやすく、文字も、モンゴル文字に比べれば、比較的学びやすい。しかも、満洲語で書かれた清朝時代の公文書類は、日本以外では、ほとんど利用されていないため、習得する価値が非常に高い。

- 1.満洲語の言語系統
- 2.満洲文字の誕生
- 3.満洲文字の解説
- 4.満洲語文法の解説
- 5.満洲文文書史料の読解

### 成績評価と基準

演習科目なので、出席と授業への積極的な参加に基づいて評価する。試験・レポート類はなし。その代わり、授業後半には、文書読解を分担してもらうこととする。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初心者用の授業なので、特に予備知識は必要ない。ただし、語学の演習なので、なるべく欠席せず、積極的に質問すること。

### オフィスアワー・連絡先

月曜・木曜の昼休み。研究室はE-206。

### 学生へのメッセージ

気軽に出席して下さい。欠席が続くと、途中でわからなくなるかも。

### 今年度の工夫

満洲語の文字はモンゴル文字とそっくりであるため、模範として、モンゴル人学生に満洲文字を書いてもらう予定。

### 教科書

特になし。プリントをコピーで配布する。

### 参考書・参考資料等

授業中に指示する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ソングース系諸言語 アルタイ諸言語 満洲語 満洲文字

開講科目名	越境文化論演習		
担当教員	北村 結花	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：「古典」の受容

到達目標：1) 古典を読む。2) 古典受容の特徴を知る。3) 海外の研究動向に触れる。

### 授業の概要と計画

現在、「古典」とされる文学作品はどのように受容されているかを、海外で出された論考をもとに考察する。取り上げる論考のタイトルは以下の通り。

- 1 A Theory of Adaptation (Linda Hutcheon)
- 2 Envisioning of the Tale of Genji (eds. Haruo Shirane)

### 成績評価と基準

平常点 50% (授業での発表内容 + ディスカッションへの参加度 + 提出物) + レポート 50%。

3回以上欠席の場合は、授業を放棄したものとする。なお、各自の報告の際に欠席した場合も同様。（ただし特段の理由——忌引、伝染性の病気——がある場合は除く。診断書等の提出が必要。）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

発表者であるか否かにかかわらず、翌週の課題の読解は必須である。また、各論考で取り上げられている古典作品の原文（=古文あるいは英文）を読むことも必要に応じて求めらる。

### オフィスアワー・連絡先

yuika < A T > kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

英語の読解能力は必須。古文についても基礎的レベルの読解力があることが望ましい。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	日本言語文化論特殊講義		
担当教員	昆野 伸幸	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

天皇制は日本独特の伝統だとよく言われる。かつては「万世一系」「国体」といった特有のことばでその価値が称揚されたが、そのような評価も今日ではごく一部の保守的知識人の言論に見出すことができる程度である。ただ評価の良し悪しはともかく、天皇家が長い歴史を通じて今まで続いてきたことは事実である。それでは天皇家が存続したのはなぜなのだろうか。果たしてそこには何かしらの必然的な理由があったのか、それとも単なる偶然にすぎないのか。いずれにしてもこの日本史上最大の難問といつても過言ではない問いに対し、直ちに答えを出すことは不可能に近い。

この授業では、以上のような難問に対する答えの手がかりを得ることを目標に、「天皇觀からみる日本思想」というテーマを設定し、日本人の様々な天皇觀を歴史的に検討していきたい。

### 授業の概要と計画

以上のようなテーマ・目標に応じて、授業では特定の時代に限定することなく、古代から近代まで幅広い時代を取り上げる。授業の概要と計画は以下の通りである。

はじめに

- 1 講義のガイダンス 今なぜ天皇について考えるのか？
- 2 方法としての日本思想史 「日本」「思想」「歴史」の再考  
　　一 古代・中世
- 3 『古事記』と『日本書紀』 古代王権と神話世界
- 4 忠靈になる天皇 崇徳院忠靈譚
- 5 武家の天皇觀 後鳥羽院忠靈説を否定する幕府
- 6 中世の天皇と仏教 権門体制論と日蓮の天皇觀  
　　二 近世
- 7 キリストンの天皇觀 ルイス・フロイスの観察を通じて
- 8 国学者の天皇觀 不条理な現実における絶対の存在
- 9 民衆の天皇觀 讽刺文芸のなかの天皇  
　　三 近代
- 10 神道国教制下の天皇 最高祭主としての天皇
- 11 内村鑑三不敬事件 教育勅語とキリスト教
- 12 南北朝正闇問題 明治天皇の「聖断」
- 13 「大正デモクラシー」と「国体」 開かれた皇室の模索と挫折
- 14 天皇神格化の進行 文部省『国体の本義』
- 15 新しい神道を求めて 折口信夫の戦後天皇論

### 成績評価と基準

平常点3割、試験7割で評価する。平常点は、出席や受講態度などによる。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

シラバスに沿って進めるので、事前に基本的事項については調べておくこと。次の講義内容とのつながりがより理解しやすいように、講義で取り上げた内容を復習すること。

### オフィスアワー・連絡先

随時。事前に連絡すること (nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp)。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書は使用しない。

**参考書・参考資料等**

参考文献は初回授業時に紹介する。

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

日本思想 天皇

開講科目名	科学技術文明論特殊講義		
担当教員	三浦 伸夫	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

#### 【数学の歴史】

今日、数量認識なくしては社会は成立しません。数字や10進法を知らない人はいないでしょう。アラビア数字はイスラームの地から西洋に到來したからといって、非ムスリムがそれを使用するのを拒否することは稀です。この10進法を基準にして今日の数体系は中世からルネサンスにかけて徐々に成立していきます。そのあたりの様子を、多方面から眺めていきます。西洋近代科学の成立の問題とも関わる重要なテーマです。

### 授業の概要と計画

教科書を用いて、古代エジプトから17世紀までの数学の歴史を講義していきます。

### 成績評価と基準

出席：レポート = 40 : 60  
出席とは、議論に参加する事です。レポートの題材は相談に応じます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

古代から近代までの世界史の知識が必要です。高等学校の数学の初步程度は必要ですが、微積分は必要ありません。

### オフィスアワー・連絡先

メールにて事前連絡の上時間調整します。

### 学生へのメッセージ

数学のみならず、宗教や建築など多方面の事柄を広く扱いますので、様々なことを勉強する意欲ある学生の参加を期待します。

### 今年度の工夫

### 教科書

数学の歴史 / 三浦伸夫 : NHK出版, 2013, ISBN:  
数学の歴史 / 三浦伸夫 : NHK出版, 2013, ISBN:

### 参考書・参考資料等

適宜指示する

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

文化史、数学史、比較文明論

開講科目名	アメリカ言語映像文化論特殊講義		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

アメリカ小説研究と映画研究の接点

小説と映画それぞれの表現媒体としての特質を対比し、小説を語ることで映画の、映画を語ることで小説のリテラシー、すなわち「精読の技術」を高めることを目指す。

### 授業の概要と計画

アメリカ小説と映像の関係について、各々複数回にわたり講述する。適宜、学生諸君からの発表も取り入れ、双方向的に理解を深めたい。とりあげる作品はアメリカの小説と映画が主体となる。

- ( 1 ) 小説と映画におけるナレーション
- ( 2 ) 「小説にできること、映画にできないこと、そしてその逆」
- ( 3 ) 他の文学ジャンルと映画の関係
- ( 4 ) アダプテーションの諸問題
- ( 5 ) 小説家自身による映画化
- ( 6 ) 比較研究の実例

### 成績評価と基準

授業中の活動 50%

期末レポート 50%

以上を合わせて評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

検討する対象の小説と映画作品を注意深く読み、鑑賞してくること。自宅その他でビデオ、DVDがみられる環境にあることが望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

takuyan@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

受講生からの発表も取り入れる。

### 教科書

特になし。プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

### 授業における使用言語

日本語、配布物は英語もあり。

### キーワード

アメリカ小説、映画、アダプテーション

開講科目名	国際政治社会論特殊講義		
担当教員	坂井一成	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

グローバリゼーションの進む現代国際関係の特質の一つに地域統合が挙げられるが、特に欧州連合（EU）による統合の進展は目覚ましい。しかし、経済統合の側面ばかりが脚光を浴び、むしろより重要な問題をはらむ政治や社会・文化の側面について軽視されてきた傾向がある。この授業では、欧州統合のこうした様々な側面、及び主要国の対欧州統合政策の特質を理解し、地域統合のもつ意味や課題を深く掘り下げて検討する。

[EUIJ科目]

### 授業の概要と計画

概ね教科書の各章に沿いつつ、適宜最新のトピックを盛り込んで授業は展開される。

- 0 ) ヨーロッパ統合と国際関係論の視点
- 1 ) フランス外交とヨーロッパ統合
- 2 ) ドイツとヨーロッパ統合
- 3 ) イギリスにおけるヨーロッパ政策の国内化
- 4 ) ベネルクス三国とヨーロッパ統合
- 5 ) 北欧諸国の対外政策と対ヨーロッパ政策
- 6 ) EUの共通外交・安全保障政策
- 7 ) EUの共通移民政策
- 8 ) EUの教育・文化交流政策
- 9 ) EUにおける国家主権の位相

### 成績評価と基準

平常点（授業への参加の度合い）（40%）、中間レポート（30%）、期末レポート（30%）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

教科書の当該箇所（あるいは授業時に指定する文献）を熟読して、事前に疑問点を挙げてくるとともに、授業後には授業内容の定着を図ること。

### オフィスアワー・連絡先

随時。ただしメール（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）にて事前連絡が望ましい。研究室はE407。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

ヨーロッパ統合の国際関係論 [ 第2版 ] / 坂井一成（編）：芦書房 ,2007 ,ISBN:

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	異文化関係論演習		
担当教員	柴田 佳子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

後期の現代人類学特殊講義とセットで展開するテーマ（ディアスボラ、グローカリゼーション、トランスナショナリティ、多文化共生、インターマリッジ、異種混交／ハイブリディティ、クレオール、ポストコロニアリズムの具体的事例を深く理解し、移動、異文化間葛藤、異種混交、多文化共生、文化の創造などの諸相にみられる絡み合いに注目する。これらに関する重要な文献の購読を通じ、各自の関心に合わせて具体的に展開して理解を深めていく。）

### 授業の概要と計画

後期の現代人類学特殊講義と連動して展開する。  
文献解説とディスカッション。

### 成績評価と基準

平常点（60%）と学期末レポート（40%）  
授業での貢献度（発表者の質、その他の受講生の積極的な関与）  
レポートの質（形式、内容）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、事前に課題文献などを十分に読み、それを反映した質問やコメントも用意すること。  
後期の現代人類学特殊講義も他の人類学関係の授業も受講することが望ましい。  
質問はできるだけ授業中にいて、他の受講生と問題意識を共有してほしい。  
テキストは発表担当者でなくてもきちんと読み、わからないことがあつたら自分で調べておくこと。担当者は十分な準備が必要で、テキストの内容とそれに関連する問題系へ関心を広げてほしい。  
適切な理由なしの欠席3回以上は不可

### オフィスアワー・連絡先

随時：ただし、あらかじめメールなどでアポイントメントをとって下さい。yoshibat@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

各自の知的関心や問題意識に即して展開していってほしい。

### 今年度の工夫

受講生の関心に合わせた内容に触れるなどして、各自が発展的に関連づけられるようにする。受講生の要望もできるだけ取り入れたい。

### 教科書

授業中に指示する

### 参考書・参考資料等

適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語、必要に応じて英語

### キーワード

ディアスボラ、グローカリゼーション、トランスナショナリティ、多文化共生、インターマリッジ、異種混交（ハイブリディティ）、クレオール、ポストコロニアリズム

開講科目名	スラヴ社会文化論特殊講義		
担当教員	青島 陽子	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

近現代のロシア世界は、西欧の文化を吸収し、その影響を受けながらも、ユーラシアの大帝国として独自の文化を生み出してきた。ロシア帝国・ソ連は双方とも、その内部に多様な諸民族を含みつつ、隣接する諸地域に大きな影響を与え、世界の趨勢を左右してきた。現在、その後継国家であるロシア連邦もまた、周辺の諸国家への影響力を次第に増大させることで、大国としての地位の回復をめざしている。

本講義の目的は、近年研究がめざましく進展しているロシア帝国論を紹介しながら、独自のミクロ・コスモスとしてのロシア・ユーラシア世界の社会文化的な特徴を多様な側面から考察することである。さらに、それとの比較において、西欧近代の諸特徴や諸問題を逆照射して考えてみたい。

### 授業の概要と計画

1~5回：中世から近世までの歴史を辿り、モスクワ国家時代の諸特徴を検討する。とくに、西欧とは異なる専制的な君主の権力が確立する過程を検証する。

6~10回：近代ロシア帝国時代の歴史をさぐる。なぜロシアは広大な領域を統治することが可能であったのか。その統治のメカニズムを検証する。同時に、近代化が進むとともに緩やかな帝国的統治体制が侵食されていく様子も論じる。

11~15回：ロシア帝国崩壊後、ソ連がどのように広大な統治領域を再興したのかを論じる。さらに、第二次世界大戦期に生じた暴力的な民族居住地域の再編などを検討する。

ただし、聴講生の希望も聞きつつ、内容を微調整していく可能性もありうる。

### 成績評価と基準

出席と授業での発言（20%）とレポート（80%）で評価

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

双方向的な授業を目指します。積極的な発言・質問・返答などを期待します。毎回、分からなかった部分や疑問に思った点を調べ、次の授業にのぞんでください。ヨーロッパ・アメリカ文化に関する他の授業を履修することを勧めます。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

ロシア史は、巨大なユーラシアの帝国が西欧近代へと対応しようとしたことから生じる葛藤の歴史です。そこからはロシアの特質だけではなく、西欧文明それ自体の矛盾や、世界的な歴史の趨勢を構築していくことにもなったロシアの牽引力も見えてくると思います。ヨーロッパ世界の在り方をその東端から眺め、一緒に考えてきたいと思います。

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし

### 参考書・参考資料等

適宜指示する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ロシア、ソ連、東欧、近代、帝国、民族、宗教、ネイション

開講科目名	国際社会論演習		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

この授業では、英語で書かれた、政治学・国際関係論に関する文献を輪読することを通じて、大学院での研究に必要な情報収集力を向上させることを目標とする。

### 授業の概要と計画

2013年度はアメリカ外交をテーマとする。今回は、アメリカの連邦議会調査局が、議会での法案作成の資料として、世界の各地域の最新情勢を鋭く分析した報告書である、CRS Reportを毎週輪読してゆきたい。具体的には

- 1 . 米日関係
  - 2 . 米中関係
  - 3 . 米仏・独関係
  - 4 . アメリカの東南アジア政策
  - 5 . アメリカ-北朝鮮・韓国関係
  - 6 . アメリカ-オーストラリア関係
  - 7 . アメリカのラテンアメリカ政策
  - 8 . アメリカのアフリカ政策
  - 9 . アメリカ-インド・パキスタン関係
  - 10 . アメリカの中東政策
  - 11 . 日米関係
- などを扱っていきたい。

### 成績評価と基準

授業での発表・発言:期末レポート = 60%:40%の割合で総合して評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

出席と予習は、単位取得の前提条件です。三回以上欠席した場合、単位は認定しません。授業では一人二回ほど発表を担当し、CRSレポートの内容の要約を発表します。他の学生はレポートを読んでいて、発表者に質問できるように準備してきます。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー: 水、金の昼休み  
他は要予約、yasuoka@kobe-u.ac.jp  
研究室 E409

### 学生へのメッセージ

政治学や国際関係論、外国社会について学んでいるなら、日本語に訳されたニュースや日本語の本に頼るのではなく、英語でダイレクトに情報収集できるようになります。

### 今年度の工夫

国際情勢を理解するのに役立つ英単語集を配布します。

### 教科書

Congressional Research Reports  
(どの号を読むかは授業で指示する)

### 参考書・参考資料等

Congressional Research Reports

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	日本学演習		
担当教員	長志珠絵	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
テーマ 占領期日本を考える 演習の到達目標は「歴史史料をどう読むか」スキルの獲得と日本現代史研究の最前线にふれることにある。			
授業の概要と計画			
毎回、発表者が、予め読んだ箇所を資料にまとめ、授業当日配布する。それをもとに、全員で議論する。			
成績評価と基準			
出席(30%)、発表(30%)、レポート(40%)			
履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)			
初回には必ず出席すること 欠席の場合は要連絡 院の授業は学部講義の延長にあらず			
オフィスアワー・連絡先			
研究室E207. オフィスアワーは隨時。事前にs.osa(アットマーク)people.kobe-u.ac.jpまで連絡してください。			
学生へのメッセージ			
自身の専門性とのマッチングをよく考えて履修してください。			
今年度の工夫			
教科書			
史料テキストはコピーを配布 神戸地方軍政部史料 論文テキストとしては、『文化冷戦の時代とアジア』等。			
参考書・参考資料等			
竹前栄治 / 『GHQ』 : 岩波新書, 1983, ISBN: 『日本占領史研究序説』 / 荒敬 : 柏書房, 2009, ISBN: 『アメリカ占領期の民主化政策』 / 岡原郁 : 明石書店, 2007, ISBN:			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
占領期研究 ラジオ 冷戦 東アジア ジェンダー			

開講科目名	国際社会論演習		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

近年の欧米の比較政治学の業績を吟味し、最新の実態と同時に、その問題点や理論的インプリケーションについて比較検討することを目標とする。本授業では、ヨーロッパ統合に関わる諸問題、特に、近年のEU研究の成長産業とまで言われる「ヨーロッパ化」(Europeanization)について考察する。

ヨーロッパ統合研究を研究史的に概観すれば、当初は、何故ヨーロッパにおいて地域統合が進んだのか、ヨーロッパ統合を促進した要因を明らかにすることに焦点が置かれていた。その後、欧洲レベルでの統治構造の制度化に伴い、単なる加盟国の連合体でも、加盟国全体を覆う一つの国家でもない、「独特」(sui generis)と称されるEUの政体(polarity)を明らかにする方向へと研究の重点が移っていく。さらに、近年、ヨーロッパ統合の進展が各国の国内政治にどのような影響を与えているのか、「ヨーロッパ化」に関する研究が、急速に進展しつつある。

以下で挙げる著書は、この分野に関する最新の著書であり、これまでの研究成果や理論的議論を体系的に整理し、著者独自の考察と評価を加えている。本書の解説を通じて、ヨーロッパ統合が国内の政治制度、特に執行機関や議会、政党や利益団体、さらに国内政策・外交政策にどのような影響を与え、またナショナルな政府がそれにどう適応しようとしているのか、比較考察したい。

### 授業の概要と計画

テキストの目次は、以下の通りである。

- Introduction
- 1 Europeanization: Conceptual Developments and a Framework for Analysis
- 2 National Executives
- 3 National Parliaments
- 4 Centre-Regional Relations
- 5 National Courts
- 6 Political Parties
- 7 Interest Groups and Social Movements
- 8 National Policy
- 9 Foreign Policy
- 10 Conclusion

### 成績評価と基準

報告 50% (報告の論理性、独創性、批判力など)  
授業での活動 40% (ディスカッションへの参与度、質問力など)  
出席点 10%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

準備学習として報告の担当者は、自分が担当する章についてレジュメを作成すること、また他の履修者は疑問点を整理しておくことが求められる。復習として、各回の冒頭で前回の主要な論点について理解を確認する。

### オフィスアワー・連絡先

毎週火曜日の昼休み。研究室(E414)  
それ以外はメールで事前に連絡ください。  
E-mail:sakano@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

実態を知ることと同時に、その意味や理論的視点も重視しています。理論は、多面的な様相を持つ事象を理解する上で、ガイドラインの役割を果たすからです。

### 今年度の工夫

### 教科書

Europeanization and National Politics / Ladrech, Robert : ,2010 ,ISBN:

**参考書・参考資料等**

授業における使用言語

日本語

キーワード

ヨーロッパ統合 EU ヨーロッパ化

開講科目名	日本学演習		
担当教員	板倉 史明	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

映画学関連の文献を精読し、映画学の専門知識を身につけてもらう。毎回学生に発表してもらい、議論する。

### 授業の概要と計画

各学生は最低1回発表する。

- 1 . イントロダクション
- 2 . 学生発表と議論
- 3 . 学生発表と議論
- 4 . 学生発表と議論
- 5 . 学生発表と議論
- 6 . 学生発表と議論
- 7 . 学生発表と議論
- 8 . 学生発表と議論
- 9 . 学生発表と議論
- 10 . 学生発表と議論
- 11 . 学生発表と議論
- 12 . 学生発表と議論
- 13 . 学生発表と議論
- 14 .まとめ

### 成績評価と基準

出席および授業中の参加度（30パーセント）、授業中のプレゼンテーションおよびディスカッションへの参加（30パーセント）、期末レポート（40パーセント）。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

各学生は与えられた課題について最低1回、プレゼンテーションをしてもらう。人数が少ない場合は複数回発表もありうる。

### オフィスアワー・連絡先

適宜メールにて日時等設定する。itakura(a)people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

映画研究に興味のある方はぜひ参加してください。文献は参加者の専門を考慮して選ぶ。

### 今年度の工夫

映像資料ができるかぎり事前に準備する。

### 教科書

特になし

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

映画学、フィルム・アーカイブ、メディア、映像

開講科目名	国際社会論演習		
担当教員	中村 覚	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習は、国際安全保障学と地域研究を融合する観点を養う。国際安全保障論の基礎となる研究を講読していく。とりあげる主な事例は、中東となる。

### 授業の概要と計画

最初の授業でリーディングリストを配布する。

### 成績評価と基準

- ・担当の報告、発表
- ・授業での討論

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

国際安全保障学や中東に関する基本的事項を踏まえていることが望ましい。報告の際には、それらに関して、説明できる準備をしてもらいたい。

### オフィスアワー・連絡先

金曜12:20-13:10. satnaka@kobe-u.ac.jp.

### 学生へのメッセージ

応用力の高い学問的観点を養ってもらえると思います。

### 今年度の工夫

国際安全保障学と中東地域研究を明確に対比すると同時に、融合する観点を目指します。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語。受講者により、英語。

### キーワード

国際安全保障、中東、イスラーム、地域研究、学際的研究

開講科目名	科学技術社会論特殊講義		
担当教員	塙原 東吾	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

西川如見と18世紀の天文学・自然観：プロテスタント科学と、カトリック的な東アジア関与（3）

### 授業の概要と計画

西川如見の研究を以下のように、各2回づつ行う。

- (1) 天文学
- (2) 地理学
- (3) 自然観
- (4) 天文觀、農民思想、庶民倫理
- (5) ジエズイットの中国での活動
- (6) マックス・ウェーバーのプロテスタント觀
- (7) 日本における技術優先主義
- (8) 蘭学

### 成績評価と基準

基本的に最終論文で評価をする。

オリジナリティとプライオリティをもって評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

かなり高度の内容となるので、準備には、毎回3時間程度かかる。

### オフィスアワー・連絡先

木、ヒル、M404

### 学生へのメッセージ

蘭学者くらいには勉強しましょう。

### 今年度の工夫

マックス・ウェーバーの蘭学的解釈を入れたところ。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語、英語、オランダ語

### キーワード

西川如見、キリストン科学、プロテスタント科学、蘭学、天文学史、18世紀の自然観

開講科目名	アメリカ多民族社会形成論特殊講義		
担当教員	井上 弘貴	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

今年度の特殊講義では、メディア表象、あるいはマスメディアと世論形成との関係のなかで多民族社会としてのアメリカ合衆国について検討します。人種やエスニック集団をめぐる問題も、現代社会ではもっぱらマスメディアを媒介にして可視化されることを忘れることはできません。そこで、マスメディアにかんする基礎的な理論の習得とあわせて、メディアを通じた人種・エスニシティの表象について批判的視野を養うことを到達目標とします。

### 授業の概要と計画

メディア表象、あるいはマスメディアと世論形成にかんする思想、理論、歴史的事例について講義形式による解説をはさみつつ、その解説と関連したテキストの輪読と、それを踏まえての履修者全員によるディスカッションを通じて今年度の特殊講義に関するトピックの理解を深めたいと思います。

### 成績評価と基準

出席を重視します。成績評価は平常点によっておこないます。平常点には、毎回の出席状況、輪読するテキストの報告分担の担当状況、毎回のディスカッションへの取り組みの姿勢等を含みます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

下記の教科書に指定したものを中心に、各回の講義のなかでのテキストは必ず事前に読んだうえで講義に臨んでください。これらテキストは原則として、事前にコピーを配布します。

### オフィスアワー・連絡先

メールにて隨時相談のこと。  
hiro\_inouye@port.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

特殊講義ではありますが、大学院の講義である以上、演習と同様に履修者と教員の間でのディスカッションを重視します。積極的に討論の輪に加わってくれるみなさんの参加を歓迎します。

### 今年度の工夫

今年度はマスメディアを重要なテーマとして設定します。

### 教科書

下記の教科書のかな的一部分を、各回のテキストとして配布する予定です。ここに挙げないものをテキストとして配布する可能性もあります。  
ニュース・メディアと世論 / マックスウェル・マコームズ、デービッド・ウィーバー、エドナ・AINSEYER : 関西大学出版部, 1994年, ISBN:978-4873541723  
メディア仕掛けの政治 現代アメリカ流選挙とプロパガンダの解剖 / ドリス・A・グレイバー : 現代書館, 1996年, ISBN: 978-4768466896

### 参考書・参考資料等

ここに挙げたもの以外については、講義のなかで適宜紹介します。  
世論(上)・(下) / ウォルター・リップマン : 岩波文庫, 1987年, ISBN:978-4003422212

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

マスメディア 表象 アジェンダ・セッティング 世論

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ文化論演習		
担当教員	谷本 慎介	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：ヨーロッパの神話・伝説・ファンタジー  
ヨーロッパ文化の多層性、多元性の実態を、神話や伝承、伝説、ファンタジーを通して検証します。

### 授業の概要と計画

ヨーロッパ文化の多層性、多元性を視野に入れながら、受講生の希望に沿ってテキストを選び、それらのテキストについて学生にレポートしていただきます。  
具体的なテキストの選定、授業の日程については、学生と相談のうえ決めますので、受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

### 成績評価と基準

平常点（授業への積極的参加）50%、期末レポート50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

課題に積極的に取り組むこと。

### オフィスアワー・連絡先

火・木曜日の昼休み：研究室はE216  
tanimoto@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

### 今年度の工夫

ヴィヴィッドな授業をめざします。

### 教科書

プリント配布

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

文化の多層性、多元性、神話、伝説、ファンタジー

開講科目名	異文化関係論演習		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

論文作成に必要な文献涉獵のための読解力と論理構成能力、事例収集能力と分析能力の涵養。

### 授業の概要と計画

初回の講義で相談のうえ決定するが、今のところの目算は以下の通り。はじめに下記英文文献の購読を行う。それぞれの問題関心を把握しつつ、個別報告を挟んでゆきたい。担当者の専門からみた受講者おののおのの研究の問題設定の可否やドラフトの報告・検討を行う。参加者の顔ぶれによっては、短期の人類学的フィールドワークを実施することもある。

### 成績評価と基準

出席と積極性重視。発表内容。フィールドワークを実施することになったら、その調査内容で総合的に判断する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

参考文献を事前に読んでおくこと。

当然のことながら自分が担当部分ではなくともテキストは読んでおくこと。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは随時。事前にアポイントメントを取っていただくと確実です。メールアドレスは、umeya@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

翻訳と原典の照会をやっていく。また、担当者の論文を時折検討して、それぞれ独自のやり方をあみだしてもらいたい。

### 教科書

指定しない。

Magical Interpretations, Material Realities / Moore, Henrietta & Todd Sanders : Routledge ,2001  
ISBN:0-415-25867-7

### 参考書・参考資料等

呪術化するモダニティ / 阿部・小田・近藤 : 風響社 ,2007 ,ISBN:978-4-89489-119-7

呪術の人類学 / 白川・川田 : 人文書院 ,2012 ,ISBN:978-4-409-53042-9

/スピリチュアル・アフリカ : 落合 (編) ,2009 ,ISBN:978-4-7710-2089-4

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

文化人類学、有形・無形文化財、伝統、地域おこし、観光、コミュニティ、儀礼・祭礼、世俗化など

開講科目名	民族学特殊講義		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

民族誌的事実を紹介することで文化人類学の歴史に触れ、地球上の諸民族のくらしの多様性を理解することを目標とする。

### 授業の概要と計画

映像資料Strangers Abroadを用いる。スクリプトを訳しつつ、また解説を加えつつ人類学史を学ぶ。

### 成績評価と基準

出席（単なる出席ではなく積極的に参加しなければならない。70パーセント）とレポート（30パーセント）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

特になし。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは隨時。事前にメールでアポイントメントをとること。連絡先は、umeya[at]people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

適宜映像資料を使用し、異文化の状況が理解しやすいよう工夫する

### 教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

文化人類学群像 1 / 綾部（編）：アカデミア出版, 1985, ISBN:ASIN: B000J6M7MY

文化人類学群像 2 / 綾部（編）：アカデミア出版, 1988, ISBN:ASIN: B000J6M7MY

文化人類学のエッセンス / 蒲生（編）：ペリカン, 1978, ISBN:1039-782181-7612

### 参考書・参考資料等

適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	越境文化論演習		
担当教員	遠田 勝	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

『物語の越境と変容』というテーマで、小泉八雲が日本の怪談や口承伝説をどのように英語の短編小説に仕立て直したかを検討する。テキスト批判の基礎を身につける。

### 授業の概要と計画

初回にガイダンスの後、それぞれにリストから担当する作品を選んでもらい、毎回、ひとつの作品を担当者の発表と全員の議論により検討してもらう。発表した内容は最終的には学期末レポートとして提出してもらう。

### 成績評価と基準

授業中の発言内容や授業への貢献度 3割、期末レポート 7割

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回配布される英文テキストを読み、十分理解して授業に臨むこと。授業後は、レジメ、比較検討の結果を参考にレポート用原稿をまとめておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日休み、またはメールで連絡のうえ隨時  
mtodaアットkobe-u.ac.jp(アットは@に変換すること)

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

小泉八雲：怪談・奇談（原話収録があるため、講談社学術文庫版に限る）  
ほかは隨時プリント配布。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

Japanese

### キーワード

開講科目名	日本伝承文化論特殊講義		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

日本の説話伝承の諸問題について講義する。本年度は平安時代の渡航僧をめぐる説話を主として取り上げる。また受講生と相談し、フィールドに出て、資料調査などを行いたい。説話・伝承についての研究課題や方法について、専門的知識を身につけることを目標とする。

### 授業の概要と計画

下記の予定は一応の目安です。受講生の関心や授業の進行状況により、変更の可能性もあります。

1. 説話研究入門 1
2. 説話研究入門 2
3. 清涼寺釈迦仏と渡航僧 1
4. 清涼寺釈迦仏と渡航僧 2
5. 普陀山と渡航僧
6. 真如親王説話 1
7. 真如親王説話 2
8. 戒覚『渡宋記』と『撰集抄』慶祚説話、玄奘説話 1
9. 戒覚『渡宋記』と『撰集抄』慶祚説話、玄奘説話 2
10. 戒覚『渡宋記』と『撰集抄』慶祚説話、玄奘説話 3
11. 慈寛大師をめぐる説話
12. 寂照説話 1
13. 寂照説話 2
14. 現地踏査 1 ( 資料調査を含む。日程は適宜相談します )
15. 現地踏査 2 ( 資料調査を含む。日程は適宜相談します )

### 成績評価と基準

出席(5割)、レポート(5割)によって評価する。

出席点は、復習とセットになっています。不明な用語などは、辞書で調べてください。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

平安期の日中交流史関係の論文や図書を読んでください。

### オフィスアワー・連絡先

国際文化学研究科 E201 研究室(内線 7451)  
kinosita@harbor.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

博物館などで実物資料にふれる機会をもつ

### 教科書

プリントを使用する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語。古文、漢文も多用します。

### キーワード

渡航僧 平安時代 し

開講科目名	アジア・太平洋文化論演習		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

自著を例に中国における国家思想の変遷に関する思考を紹介し、それを通じて論文における独自の視点と理論的整理の重要性を説明する。

### 授業の概要と計画

第1周、「論文とはなにか」について講義する。資料を批判的に使う方法、論説を展開する手順、論文の語り口、論文の意味などについて、出席者が理解するように説明する。

第2周目以降、自著をテキストに、以下の順序で出席者が読んだ上で発表する。

- 1 , 文明論の華夷觀——中国における民族思想の起源
- 2 , 三重の天下——中国における多民族国家思想の起源
- 3 , 長城の内と外——成立期の中華帝国と夷狄
- 4 , 分治と漢化——五胡十六国時代における夷狄の中華王朝思想
- 5 , 重層的帝国と多元的帝国——唐・遼・元の国家像
- 6 , 大一統帝国の連續性と非連續性——元・明・清時代の土司制度
- 7 , ウンマと中華との間——清朝による新疆ウイグル社会統治
- 8 , 擬似的中華民族国家の構築 孫文の民族主義の蹉跌
- 9 , 二重の中国?一九三〇年代中国人の辺疆認識の構造
- 10 , 「民族自決論」から「民族自治論」へ?中国共産党少数民族政策の決定過程

### 成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 1、中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
- 2、授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。
- 3、指示した教科書を購入すること。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30 ~ 13:10  
E214室、内線7459

### 学生へのメッセージ

歴史を複眼的に見ることが重要である。

### 今年度の工夫

### 教科書

『天下を目指して』（農文協、2007年、3200円）

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	ラテン・アメリカ文化交流論特殊講義		
担当教員	小澤 卓也	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマは「食のグローバリゼーション」です。最近の食文化研究の動向と課題をふまえ、受講生自らが具体的な食文化の諸問題について分析・検討できるようになることを到達目標とします。

### 授業の概要と計画

本講義のテーマや到達目標にふさわしい英語文献を選び、受講生とともに一定程度読み進めたうえで（受講生をランダムに指名し、翻訳してもらう）、その内容を補足あるいは解説する講義をおこないます。ときに文献の内容について報告してもらうこともあります。詳細なスケジュールについては受講生の興味・関心もふまえたうえで決定します。なお、使用するテキストについては、担当者がコピーしたものを受け取る形で配布します。

### 成績評価と基準

80%以上の出席率を前提とし、発表や発言の学術性や授業への積極性を基盤とした日常点（50%）と学期末レポート（50%）によって評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講生は予習として毎回指定された英語文献の翻訳をしておかなければなりません。まったく予習していないと判断された場合、その日の受講生の出席点は認められません。なお、あらかじめ食のグローバリゼーションに関する本（あるいは論文）を一冊読んでおいてください（本は自ら選択したもので良いですが、学術性の高いものを選んでください）。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは水曜日2限目です（メールによるアポが必要）。メールアドレスはozataku(AT)harbor.kobe-u.ac.jpです。

### 学生へのメッセージ

担当教員による講義や解説の時間は確保しますので、毎回ただ延々と英語を翻訳するわけではありません。あくまでテキストはたたき台であり、その内容を批判的に読んでいくところに重きを置きたいと思います。また、解説のための講義にも力を入れています。

### 今年度の工夫

前年度は日本語の文献を使用して授業をおこないましたが、今年度は英語の学術論文（あるいは本）をテキストに採用することにより、受講生の英語論文読解力も同時にブラッシュアップすることを目指しています。

### 教科書

コピーして受講生に配布します。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介することもあります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

食文化 グローバリゼーション 南北問題

開講科目名	異文化関係論演習		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習は、修士課程1年の学生に対し、段階的な論文執筆に必要な研究計画作成プロセスを段階的に踏ませることが第一の目的である。またディスカッションを通じ、研究に必要な視点、発想を育成することを目的とする

### 授業の概要と計画

計画 修士論文執筆に向けた研究計画について発表・議論を行う形式の演習です。

第一回は受講者についてのガイダンスを行う。

第二回は、研究方法、論文作成についての講義を行う。

第三回以降、受講者による発表と議論を通して、各自の研究を進展させる。なお複数回の発表を必須とする。

### 成績評価と基準

出席を重視するとともに、発表回数、および内容を重視する。なお、いかなる理由であれ、3回以上欠席の場合は「良」、4回以上欠席の場合は「可」を成績評価の上限とする。発表回避の場合は、他の日程で発表を必ず行うこと。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 発表者は論文草稿、レジュメを前日昼までにメールで提出すること。その他の出席者は必ず草稿に目を通し、あらかじめ質問、コメントを作成して授業に臨んで下さい（提出）
- ・演習に遅刻・欠席する場合は、必ず掲示板で連絡すること。

### オフィスアワー・連絡先

掲示板による連絡

### 学生へのメッセージ

初回のガイダンスには必ず出席してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ文化論演習		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

フランスの首都パリの歴史・文化・建造物を考察した文献、19世紀フランスの鉄道・メトロ建設の経緯やパリの景観論争に関する文献、パリを代表する二つの記念建築物であるノートルダム大聖堂とエッフェル塔に関連する文献などを精読して、近代都市の特徴や西洋文化の特質について考えます。本演習はパリについての知識を深めると同時に、ヨーロッパの都市やそこに存在する記念建築物の「読みとり方」を学ぶことを目的としています。

### 授業の概要と計画

本演習の進め方は参加者の人数によって変化しますが、基本的には教員の指定するテキストあるいは学生の希望するテキストを担当者が読んでそれについて発表し、全員でディスカッションするという形です。しかし、参加学生の希望や興味の対象によって変更することも可能です。

### 成績評価と基準

授業への出席と積極的な参加(50点)、および自分の選んだテーマによる学期末レポート(50点)。ただし、参加者の人数によって変更することもあります。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

毎回予習して出席してください。フランス語を履修していないなくても大丈夫です。

### オフィスアワー・連絡先

国際文化学研究科E215

### 学生へのメッセージ

フランスの文化や社会に興味を持っていて、それについて新たな切り口を探したい学生、あるいはもっと広くヨーロッパの歴史、文化、都市などに興味がある学生などを歓迎します。

### 今年度の工夫

### 教科書

近代都市パリの誕生 鉄道・メトロ時代の熱狂 / 北河大次郎 : 河出ブックス ,2010 ,ISBN:  
ゴシックとは何か 大聖堂の精神史 / 酒井健 : ちくま学芸文庫 ,2006 ,ISBN:

### 参考書・参考資料等

エッフェル塔 / ロラン・バルト : ちくま学芸文庫 ,1997 ,ISBN:  
パリ 都市の記憶を探る / 石井洋二郎 : ちくま新書 ,1997 ,ISBN:

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

フランス文化 パリ 都市

開講科目名	イギリス宗教文化論特殊講義		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

イギリスのキリスト教の歴史を広い意味での文化コンテキストと関連させて講義する。イギリス文化形成にキリスト教がどのようにかかわったか理解する。[EUIJ科目]

### 授業の概要と計画

ユダヤ教からキリスト教への発展、中世の教会、近代の国民教会、近代、現代の諸問題をキリスト教の観点から考察する。

### 成績評価と基準

講義の理解度チェック50%、期末レポート50%の総合評価。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回授業の始める前に前回の要点について理解しているかチェックします。復習を怠らないように。また理解が不十分なまま授業が終了しないよう、質問をするようにしてください。

### オフィスアワー・連絡先

研究室：E204  
Email: notani@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	日本芸能文化論特殊講義		
担当教員	寺内 直子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「日本の芸能の美学と実践」

日本にはさまざまな芸能が伝承されてきたが、それぞれ独特の美学・理念と実践の方法論がある。日本人は何を美しいと考え、どう表現してきたのか。それらには、今なお通用する普遍的原理がある一方、時代特有の特徴もある。この授業では、芸能にまつわるさまざまな歴史的文献を実際に読みながら、芸能の実際の芸態、それを担う音楽家の社会階層、芸能の社会における評価と意味、さらに、芸能の美学、思想等の観点から考察する。なお、受講に際しては、高校程度の日本の古典文の知識が必要である。

### 授業の概要と計画

以下のような文献を取り上げる予定。後白河法皇撰『梁塵秘抄口伝集』／大江匡房『洛陽田楽記』／狩野真撰『教訓抄』／藤原孝道撰『残夜抄』ほか／世阿弥著『風姿花伝』

### 成績評価と基準

出席20%、質疑応答10%、発表30%、レポート40%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

高校程度の日本古典の知識が必要

### オフィスアワー・連絡先

随時。要事前連絡 naokotk(at)kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

実践とその背景の美学をさぐる

### 今年度の工夫

### 教科書

なし

### 参考書・参考資料等

授業中に指示

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

美学 雅楽 今様 田楽 能

開講科目名	オセアニア社会文化論特殊講義		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

文化人類学において、現在注目されている知見についての理解と、自分の研究テーマとリンクさせて考える方法を身につける。

### 授業の概要と計画

今期は、人類学で中心的に議論されているテーマを扱う予定である。

### 成績評価と基準

出席および参加態度、中間レポート、最終レポートによって総合的に評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

積極的なかかわりを求めます。毎回、十分な準備を行うこと。

### オフィスアワー・連絡先

E222(要アポイント)  
kubotas@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

一方的講義のみではなく、履修者にも論文購読、報告を求める。英語の論文にもなれることを目指してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

講義の最初に提示する。

### 参考書・参考資料等

Social life of the things / Appadurai, A : Cambridge University Press ,1986 ,ISBN:

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	社会人類学特殊講義		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

社会人類学あるいは文化人類学に関する知識を習得することを目標とする。

### 授業の概要と計画

以下の項目について講義を行うとともに、質疑応答を行う。

- 1 ) 多配列とプリコラージュ
- 2 ) 土着主義運動
- 3 ) ナショナリズム
- 4 ) エスニシティの出現
- 5 ) オリエンタリズム
- 6 ) カストム論
- 7 ) 自文化中心主義批判と本質主義批判
- 8 ) 公共圏、親密圏、グローバリゼーション、グローカリゼーション

### 成績評価と基準

出席 20 %、中間の小レポート 20 %、学期末の試験 60 %によって評価する。1回の欠席につき、マイナス 5 点とするが、5 回欠席すると授業放棄とみなし、単位が出ないので注意すること。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

学部で文化人類学を学んでいること、あるいは、文化人類学の概論書を読んでいることを前提に議論をするめる。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

特に用いない。

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

本質主義、オリエンタリズム、自文化中心主義、ナショナリズム、公共圏、土着主義運動、カストム

開講科目名	越境文化論演習		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文作成に必要な文献読解力・批判能力を身につける。			
<b>授業の概要と計画</b> 古代ギリシア・ローマ文化に関する英語文献を講読する。			
<b>成績評価と基準</b> 授業への積極的参加（50%）、期末レポート（50%）。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 事前に資料を十分読み込んだ上で、授業に臨むこと。また、指示に従って次週までの課題をこなすこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 月曜・昼休み（事前連絡を乞う） yamasawa@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 最初の授業時に指示する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語。			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	東南アジア国家統合論特殊講義		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

現代インドネシアの華人問題の考察を通じ、アジア諸国における国民国家統合の諸相について理解を深めて貰うとともに、学問への取り組みの基本姿勢について肌で感じ取って貰うことを目標とする。

### 授業の概要と計画

私自身が10数年来取り組んできた研究テーマについて、既発表論文や博士論文の内容をそのまま受講生にぶつけ批評して貰う。大学院である以上、講義といえども一方的に「教える」ことではあり得ず、さまざまな角度からの意見を全員から出して貰い、共に考えを深め合う授業にしたい。

### 成績評価と基準

私の示す論旨をきちんと踏まえた上で、私や他の参加者にとっても有用な事実や新たな視点を一つでも説得的に提示してくれるかどうかで評価する。平常点5割・期末のレポート5割の予定。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

インドネシアや華人についての予備知識は不要だが、自主的に幅広い文献を読み、その知見を授業にも還元してくれることを期待する。

### オフィスアワー・連絡先

火曜日休み。ysd@kobe-u.ac.jpへ予め連絡のこと。

### 学生へのメッセージ

学問という土俵において教員も学生も同等だと考えています。教員の権威など気にしない、批判力旺盛な人、またそのような批判力を磨きたい人を歓迎します。

### 今年度の工夫

私自身が喋り過ぎないよう、受講生が発言する時間の確保に努めます。

### 教科書

未定 / : , , ISBN:

### 参考書・参考資料等

私自身の著作や関連論文、資料を適宜配布する予定。

### 授業における使用言語

日本語、インドネシア語、中国語、英語

### キーワード

インドネシア　華人問題　国民国家統合

開講科目名	多文化政治社会論特殊講義		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

多文化主義のあり方は、先進諸国間で大きな違いがある。本講義では、北米、ヨーロッパ諸国、日本を対象として、多文化主義に関連する専門書（日本語、英語、ドイツ語のいずれか）を輪読する。本講義を通じて、受講者が専門的知識を深めることを目的とする。

### 授業の概要と計画

受講者と相談した上で、図書を決めて、輪読する。毎週、担当者が発表し、その後、受講者で討論を行う。受講者はあらかじめ指定された図書を読んでおくこと。

輪読図書のテーマ（予定）は、以下のとおり。

多文化主義の国際比較

多文化主義政策の決定過程

EU統合と多文化主義

日本とヨーロッパ諸国の移民政策の比較

多文化主義社会における福祉国家の可能性

そのほか、受講生の希望により、隣接テーマも取り扱う予定。

### 成績評価と基準

出席および授業での発言（50%）、プレゼンテーション（50%）。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

多文化主義や現代ヨーロッパ政治に関して、一定の予備知識を持っていることが望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めない。授業内容や研究に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとること。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

講義中に指定する。

### 参考書・参考資料等

講義時に適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語、ドイツ語、英語

### キーワード

多文化主義、比較政治、福祉国家

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ文化論演習		
担当教員	石塚 裕子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

文化ないしは文学作品のテキストを原書で読みながら、イギリス文化、とりわけヴィクトリア朝の文化と社会に関する理解を深める。

### 授業の概要と計画

具体的なテキストは受講者と決めたいと考えているが、イギリスの文化に関するテキストを精読しつつ、発表をしてもらい、また議論していく。

### 成績評価と基準

三分の二以上の出席の上、授業への参加と発表。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

金曜日昼休み  
ishizuka@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ヴィクトリア朝、ディケンズ、社会小説

開講科目名	感性コミュニケーション論演習		
担当教員	松本 紘理子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本講義では、人間の認知システムの持つ特性と背景メカニズムについて、認知心理学領域のテキスト、論文の講読を通じて理解を深めることを目的とする。

### 授業の概要と計画

主として、認知神経心理学、認知心理学領域の英語原著論文の講読、発表を通じて議論を行う。必要に応じて、日本語の総説等もテキストとして用いる。資料については授業内で指示する。

### 成績評価と基準

授業内での発表内容、ディスカッションへの参加状況、テーマへの理解度から評価を行う。  
出席、授業参加態度（積極的な議論への参加、資料の事前学習によるテーマの理解度を含む）：50%、  
発表内容（レジュメ、プレゼンテーション、質疑応答の内容を含む）：50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業内で指示した文献・資料については、担当の有無にかかわらず必ず事前に読み、不明な用語は調べておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

随時。必ず事前にメールにてアポイントを取ってください。

### 学生へのメッセージ

この授業を通じて、認知心理学の最新の知見に触れ、それらの社会的応用や今後の展開について、一緒に考えてみましょう。

## 今年度の工夫

出来る限り身近な話題を題材に、認知心理学の研究展開を考える。また、本演習を通じて、認知神経科学の基礎的な用語に習熟可能になるように、ビジュアル教材を取り入れながら進める。

## 教科書

授業内で必要に応じて指示する。

## 参考書・参考資料等

授業内で必要に応じて指示する。

## 授業における使用言語

日本語  
(文献資料、テキストは主として英語です。)

## キーワード

認知心理学、認知神経科学

開講科目名	ITコミュニケーション論演習		
担当教員	康 敏	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

現代の人類社会で起きている高度情報化、グローバル化等に起因する諸問題を、先端的・学際的研究によって体系的に解明するには、多岐な視点からコンピュータを用い定量的に扱う手法も不可欠なものとなっている。この演習では、統計的アプローチを用いて文化的・社会的現象を定量的に解析するテクニックを習得する。

### 授業の概要と計画

R言語による統計情報処理について演習を行う。

### 成績評価と基準

出席、課題の提出などによって評価を行う。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

前期の「コンピュータシミュレーション特殊講義」を履修してからこの授業に臨んで欲しい。

### オフィスアワー・連絡先

昼休み 事前連絡必要・  
kang@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

使用しない。

### 参考書・参考資料等

授業の最初に紹介する。

### 授業における使用言語

### キーワード

開講科目名	外国語教育工学論特殊講義		
担当教員	柏木 治美	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本講義では、外国語教授法や外国語教育に関わる歴史や背景を概観する。また新しい分野となる情報通信技術の外國語学習への応用などについても触れる。これらを通して、外国語教育の基礎となる幅広い土台を固める。

### 授業の概要と計画

4月：外国語教授法や外国語教育に関わる歴史や背景について、文献をもとに分担発表  
 6月：情報通信技術の外国語学習への応用例を通して、その設計や効果について議論検討  
 7月：これまでの文献購読、議論をもとにレポート提出

詳細については授業で説明する。

### 成績評価と基準

出席、平常点、授業参加の態度（40%）  
 課題（宿題、発表を含む）（30%）  
 期末レポート（30%）

詳細については授業で説明する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

予め以下のメールアドレスにアポイントをとること。  
 kasiwagi@kobe-u.ac.jp , D610室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

詳細については授業で説明する。 / : , , ISBN:  
 「英語教育学大系」第1-13巻 / : 大修館書店 , , ISBN:

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	情報ベース論特殊講義		
担当教員	清光 英成	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
情報検索やデータベースなど専門的に追及するための特別な知識を体系的に習得する。			
<b>授業の概要と計画</b>			
以下の項目を扱う ・順序機械 ・形式言語 ・半構造データ			
<b>成績評価と基準</b>			
出席と口頭による試問			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
出席できない場合は事前に連絡してください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
随時。（但し、要事前連絡。連絡先E MAIL:kiyomitsu@carp.kobe-u.ac.jp ) 研究室：鶴甲第1キャンパス、B407。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
未知の領域に踏み込むこと自体が魅力的です。高い志を持ち、自ら探求する純粋な好奇心を期待します。			
<b>今年度の工夫</b>			
今年からレポートを課すことにします。			
<b>教科書</b>			
特に指示しないが、参考となる文献などは都度紹介する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
必要に応じて指示する			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語、時々英語			
<b>キーワード</b>			
順序機械、形式言語、半構造データ			

開講科目名	言語文化表象論特殊講義		
担当教員	島津 厚久	開講区分	単位数
前期　　　　2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
アメリカ・ユダヤ文化入門			
<b>授業の概要と計画</b>			
ユダヤ系移民がアメリカにおいて、学問、政治、経済、娯楽など様々な分野で力を発揮していることは周知の事実であるが、その実際の姿や意義をいろいろな観点から探ってみたい。前半の授業でユダヤ人の定義と価値観、彼らがアメリカに辿り着くまでの歴史を概観し、その後、New York Jew の現状を把握、さらに、何人かのユダヤ系アメリカ人によるユダヤ人観を瞥見する。それらを手がかりに後半では Jewish humor やイスラエルとの関係などに言及し、アメリカに移民後のユダヤ人達の精神の軌跡に触れる。折に触れて英語文献の講読や、ビデオ鑑賞なども行う予定。			
<b>成績評価と基準</b>			
授業内活動による。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
文献の下読みをして下さい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
火曜日休み D623			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語及び英語			

## キーワード

開講科目名	言語対照応用論特殊講義II		
担当教員	朱 春躍	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ある言語のある音声をどのようにすれば「正しく」発音できるのか。物理的に同じ「音」でも、異なる母語話者の耳には違って聞こえることがよくありますが、それはなぜなのか。声の抑揚がどのように発話者の感情・態度・意図を表現するのか。また、外国語の発音を効率よく教える方法はどんなものなのか。私の授業ではこれらのことを持った学生を歓迎します。

### 授業の概要と計画

- 1.母音
- 2.子音
- 3.プロソディー

上記の諸相について、MRI動画画像による分析や音響分析を通して「誤り」の原因について分析し、矯正の方法などを検討する。

### 成績評価と基準

授業での発言や課題の完成度などにより評価。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

音声の分析能力を高めることがこの授業の目標ですが、理論的知識の蓄積にも留意すること。

### オフィスアワー・連絡先

研究室：D-608（要予約）  
E-mail:chunyuez(at)lion.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

調音活動がその産出物である発話音声との関係を常に意識し、外国語教育活動の中で問題意識を高めましょう。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指示。

### 参考書・参考資料等

授業中に指示。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

音声分析、音声の指導方法

開講科目名	言語コミュニケーション論演習		
担当教員	湯淺 英男	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

日本語・英語の文法的、語用論的あるいは表現上の特質について本年度は名詞を含む複合形容詞（例："health conscious" 「意地悪い」）の統語的意味的特質や副詞と二次述語の関係などについて考察する。言語形式と意味・機能の関わりについての分析能力を身につけることを目標としています。

### 授業の概要と計画

演習形式の授業のため、下記のテキストについて分担を決め、発表してもらいながら授業を進めます。各参加者が分担する範囲は、参加者人数を勘案しながら、適宜授業時にアナウンスします。本年度は「第7章 名詞を含む複合形容詞」「第8章 副詞と二次述語」を中心に行うつもりです。

### 成績評価と基準

授業での質問内容・発言内容や発表のレジュメの内容等、授業活動を60%、学期末のレポートを40%とし、総合的に評価します。授業内容の理解度や分析にあたっての独創性などを特に見ます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

言語・コミュニケーションについて、幅広く興味を持ち、コース内外の種々の授業を履修することを勧めます。

### オフィスアワー・連絡先

木曜日の12時20分から13時10分まで。前もって連絡してくれることを望みます。研究室はB410。

### 学生へのメッセージ

様々な言語表現に関心のある学生の参加を待っています。

### 今年度の工夫

参加学生の自由な発想による発言を引き出す工夫をしたいと考えます。

### 教科書

日英対照 形容詞・副詞の意味と構文 / 影山太郎（編）：大修館書店,2009,ISBN:9784469245417

### 参考書・参考資料等

日英対照 動詞の意味と構文 / 影山太郎（編）：大修館書店,2001,ISBN:4469244597

日英対照 名詞の意味と構文 / 影山太郎（編）：大修館書店,2011,ISBN:9784469245684

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

複合形容詞 主要部 修飾関係 項関係 等位関係 複合名詞 統語構造 副詞 二次述語 叙述的副詞 様態副詞 結果述語 描写述語 外項 内項

開講科目名	現代芸術社会論特殊講義		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ヨーロッパの芸術文化の特質をモードという観点から考えます。本年は、1910-20年代にパリのモード界で活躍した画家ソニア・ドローネーの衣服制作をテーマに取り上げます。

### 授業の概要と計画

ドローネーの制作活動および交友関係を通して、芸術家の衣服制作、文字と衣服、アール・デコのデザインと女性身体、モードの大衆化等の問題について考えます。基本的には講義形式で進めますが、受講者にも関連するトピックについて簡単な発表をしてもらうことを予定しています。

### 成績評価と基準

平常点（授業への参加度と貢献度）と学期末レポートの総合評価

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業への積極的な参加を高く評価します。ただ出席するのではなく、事前に十分な準備を行ってください。

### オフィスアワー・連絡先

E棟313

事前にメール(asakura@port.kobe-u.ac.jp)で連絡を取るようにしてください。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

朝倉三枝、『ソニア・ドローネー 服飾芸術の誕生』、ブリュッケ、2010年

### 参考書・参考資料等

Radu Stern, Against Fashion: Clothing as Art 1850-1930, The MIT Press, 2003.

その他、必要に応じ、適宜、授業で紹介する。

### 授業における使用言語

日本語。ただし、英語やフランス語の文献・資料等を使うこともあります。

### キーワード

ソニア・ドローネー、前衛芸術、絵画、モード

開講科目名	第二言語習得論特殊講義		
担当教員	田中 順子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

第二言語習得論では、第一言語（母語）ではない言語（第二言語、外国語）を私たちがどのような過程を経て習得・学習するのか、またその学習・習得にはどのような要因が関わるのかを扱います。この授業では第二言語習得論が成立した背景を取り上げるとともに、第二言語習得の代表的な理論を概観します。特に英語を外国語（あるいは第二言語）とする人たちが英語を習得する際に関係する言語学的、認知心理学的な要因と英語習得のプロセスについて取り上げます。  
この授業を履修した結果、（1）第二言語習得論の基礎的な知識を得ることと、（2）理論的な知識をもとに、受講者が実証的な言語習得研究のテーマを設定できるようになることを目標とします。

### 授業の概要と計画

Chapter 1 . Introduction  
 Chapter 2 . Age (1) (2) (3)  
 Chapter 3 . Crosslinguistic influences (1) (2) (3)  
 Chapter 4 . The linguistic environment (1) (2) (3)  
 Presentations (1) (2)

上記の内容は予定です。これらに加えて、学期中に文献検索実習またはビデオ視聴の時間を1時間とる予定です。

### 成績評価と基準

出席(20%)  
 課題(30%)  
 発表と期末レポート(50%)  
 これらを合わせて総合的に判断します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

課題文献を毎週読んで授業に出席してください。

### オフィスアワー・連絡先

火曜日休み。  
 あらかじめメールで予約してください。

### 学生へのメッセージ

第二言語習得論やその関連分野(Psycholinguistics, Immersion education, Bilingualism, TEFL等も含む)の基礎となる科目です。

### 今年度の工夫

### 教科書

Understanding second language acquisition. / Ortega, L. : ,2009 ,ISBN:978-0340905593

### 参考書・参考資料等

Richards, J. C., & Schmidt, R. (2010). Longman dictionary of language teaching and applied linguistics (4th ed.). London: Longman.

Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics (4th Edition). / Richards, J. C., & Schmidt, R. W. : London: Longman ,2010 ,ISBN:978-1408204603

英語教育用語辞典 / 白畑知彦, 村野井仁, 若林茂則, 富田祐一 : 東京 : 大修館書店 ,2009 ,ISBN:978-4469245394  
 Second Language Acquisition: An Advanced Resource Book / de Bot, K., Lowie, W., & Verspoor, M. : ,2006 ,ISBN:9780415338707

### 授業における使用言語

主として日本語。英語話者には英語対応可能。

### キーワード

second language, introductory course, language acquisition.

開講科目名	モダニティ論演習		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ジャック・ランシェールの『感性的なもののパルタージュ』を読み、モダニズムの時代における美学と政治の変容と交差について考える。

### 授業の概要と計画

ランシェールの『感性的なもののパルタージュ』を通して読む。テキストは基本的に邦訳を用いることとするが、必要に応じて原文（仏語）を参照する。発表者にレジュメ作成等の課題を与え、内容に関して解説と議論を行う。

### 成績評価と基準

平常点とレポートによる。授業への積極的な参加を求めます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

参加者は毎回テキストを丁寧に読んできて、議論に参加すること。また、発表者はレジュメを用意し、参加者に内容を説明できるように下準備をしておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

講義内に指示します。

### 学生へのメッセージ

芸術にまつわる身近な問題と照らし合わせながらテキストを読み、考えてほしいと思います。

### 今年度の工夫

議論の背景となる美学・芸術に関する知識や文脈について、なるべく分かりやすく解説する。

### 教科書

ジャック・ランシェール『感性的なもののパルタージュ 美学と政治』（梶田裕訳、法政大学出版局、2009年）、Jacques Ranciere. *Le Partage du sensible. La fabrique*, 2000

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	先端社会論演習		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

現代社会の先端的問題のうち、ジェンダーに関わる問題を取り上げます。  
 授業は、ジェンダーに関わる先端的問題について考える上で重要と思われる文献を読むことを中心に進め、受講者に分担報告してもらい、解説と討議を加えることで、現代社会のジェンダー問題の概略について理解してもらうことを目標にします。  
 取り上げる文献は、日本語文献にするか外国語文献にするかも含めて、幾つか用意する選択肢のなかから、受講者の関心に応じて最初の授業のときに決めます。

### 授業の概要と計画

最初に授業の目標を説明し、取り上げる文献を決定し、受講者の分担を決めます。  
 各自に、レジュメの用意と分担報告をしてもらい、それに教員が解説を加え、問題点について受講者全員で討議します。  
 この繰り返しで授業を進めます。

### 成績評価と基準

原則として、担当報告について 50%、報告外の授業への参加状況 50% の割合で評価しますが、必要に応じて期末レポートを課します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習形式の授業ですので、分担報告の準備をしっかりしてください。  
 また分担報告のないときも、必ず毎回出席して討議に参加してください。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：随時受けつけますが、Eメールで事前に約束をとってください。 munakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

ジェンダーに関わる先端的問題に关心のある人は受講してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

最初の授業で決定します。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて適宜紹介します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ジェンダー

開講科目名	ITコミュニケーション論演習		
担当教員	大月一弘	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ネットワークや通信プロトコルに関する基礎知識を習得し、かつ簡単なプログラミング作成経験のある人を対象として、プログラミングによるネットワークアプリケーションの試作を行う。

### 授業の概要と計画

受講者の事前知識の状況に応じて、具体的な授業計画を決める。

### 成績評価と基準

作成されたソフトウェアに対する作品評価、ネットワークアプリケーションに対する知識習得度（講義中に口頭質問を行う）を判断して評価を行う。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

ネットワーク技術ならびにプログラミングに関する基礎知識をもっていることを前提する。  
演習のための課題を課す。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	外国語教育コンテンツ論演習		
担当教員	グリア ティモシー	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

This class will introduce students to micro analytic investigation of naturally occurring interaction, with a particular emphasis on second language talk.

### 授業の概要と計画

- 1 Overview and Introduction
- 2 Transcribing talk
- 3 Turn-taking
- 4 Sequence
- 5 Adjacency
- 6 Preference
- 7 Repair
- 8 A single case study
- 9 Multimodality
- 10 Identity and interaction
- 11 Building a collection
- 12 What is not DA
- 13 Data Session
- 14 CA and Learning
- 15 CA for SLA

### 成績評価と基準

Students will be graded holistically based on their active participation in class. They will also complete a two part assignment in which they will (1) transcribe a short piece of data using CA transcription conventions and (2) work up some preliminary analytic observations on that data and present them to the group in both written and oral form.

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

Monday 12:10- 13:00

### 学生へのメッセージ

This class will primarily be conducted in English. Students are expected to contribute actively to the discussion and to read extensively in English.

### 今年度の工夫

### 教科書

Teacher prepared materials, to be handed out in the initial class

### 参考書・参考資料等

Conversation Analysis and Second Language Pedagogy / Jean Wong and Hansun Zhang Waring : Routledge ,2010 ,ISBN:

### 授業における使用言語

English

## キーワード

Pragmatics, Second Language Learning, Conversation Analysis, Discourse

開講科目名	比較・対照言語論特殊講義		
担当教員	林 博司	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 日本語文法の様々なトピックについて解説し、各受講生の研究テーマに応用できるようになることを目指す			
<b>授業の概要と計画</b> 下記の教科書の第14章から始め、その後は第1章に戻る。扱うテーマは、「は」と「が」、「AはBだ」構文、「…が…」構文、所有者敬語、等である。			
<b>成績評価と基準</b> 講義であるが、授業中のやりとりを重視する。 平常点（積極的に授業に参加しているかを考慮）30%、期末試験70%			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 必ず十分に予習・復習をして欲しい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>   			
<b>学生へのメッセージ</b>   			
<b>今年度の工夫</b>   			
<b>教科書</b> 学びのエクササイズ日本語文法 / 天野みどり：ひつじ書房, 2008, ISBN:			
<b>参考書・参考資料等</b>   			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>   			

開講科目名	対人行動論特殊講義		
担当教員	米谷 淳	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

対人行動、あるいは、対人コミュニケーションにかかわる様々なイッシュについて、英語の原著やVTRなどをテキストに、議論する。

### 授業の概要と計画

今年度は表情についてビデオや文献をもとに基礎から研究レベルまで様々なトピックスを取り上げます。

1 ガイダンス

2-5 対人行動論とは何か

6-8 対人行動論の諸相

9-15 対人行動論の実践と研究

### 成績評価と基準

単位認定の条件は、毎回しっかり準備してきて授業中に積極的に討議に参加すること、そして、授業後半に最低1回、対人行動に関する論文を読んでレジュメを作って発表することの2つである。これらを総合して評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この授業では主としてM1を対象としている。授業では、対人社会心理学、集団力学、感情心理学、発達心理学など、心理学関係の用語や概念が頻繁に出てくるが、心理学の予備知識のない学生でも参加可能である。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日の昼休み（12：30?1：00）C507

TEL 803-7603（研究室）

E-mail: maiya (@) kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

学生は授業の前に、与えられたテキストの部分を読み込み、わからない事項は事典などで調べ、要約し、自分の意見を授業で発言できるように準備し、授業の後で、授業中で出てきた事項を概論書などで復習しておくこと。

### 今年度の工夫

学生どうしのディスカッションが活発なるように努めたいと思います。

### 教科書

授業中にプリントを配布します。

### 参考書・参考資料等

参考書は授業中に指示します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

対人行動 対人社会心理学 感情心理学

開講科目名	ジェンダー社会文化論特殊講義		
担当教員	青山 薫	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「ケアのグローバル化」のテーマを、「ケアの倫理」、移住労働の政治経済文化構造、個人的な希望や動機や抑圧など多方面から捉え、社会と行為主体（エイジェント）の関係がどんな変化を紡ぎだしているのか、理論的考察にも結びつけます。

### 授業の概要と計画

近年国連レベル、国家間レベル、市民社会レベルで大きく扱われるようになった国境を越える「人身取引」の問題と、学問的・社会的に流行する「ケアの倫理」、介護、看護、家事労働、そして性労働を含むケア・ワークに携わる形で国際移動する人びと、などについて理論的・実践的な理解を試みます。時間が許せば映像など視覚教材を利用します。おおよその予定は次の通りです。

第1クルー 「ケアの倫理」の流行

第2クルー 「性の商品化」・「感情労働」の発見・「ケア労働」の重点化

第3クルー 貧困の女性化・労働力の女性化・移住の女性化

第4クルー 「被害者」救済運動の歴史・「セックスクワーカー」の「誕生」

第5クルー 妻と売春婦・メイド・看護師・介護士はどう違うか

第6クルー 人身取引禁止動向とアメリカの影

第7クルー 「被害者萌え」から当事者主義へ

### 成績評価と基準

出席・発表・討論参加：40% 期末レポート：60%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講生の人数によりますが、おおよその構成は、講義半期、指定のテキストを輪読するための受講生の発表半期です。英語読解必須です。

基本的に欠席しないでください。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：月曜5限、水曜4限、金曜4限。事前にEmailで、差出人を明記して、連絡してください。kaoru@jc.a.apc.org

### 学生へのメッセージ

テーマは、講師、時事の都合、参加者の希望によって変えることができます。「自分の頭で考える」をモットーに、積極的に参加してください。

### 今年度の工夫

教材を配布します。

### 教科書

特定の教科書はありませんが。下記参考文献を頻繁に利用します。購入すべき文献等があればテーマごとに紹介します。

### 参考書・参考資料等

「セックスクワーカー」とは誰か：移住・性労働・人身取引の構造と経験 / 青山薰：大月書店,2007,ISBN:国際移動と「連鎖するジェンダー」：再生産領域のグローバル化 / 伊藤るり、足立眞理子編：作品社,2008,ISBN:

### 授業における使用言語

日本語。期末のレポートは英語可。

### キーワード

開講科目名	日本語教育方法論特殊講義		
担当教員	齊藤 美穂	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

日本語教育に関する論文を読み、研究方法とその結果の教育現場への応用について検討する。この活動を通じて、日本語教育に関する調査・研究のデザインのしかたを学ぶ。

### 授業の概要と計画

日本語教育に関する論文の講読を行い、その研究方法や教育現場への応用についてディスカッションをする。  
論文ごとに担当者を決め、担当の受講者が論文の概要を紹介し、その後全員でディスカッションする。

### 成績評価と基準

下記の比率で総合的に評価する。  
1.出席率及び授業への参加態度：50%  
2.期末レポート：50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

事前にその週に読む論文に目を通しておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

木曜13時?14時半（要事前連絡）  
E-mail:maito@people.kobe-u.ac.jp  
Tel:078-803-5274

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

授業時に指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語。ただし、英語の論文を読むことがある。

### キーワード

開講科目名	計算科学応用論特殊講義		
担当教員	西田 健志	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

情報分野の中でも特に、人にとってコンピュータを使いやさくする分野(Human-Computer Interaction: HCI)、および人と人のコミュニケーションや共同作業をコンピュータによって支援する分野(Computer-supported Cooperative Work; CSCW)の分野について、ディスカッションを交えながら紹介します。これらの分野に関する論文を理解、議論できるようになることを目標とします。

### 授業の概要と計画

HCIとCSCWの分野について講義とディスカッションを交えながら紹介します。

これらの分野では情報技術だけではなく、日々の気付きやアイデアに敏感であることが求められます。そのような力を身につけるため、なるべく多くのアイデアに触れられるような演習を随時行います。

- ・論文のイントロダクションだけを数多く読んで報告する
- ・興味を持った論文について、興味を持った理由やもっと改善できそうなところを議論する
- ・「今週気がついた便利なもの・不便なもの」を報告する

### 成績評価と基準

ディスカッションへの参加(50%) + 論文報告(50%)

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

論文や日常の気付きについて報告できるようにメモ等を準備しておいてください。日頃からアイデアをいつでもメモできるように準備しておくことをおすすめします。

### オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。

メール : tnishida@people.kobe-u.ac.jp

研究室 : B棟4階408

### 学生へのメッセージ

この分野では研究よりも実用システムが先に行くということが少なくありません。そのスピード感を感じてもらえるように最先端の事例を取り上げたいと思っています。

### 今年度の工夫

### 教科書

特に使用しません。必要に応じて配布資料やWeb教材を使用します。

### 参考書・参考資料等

ヒューマンコンピュータインタラクション入門 / 椎尾一郎 : サイエンス社, , ISBN:4781912605

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	外国語教育コンテンツ論演習		
担当教員	木原 恵美子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本授業の到達目標は「日本人英語学習者によって書かれた英語を分析するタームペーパーを仕上げる」である。この目標を達成するために、授業では英文ライティングに関する論文を輪読していく。

### 授業の概要と計画

本授業は主に次の2つからなる。

I. 英文ライティングに関する学術論文を輪読する。（論文毎に責任担当者を事前に決める。そして、担当者は担当部分の内容をまとめたハンドアウトを準備し、授業で発表する。その発表内容に対して、その他の受講生が質疑応答や意見交換を行なながら論文を読み進める。）

II. 受講者は、ターム中に1回、タームペーパーで取りあげる分析・研究の進捗状況を発表し、その他の受講者や教員とディスカッションを行う。

### 成績評価と基準

議論に対する貢献度10%

輪読40%

発表20%

学期末レポート30%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

研究室：D620

時間：月曜2限

email: kihara.grad@gmail.com

注意：必ず事前にアポイントを取ること。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書は指定せず、論文のコピーを配付する。

### 参考書・参考資料等

リーディングとライティングの理論と実践 英語を主体的に「読む」・「書く」(英語教育学大系) / 大学英語教育学会(監修) , 2010年 , ISBN:4469142409

テスティングと評価 4技能の測定から大学入試まで(英語教育学大系) / : 大学英語教育学会(監修) , 2011年 , ISBN:4469142433

Dimensions of L2 Performance and Proficiency: Complexity, Accuracy and Fluency in SLA (Language Learning & Language Teaching) / : , , ISBN:9027213062

### **授業における使用言語**

配布される論文は英語で書かれたものであるが、解説は主に日本語で行う。

### **キーワード**

日本人英語学習者、L2ライティング、L2学習者の文法、認知言語学的観点からの分析

開講科目名	文化環境形成論特殊講義		
担当教員	藤野一夫	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

芸術と社会、文化と政治をめぐる複雑な関係について、主に社会科学系や芸術学の研究者の論文にもとづいて考え、日本の芸術文化環境を改善するための手がかりをつかみたい。

### 授業の概要と計画

芸術は社会の役に立つべきなのか？それとも美的自律性を貫くべきなのか？経済の活性化、都市政策（まちづくり）、社会問題の解決などのために芸術を利用する「道具主義」は、人類と社会の未来にとって有益なのか、それとも危険なのか？

こうした根本的な問題を考え抜くために、R.ワーグナーの理論的著作などを手がかりに議論します。また内外の都市政策やアートプロジェクトの事例を紹介し、フィールドワークも行う予定です。

### 成績評価と基準

出席態度及びレポートの総合点

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

随時・要連絡

fujino@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

教科書は高額ですので、購入できない学生にはコピーを配布します。

### 今年度の工夫

実践的事例を通して、自発的に課題を発見し、その理論化と解決方法を提案できるように誘導する。

### 教科書

友人たちへの伝言、未来の芸術作品 / 藤野一夫 : 法政大学出版局, 2012, ISBN:

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	外国語教育内容論特殊講義II		
担当教員	石川 慎一郎	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：コーパス言語学入門

到達目標：英語・日本語コーパス（大規模言語データベース）の分析技術を取得し、データに基づく客観的言語分析を行う基礎力を養成する。

### 授業の概要と計画

授業概要：CALL教室を使用し、パソコンを用いたコーパスの検索法、データの分析法を演習形式で学ぶ。

#### 授業計画：

コーパスとはなにか、さまざまなコーパス、コーパス研究の準備、コーパス検索の方法、コーパス頻度の処理、コーパスに見る語彙、コーパスに見る語の意味、コーパスから言語研究へ

詳細は研究室ウェブサイトで確認のこと。

### 成績評価と基準

成績評価基準：下記を総合的に判断して評価する。

- ・毎回の学生報告
- ・理解確認のための小テスト
- ・ディスカッションへの参加
- ・期末の個人研究発表

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業では、英語と日本語の両方を分析課題としますので、特段の英語力は不要です。

### オフィスアワー・連絡先

研究室 D612 石川研究室

メール iskwshin@gmail.com

メールを送る場合は、件名（subject）を明記すること。

授業用ウェブサイト <http://language.sakura.ne.jp/s/>

### 学生へのメッセージ

近年の言語研究、言語教育学研究に大きな影響を及ぼしているコーパス言語学について演習形式で学びます。データに基づく客観的な言語分析に興味を持つ学生の受講を歓迎します。

### 今年度の工夫

前年度までの実践をふまえ、確認テストや豊富な演習などを用意し、分析手法が着実に理解できるよう配慮して授業を行います。

### 教科書

『ベーシック コーパス言語学』（ひつじ書房）/石川慎一郎：,2012,ISBN:

### 参考書・参考資料等

下記の書籍を参考書とします。

英語コーパスと言語教育（大修館書店）/石川慎一郎：,2008,ISBN:4469213217

言語研究のための統計入門（くろしお出版）/石川慎一郎他：,2010,ISBN:

日本語教育のためのコーパス調査 /石川慎一郎他：,2012,ISBN:

### 授業における使用言語

日本語・必要に応じて英語

### キーワード

コーパス、言語教育、計量言語学、言語記述、語彙、文法、言語変種

開講科目名	モダニティ論演習		
担当教員	庁 茂	開講区分	単位数 前期 2単位

#### 授業のテーマと到達目標

このゼミは、社会理論というものについての学生の専門的知識を深めることを目的とする。

#### 授業の概要と計画

今年度は、A.シュツツの「生活世界」論とN.ルーマンの「社会システム論」を検討する。

#### 成績評価と基準

出席と参加の積極性

#### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

#### オフィスアワー・連絡先

金曜日 13:00-13:20

#### 学生へのメッセージ

#### 今年度の工夫

#### 教科書

A. Schutz "The Structures of the Life-World"  
N. Luhman "Soziale Systeme"  
/ : , ISBN:

#### 参考書・参考資料等

#### 授業における使用言語

日本語

#### キーワード

開講科目名	外国語教育システム論演習		
担当教員	加藤 雅之	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際英語をとりまく社会的・文化的環境について討議する。（前期課程で行っている言語教育環境論特殊講義の議論をさらに敷衍する形で行う。）

### 授業の概要と計画

現在、国際語としての英語はイギリスやアメリカ、オーストラリアといった固有の文化的背景を捨象して、ますます標準化されていく一方で、アジアの英語、アフリカの英語など様々な変奏を伴いながら、使用する人々のアイデンティティを色濃く反映したものとなっている。本講義では社会・文化・政治・経済的文脈における英語（使用、流通）という現象、すなわち「国際語としての英語」、「諸英語(World Englishes)」、「英語帝国主義」などのトピックをとりあげるとともに、こうした知見が英語教育にもたらす意味についての知見を提供したのち、各人の専門性にからめて、討議トピックを設定し、国際英語という概念の有効性および授業での応用について検討する。またアジアにおける国際英語の位置づけについても触れる予定である。

### 成績評価と基準

出席、レポート、プレゼンテーションを総合的に判断する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

D624 , Email: masakato@kobe-u.ac.jp  
オフィスアワー（未定）4月以降研究室に掲示する。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

授業サポートとして下記Moodleシステムを使用する  
<http://moodle.solac.kobe-u.ac.jp/>

### 教科書

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

Farzad Sharifian ed., English as an International Language (Multilingual Matters)  
Murata and Jenkins eds., Global English in Asian Contexts: Current and Future Debates (Palgrave)

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	言語教育科学論特殊講義		
担当教員	横川 博一	開講区分	単位数 前期 2単位

## 授業のテーマと到達目標

**テーマ** 言語教育科学基礎論：自然言語の文法理論/  
外国語の獲得・処理・学習の認知的メカニズムを解明するためには、人間という種に生物学的に固有の言語能力がいかなる姿をしているのか、言語運用を可能にする内在的メカニズムはどのようなものか、という自然言語の文法理論に対する理解が不可欠である。

今年度は、これまで現代言語学にほとんど触れることのなかった人たちを主たる対象として、言語理論の変遷を概観しながら生成文法の思考法について理解を深め、言語学の研究分野の基礎知識について演習を通して体得することを目的とする。

## 授業の概要と計画

授業は、教員による講義、受講生による演習問題の解答の検討を中心に進める。受講生は、シラバスに記載された〔課題〕に取り組み、自身の解答を用意して（受講者分コピー）授業に臨むことが期待されている。

授業では、次のような内容を取り上げる。

- (1)生成文法を中心とする言語理論の流れを概観する。
- (2)言語学の主な研究分野について、演習を通して理解を深めながら、言語学の思考法・分析方法に慣れる。
  - ・音を扱う音声学・音韻論
  - ・音と意味をつなぐ構造を扱う形態論
  - ・文レベルの構造を扱う統語論
  - ・単語や文の意味を扱う意味論
  - ・文脈の中での意味を扱う運用論・機能論

### 第1回 Introduction

言語学とは何か、現代言語理論の基礎概念、言語の普遍性について概説する。

### 第2回 Morphology (1)

形態論 - 語の構造：接頭辞と接尾辞、派生と屈折、形態的に複雑な語、異形態、その他の語の構造、右側主要部の規則

### 第3回 Morphology (2)

形態論 - 語形成条件：接辞の下位範疇化素性と個別条件、レベル順序づけ仮説と枠組み、レベル順序づけ仮説とその問題、レベル順序づけ仮説と生産性、阻止

### 第4回 Linguistic Theory Overview (1)

生成文法の誕生 第1次認知革命、言語の構造について概説する。

### 第5回 Linguistic Theory Overview (2)

古典的变形文法について概説する。

### 第6回 Linguistic Theory Overview (3)

第2次認知革命、制約に基づく文法について概説する。

### 第7回 Syntax (1)

統語論 - 文の構造：文の構成要素、構造とあいまい性、句構造とXバー理論、句構造の応用、補文構造とその応用

### 第8回 中間試験

### 第9回 Syntax (2)

統語論 - 依存関係：移動、移動が生じる理由、移動に課せられる制約、コントロール関係、照応関係

### 第10回 Phonology

音韻論：音素と異音、単語と子音結合、語強勢、文強勢、リズム原理と文法形式

### 第11回 Semantics

意味論：意味特質と意味関係、意味と文法形式、意味役割と辞書、意味と認知、意味的拡張

### 第12回 Functionalism

機能論：機能的構文論、文の情報構造、省略と後置文、情報のなわばり理論

### 第13回 Pragmatics

運用論：間接発話行為、間接発話行為から遂行分析、テクストと結束性、協調の原則、ポライトネス

### 第14回 Contrastive Linguistics

日英語対象：句構造、文構造、移動と論理形式、情報構造

### 第15回 期末試験

## 成績評価と基準

次の点にもとづき、総合的に評価する。

練習問題の解答 - 論理性、記述力、説明力 (50%)

中間試験、期末試験 (50%)

## 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1 ) 本授業で使用する教科書では、解説の例文、演習問題は主として英語を扱っているので注意されたい。

2 ) 受講生は、シラバスに記載された〔課題〕に取り組み、自身の解答を用意して（受講者分コピー）授業に臨むことが期待されている。

## オフィスアワー・連絡先

隨時。事前にコンタクトをとることが望ましい : yokokawa@kobe-u.ac.jp

## 学生へのメッセージ

外国語の獲得・処理・学習の研究の基礎となる現代言語学の基礎を体得しよう。

## 今年度の工夫

豊富な問題演習を通して、言語学の思考法を身につけます。

## 教科書

英語学セミナー：試行鍛錬のための言葉学 / 高橋忠勝・福田稔：松柏社, ISBN:

## 参考書・参考資料等

## 授業における使用言語

日本語（素材は主として英語）

## キーワード

Linguistic theory

Language and information

開講科目名	言語コミュニケーション論演習		
担当教員	藤涛 文子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

異文化コミュニケーションとしての翻訳をテーマとする。翻訳を実践面で捉えるのではなく、理論的に研究する場合、何が問題となるのか、そしてどのようなアプローチの方法があるのかについて、理解を深めることを目指す。

### 授業の概要と計画

1. 翻訳理論の文献を精読し、議論する。
2. 各自が、好きなジャンルの原文とその翻訳文を選び、特定のテーマについて比較分析して報告する。

### 成績評価と基準

平常点 50% (個人発表と積極的な議論への参加)  
レポート 50% (理解度・論理性・独創性)

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文献（英語文献も含む）の予習とテクスト分析の準備が必要ですので、毎回の指示に従って下さい。

### オフィスアワー・連絡先

研究室：B411  
fumiko@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

質問があれば、いつでも相談に来て下さい。

### 今年度の工夫

翻訳理論の先行研究のうち、訳文比較に直接応用できる理論を紹介する。

### 教科書

教材はコピーで配布する。

### 参考書・参考資料等

必要の応じて授業中に指示する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

翻訳論

開講科目名	感性コミュニケーション論演習		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ことばとコミュニケーションにおける発話キャラクタと表現キャラクタについて、比較的高度な記述とモデル化を検討する。今年度はメディア文化研究センター主催の「わたしのちょっと面白い話コンテスト」の作品等をも扱う予定。

### 授業の概要と計画

「キャラクタ」概念の導入後、それぞれのキャラクタについて担当者を決めて発表してもらう。

### 成績評価と基準

発表の内容と期末レポートの内容で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、十分な準備を行なうこと。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日休み（要予約）

### 学生へのメッセージ

さまざまな資料を調べてもらう、授業外の時間が要求される。

### 今年度の工夫

### 教科書

使用しない

### 参考書・参考資料等

日本語社会 のぞきキャラくり / 定延利之 : 三省堂 , 2011 , ISBN:9784385365251  
ヴァーチャル日本語 役割語の謎 / 金水敏 : 岩波書店 , 2003 , ISBN:400006827X

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	外国語教育コンテンツ論演習		
担当教員	枠田 義一	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
ヨーロッパの言語教育の指針であり規範となっている「言語共通参照枠(CEFR)」を日本のヨーロッパ語教育に導入する際の際の問題点を考察し、カリキュラム開発や教材の開発を目標にする。			
授業の概要と計画			
言語教育参照枠」に準拠した実践解説書、たとえばドイツ語ではProfile Deutschに基づいて、受講生の専攻するヨーロッパ語の文法、語彙、表現などを考察する。			
成績評価と基準			
授業における発表と期末レポート。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
ヨーロッパの言語が対象となるので、英独仏語のいずれかが出来ることが、受講の条件となる。			
オフィスアワー・連絡先			
火曜日昼休み 研究室（D607）			
学生へのメッセージ			
ヨーロッパ語の文法及びヨーロッパの言語政策に興味を持っている人の受講を歓迎する。			
今年度の工夫			
教科書			
随時プリントを配布。			
参考書・参考資料等			
講義にて随時紹介する。			
授業における使用言語			
日本語、ドイツ語			
キーワード			
言語共通参照枠 複言語主義 ポルトフォリオ			

開講科目名	近代政治思想系譜論特殊講義		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

#### フランクフルト学派 のアクチュアリティ

M・ホルクハイマー、Th・W・アドルノ、W・ベンヤミンら「フランクフルト学派」の思想家の議論が、現代の社会理論・文化理論の重要な出発点となつたことはよく知られていよう。この授業では彼らの著作を取り上げ、その思想の全体像について概観することにする。そのさい、彼らの議論をC・シュミットやH・アーレントら同世代の思想家たちの議論とできるだけ比較・対照させ、20世紀前半の思想地図にも目を向けるよう努めたい。そのうえで、こうした言説がその後M・フーコーをはじめとする20世紀後半の「現代思想」の展開のなかで、どのように消化され批判されていったのかをも検証したいと思う。こうした一連の作業をつうじてフランクフルト学派のアクチュアリティを探ること、さらには今日における批判的・社会理論の可能性について一定の見通しを与えること、これをこの授業の最終的な目標としたい。

### 授業の概要と計画

取り上げるテクストは開講時に決定するが、Th・W・アドルノ『否定弁証法講義』（作品社）、J・ハーバーマス『イデオロギーとしての技術と科学』（平凡社）など、邦訳がある文献から選ぶことになる。受講者の側には、あらかじめ当該テクストを読んでおくとともに、順番にテクストの内容要約（レジュメ）の作成を担当することが求められる。それをふまえて講師が解説を加えてゆくというスタイルで授業は進められる。詳細については初回の授業で指示する。

### 成績評価と基準

レジュメ担当回の報告の内容、毎回の議論への参加、レポートの内容等々をもとに、総合的に評価する。なお、講義とはいえ少人数の演習形式である以上、毎回出席することが前提となる。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初回の授業でレジュメの担当者などを決めたりするので、一回目からかならず出席してください。やむをえない事情で初回を欠席する場合には、上野に連絡を入れてください。

なお、上野成利『思考のフロンティア 暴力』（岩波書店、2006年）の第2部で、ホルクハイマー、アドルノ、ベンヤミンの思想について簡単に解説しているので、参考文献として活用してもらえばと思います。

### オフィスアワー・連絡先

木曜 17:00 - 17:30  
ueno@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

取り上げるテクストについては開講時に決定します。

### 参考書・参考資料等

暴力 / 上野成利 : 岩波書店 ,2006 ,ISBN:

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	認知情報システム論特殊講義		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

人間や生物のコミュニケーションや認知に関わる情報処理と、それをどのようにコンピュータ上で実現し、利用するかについて講義と確認のための演習を交えながら勉強します。  
本講義ではコンピュータのプログラミングに関する知識は必要としません。

### 授業の概要と計画

以下のような項目に関して扱う予定です。  
 - 神経回路網と学習  
 - 遺伝による形質の最適化  
 - ベイズ推定  
 など

### 成績評価と基準

以下の基準により評価します。  
 - 出席および学習態度、発表や議論への参加によるゼミへの貢献(40%)  
 - レポートや課題などの提出物(60%)

レポートや課題については、100点満点で採点し、指示された内容が満たされている場合を80点、独自の工夫が成されていれば加点し、内容が足りなければ減点します。これを最終的に60点満点に換算して、平常点の40点とあわせて評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。  
 電子メール : hajime.murao@mulabo.org  
 研究室 : B棟4階B409室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

授業時に指定します。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて随时指定します。

### 授業における使用言語

日本語、英語

## キーワード

開講科目名	言語科学論特殊講義		
担当教員	ピンテール ガーボル	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

音韻論の基本的な考え方と分析方法について学習する。英語と日本語の音声体系を比較しながら、理論的な研究と実践的な音声教育に役立つ知識を学ぶ。

### 授業の概要と計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：言語学、英語学、音声学の分類の紹介と分類
- 第3回：子音、音声字母
- 第4回：母音、母音空間
- 第5回：英語と日本語の子音
- 第6回：英語と日本語の母音
- 第7回：英語の音声と文字
- 第8回：中間テスト
- 第9回：音韻論の原理
- 第10回：英語の音素
- 第11回：音節（1）：音節の構造
- 第12回：音節（2）：英語と日本語の音節構造、音素配列論
- 第13回：英語の語強勢
- 第14回：質問日
- 第15回：期末テスト（定期試験）

### 成績評価と基準

教科書の内容を確認するための小テストとディスカッションを行う。教科書の内容の理解を深めるために授業中に論文やハンドアウトも配布する。

#### 学生に対する評価

- (1) 小テスト (30%)
- (2) 授業中のディスカッション (30%)
- (3) 期末試験 (40%)

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

事前にメールをお願いします：g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### オフィスアワー・連絡先

英語の発音について習いたい人、英語の発音を教えるようになる人にとって必要な知識を与える授業。

### 学生へのメッセージ

A great opportunity to learn about English pronunciation.

### 今年度の工夫

### 教科書

English Phonetics and Phonology : An Introduction / Carr, Philip : Wiley-Blackwell : London ,1999  
ISBN:1405134542

### 参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only

キーワード

音韻論、音声学、発音

開講科目名	先端社会論演習		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

グローバル・ジャスティスとは何か？

今日、グローバル・ジャスティス、すなわち一国内にとどまらず国境をも越えて個人相互間の利益分配を調整する原理がありうるかという問題をめぐっては、政治学、国際関係論、哲学、法哲学等の分野から活発な議論が提起され、社会科学の重要なテーマの一つとなっている。この授業では、ジョン・ロールズ、ピーター・シンガー、ロバート・グッディング、トマス・ポッゲなどによる、グローバル・ジャスティスの基本文献ではあるが未だ日本語訳の公刊されていない英語論文をテキストにして、グローバル・ジャスティスについての理論的基礎を学ぶことを目標とする。

### 授業の概要と計画

上にも述べたように、グローバル・ジャスティスに関する現代の代表的な英語論文をしっかりと読解しながら、グローバル・ジャスティスをめぐる現代的な論点のありかを全員で討議して考えたい。

### 成績評価と基準

プレゼンテーション50%，ディスカッション50%。特に、毎回の報告をいかに丁寧かつ緻密に作成できたか、授業での討論にいかに積極的に貢献できたかを中心評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、担当者を決め、担当者は、論文の担当部分を日本語訳又は要約するとともに、テキストに関する疑問や批判を提出してもらいます。

### オフィスアワー・連絡先

電子メール(sakurait@kobe-u.ac.jp)にて隨時。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

テキストはこちらで複写して用意するので、第1回目の授業には必ず出席してください。

### 参考書・参考資料等

デイヴィッド・ミラー『国際正義とは何か』風行社、2011年。  
 デイヴィッド・ミラー『ナショナリティについて』風行社、2007年。  
 チャールズ・ペイツ（新藤榮一訳）『国際秩序と正義』岩波書店、1989年。  
 ピーター・シンガー（山内友三郎・櫻則章監訳）『グローバリゼーションの倫理学』昭和堂、2005年。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ネーション、コスマポリタニズム、貧困、人権、グローバル・ミニマム

開講科目名	外国語教育コンテンツ論演習		
担当教員	大和 知史	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

【授業のテーマ】

本授業のテーマは、「応用言語学・外国語教育における研究手法の基礎」とする。

【到達目標】

応用言語学・外国語教育について考える上で必要となる基礎知識（中でも研究手法）を修得し、教育研究の能力を育成することを目標とする。

### 授業の概要と計画

第二言語習得論の入門書を講読し、ディスカッションや発表を通して理解を深めていく。

### 成績評価と基準

成績評価の方法

授業内外における課題・レポートおよび試験の総合点により評価する。

(1)出席 [ 20% ] (2)授業中の取り組み（積極的な発言、授業内課題など）[ 30% ] (3)レポート課題 [ 50% ]  
ただし、授業中の取り組みがなければ出席とはみなしません。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

資料については、事前に内容を理解した上で授業に臨んで下さい。授業では、担当を割り振っての発表形式を取ることを基本とします。その際には、資料等の準備が必要となります。時間に余裕をもって準備して下さい。ディスカッションに際しては、自身の教授経験、学生・生徒としての教授される経験などをフル活用して臨んで頂けたい。

### オフィスアワー・連絡先

研究室：国文（鶴甲第一）キャンパスD棟622

連絡方法：電子メール yamato@port.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

活発な議論が行われるように、また柔軟に対応できるよう努力しようと思います。準備をしっかりとし、積極的に取り組んで下さい。

### 今年度の工夫

### 教科書

D&#246;rnyei, Z. (2007). Research Methods in Applied Linguistics. Oxford: OUP.

資料・文献・論文等のコピーなどを適宜配布する。

外国語教育研究ハンドブック / 竹内理 : 水本篤 ,2012 ,ISBN:9784775401835

### 参考書・参考資料等

Brown, H.D. (2007). Principles of Language Learning and Teaching. Pearson Longman.

白畠智彦、他. (2009) . 『改訂版 英語教育用語辞典』. 大修館書店.

白井恭弘. (2012). 『英語教師のための第二言語習得論入門』. 大修館書店.

田崎清忠. (1995) . 『現代英語教授法総覧』. 大修館書店.

Richards, J.C. & Schmidt, R.W. Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics. Longman.

Long, M. H. & Doughty, C. J. (2009). The handbook of language teaching. Wiley-Blackwell.

その他、授業内に提示、紹介する。

### 授業における使用言語

日本語と英語

## キーワード

開講科目名	メディア社会文化論特殊講義		
担当教員	小笠原 博毅	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：現代イギリスの都市における「身体」

「都市」における「身体」に関する様々な角度からの文献を読み、イギリスの都市文化について考えます。

### 授業の概要と計画

1. イントロダクション
2. ストリート
3. 公共空間
4. セクシュアリティ
5. 嗅覚
6. 視覚
7. 聴覚
8. スポーツ
9. 構成的身体
10. まとめ

教員によるテーマに沿った講義 ディスカッション 教員によるまとめ  
これで1回の授業は終了

### 成績評価と基準

参加と理解および学期末課題

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

英文を読み議論することを厭わず、むしろ当たり前だと思えるような学生の参加を

### オフィスアワー・連絡先

木曜 昼休  
hiroko@kobe-u.ac.jp  
内線7464

### 学生へのメッセージ

チャレンジしないとわざわざ大学院まで来た意味ないよ

### 今年度の工夫

### 教科書

初回講義時に指定

### 参考書・参考資料等

随時紹介

### 授業における使用言語

日本語もしくは英語

### キーワード

都市、土地、路上、哲学、身体

開講科目名	芸術文化論演習		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

芸術活動とそれを支える制度の形成過程や諸現象、社会との関わりについて深く理解することをめざします。テキストの解説、調査、プレゼンテーション、ディスカッションの技術を向上させます。

### 授業の概要と計画

EU（ヨーロッパ）の芸術文化政策について学び、理論的な基礎知識をもとに自身でも文献資料読解、調査、考察を行い発表する。

前半はヨーロッパの芸術活動と文化政策に関する諸事項をテキスト読解によって学ぶ。分担を決めて発表し全員でコメントや議論を行う。後半は各自の関心領域（言語芸術、舞台芸術、音楽、美術、建築、映画、メディアなどなんでもよい）や地域についての具体的な調査と発表を行う。

### 成績評価と基準

#### 授業への積極参加および学期末レポート

#### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

資料や文献を読んで準備してくること、ディスカッションに積極的に参加することが求められます。発表者だけでなく各自でも各回のテーマについて予習をし、質問やコメントができるようにして下さい。

### オフィスアワー・連絡先

随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

講演会の聴講、展覧会・舞台芸術・映画鑑賞などを補助的活動として行うので積極的に参加すること。またヨーロッパでの現地調査実施もめざします（フランス、ベルギー、ドイツなど）。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

適宜授業中に指示する

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

芸術文化政策 文化的多様性 ヨーロッパ

開講科目名	近代経済思想系譜論特殊講義		
担当教員	市田 良彦	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「現代思想と政治」

今日では哲学や文化研究の方法論として用いられることが多いフランス現代思想を、同時代の政治的文脈において読み直します。その際、「経済的なもの」をどう捉えたかも重視します。

### 授業の概要と計画

講義が関心をもつるのは以下のようなトピックスです。

- 1 ) 「68年5月」とはなんであったか。どのように論じられてきたか。
- 2 ) 「経済決定論」と「疎外論」
- 3 ) フーコー権力論の「陥穂」?
- 4 ) 「自由主義」の哲学的基礎
- 5 ) 「共和主義」問題

### 成績評価と基準

平常点のみ。出席を重視します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

特になし。読んでほしい文献を授業中にいろいろ紹介しますので、必ず読んでください。

### オフィスアワー・連絡先

昼休みならいつでも。ただしなるべく事前に連絡してください。E棟304

### 学生へのメッセージ

翻訳に頼らず外国語原書を読む努力をコンスタントに続けてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

なし。参考文献をその都度指示します。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	表象文化相関論特殊講義		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

19世紀から20世紀はじめにかけてのフランスの絵画を主たる素材として、近代社会と芸術表象の問題を考察する。

### 授業の概要と計画

近代絵画の創始者と目される画家エドゥアル・マネの作品について講義する。マネと文学者、マネとジャポニスム、さらにマネと同時代の画家たち（モネ、ルノワール、ドガ、ベルト・モリゾ、セザンヌなど）の作品上の交流について考察する。

### 成績評価と基準

平常点（授業への能動的な参加）50%、学期末レポート50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

マネの生涯と作品についての基本的な知識を得ておくことが必要。また、授業で取り上げる文献や作品について予習してくること。

### オフィスアワー・連絡先

事前にメール連絡にて隨時。  
ynoriko@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

「絵画は知性の問題だ、マネを見ればそれがわかる」と言ったのはピカソです。授業では、実際にマネの絵を細部にわたって見ながら、それをどのように「読む」ことができるかについて一緒に考えていきます。

### 今年度の工夫

### 教科書

プリント使用

### 参考書・参考資料等

授業中に指示する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

フランス近代絵画、マネ、ジャポニスム、印象派

開講科目名	生命規範形成論特殊講義		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ:「現代社会における生命倫理規範の構築」

目標: 現代社会においては、人間生命を操作する科学技術の進歩によって「生命」に関する倫理や規範が揺らぎ、再構築が求められている。この講義では、生命倫理学関係の基本文献をテキストにして、体外授精技術、ES細胞研究など人の「生」に関する諸問題や、脳死、安樂死などの人の「死」に関する諸問題をとりあげ、現代社会における「生命」に関する規範について考察を深める。

### 授業の概要と計画

以下の項目のもとで講義したのちに、受講生との質疑応答をおこなう形式で講義を進める。

1. 「生」をめぐる生命規範
2. 「死」をめぐる生命規範
3. 「生死の生命規範」の制度化とグローバリゼーション

### 成績評価と基準

講義での議論への貢献度(70%)と、学期末のレポート(30%)で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

特定の文献を輪読する形で講義を行うが、講義中での質疑を予定しているので、必ず出席すること。

### オフィスアワー・連絡先

随時。要連絡。

yy@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

特に指定しない。

### 参考書・参考資料等

赤林朗編『入門・医療倫理』(勁草書房,2005)

赤林朗編『入門・医療倫理』(勁草書房,2007)

江口聰(編訳)『妊娠中絶の生命倫理』(勁草書房,2011)

吉武久美子『産科医療と生命倫理 よりよい意思決定と紛争予防のために』(昭和堂,2011)

リー・M. シルヴァー『人類最後のタブー バイオテクノロジーが直面する生命倫理とは』(日本放送出版協会,2007)

小出泰士『改訂版良識から見た生命倫理』(DTP出版,改訂第1版,2006)

香川知晶・櫻則章(編)『生命倫理の基本概念(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

浅井篤・高橋隆雄(編)『臨床倫理(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

今井道夫・森下直貴(編)『生命倫理学の基本構図(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

菅沼信彦・盛永審一郎(編)『生殖医療(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

倉持武・丸山英二(編)『脳死・移植医療(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

生命倫理学 法と道徳 医療倫理 生殖医療 脳死 安楽死

開講科目名	言語コミュニケーション論演習		
担当教員	米本 弘一	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ことばとジェンダーの問題について論じた文献を読みながら、ことばによるコミュニケーションの問題点について議論し、考察を深めることを目標とする。

### 授業の概要と計画

ジェンダーの形成、男女の会話スタイルの違い、差別的な表現など、ことばとジェンダーの問題について論じたテキスト（英文）を読む。授業では、毎回担当者に発表してもらい、問題点について全員で議論する。

### 成績評価と基準

出席状況と授業中の発表、議論への参加度などの平常点 50 %、期末レポート 50 % の割合で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

担当者以外の学生も必ず授業の前にテキストを読んで予習をしておくこと。また、授業のあと内容を整理して復習をしておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

金曜 3 限  
B4 13 研究室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

プリントを配布する / : , , ISBN:

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	表象文化系譜論特殊講義		
担当教員	松家 理恵	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

田舎の自然と都市についての文学、絵画における表象について、近代イギリスにおける社会的・歴史的变化という広い文脈からとらえ、そこから近代の自然観の特質を考察することを目指す。

### 授業の概要と計画

ジョナサン・ペイトの*The Song of the Earth*を基本テキストとして読みながら、隨時言及されている文学作品、思想、歴史的事項についての解説を加える。

### 成績評価と基準

授業での発表等について平常点評価をする。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回英語のテクストの予習が欠かせません。

### オフィスアワー・連絡先

連絡の上隨時

janjur@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

The Song of the Earth / Jonathan Bate : , , ISBN:978-0330372695

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語、英語

### キーワード

19th century English Literature, History and criticism, English Romanticism, Nature in Literature

開講科目名	芸術文化論演習		
担当教員	池上 裕子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

この授業では、Miwon Kwonの『One Place After Another』をテキストとして取り上げ、サイト・スペシフィック・アートのあり方について考察する。テキストを深く読み込んだうえで、各受講生がそれぞれの関心に応じてサイト・スペシフィック・アートの事例を選び、研究発表を行う。作品や言説の分析能力を養い、自分の意見を明晰な言葉で人に伝達する力を持つことを目指す。

### 授業の概要と計画

初回にイントロダクションを行い、受講者に自分の関心領域や考察したいテーマについて話してもらう。テキストを各章ごとに読んでいき、テキストを読み終わったら、各学生が自分の読みたいものを提案する。研究発表のテーマは各自選択してかまわぬが、参考までに以下のトピックを挙げておく。

- ・ロバート・スミッソンのアース・アート
- ・クリストと樋口
- ・瀬戸内芸術祭、越後妻有トリエンナーレ
- ・川俣正

### 成績評価と基準

平常点（発表と授業への参加）が50%、期末レポートが50%の配分で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習形式で行うため、授業には毎回出席することが前提となります。討議への積極的な参加が必須であることを理解した上で単位登録してください。現代美術の知識がある程度必要なため、前期に開講される学部の「現代アート論」の聴講を勧めます。

### オフィスアワー・連絡先

ikegami@port.kobe-u.ac.jp

メール連絡でアポを取ってください。

### 学生へのメッセージ

講読文献は英語・日本語を問わず、ディスカッションができるまで読み込んでくることが前提です。ゼミでは必ず自分なりの意見を発言できるように準備してくること。

### 今年度の工夫

アカデミック・ライティングの向上

### 教科書

One Place After Another: Site-Specific Art and Locational Identity / Miwon Kwon : ,2002 ,ISBN:978-0262612029

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語、英語

### キーワード

美術批評、現代美術、文化的アイデンティティ

開講科目名	感性コミュニケーション論演習		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

This course introduces the system of sounds in Japanese, covering a range of topics including vowels, consonants, syllables, accents, intonation and phonemics. Students are required to do exercises to put their knowledge into practice.

### 授業の概要と計画

- 1:Introduction
- 2.English prosody, Three Ts and Three tones : 3.Statements, Questions and Other sentence types 4. Sequence of tones
- 5. Tone meanings: Old and New Information, and Focus
- 6. Tonality
- 7. Summary

### 成績評価と基準

assignments 30%  
report 70%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Basic knowledge of phonetics preferable

### オフィスアワー・連絡先

Fri. 15.30-, and by appointment

### 学生へのメッセージ

Seeing is believing.

### 今年度の工夫

By using software that visualizes sound waves and pitch, students know the very picture of their own sounds.

### 教科書

English Intonation / J.C.Wells : Cambridge University Press. ,2006 ,ISBN:9780521683807

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

English, Japanese

### キーワード

English  
intonation  
prosody  
pitch  
software

開講科目名	国際相関文化論特殊研究		
担当教員	伊藤 努	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

一般の市民は日々の新聞や放送などをメディアを通じて国内外の動きを知り、ある社会的テーマや事象、事柄を理解し、自らの意見形成の一助としている。このように国民の知る権利に奉仕し、時には権力の乱用を監視するジャーナリズムは、自由でかつ民主的な社会には不可欠の存在と言える。新聞社や放送局にニュースを提供する通信社の国際ニュース報道に長年携わってきた経験に基づき、「ジャーナリズムと国際社会理解」をテーマに私見を伝えたい。

### 授業の概要と計画

集中講義の4日間を4部構成でテーマを選び、初日はジャーナリズムの現場を「ジャーナリズムは何か」という視点から説明し、講義・演習参加者と議論を交わす。2日目は国際ニュース報道の現場をテーマにナショナリズムといった論点も考えたい。3日目は世界史的事件の現場と題してわたしが立ち会った事件現場の取材体験などを伝えたい。4日目はインターネット時代のメディアをテーマにIT革命とジャーナリズム、ジャーナリズムの将来などについて概説し、演習者との討論で論点を深める。

### 成績評価と基準

事前に提出してもらう課題図書（選択）に関するレポートと、集中講義の後半に書いてもらう自由論文（各30%）、演習での発言などを総合的に判断して評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

講義・演習参加希望者は以下に挙げる5つの書籍のうち、書名から個人的に関心のある1冊を選んで事前に目を通して、講義2日前までに、感想文ないし印象に残った新たな知見があれば、それを1200字以内の文章にまとめて、名前を明記の上、教務学生係あてに提出してください。

### オフィスアワー・連絡先

連絡先などは集中講義の初日に連絡する。

### 学生へのメッセージ

将来、ジャーナリズムの世界を希望する学生には、さまざまにある仕事現場の一端を紹介する形になる。また、講義・演習参加者が国際ニュース報道により大きな関心を払うきっかけとなり、それが国際社会理解・異文化理解の重要なツールとなる点も知ってもらえばと考えている。神戸新聞など新聞のコラムも教材に使う。社会人の院生の方も歓迎します。

### 今年度の工夫

従来に増して、近年の大きな国際ニュースを取り上げ、その背景を解説するとともに、国際情勢を見る視点を提示したい。アラブ諸国での民衆革命と新たなメディアの役割などについて共に考えたい。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

#### 参考書

- 「戦場特派員」橋田信介 実業之日本社 2001年
- 「新聞との約束—戦後ジャーナリズム私論」/青木彰: NHK出版, 2000年, ISBN: 4-13-022000-8
- 「アメリカのジャーナリズム」/藤田博司: 岩波新書, 1991年, ISBN: 4-03-005000-8
- 「ジャーナリストの作法」/田勢康弘: 日本経済新聞社, 1998年, ISBN: 4-530-12000-8
- 「ジャーナリズム崩壊」/上杉隆: 幻冬舎新書, 2008年, ISBN: 4-334-00000-8

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	文化情報リテラシー特殊講義		
担当教員	飯田 卓	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

この授業は、文字言語をともなわないさまざまな情報を題材とする。それらにまつわる民族誌的事象を参照しながら、それらを「読み解く」技術を身につけることが目的である。題材とする情報は、音声情報や映像情報のほか、民具などの造形物（モノ情報）を含む。

### 授業の概要と計画

講義は、授業担当教員の勤務する国立民族学博物館においておこなう。写真や絵画、造形物、動画映像、展示など、さまざまな博物館資料を題材として、1)情報読解の理論と歴史、2)映像・音声情報の読解、3)モノ情報の読解、4)研究および実生活への応用、と順を追って講義をおこなう。

### 成績評価と基準

授業中のレポートを主たる評価対象とする。参加人数が多数にわたる場合には平常点を、参加人数が少數の場合にはレポートの口頭発表とそれについてのディベート（議論）を評価対象に加える場合がある。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

学外での授業を含む。授業の時間帯や場所は、最初の時間に指示する。最初の講義に先立って、テレビの音を消してニュース番組を見て理解できるかどうか確かめておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

授業終了後に質問を受けつける。

### 学生へのメッセージ

講義の目的は「読み解く」であるが、よりよい読み解きのために表現（発言や口頭発表）を求めることがある。積極的な参与を希望する。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に配布（文字）または提示（非文字資料）。

### 参考書・参考資料等

『電子メディアを飼いならす』 / 飯田卓 / 原知章（編）：せりか書房,2005年,ISBN:978-4796702669

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

情報、展示、民族誌映画、景観、文脈

開講科目名	多文化社会論特殊講義		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

多文化主義のあり方は、先進諸国間で大きな違いがある。本講義では、北米、ヨーロッパ諸国、日本を対象として、多文化主義に関連する専門書（日本語、英語、ドイツ語のいずれか）を輪読する。本講義を通じて、受講者が専門的知識を深めることを目的とする。

### 授業の概要と計画

受講者と相談した上で、図書を決めて、輪読する。毎週、担当者が発表し、その後、受講者で討論を行う。受講者はあらかじめ指定された図書を読んでおくこと。

輪読図書のテーマ（予定）は、以下のとおり。

多文化主義の国際比較

多文化主義政策の決定過程

EU統合と多文化主義

日本とヨーロッパ諸国の移民政策の比較

多文化主義社会における福祉国家の可能性

そのほか、受講生の希望により、隣接テーマも取り扱う予定。

### 成績評価と基準

出席および授業での発言（50%）、プレゼンテーション（50%）。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

多文化主義や現代ヨーロッパ政治に関して、一定の予備知識を持っていることが望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めない。授業内容や研究に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとること。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

講義中に指定する。

### 参考書・参考資料等

講義時に適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語、ドイツ語、英語

### キーワード

多文化主義、比較政治、福祉国家

開講科目名	市民文化表象論特殊講義		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ヨーロッパの芸術文化の特質をモードという観点から考えます。本年は、1910-20年代にパリのモード界で活躍した画家ソニア・ドローネーの衣服制作をテーマに取り上げます。

### 授業の概要と計画

ドローネーの制作活動および交友関係を通して、芸術家の衣服制作、文字と衣服、アール・デコのデザインと女性身体、モードの大衆化等の問題について考えます。基本的には講義形式で進めますが、受講者にも関連するトピックについて簡単な発表をしてもらうことを予定しています。

### 成績評価と基準

平常点（授業への参加度と貢献度）と学期末レポートの総合評価

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業への積極的な参加を高く評価します。ただ出席するのではなく、事前に十分な準備を行ってください。

### オフィスアワー・連絡先

E棟313

事前にメール(asakura@port.kobe-u.ac.jp)で連絡を取るようにしてください。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

朝倉三枝、『ソニア・ドローネー 服飾芸術の誕生』、ブリュッケ、2010年

### 参考書・参考資料等

Radu Stern, Against Fashion: Clothing as Art 1850-1930, The MIT Press, 2003.

その他、必要に応じ、適宜、授業で紹介する。

### 授業における使用言語

日本語。ただし、英語やフランス語の文献・資料等を使うこともあります。

### キーワード

ソニア・ドローネー、前衛芸術、絵画、モード

開講科目名	言語文化表象論特殊講義II		
担当教員	島津 厚久	開講区分	単位数
前期　　　　2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
アメリカ・ユダヤ文化入門			
<b>授業の概要と計画</b>			
ユダヤ系移民がアメリカにおいて、学問、政治、経済、娯楽など様々な分野で力を発揮していることは周知の事実であるが、その実際の姿や意義をいろいろな観点から探ってみたい。前半の授業でユダヤ人の定義と価値観、彼らがアメリカに辿り着くまでの歴史を概観し、その後、New York Jew の現状を把握、さらに、何人かのユダヤ系アメリカ人によるユダヤ人観を瞥見する。それらを手がかりに後半では Jewish humor やイスラエルとの関係などに言及し、アメリカに移民後のユダヤ人達の精神の軌跡に触れる。折に触れて英語文献の講読や、ビデオ鑑賞なども行う予定。			
<b>成績評価と基準</b>			
授業内活動による。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
文献の下読みをして下さい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
火曜日休み D623			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語及び英語			

## キーワード

開講科目名	日本文化論演習		
担当教員	長志珠絵	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
テーマ 占領期日本を考える 演習の到達目標は「歴史史料をどう読むか」スキルの獲得と日本現代史研究の最前線にふれることにある。			
授業の概要と計画			
毎回、発表者が、予め読んだ箇所を資料にまとめ、授業当日配布する。それをもとに、全員で議論する。			
成績評価と基準			
出席(30%)、発表(30%)、レポート(40%)			
履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)			
初回には必ず出席すること 欠席の場合は要連絡 院の授業は学部講義の延長にあらず			
オフィスアワー・連絡先			
研究室E207. オフィスアワーは隨時。事前にs.osa(アットマーク)people.kobe-u.ac.jpまで連絡してください。			
学生へのメッセージ			
自身の専門性とのマッチングをよく考えて履修してください。			
今年度の工夫			
教科書			
史料テキストはコピーを配布 神戸地方軍政部史料 論文テキストとしては、『文化冷戦の時代とアジア』等。			
参考書・参考資料等			
竹前栄治 / 『GHQ』 : 岩波新書, 1983, ISBN: 『日本占領史研究序説』 / 荒敬 : 柏書房, 2009, ISBN: 『アメリカ占領期の民主化政策』 / 岡原郁 : 明石書店, 2007, ISBN:			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
占領期研究 ラジオ 冷戦 東アジア ジェンダー			

開講科目名	日本文化論演習		
担当教員	板倉 史明	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

映画学関連の文献を精読し、映画学の専門知識を身につけてもらう。毎回学生に発表してもらい、議論する。

### 授業の概要と計画

各学生は最低1回発表する。

1. イントロダクション
2. 学生発表と議論
3. 学生発表と議論
4. 学生発表と議論
5. 学生発表と議論
6. 学生発表と議論
7. 学生発表と議論
8. 学生発表と議論
9. 学生発表と議論
10. 学生発表と議論
11. 学生発表と議論
12. 学生発表と議論
13. 学生発表と議論
- 14.まとめ

### 成績評価と基準

出席および授業中の参加度（30パーセント）、授業中のプレゼンテーションおよびディスカッションへの参加（30パーセント）、期末レポート（40パーセント）。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

各学生は与えられた課題について最低1回、プレゼンテーションをしてもらう。人数が少ない場合は複数回発表もありうる。

### オフィスアワー・連絡先

適宜メールにて日時等設定する。itakura(a)people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

映画研究に興味のある方はぜひ参加してください。文献は参加者の専門を考慮して選ぶ。

### 今年度の工夫

映像資料ができるかぎり事前に準備する。

### 教科書

特になし

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

映画学、フィルム・アーカイブ、メディア、映像

開講科目名	統計・計量分析法		
担当教員	籠宮 隆之	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

文科系の大学院生を対象に、基本的な統計手法について講義します。

### 授業の概要と計画

などの統計学を学ぶ上で必要な最低限の数学の知識、平均値や分散などの基礎統計量、基本的な検定手法について実習形式で授業を進めます。また、フリーの統計ソフトであるRの基本的な使い方についても講義します。

### 成績評価と基準

期末レポート（統計学の基礎知識、および統計手法の理解の確認） 70%  
授業への参加および発言 30%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業は、前日に学んだことを理解している前提で進めていきます。しっかり復習した上で臨んでください。

### オフィスアワー・連絡先

t-kagomiya@ninja.ac.jp に Email にてご連絡ください。

### 学生へのメッセージ

文科系の学生にとっては、数学を利用する統計学は難しいものに感じてしまうかもしれません。しかし、落ち着いて取り組んでみれば、それほど難しいものではありません。時計学で用いる数式の基礎から授業を進めていきますので、どうぞ恐れずに参加してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

栗原伸一 (2011) 『入門統計学?検定から多変量解析・実験計画法まで?』、オーム社

### 参考書・参考資料等

山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎 (2008) 『Rによるやさしい統計学』、オーム社

### 授業における使用言語

### キーワード

開講科目名	調査・分析法（統計処理、定量社会調査）		
担当教員	籠宮 隆之	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

文科系の大学院生を対象に、基本的な統計手法について講義します。

### 授業の概要と計画

などの統計学を学ぶ上で必要な最低限の数学の知識、平均値や分散などの基礎統計量、基本的な検定手法について実習形式で授業を進めます。また、フリーの統計ソフトであるRの基本的な使い方についても講義します。

### 成績評価と基準

期末レポート（統計学の基礎知識、および統計手法の理解の確認） 70%  
授業への参加および発言 30%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業は、前日に学んだことを理解している前提で進めていきます。しっかり復習した上で臨んでください。

### オフィスアワー・連絡先

t-kagomiya@ninja.ac.jp にてご連絡ください。

### 学生へのメッセージ

文科系の学生にとっては、数学を利用する統計学は難しいものに感じてしまうかもしれません。しかし、落ち着いて取り組んでみれば、それほど難しいものではありません。時計学で用いる数式の基礎から授業を進めていきますので、どうぞ恐れずに参加してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

栗原伸一 (2011) 『入門統計学?検定から多変量解析・実験計画法まで?』、オーム社

### 参考書・参考資料等

山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎 (2008) 『Rによるやさしい統計学』、オーム社

### 授業における使用言語

### キーワード

開講科目名	言語文化環境論特殊講義I		
担当教員	廣田 大地	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

フランス言語学者エミール・バンヴェニスト(Emile Benveniste, 1902-1976)の研究を、主にその発話行為論に注目して読み進めることを通じて、コミュニケーションを中心とした現代的言語学観の基本を学習する。

### 授業の概要と計画

まず初めに20世紀全体を通しての言語学の流れを学習し、続いてソシュールとの比較においてバンヴェニストの特徴を捉える。その上で、バンヴェニストの代表的著作の一つである『一般言語学の諸問題』の内、本授業のテーマと関わりの深い幾つかの章を部分的に読み進める。受講者の希望があれば、講師の専門である詩的言語と一般言語との関わりについて、バンヴェニストによる『ボードレール論』のための草稿をめぐる昨今の議論を紹介することも計画している。

### 成績評価と基準

毎回の授業への出席ならびに発言などの授業への参加を50%、  
学期末のレポート提出を50%として成績評価を行う。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

言語学に関する予備的知識やフランス語の学習経験の有無は問いません。ただし、フランス語または英語で書かれた文献の読解とそれに基づく簡単な発表とを授業の一環として求めることができます。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

皆さんが研究対象として扱っている外国語や、さらには日常生活で用いている「言語」というものが何なのかという問題に関して好奇心のある方の参加を期待しています。また、バンヴェニストにその源流の一つを持つ「ディスコース分析」は現代において言語に関する諸問題を扱う上で、非常に有用なツールとなっています。その理論の基礎を理解するためにも、この授業への参加を役立てることが出来るでしょう。

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし。

### 参考書・参考資料等

一般言語学の諸問題 / エミール・バンヴェニスト：みすず書房, 1983, ISBN:4622019795

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

バンヴェニスト、言語学、一般言語学、発話行為、ディスコース、詩的言語

開講科目名	外国語教育システム論演習		
担当教員	福岡 麻子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

第二次大戦後オーストリアの想起の文化と文学 ホロコーストや第二次世界大戦の記憶の想起は、オーストリアにおいても戦後重要な営みであり、建築や美術、文学などに、それを支え動かす様々な装置をみることができる。授業では文学の例を扱い、オーストリア現代文学の知見を身につけながら、芸術作品を歴史的な文脈に位置づけて捉える意識を磨く。

### 授業の概要と計画

全体で15回の授業を二部に分け、それぞれ以下の内容でテクストの精読と議論を行なう。

- 1) 第二次大戦後オーストリアの歴史と「想起の文化」研究（文献の輪読）
- 2) オーストリア戦後文学を読む（作品輪読と発表） 発表内容（題材）は専門によって相談に応じる予定です。

### 成績評価と基準

- 1) 輪読や議論への寄与（30%）
- 2) 授業後半の口頭発表（30%）
- 3) 学期末のレポート（40%） 以上3点から総合的に評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

次回授業で扱うテクストは、目で「読む」ので終わるのでなく、気がついたことや疑問点を「書いて」きてください（「こんなことわからないのは自分だけかもしれない」、「そんなことはありません」）。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは未定ですので、最初の授業でお知らせします。

### 学生へのメッセージ

作品や文献（原書の多くはドイツ語）は日本語訳のあるものも用いる予定ですので、ドイツ語非履修者の方も歓迎します。ご自身の専門や興味のある観点からテクストを読み、思ったことを自由に話してください。自分はどう読んだか、自分はどう感じどう考えたか、思考の道筋を丁寧に辿りましょう。

### 今年度の工夫

論文執筆の一環としても大切な 思考を言語化する 力を鍛えられるよう、以下の工夫をします。

- 1) 即興の発言と、準備に基づいた発話の両方を意識的に行ってもらいます。
- 2) 他者と議論（の土台）を共有するという観点から、自分の発想の出所を丹念に追うことに重点をおきます。

### 教科書

適宜、文献表や抜粋のコピー等を配布します。

### 参考書・参考資料等

隨時紹介します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

オーストリア現代文学、想起の文化

開講科目名	芸術文化論演習		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

映像やデザインがどのような隠れたメッセージを発しているのか、時代や社会とのかかわりを踏まえ、考察を行う。

### 授業の概要と計画

本年度のゼミでは、報告者ごとに扱う資料を変えていく。参加者はテキストの読解が必須ではない代わりに、キーワードを手がかりに独自の資料収集と学習が求められる。

#### 取り上げるテーマ・資料（予定）

1. メディアの変遷：吉見俊哉『メディア文化論』
2. ファシズムと芸術：多木浩二『「もの」の詩学』  
池田浩士『虚構のファシズム』
3. 文化表象：『講座 スラブ・ユーラシア学』
4. 文化としてのテレビ：『テレビジョン解体』
5. 異なるメディア間の表象（バレエと映画）：『赤い靴』(1948)と『ホワイト・ナイト(白夜)』(1985)

### 成績評価と基準

（成績評価と基準に関する情報が記載されていますが、本文は空欄で表示されています。）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業中に取り上げる文献等について、各自の問題意識とのかかわりで考えること。今年度については、担当者以外はテキストの保持は必須ではないが、テーマについて、独自に資料に当たり、積極的に討論に参加すること。

### オフィスアワー・連絡先

（オフィスアワー・連絡先に関する情報が記載されていますが、本文は空欄で表示されています。）

### 学生へのメッセージ

与えられたテーマに対し、自分なりのアプローチを見出す訓練をしてみましょう。  
授業で取り上げたい文献・書籍があれば、初回に提案してください。

### 今年度の工夫

資料収集と読解力、論文作成能力の向上をはかる。

### 教科書

（教科書に関する情報が記載されていますが、本文は空欄で表示されています。）

### 参考書・参考資料等

- メディア文化論 / 吉見俊哉 : 有斐閣アルマ ,2012 ,ISBN:9784641124875  
 「もの」の詩学 / 多木浩二 : 岩波現代文庫 ,2006 ,ISBN:9784006001537  
 虚構のファシズム / 池田浩士 : 人文書店 ,2004 ,ISBN:9784409510537  
 テレビジョン解体 / 日本記号学会 : 慶應大学出版会 ,2007 ,ISBN:9784766413816  
 講座 スラブ・ユーラシア学 1-3 / 宇山智彦他 : 講談社 ,2008 ,ISBN:

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

デザイン、マス・メディア、表象、ファシズム、ソ連

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「論文とはなにか」：資料を批判的に使う方法、論説を展開する手順、論文の語り口、論文の意味などについて、出席者が理解するように説明する。

### 授業の概要と計画

- 1、自著を例に中国における国家思想の変遷に関する思考を紹介し、論文における独自の視点と理論的整理の重要性を説明する。
- 2、出席者の論文についてその問題点と注意すべき点を指摘し、受講者の質問に答え、質のより良い論文になるようアドバイスする。

### 成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30 ~ 13:10  
E 214室、内線7459

### 学生へのメッセージ

歴史を複眼的に見ることが重要である。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指示

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> モンゴル民族史に関する修士論文の執筆を指導する。			
<b>授業の概要と計画</b> 学生自身の研究テーマに応じて、満洲語・モンゴル語等の史料の用い方、研究上の方法論、論文執筆方法等を指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点、特に研究発表に基づいて評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 自分の研究計画を事前にしっかりと立てておくこと。また、他の学生が発表しているときにも、参考となりそうなる点に常に注意を払う必要がある。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 月・木の昼休み			
<b>学生へのメッセージ</b> 最先端の水準を持つ本当の研究を目指してほしい。			
<b>今年度の工夫</b> 説得力のある論文の書き方を指導したい。			
<b>教科書</b> 特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし。			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 修士論文、オリジナリティ、説得力			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	柴田 佳子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
各自の研究テーマに合わせ、それを深め、論文としてまとめていくのに必要なスキルを習得する。			
<b>授業の概要と計画</b>			
受講生は毎回、レジュメを作成して発表する。それをもとに質疑応答をへて議論し、次回へのステップに向けての課題を明らかにする。適宜小論文を書く。			
<b>成績評価と基準</b>			
平常点：毎回の授業への準備状況、授業中の質疑応答、課題設定 50% 期末小論文：50%			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
当日指導でアドバイスされた点をふまえた論文やそれに相当する成果を次回に必ず見せる事。他の文化人類学関連の授業もどることが望ましい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
随時。ただし事前連絡してください。 <a href="mailto:yoshibat@kobe-u.ac.jp">yoshibat@kobe-u.ac.jp</a>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
いかに自分を高めていけるか自覚的になりましょう。			
<b>今年度の工夫</b>			
受講生個人のニーズに合わせて展開する。			
<b>教科書</b>			
特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業中に指示します。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語、必要に応じて英語			
<b>キーワード</b>			
文献解読、批判的検討、論文作成			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	遠田 勝	開講区分	単位数 前期 2単位

**授業のテーマと到達目標**

修士論文、修了研究レポート作成に必要な基本的学力を養成する。

**授業の概要と計画**

実際に論文、レポートの一部を作成しながら、個人指導をおこなう。

**成績評価と基準**

論文（100%）

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）**

毎回原稿を準備し、授業後、加筆修正すること。

**オフィスアワー・連絡先**

水曜日休み。

**学生へのメッセージ****今年度の工夫****教科書****参考書・参考資料等****授業における使用言語**

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修士論文の作成に向けた指導を行なう。			
<b>授業の概要と計画</b>			
受講者の研究テーマに応じて、文献資料の講読、先行研究の批判的検討、立論の方法等を指導する。			
<b>成績評価と基準</b>			
授業への参加 50 %、レポート 50 %。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
事前に資料を十分に読み込んだ上で、授業に臨むこと。また、指示に従って、次週までに課題をこなしておくこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
月曜日休み（事前連絡を乞う） yamasawa@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語。			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	三浦 伸夫	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
アラビア科学史			
<b>授業の概要と計画</b>			
アラビア科学に関する最近の英文研究論文を読み合せます。研究の先端を理解すると同時に、研究テーマを探すことを目指します。			
<b>成績評価と基準</b>			
参加発表で評価します。適切な準備をしているかを基準。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
科学史の知識はある程度必要です。科学史の通史を事前に読んでおくとよいでしょう。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
メールにて時間調整をします。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
英文を読むので、それなりの準備が必要です。アラビア語の知識は必要ありません。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
テクストは教員が準備します。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
適宜指示します。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
アラビア、科学史			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文の作成指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 文献講読、調査・報告、発表、討議、添削を繰り返します。			
<b>成績評価と基準</b> 指摘箇所を適切に改善するかどうか、論文作成上の技術的なポイント、論文の質などを総合的に考慮して判定する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 指導を受けるに当たり、ドラフト（草稿）を準備しておくこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。事前にメールでアポイントメントをとってください。umeya[at]people.kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>文献講読を論文指導に並行して行う</b>			
<b>教科書</b> 作成中の受講生の修士論文。			
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜紹介する。			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	寺内 直子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

レポート執筆に向け、資料収集、分析などの作業のスキルを身につけると同時に、学問的な視点や方法論を検討する能力を養う。

### 授業の概要と計画

受講生は、自分の興味に応じて、それに関する先行研究やオリジナルな資料を収集、分析し、発表する。それに対するコメント等をよく吟味し、考察を深める。

### 成績評価と基準

出席と報告

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

随時、ただし要事前連絡（naokotkアットマークkobe-u.ac.jp）

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

なし

### 参考書・参考資料等

授業中に指示する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	青島 陽子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士一年生の前期として修士論文の執筆と完成に向けた基礎固めをおこない、後期からの本格的な準備に備えることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

大学院入学時の研究計画をより洗練させることで研究テーマのさらなる具体化をはかり、この具体化に必要な各種の予備的学習をおこないます。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、この学習が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

平常点をもって成績評価をおこないます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこないます。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士一年生の前期として修士論文の執筆と完成に向けた基礎固めをおこない、後期からの本格的な準備に備えることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

大学院入学時の研究計画をより洗練させることで研究テーマのさらなる具体化をはかり、この具体化に必要な各種の予備的学習をおこないます。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、この学習が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

平常点をもって成績評価をおこないます。予習・復習など授業への熱意があるかどうかを重視します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこないます。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士一年生の前期として修士論文の執筆と完成に向けた基礎固めをおこない、後期からの本格的な準備に備えることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

大学院入学時の研究計画をより洗練させることで研究テーマのさらなる具体化をはかり、この具体化に必要な各種の予備的学習をおこないます。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、この学習が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

平常点をもって成績評価をおこないます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこないます。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	齋藤 剛	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習は、修士論文執筆に向けて、研究・論文草稿の基礎をかためることを目的とする。

### 授業の概要と計画

修士論文をはじめとした論文、レポート執筆に向け、各受講者に自らの研究計画および研究そのものを発表してもよい、受講生全員で討議を重ねてゆくことにより、研究の深化を図る。

### 成績評価と基準

成績評価は、以下の諸点をもとに総合的に判断する。

- ( 1 ) 出席 (10%)
- ( 2 ) 発表原稿の事前提出 (下段の「履修上の注意」を参照のこと) (30%)
- ( 3 ) 発表 (回数と内容) (15%)
- ( 4 ) 授業への参加度 (15%)
- ( 5 ) 授業に際して指摘された修正個所の改善 (30%)

### 履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

初回の授業では、受講生全員で発表分担を決定するので、必ず出席すること。

発表の1週間前の授業の際に完全原稿を提出することを義務づける。受講生は各自、発表原稿を事前に読み込み、議論すべき点についてきちんと自分なりの考えを練っておくこと。  
なお、発表原稿の事前提出がない場合には、減点対象となる。

### オフィスアワー・連絡先

初回授業の際に伝える。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	塙原 東吾	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

西川如見と18世紀の天文学・自然観：プロテスタント科学と、カトリック的な東アジア関与

### 授業の概要と計画

西川如見の研究を以下のように、各2回づつ行う。

- (1) 天文学
- (2) 地理学
- (3) 自然観
- (4) 天文觀、農民思想、庶民倫理
- (5) ジエズイットの中国での活動
- (6) マックス・ウェーバーのプロテスタント觀
- (7) 日本における技術優先主義
- (8) 蘭学

### 成績評価と基準

基本的に最終論文で評価をする。

オリジナリティとプライオリティをもって評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

かなり高度の内容となるので、準備には、毎回3時間程度かかる。

### オフィスアワー・連絡先

木、ヒル、M404

### 学生へのメッセージ

蘭学者くらいには勉強しましょう。

### 今年度の工夫

マックス・ウェーバーの蘭学的解釈を入れたところ。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語、英語、オランダ語

### キーワード

西川如見、キリストン科学、プロテスタント科学、蘭学、天文学史、18世紀の自然観

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	長志珠絵	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文執筆に向けた指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 各学生の執筆テーマに合わせて発表・討議を行う。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> s.osa ( アットマーク ) people.kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	板倉 史明	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

各受講生の修士論文のテーマに応じて必要な文献を選んだうえで、それらについて適宜報告してもらい、修士論文の構想を深化させることを目標とする。

### 授業の概要と計画

毎回与えられた課題について報告してもらい、議論することで修士論文の準備を進める。具体的な計画については各受講生のテーマに合わせて設定する。

### 成績評価と基準

出席および毎回の報告内容から総合的に判断する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、十分な準備を行なうこと

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士論文やそれに相当するフォリオの「意義ある主題」と「研究方法」の設定を、履修者の主体的な作業を基盤に絞り込んでゆくことをめざす。

### 授業の概要と計画

修論ないしフォリオの題目・意義と方法に関する研究計画を、先行研究や一次資料の解説と共に、毎週履修者に（履修者が複数いる場合は一人一回の順番で）発表して貰い、それを元に全員で討論をする。

### 成績評価と基準

平常点6割、期末レポート4割。ただし、ここでの平常点とは単なる出席点のことではなく（出席は大前提）、発表や討論における貢献度のことである。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

英語やインドネシア語文献の宿題をたくさん課す予定。履修希望者は事前に下記連絡先あて相談すること。

### オフィスアワー・連絡先

随時。ただし、ysd@kobe-u.ac.jpまで予め連絡ください。

### 学生へのメッセージ

学問の厳しさに耐える覚悟のある人のみ、門をたたいてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

履修者の提出する毎回の文章がテキストである。

### 参考書・参考資料等

履修者の進度や関心に応じ、適宜指示する予定。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

主題の意義づけ 研究方法 データとロジック

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数 前期 2単位

#### 授業のテーマと到達目標

修士論文作成のための準備を行う。

#### 授業の概要と計画

- 1 修士論文のテーマを決める。
- 2 修士論文の章立てを考える。
- 3 文献収集をしつつ、文献研究をとおして立論の方 向性を考える。

#### 成績評価と基準

修士論文の作成についての準備状況、および、「授業の概要と計画」で示した手順にどの程度従っているかを勘案して、判断する。

#### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

#### オフィスアワー・連絡先

研究室は、国際文化学研究科 E 4 1 3

#### 学生へのメッセージ

#### 今年度の工夫

#### 教科書

#### 参考書・参考資料等

#### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
論文作成の指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
1ヶ月に1回以上の報告を求め、アドバイスをする。			
<b>成績評価と基準</b>			
発表(4割)、討論(3割)、レポート(3割)、で評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
指導教員と相談して、綿密な計画を立て確實に作業を進めること。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
国際文化学研究科 E201 研究室（内線 7451） kinosita@harbor.kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
計画的 相談			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文のテーマを絞り込み、明確にしていく。			
<b>授業の概要と計画</b> 修士論文のテーマを以下に絞り込むか、実証的研究に大切なのは何か、を身につけるように、指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 出席および発表内容による総合評価。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 毎回、十分な準備を行うこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> kubotas@people.kobe-u.ac.jp アポイントにより、隨時。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	北村 結花	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
論文執筆準備 論文執筆に向けての基礎能力を高める。			
<b>授業の概要と計画</b>			
各受講生と相談の上、決定する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
yuika < A T > kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	昆野 伸幸	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文の完成を目標とする。			
<b>授業の概要と計画</b> 修士論文の構想もしくは草稿について詳細な検討を行う。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点10割で評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。事前に連絡すること (nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp)。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習は、修士課程1年の学生に対し、段階的な論文執筆に必要な研究計画作成プロセスを段階的に踏ませることが第一の目的である。またディスカッションを通じ、研究に必要な視点、発想を育成することを目的とする。

### 授業の概要と計画

計画 修士論文、修了レポート、フォリオ執筆に向けた研究計画について発表?議論を行う形式の演習です。

第一回は受講者についてのガイダンスを行う。

第二回は、研究方法、論文作成についての講義を行う。

第三回以降、受講者による発表と議論を通して、各自の研究を進展させる。なお複数回の発表を必須とする。

### 成績評価と基準

出席を重視するとともに、発表回数、および内容を重視する。なお、いかなる理由であれ、3回以上欠席の場合は「良」、4回以上欠席の場合は「可」を成績評価の上限とする。発表回避の場合は、他の日程で発表を必ず行うこと。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 発表者は論文草稿、レジュメを前日昼までにメールで提出すること。その他の出席者は必ず草稿に目を通し、あらかじめ質問、コメントを作成して授業に臨んで下さい（提出）
- ・演習に遅刻・欠席する場合は、必ず掲示板で連絡すること。

### オフィスアワー・連絡先

掲示板による連絡

### 学生へのメッセージ

初回のガイダンスには必ず出席してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語・英語・韓国語

### キーワード

研究法 論文指導

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	坂井一成	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際関係・比較政治論コースとして、修士論文等の作成に向けての指導を行う。

### 授業の概要と計画

コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。

なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。  
授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### 成績評価と基準

発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行うことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### オフィスアワー・連絡先

各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。

### 学生へのメッセージ

自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。

### 今年度の工夫

発表内容の明確化と発表方法の向上

### 教科書

スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。

### 参考書・参考資料等

適宜授業中指示

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

（この欄は未記入となります）

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> ゼミナール形式で、修士論文・修了研究レポート作成のための指導をします。			
<b>授業の概要と計画</b> 毎回テーマを決め、文献講読や発表の形式をとりつつ、論文作成を着実に進められるように懇切に指導します。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点によって評価します。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 履修に関する連絡や相談は、sakurait@kobe-u.ac.jpまで。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 授業の中で指示したり、印刷のうえ配布します。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	藤野一夫	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 論文のテーマと研究方法に合わせて懇切丁寧に指導します。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 隨時・要連絡 fujino@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
論文指導			
<b>授業の概要と計画</b>			
相談の上、定期的に論文に関する構想や内容を発表してもらい、それについて指導する。			
<b>成績評価と基準</b>			
平常点と研究の進捗状況による。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
芸術文化共生論特殊講義、芸術文化論演習、その他芸術文化論関連科目を合わせて受講することが望ましい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
一定の課題にそって、論の構成方法および研究レポートの書き方を学ぶ。			
<b>授業の概要と計画</b>			
研究テーマに関するテキストなどを参考にしながら、レジュメの作り方、問題の立て方、論の構成方法を学び、研究用のテキスト表現を学ぶ。			
<b>成績評価と基準</b>			
平常点(ミニレポート)および期末レポートなどによる。			
<b>履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)</b>			
自主的に資料収集にあたること。 自分のテーマを狭く限定せず、各種問題とどのように連携しているのかについても留意すること。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
随時。(メールにて事前連絡が望ましい)			
<b>学生へのメッセージ</b>			
課題以外にもたくさんの本を読み、映画、演劇、美術展など文化表現に積極的に触れること。(テレビ番組を含む)			
<b>今年度の工夫</b>			
アカデミックライティングを意識的に行う。複数の課題を出す。			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
教科書については授業中に指定する。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
レポート作成、アカデミックライティング			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	池上 裕子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文執筆に向けての指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 各学生の執筆テーマに合わせて発表・討議を行う。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> ikegami@port.kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数
前期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修士論文執筆に向けての指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
テーマの絞り方、資料収集とその分析方法、論文の構成等について指導する。			
<b>成績評価と基準</b>			
平常点評価。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数 前期 2単位

**授業のテーマと到達目標**

博士前期課程第1学年の学生に、修士論文・フォリオ等執筆に向けての指導を行う。

**授業の概要と計画**

テーマの設定、参考文献の収集と読解などを中心とする。

**成績評価と基準**

論文の進展、提出レポートなどにより総合的に判断する。

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）**

十分な予習と自主的な調査・研究を行うことが必要である。

**オフィスアワー・連絡先**

メールで連絡のこと。ynoriko@kobe-u.ac.jp

**学生へのメッセージ****今年度の工夫****教科書**

授業中に指示する。

**参考書・参考資料等**

授業中に指示する。

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数 前期 2単位

**授業のテーマと到達目標**

研究論文を作成するための基礎的能力の涵養をはかる。

**授業の概要と計画**

受講者の研究課題、目標に応じて柔軟に対応する予定。

**成績評価と基準**

学期末に課す課題で評価する。

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）**

毎回、十分な準備を行なうこと。

**オフィスアワー・連絡先**

水曜昼休み（要予約）

**学生へのメッセージ**

定延を主たる指導教員とする当該研究科・学年の院生は受講してください。

**今年度の工夫****教科書**

特になし。

**参考書・参考資料等**

特になし。

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数
前期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修論および修了レポートの作成を指導する。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

生命倫理学 法と倫理 医療倫理 インフォームド・コンセント 代理母

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> フォリオ或は論文を作成するための研究指導を行なう。			
<b>授業の概要と計画</b> 各自のテーマに応じて、フォリオ或は論文に向けて、各自の研究に必要な内容を検討し、勉強と研究活動を支援する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ) 研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	康 敏	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 フォリオ・論文について指導を行う。			
授業の概要と計画 テーマを決め、毎週資料収集の上、ディスカッションを行う。			
成績評価と基準 平常点で評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先 随時			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士フォリオ・修士論文作成に向けた研究指導を行います。

### 授業の概要と計画

以下のようなことを予定していますが、これに限らず、フォリオ・論文作成に必要な指導を行います。

- 研究の進捗状況の確認
- 研究テーマに関する相談
- 研究に必要な知識・技術に関する指導
- フォリオ・論文作成のための技術的な指導

これらの過程を経て修士論文または修士フォリオに関する研究計画書を作成します。

### 成績評価と基準

以下の点に基づいて評価します。

- 出席および学習態度、発表や議論の内容と資料(40%)
- 修士論文または修士フォリオに関する研究計画書(60%)

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。

電子メール : hajime.murao@mulabo.org

研究室 : B棟4階B409室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

特に用いません

### 参考書・参考資料等

隨時指示する。

### 授業における使用言語

日本語、英語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	清光 英成	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 修士研究中間報告のための研究指導を行う。			
授業の概要と計画 当該分野での研究動向や関連研究の調査などを通じて研究の位置づけを明らかにするとともに以降修士論文作成のために研究の方向付けについて指導を行う。また、論文のまとめ方や研究の今後の展望についても演習形式で進める。			
成績評価と基準 平常点および課題レポート			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む） 授業中に指示する			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書 使用しない。			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語 日本語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	西田 健志	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> フォリオあるいは論文に向けて、各自の研究テーマに必要な知識や技能の習得を目標とする。			
<b>授業の概要と計画</b> フォリオあるいは論文に向けて、各自の研究テーマで必要となる知識や技能を検討し、その習得のための勉強および研究活動を支援する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。 メール : tnishida@people.kobe-u.ac.jp 研究室 : B棟4階408			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	藤涛 文子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文の準備段階として、先行研究を読み進め、修士論文の構想がまとまるこことを目指します。			
<b>授業の概要と計画</b> 進捗状況に合わせて、指導を進めていきます。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点評価（修士論文準備の進捗状況と内容）			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 指導を受ける際には、毎回必ず前もってレジュメを送ってください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 研究室：B411 fumiko@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b> いつでも相談にきてください。			
<b>今年度の工夫</b>    			
<b>教科書</b> 必要に応じてコピーを配付します。			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて指示します。			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 翻訳研究			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	湯淺 英男	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士論文やフォリオを書くための、論文指導です。1年次の前期のため、まずは論文・フォリオのテーマや研究の進め方などについて話し合うつもりです。

### 授業の概要と計画

受講者と話し合いながら授業の進め方を決めたいと考えます。

### 成績評価と基準

授業での活動内容、及び研究の進展具合で評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

自分の学問的関心を広げるような授業の履修の仕方を期待します。事前に自分の問題点を整理しておいてください。また授業の後には、自分の課題を一層掘り下げて文献などにもあたってみてください。

### オフィスアワー・連絡先

木曜日の12時20分から13時10分まで。事前に連絡してくれることを望みます。研究室はB410。

### 学生へのメッセージ

言語やコミュニケーションについての問題意識をはぐくんでください。

### 今年度の工夫

履修者の関心にしたがって、研究の刺激になるような議論ができるようにしたいと思います。

### 教科書

特になし。

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

言語 コミュニケーション

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	田中 順子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
フォリオや論文を作成するために必要な基礎的能力を養う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
受講者の研究課題、目標に応じて対応します。受講者に共通な習得目標は次のとおりです。			
必要な文献を検索して必要な情報を抽出できる。 先行文献のまとめができる。 APAの論文スタイルをマスターする。 研究計画を立てる。			
<b>成績評価と基準</b>			
修士論文研究の進捗状況の発表による評価(50%)。 学期末に課す課題による評価(50%)。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
特になし。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
火曜日休みを予定（要予約）			
<b>学生へのメッセージ</b>			
特になし。			
<b>今年度の工夫</b>			
学生の皆さんに目的意識を明確に持つように助力します。			
<b>教科書</b>			
特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし。			
<b>授業における使用言語</b>			
主として日本語。英語対応も可能。			
<b>キーワード</b>			
修士論文研究			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	米谷 淳	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「対人行動研究入門」対人行動論に関するテーマで修士研究を進めようとする学生を対象に、研究方法、論文作成法などについて基礎から実践まで習得していただくことをねらいとする。IIは研究方法と論文作成法について学ぶ。

### 授業の概要と計画

- 1 ガイダンス
- 2 対人行動研究とはなにか
- 3 科学的思考の基礎（1）批判的思考
- 4 科学的思考の基礎（2）実証的アプローチ
- 5 科学的思考の基礎（3）論理的思考
- 6 心理学研究法（1）観察 1
- 7 心理学研究法（2）観察 2
- 8 心理学研究法（3）調査 1
- 9 心理学研究法（4）調査 2
- 10 心理学研究法（5）実験 1
- 11 心理学研究法（6）実験 2
- 12 科学論文の書き方 1
- 13 科学論文の書き方 2
- 14 科学論文の書き方 3
- 15 科学論文の書き方 4

### 成績評価と基準

毎回の出席（20%）、課題（40%）、レポート(40%)をもとに総合的に成績評価を行う。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

水曜日休み  
研究室 803-7603, E-mail:maiya(@)kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

講義だけでなく実習や演習のスタイルも取り入れる予定です。

### 今年度の工夫

個々の学生の関心や予備知識に応じてきめ細かく対応するべく、弾力的な授業計画にします。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

参考書は授業中に指示します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

対人行動研究、データ分析、統計

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	大月一弘	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士論文・修士フォリオ作成へ向けた学習指導と研究指導を行う。

### 授業の概要と計画

授業では以下の内容を行う

- 各自の研究テーマを決めるための文献調査
- 研究を進めるために必要な専門知識の学習
- プログラミングスキル向上のためのプログラミングの作成
- 論文作成方法に関する指導

### 成績評価と基準

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

各自の研究テーマにて即して、修士論文ないし修了研究レポートの作成のための準備となる、個別指導を行います。

### 授業の概要と計画

各自の個別研究の進捗のために、準備段階となる指導を行います。

### 成績評価と基準

上記の目標と計画が達成された程度に応じて評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

修士論文ないし修了研究レポートの作成に向けて、研究が着実に進捗するよう、よく準備してください。

### オフィスアワー・連絡先

随時行いますが、事前に下記に連絡を下さい。  
munakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jp  
研究室はE 3 0 6です。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	松本 紘理子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 人間の認知機能特性とその神経基盤について理解し、人間の認知・行動特性に関する研究テーマを探索する。			
<b>授業の概要と計画</b> 論文作成の技法の獲得と文献の精読を通じて、テーマ探索と仮説構築を行う。研究論文を探索、抜粋して読み、論議を行う。			
<b>成績評価と基準</b> 出席、平常の授業態度、並びに授業内での発表の内容、議論への参加等から総合的に評価を行う。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 支持された文献は事前に必ず目を通し不明な用語を調べておくこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。事前にかならずメールにてアポイントメントを取るようにしてください。			
<b>学生へのメッセージ</b> より良い研究をするためには何が必要なのかを考えながら進めます。講義内で指定した手法を使って授業時間外でも調査・研究を行うことを求めます。			
<b>今年度の工夫</b>    			
<b>教科書</b> 教科書は指定しません。			
<b>参考書・参考資料等</b>    			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 認知心理学、視覚注意、認知神経科学			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	小笠原 博毅	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
修士論文・フォリオ執筆指導			
授業の概要と計画			
テーマの絞込み、文献整理・調査、資料調査・検索、執筆要綱等の指導、および各自の進捗状況のモニタリング			
成績評価と基準			
理解、進展、暫定的達成			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先			
木 昼休 hiroko@kobe-u.ac.jp 内線 7464			
学生へのメッセージ			
「書く」ことの悦びを			
今年度の工夫			
教科書			
買う必要はないが、手元にあるとやる気と勇気が出る本			
<i>The Art of Listening / Les Back : Berg ,2007 ,ISBN:9781845201210</i>			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語もしくは英語			
キーワード			
自己検証			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文完成へ向け、準備を進めるための指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 修士論文完成へ向けた調査・研究の計画書を作成してもらう。必要に応じて草稿や原稿の提出を求め、チェックする。文献・構成・方法について個別指導を行う。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点（研究への意欲的・生産な取り組みが行えているか）			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 隨時メールで連絡してください。			
<b>学生へのメッセージ</b> まず自分のなかにある問題意識を明確にし、「何をどのようにして明らかにするのか」についてよく考えてください。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	市田 良彦	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 各自の研究テーマの明確化と研究計画の策定。			
<b>授業の概要と計画</b> 問題関心のありかを発表してもらい、それに沿って読書計画を作ってもらいます。ときおり、その進行をチェックします。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点のみ。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> とくになし。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 昼休み。E304研究室。			
<b>学生へのメッセージ</b> 幅の広さと専門性のバランスを！			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語。			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

思想系の論文を執筆するというのは基本的には孤独な作業である。みずから主題を設定し、そのために必要な文献を広く涉猟しつつ、徹底的にそれを読み込んだうえで、自分なりの観点から論点を整理して一貫した筋道をもった論文へと仕上げてゆく。この一連の作業をすべてたった一人でこなしてゆかなければならぬ。とはいえそうした作業には一定の手順や技術があることもたしかだ。この演習では前期課程1年目の学生を対象に、論文執筆に必要となる基本的な論文作法を身につけてもらい、孤独な作業を最後まで一人でやり抜く基礎力を養成することを目標とする。

### 授業の概要と計画

前期課程1年目ではとりわけ、主題の設定が適切なものかどうか、そのためにはどのような方法論が必要か等々、論文執筆にとって土台となる部分に重点を置いて指導を行なう。自分なりに研究を少しずつ進めてゆくプロセスで、当初の主題設定も大きな修正を迫られることもあるだろうし、すでに書きかけている論文の断章も破棄を余儀なくされることもあるかもしれない。こうした紆余曲折の節目で迷路に入り込まないようにサポートするのがこの演習の役目となる。

### 成績評価と基準

提出された草稿や書き直された草稿の出来などをもとに、総合的に評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

ueno@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

実際に論文を書くのは学生であって教員ではない。また書いたものがなければコメントすることもできない。指導の内実もすべて学生自身の頑張り如何にかかっている。奮励努力を期待したい。

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書はとくに指定しない。必要な文献はそのつど指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	庁 茂	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> マスター論文/フォリオの作成に向けての助言と指導。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 金曜日 13:00-13:20			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	松家 理恵	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文の作成に向けた個別指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 隨時、研究の進捗状況を発表してもらい、必要な助言、指導を行う。コース全体においては、3月に中間発表会を行う。			
<b>成績評価と基準</b> 各自のテーマに関する研究の進捗状況、その内容に基づいて評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 授業においては研究の進捗状況についての発表が求められるので、そのための準備は必須です。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 連絡の上隨時。 janjur@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	林 博司	開講区分	単位数
前期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修士論文又は修了レポート作成のための研究指導を個人指導の形で行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	齊藤 美穂	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

各自の修了研究のテーマに関連する先行研究を選んで、講読を行う。先行研究の成果や問題点などを客観的にとらえ、自身の研究への応用ができるようになることを目指す。

### 授業の概要と計画

受講者自身が、修了テーマやニーズにあった講読論文を選択し、その内容と問題点などをまとめて発表する。発表の後は全員によるディスカッションを通して、先行研究への理解を深めるとともに、発表者の研究テーマとの関係について考える。

### 成績評価と基準

下記の比率で総合的に評価する。

- 1 . 出席率及び授業態度 20%
- 2 . 発表 30%
- 3 . 期末レポート 50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

発表者は事前にレジュメを作成し、教員及び他の受講生に配布しておくこと。  
受講生は配布されたレジュメに目を通しておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

木曜13時-14時半（要事前連絡）  
E-mail:msaito@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

配布資料

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	米本 弘一	開講区分	単位数
前期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修士論文・修了研究レポートを書く準備のための指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
論文・レポートのテーマの決定 先行研究に関する資料の収集 論文の構成の決定			
<b>成績評価と基準</b>			
授業中の発表、議論への参加度などの平常点により評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
論文・レポートのテーマの決定に向けて、参考文献などの資料を読んでおくこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
金曜 3限 B 4 1 3 研究室			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
使用しない / : , , ISBN:			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数 前期 2単位

**授業のテーマと到達目標**

研究者養成型プログラムの学生を対象に、修士フォリオまたは修士論文の完成に向けて研究指導を行う。

**授業の概要と計画**

方法論的ならびに理論的学習を行いながら、修士論文の方向性を決定する。

**成績評価と基準**

平常点評価

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）****オフィスアワー・連絡先**

金曜日15.30 -  
上記以外でも調整します

**学生へのメッセージ**

基礎が大事です

**今年度の工夫**

個人HPで情報を配信します

**教科書****参考書・参考資料等****授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

方法論  
理論的背景

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	加藤 雅之	開講区分	単位数 前期 2単位

**授業のテーマと到達目標**

フォリオ・修士論文を書く上での基本的知識を教授するとともに、レポートなどを通じて実践的指導を行う。

**授業の概要と計画**

毎週、一定の論文を読み込み、それについてのディスカッションを行う。

**成績評価と基準**

授業への貢献および最終レポートによって判定する。

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）****オフィスアワー・連絡先**

D624  
Email: masakato@kobe-u.ac.jp

**学生へのメッセージ****今年度の工夫****教科書****参考書・参考資料等****授業における使用言語**

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	横川 博一	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

Seminar for Master's Thesis/Folio I

修士論文ないしは修士フォリオの作成に向けて、指導教員およびコース教員で研究指導を行う。

### 授業の概要と計画

(1)計画的に各自が研究を進め、その進捗状況を外国語教育システム論コースが開催する「研究指導演習」等で定期的に報告し、それに対して指導助言を行います。

(2)横川研究室所属の大学院生は、博士前期課程・後期課程合同で、金3・4限などにゼミを定期的に開催する予定である。そこでは、研究の進捗状況の報告を中心に進めます。

### 成績評価と基準

最終的には、国際文化学研究科の規程に則り、審査を行い、評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

適宜相談に応じるので、可能な限り事前にメールでコンタクトをとってください。yokokawa@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

授業、ゼミの他、関係学会・研究会などに積極的に出席・参加、発表をおこない、幅広い理解と情報収集に努めてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	石川 慎一郎	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ： チュートリアルゼミ

到達目標： 担当教員とのディスカッションをふまえ、各自の論文の完成度を向上させる。

### 授業の概要と計画

授業概要： 論文進捗状況を学生が報告し、その内容についてディスカッションを行う。

授業計画：毎回、受講生の全員が、各自の論文の進捗状況について報告する。その後、ディスカッションを行う。

### 成績評価と基準

下記を総合的に評価する。

- ・毎回の論文進捗報告
- ・ディスカッション
- ・クリティカルコメント

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講希望者は、開講前に教員にメールで連絡を取ること。

### オフィスアワー・連絡先

研究室 D612

メール iskwshin@gmail.com  
件名（subject）を明記のこと。

### 学生へのメッセージ

研究とはなにか、どのように研究を進めていけばいいのか、ゼミの先輩や仲間と悩みを語り合う中で自分自身の研究の方向性をつかんでもらえればと思います。

### 今年度の工夫

昨年度までの実践をふまえ、学外学会での研究発表への応募に備えた指導を加えていきます。

### 教科書

関連論文などは授業内で指示します。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語または必要に応じて英語

### キーワード

ゼミ、論文作成法、リサーチデザイン

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	柏木 治美	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 受講者各自のテーマにしたがって研究指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 詳細については授業で説明する。			
<b>成績評価と基準</b> 詳細については授業で説明する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 予め以下のメールアドレスにアポイントをとること。 kasiwagi@kobe-u.ac.jp , D610室			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 詳細については授業で説明する。 / : , , ISBN:			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	木原 恵美子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本授業では、受講者は、認知言語学における構文論研究と第二言語習得における基本概念を学びながら、L2英語学習者の英語の構文学習のメカニズムや、L2英語学習者に対する英文法の指導法を研究する。受講者は、専門書購読と研究発表を通じて、修士論文の作成へとつなげていく。（本授業はゼミ形式で行う。）

### 授業の概要と計画

本授業は主に次の2つからなる。

- I. 認知言語学における構文論と第二言語習得における文法学習に関する学術論文を読む。
- II. 受講者は、月1回、研究発表を行う。

### 成績評価と基準

議論に対する貢献度10%  
発表や議論に対する評価60%  
学期末レポート30%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

研究室：D620  
email: kihara.grad@gmail.com  
前期 & 後期：月曜2限  
注意：必ず事前にアポイントを取って下さい。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

テキストは使用せず、学術論文を輪読する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

授業中の解説は日本語で行われるが、配布される論文は英語である。

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	グリア ティモシー	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

Students in this class will explore a topic of their own interest, conducting an in-depth literature review and begin to gather some relevant data.

### 授業の概要と計画

This class is for thesis supervision at the graduate level. Students will meet regularly with the supervisor to develop an original thesis paper.

### 成績評価と基準

Holistic evaluation of the students' progress, including regular presentation and group supervision meetings and thesis preparation.

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

（This section is currently empty.）

### オフィスアワー・連絡先

Monday 12:10 to 13:00

### 学生へのメッセージ

Students will be expected to write their paper in English.

### 今年度の工夫

（This section is currently empty.）

### 教科書

（This section is currently empty.）

### 参考書・参考資料等

As appropriate

### 授業における使用言語

English, Japanese

### キーワード

Supervision

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	朱 春躍	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
論文作成指導。			
<b>授業の概要と計画</b>			
毎回研究の進捗状況を報告してもらい、研究内容・方法・参考文献などについてディスカッションをする。			
<b>成績評価と基準</b>			
研究計画が適切であるかどうか、研究が予定通り進められているかどうか。発表内容とディスカッションにより判断し、評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
研究室：D-608 E-mail:chunyuez(at)lion.kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
なにもかも先生の指導に頼らずに、ちゃんとご自分の考えをはっきりさせたうえで授業に臨みましょう。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業中に指示</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語（必要に応じて中国語）			
<b>キーワード</b>			
論文作成指導、実験のデザイン			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	枠田 義一	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
ヨーロッパの言語政策とヨーロッパ連合の「言語共通参照枠」を概観し、その特徴を明らかにする。			
<b>授業の概要と計画</b>			
言語政策及び「共通参照枠」の背景となっている複言語主義の考え方を明らかにし、それが「参照枠」にどのように取り上げられ、実際のカリキュラムや教材にどのように反映されているかを考察する。			
<b>成績評価と基準</b>			
授業における発表と期末レポート。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
ヨーロッパの言語が対象となるので、英独仏語のいずれかの知識のあることが、望ましい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
火曜日昼休み 研究室（D607）			
<b>学生へのメッセージ</b>			
ヨーロッパの言語政策、ヨーロッパ語の言語教育に興味を持っている人の受講を歓迎する。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
プリントを隨時配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
講義にて隨時紹介する。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語、ドイツ語			
<b>キーワード</b>			
EUの言語政策 CEFR ポルトフォリオ 複言語主義			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	大和 知史	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
<論文作成指導>			
授業の概要と計画			
各自の研究課題に応じ、論文完成に向けた指導を行います。			
成績評価と基準			
出席、課題の進捗（発表資料作成、発表内容）などを総合的に判断して評価します。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
発表資料の作成、それに伴う文献の精読・整理を必須課題とする。			
オフィスアワー・連絡先			
研究室：国文（鶴甲第一）キャンパスD棟622 連絡方法：電子メール yamato@port.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
修士論文、修了レポートをよりよいものにするために、一緒に悩み、議論しましょう。			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	青山 薫	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
修士論文・フォリオ執筆の基礎			
授業の概要と計画			
基本的な学術論文・研究プロジェクト報告書の書き方を学ぶ、「書き方の方法論」講座です。テーマのしづり方、様式や資料整理の流儀など具体的かつ普遍的な「形から」入りますが、参加学生の関心に合わせた個々の調査方法と進捗状況の検討も行います。			
成績評価と基準			
出席と進捗状況			
欠席が多ければ成績は下がります。5回の欠席で単位は失われます。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
無断欠席をしないこと			
オフィスアワー・連絡先			
月曜5限、水曜4限、金曜4限。事前にメール ( kaoru@jca.apc.org)で連絡の上			
学生へのメッセージ			
いずれも、他の参加者の方法論も一緒に学ぶグループワークです。			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
必要に応じて紹介			
授業における使用言語			
日本語または英語			
キーワード			

開講科目名	フォリオ・論文指導演習I		
担当教員	横川 博一	開講区分	単位数 4単位

### 授業のテーマと到達目標

Seminar for Master's Thesis/Folio I

修士論文ないしは修士フォリオの作成に向けて、指導教員およびコース教員で研究指導を行う。

### 授業の概要と計画

(1)計画的に各自が研究を進め、その進捗状況を外国語教育システム論コースが開催する「研究指導演習」等で定期的に報告し、それに対して指導助言を行います。

(2)横川研究室所属の大学院生は、博士前期課程・後期課程合同で、金3・4限などにゼミを定期的に開催する予定である。そこでは、研究の進捗状況の報告を中心に進めます。

### 成績評価と基準

最終的には、国際文化学研究科の規程に則り、審査を行い、評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

適宜相談に応じるので、可能な限り事前にメールでコンタクトをとってください。yokokawa@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

授業、ゼミの他、関係学会・研究会などに積極的に出席・参加、発表をおこない、幅広い理解と情報収集に努めてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
修士論文の作成指導を行う。			
授業の概要と計画			
文献講読、調査・報告、発表、討議、添削を繰り返します。			
成績評価と基準			
指摘箇所を適切に改善するかどうか、論文作成上の技術的なポイント、論文の質などを総合的に考慮して判定する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
指導を受けるに当たり、ドラフト（草稿）を準備しておくこと。			
オフィスアワー・連絡先			
随時。事前にメールでアポイントメントをとってください。umeya[at]people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
文献講読を論文指導に並行して行う			
教科書			
作成中の受講生の修士論文。			
参考書・参考資料等			
適宜紹介する。			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
国際関係・比較政治論コースとして、修士論文等の作成に向けての指導を行う。			
授業の概要と計画			
コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。 なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。 授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。			
成績評価と基準			
発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行うことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。			
オフィスアワー・連絡先			
各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。			
学生へのメッセージ			
自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。			
今年度の工夫			
発表内容の明確化と発表方法の向上			
教科書			
スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。			
参考書・参考資料等			
適宜授業中指示			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	谷本 慎介	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士論文を書くためのいわば第3ステップです。  
2年次前期になすべきことを確認し、作業を進めます。

### 授業の概要と計画

学生と相談のうえ決めます。

### 成績評価と基準

平常点（積極的取り組み）100%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

課題に積極的に取り組むこと。

### オフィスアワー・連絡先

火・木曜日の昼休み・研究室はE216

### 学生へのメッセージ

特になし。

### 今年度の工夫

ヴィヴィッドな授業を行います。

### 教科書

学生と相談のうえ、決めます。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

修士論文・第3ステップ

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文の執筆に向けて基礎的な研究方法を学習する。			
<b>授業の概要と計画</b> 学生の興味にそい、基礎的な研究方法を中心に指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 出席と発表による。授業への積極的な参加がなければ、出席と認めない。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 毎回、十分な準備を行うこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> kubotas@people.kobe-u.ac.jp アポイントで隨時。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 修士論文の作成を目標とする。			
授業の概要と計画 研究指導演習 、 で作成した章立てにしたがって、各章を順次執筆していく。			
成績評価と基準 執筆の進捗状況を勘案して評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先 研究室は、国際文化学研究科 E 4 1 3			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語 日本語			
キーワード 修士論文			

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

研究指導演習Ⅰ,Ⅱを踏まえ、修士論文のさらに具体的な構想を練り上げることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

研究テーマの具体化と予備的学習を踏まえて修士論文の暫定的な構成を練り上げつつ、執筆に必要とされる各種の資料、文献、を確定させたうえで、具体的な研究に着手します。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、論文構成の具体化、執筆に必要な資料、文献、が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

毎回の授業時の発表をもって成績評価をおこないます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこなう場合があります。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> モンゴル民族史に関する修士論文の執筆を指導する。			
<b>授業の概要と計画</b> 学生自身の研究テーマに応じて、満洲語・モンゴル語等の史料の用い方、方法論等を指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点、特に研究発表に基づいて評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 自分の研究計画を事前にしっかりと立てておくこと。また、他の学生が発表しているときにも、参考となりそうな点に常に注意を払う必要がある。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 月・木の昼休み			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b> 説得力のある論文の書き方を指導したい。			
<b>教科書</b> 特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修論やフォリオの仮完成を目標とする。			
<b>授業の概要と計画</b> 各自の主体的発表と討論を通じ、主題・視座の適切さやオリジナリティの再確認、研究手法やデータ処理の確かさ、論理的構成の如何などを、厳しくチェックする。			
<b>成績評価と基準</b> 研究態度の主体性と、授業の過程で提出されたあらゆるプロダクツ（レジュメ、口頭発表、レポート、原稿など）の質で総合的に評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 英語やインドネシア語文献の宿題をたくさん課す予定。履修前に下記の連絡先へいちど相談すること。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。ただし、ysd@kobe-u.ac.jpへ予め連絡してください。			
<b>学生へのメッセージ</b> 私の狭い経験の範囲内で、進路などの人生相談にも応じます。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 学生自身の作った議論の材料（レジュメ、原稿など）が唯一のテキストです。			
<b>参考書・参考資料等</b> 履修者の進度や関心に応じ、適宜指示する予定。			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 学問			

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習は、修士課程1年の学生に対し、段階的な論文執筆に必要な研究計画作成プロセスを段階的に踏ませることが第一の目的である。またディスカッションを通じ、研究に必要な視点、発想を育成することを目的とする。

### 授業の概要と計画

計画 修士論文、修了レポート、フォリオ執筆に向けた研究計画について発表および議論を行う形式の演習です。

第一回は受講者についてのガイダンスを行う。

第二回は、研究方法、論文作成についての講義を行う。

第三回以降、受講者による発表と議論を通して、各自の研究を進展させる。なお複数回の発表を必須とする。

### 成績評価と基準

出席を重視するとともに、発表回数、および内容を重視する。なお、いかなる理由であれ、3回以上欠席の場合は「良」、4回以上欠席の場合は「可」を成績評価の上限とする。発表回避の場合は、他の日程で発表を必ず行うこと。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 発表者は論文草稿、レジュメを前日昼までにメールで提出すること。その他の出席者は必ず草稿に目を通し、あらかじめ質問、コメントを作成して授業に臨んで下さい（提出）
- ・演習に遅刻・欠席する場合は、必ず掲示板で連絡すること。

### オフィスアワー・連絡先

掲示板による連絡

### 学生へのメッセージ

初回のガイダンスには必ず出席してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

研究法

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「論文とはなにか」：資料を批判的に使う方法、論説を展開する手順、論文の語り口、論文の意味などについて、出席者が理解するように説明する。

### 授業の概要と計画

1. 自著を例に中国における国家思想の変遷に関する思考を紹介し、論文における独自の視点と理論的整理の重要性を説明する。
2. 出席者の論文についてその問題点と注意すべき点を指摘し、受講者の質問に答え、質のより良い論文になるようアドバイスする。

### 成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1. 中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
2. 授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30 ~ 13:10  
E 214室、内線7459

### 学生へのメッセージ

歴史を複眼的に見ることが重要である。

### 今年度の工夫

授業中に指示

### 教科書

授業中に指示

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	庁 茂	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> マスター論文/フォリオの作成に向けての助言と指導。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 金曜日 13:00-13:20			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 論文指導。修士論文 / フォリオの完成をめざす。			
<b>授業の概要と計画</b> 相談の上、定期的に論文に関する構想や内容を発表してもらい、それについて指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点と研究の進捗状況による。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 論文の完成に向けて、自主的、計画的に毎回の準備を行なってください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	米谷 淳	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

実験心理学的アプローチにより対人行動研究をして修士論文を作成しようとする学生を対象に、基本的な研究技法を習得していただきます。

### 授業の概要と計画

対人行動研究法入門

#### 1. ガイダンス

2 4 対人行動研究とはなにか

5 7 対人行動の技法(1) 観察：表情分析

8 10 対人行動研究の技法(2) 実験：表情識別

11 13 対人行動研究の技法(3) アンケート：比較文化

14 15 対人行動研究の技法(4) 論文の書き方

### 成績評価と基準

毎回の授業への出席が前提。プレゼン、ディスカッション、グループワーク等の授業中のアクティビティとプロックごとに課すレポートをもとに総合的に成績評価をする。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業の進め方と内容については第1回の授業（ガイダンス）で受講者と話し合って具体的に決めます。

### オフィスアワー・連絡先

毎週水曜日昼休み（12:30～13:20）・email:maiya@kobe-u.ac.jp, TEL 078-803-7603

### 学生へのメッセージ

この授業は研究者養成コースの学生を対象としています。

### 今年度の工夫

実験実習の要素を授業に取り入れて、学生の研究力がしっかりと身に付くようにしたいと思います。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

実験心理学 対人行動研究 表情

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	藤涛 文子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士論文作成に向けて、論文構成から文献の書き方まで具体的な指導をし、納得のいく論文が書けることを目指します。

### 授業の概要と計画

論文執筆について、毎回進捗状況を報告してもらうとともに、質問に対応し、当該テーマについて議論します。コース内の中間発表会などに向けた取り組みも行います。

### 成績評価と基準

平常点評価（修士論文執筆に向けての進捗状況と内容）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、必ず前もってレジュメをメールで送ってください。

### オフィスアワー・連絡先

随时

研究室：B411

fumiko@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

行き詰ったら、必ずその都度ご連絡ください。

### 今年度の工夫

### 教科書

なし。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて指示します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

翻訳研究

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士論文作成にむけて、具体的なテーマを設定し、構成を考える。また、アカデミック・ライティングのトレーニングを行う。

### 授業の概要と計画

- 4月 修士論文のテーマに関わる文献の収集と読解  
5月 修士論文のテーマを仮決定。小テーマでミニレポートを作成。  
6月 文献収集と小テーマでミニレポートを作成。  
7月 修士論文の章立てを仮決定。修士論文の概要をレポートとして作成。

### 成績評価と基準

ミニレポート2本 60%  
期末レポート 40%  
論理性および構成力を重視する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

修士論文作成に向けて、自主的に文献の収集と読解を行うこと。  
関連科目：芸術文化論演習

### オフィスアワー・連絡先

kumi3@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

研究指導 アカデミックライティング、論文作成

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> フォリオ或は論文を提出するために必要な研究指導を行なう。			
<b>授業の概要と計画</b> 各自のテーマに応じて、フォリオ或は論文の提出に向けて、各々の研究活動を支援する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ) 研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士フォリオ・修士論文作成に向けた研究指導を行います。

### 授業の概要と計画

以下のようなことを予定していますが、これに限らず、フォリオ・論文作成に必要な指導を行います。

- 研究の進捗状況の確認
- 研究テーマに関する相談
- 研究に必要な知識・技術に関する指導
- フォリオ・論文作成のための技術的な指導

これらの過程を経て修士論文または修士フォリオに関する研究計画書を作成します。

### 成績評価と基準

以下の点に基づいて評価します。

- 出席および学習態度、発表や議論の内容と資料(40%)
- 修士論文または修士フォリオに関する研究計画書(60%)

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。

電子メール: hajime.murao@mulabo.org

研究室: B棟4階B409室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

特に用いません

### 参考書・参考資料等

隨時指示する。

### 授業における使用言語

日本語、英語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	西田 健志	開講区分	単位数
前期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
フォリオあるいは論文を作成する能力を習得し、提出することを目標とする。			
<b>授業の概要と計画</b>			
フォリオあるいは論文の提出に向けて、各自のテーマに応じて研究活動を支援する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。 メール : tnishida@people.kobe-u.ac.jp 研究室 : B棟4階408			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 研究者養成型プログラムの学生を対象に、修士フォリオまたは修士論文の完成に向けて研究指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 方法論的ならびに理論的学習を行いながら、修士論文の方向性を決定する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点評価			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 金曜日13:30-15:00 上記以外でも調整します			
<b>学生へのメッセージ</b> 基礎が大事です			
<b>今年度の工夫</b> 個人HPで情報を配信します			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 方法論 理論的背景			

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	島津 厚久	開講区分	単位数
前期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
論文作成を目指して集団指導する			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	ピンテール ガーボル	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

In this course we are going to read articles about recent achievements in phonology and phonetics.

### 授業の概要と計画

In this course we are going to discuss major achievements in the field of phonology and phonetics. The articles to be covered are chosen from the following topics:

- phonotactics and L2 acquisition
- syllable theory
- perceptual phonology
- historically important articles
- recently hot topics (e.g., prosody)

Students are required to write an article about a topic of their choice at the end of the course.

### 成績評価と基準

Final grades will be based on class activity and seminar reports.

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

It is an advanced phonology class. It is highly recommended to take the introductory phonology class (言語科学論 特殊講義) before applying to this course.

### オフィスアワー・連絡先

g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

Students are expected to read one article per week.

### 今年度の工夫

### 教科書

articles will be distributed in pdf or printed format

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

English

### キーワード

advanced phonology, phonetics

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	横川 博一	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

Seminar for Master's Thesis/Folio III

修士論文ないしは修士フォリオの作成に向けて、指導教員およびコース教員で研究指導を行う。

### 授業の概要と計画

(1)計画的に各自が研究を進め、その進捗状況を外国語教育システム論コースが開催する「研究指導演習」等で定期的に報告し、それに対して指導助言を行います。

(2)横川研究室所属の大学院生は、博士前期課程・後期課程合同で、金3・4限などにゼミを定期的に開催する予定である。そこでは、研究の進捗状況の報告を中心に進めます。

### 成績評価と基準

最終的には、国際文化学研究科の規程に則り、審査を行い、評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

適宜相談に応じるので、可能な限り事前にメールでコンタクトをとってください。yokokawa@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

授業、ゼミの他、関係学会・研究会などに積極的に出席・参加、発表をおこない、幅広い理解と情報収集に努めてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習III		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

思想系の論文を執筆するというのは基本的には孤独な作業である。みずから主題を設定し、そのために必要な文献を広く涉獵しつつ、徹底的にそれを読み込んだうえで、自分なりの観点から論点を整理して一貫した筋道をもった論文へと仕上げてゆく。この一連の作業をすべてたった一人でこなしてゆかなければならぬ。とはいえそうした作業には一定の手順や技術があることもたしかだ。この演習では前期課程2年目の学生を対象に、論文の草稿を章ごとに提出してもらいながら、論文全体の完成度を上げることに重点を置いた指導を行なう。

### 授業の概要と計画

前期課程2年目ではとりわけ、研究の進捗とともに主題がぶれていないかどうか、新たな論点や方法論が必要になってきていないかどうか等々、本格的な論文執筆を視野に入れた指導を行なう。自分なりに研究を少しづつ進めてゆくプロセスで、当初の主題設定も大きな修正を迫られることもあるだろうし、すでに書きかけている論文の断章も破棄を余儀なくされることもあるかもしれない。こうした糺余曲折の節目で迷路に入り込まないようにサポートするのがこの演習の役目となる。

### 成績評価と基準

提出された草稿や書き直された草稿の出来などをもとに、総合的に評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

木曜日17:00 - 17:30  
ueno@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

実際に論文を書くのは学生であって教員ではない。また書いたものがなければコメントすることもできない。指導の内実もすべて学生自身の頑張り如何にかかっている。奮励努力を期待したい。

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書はとくに指定しない。必要な文献はそのつど指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	修士論文		
担当教員	教授会	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	修了研究レポート		
担当教員	教授会	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 <作成中>			
授業の概要と計画 <作成中>			
成績評価と基準 <作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む） <作成中>			
オフィスアワー・連絡先 <作成中>			
学生へのメッセージ <作成中>			
今年度の工夫 <作成中>			
教科書 <作成中>			
参考書・参考資料等 <作成中>			
授業における使用言語 <作成中>			
キーワード <作成中>			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	石塚 裕子	開講区分	単位数 前期 2単位

**授業のテーマと到達目標**

修士論文/レポートにむけての基礎を固める

**授業の概要と計画**

**成績評価と基準**

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）**

**オフィスアワー・連絡先**

金曜日昼休み  
ishizuka@kobe-u.ac.jp

**学生へのメッセージ**

**今年度の工夫**

**教科書**

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	谷本 慎介	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 目標：修士1回生の前期として修士論文の執筆と完成に向けた基礎固めを行い、後期からの本格的な準備に備えます。			
<b>授業の概要と計画</b> 学生と相談のうえ決めます。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点（積極的取り組み）100%			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 課題に積極的に取り組むこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 火・木曜日の昼休み：研究室はE216			
<b>学生へのメッセージ</b> 特になし。			
<b>今年度の工夫</b> ヴィヴィッドな授業を行います。			
<b>教科書</b> 学生と相談のうえ決めます。			
<b>参考書・参考資料等</b>    			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> ファーストステップ			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士論文の具体的な構想を練り上げることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

研究テーマの具体化と予備的学習を踏まえて修士論文の暫定的な構成を練り上げつつ、執筆に必要とされる各種の資料、文献、を確定させたうえで、具体的な研究に着手します。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、論文構成の具体化、執筆に必要な資料、文献、が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

毎回の授業時の発表をもって成績評価をおこないます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこなう場合があります。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	小澤 卓也	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士一年生の前期として修士論文の執筆と完成に向けた基礎固めをおこない、後期からの本格的な準備に備えることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

大学院入学時の研究計画をより洗練させることで研究テーマのさらなる具体化をはかり、この具体化に必要な各種の予備的学習をおこないます。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、この学習が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

平常点をもって成績評価をおこないます。予習・復習など授業への熱意があるかどうかを重視します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこないます。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	井上 弘貴	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

履修した学生の修士論文が研究論文として十分な水準に到達するよう、テーマならびにリサーチクエスチョンの適切な選択をサポートすることを、この演習の目的とする。

### 授業の概要と計画

各自の研究計画に沿って、毎回の演習のなかで修士論文の構想メモやドラフトを発表してもらい、それを踏まえて教員のほうからコメントとアドバイスをおこなう。

### 成績評価と基準

平常点によって評価をおこなう。この平常点には、修士論文の構想メモやドラフトの発表を含む。評価にあたっては、演習における積極的な参加態度を重視する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

修士論文の構想メモやドラフトにかんしては、事前の十分な準備を求める。

### オフィスアワー・連絡先

演習のなかで説明する。

### 学生へのメッセージ

論文の完成は一日にしてならず。しっかりとした行程の管理が必要です。

### 今年度の工夫

### 教科書

研究指導演習の性格上、教科書はない。

### 参考書・参考資料等

各自の論文のテーマに沿って、執筆に必要と思われる文献は適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際関係・比較政治論コースとして、修士論文等の作成に向けての指導を行う。

### 授業の概要と計画

コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。

なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。  
授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### 成績評価と基準

発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行なうことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### オフィスアワー・連絡先

各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。

### 学生へのメッセージ

自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。

### 今年度の工夫

発表内容の明確化と発表方法の向上

### 教科書

スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。

### 参考書・参考資料等

適宜授業中指示

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際関係・比較政治論コースとして、修士論文等の作成に向けての指導を行う。

### 授業の概要と計画

コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。

なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。  
授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### 成績評価と基準

発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行なうことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### オフィスアワー・連絡先

各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。

### 学生へのメッセージ

自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。

### 今年度の工夫

発表内容の明確化と発表方法の向上

### 教科書

スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。

### 参考書・参考資料等

適宜授業中指示

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	中村 覚	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 学位論文の作成に向けた指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 国際関係・比較政治論コースの教員・院生との合同演習となる。学期の初めに、院生各位による報告の予定を作成する。			
<b>成績評価と基準</b> 演習での報告と議論。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 集団指導演習での報告の一週間前までには、各院生は、指導教員と報告の内容に関して検討を実施する。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 金曜12:20-13:10. E314号室. satnaka@kobe-u.ac.jp.			
<b>学生へのメッセージ</b> 研究準備や討論を通じて、研究者として、あるいは社会人として通用する思考方法やマナーを身に付けてもらいたい。			
<b>今年度の工夫</b> 院生による研究進捗状況に対する配慮を工夫する。			
<b>教科書</b>   			
<b>参考書・参考資料等</b>   			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>   			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
国際関係・比較政治論コースとして、修士論文等の作成に向けての指導を行う。			
授業の概要と計画			
コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。 なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。 授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。			
成績評価と基準			
発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行うことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。			
オフィスアワー・連絡先			
各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。			
学生へのメッセージ			
自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。			
今年度の工夫			
発表内容の明確化と発表方法の向上			
教科書			
スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。			
参考書・参考資料等			
適宜授業中指示			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	島津 厚久	開講区分	単位数
前期 2単位			
授業のテーマと到達目標 論文作成を目指して指導する			
授業の概要と計画			
成績評価と基準			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	島津 厚久、ピンテール ガーボル	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

In this course we are going to read articles about recent achievements in phonology and phonetics.

### 授業の概要と計画

In this course we are going to discuss major achievements in the field of phonology and phonetics. The articles to be covered are chosen from the following topics:

- phonotactics and L2 acquisition
- syllable theory
- perceptual phonology
- historically important articles
- recently hot topics (e.g., prosody)

Students are required to write an article about a topic of their choice at the end of the course.

### 成績評価と基準

Final grades will be based on class activity and seminar reports.

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

It is an advanced phonology class. It is highly recommended to take the introductory phonology class (言語科学論 特殊講義) before applying to this course.

### オフィスアワー・連絡先

g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

Students are expected to read one article per week.

### 今年度の工夫

### 教科書

articles will be distributed in pdf or printed format

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

English

### キーワード

advanced phonology, phonetics

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	廣田 大地	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文ないしは修士フォリオの作成に向けて、指導教員およびコース教員で研究指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 計画的に各自が研究を進め、その進捗状況を外国语教育システム論コースが開催する「研究指導演習」等で定期的に報告し、それに対して指導助言を行います。			
<b>成績評価と基準</b> 最終的には、国際文化学研究科の規程に則り、審査を行い、評価します。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b> 授業、ゼミの他、関係学会・研究会などに積極的に出席・参加、発表をおこない、幅広い理解と情報収集に努めてください。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習I		
担当教員	福岡 麻子	開講区分	単位数 前期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

Seminar for Master's Thesis/Folio

修士論文ないしは修士フォリオの作成に向けて、指導教員およびコース教員で研究指導を行う。

### 授業の概要と計画

計画的に各自が研究を進め、その進捗状況を外国语教育システム論コースが開催する「研究指導演習」等で定期的に報告し、それに対して指導助言を行います。

### 成績評価と基準

最終的には、国際文化学研究科の規程に則り、審査を行い、評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

適宜相談に応じます。オフィスアワー等については、初回授業時にお知らせします。

### 学生へのメッセージ

授業、ゼミの他、関係学会・研究会などに積極的に出席・参加、発表をおこない、幅広い理解と情報収集に努めてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	アカデミック・コミュニケーション（英語）		
担当教員	QUINN CYNTHIA CROSBY	開講区分	単位数

**授業のテーマと到達目標**

**授業の概要と計画**

**成績評価と基準**

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）**

**オフィスアワー・連絡先**

**学生へのメッセージ**

**今年度の工夫**

**教科書**

Giving Academic Presentations / Reinhart, Susan : The University of Michigan Press ,2002 ,ISBN:9780-472-0888-43

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	フィールド調査法		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

Photo Ethnographyの手法による、fieldworkにおける民族誌的データの収集、加工、編集のスキルと、民族誌の構成について学習する。

### 授業の概要と計画

本講義は、映像データ（Photography, Video）を用いたfieldworkの基本的知識の習得、さらに民族誌を作成する実験的演習である。受講者は各自、短期のfieldworkを行い、そこで得たデータを基にして、Photo Ethnographyを作成する。この過程を通して、民族誌データの収集、分類、加工、編集などのskillを学ぶ。作成したPhoto Ethnographyはweb上で公開される。

### 成績評価と基準

学期末は、受講生の研究テーマに即したPhoto Ethnographyを作成し、提出  
講義への参加：40%（口頭コメントなし提出による評価）  
レポート評価60%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講者は、初回講義に必ず出席すること。なお、東北学院大学と神戸市長田区もしくは北淡）での震災関連合同調査プロジェクトの企画も計画中である（任意参加）。

### オフィスアワー・連絡先

木曜日 昼休み  
事前のメール連絡必要  
基本的に掲示板で連絡を行う

### 学生へのメッセージ

- ・課題が出されるので、必ず準備して出席すること。課題提出がない場合、出席とは認められない。
- ・やむを得ず欠席する場合は、当日朝までに掲示板で連絡すること。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語（必要に応じて、英語、韓国語）

### キーワード

Photo Ethnography fieldwork

開講科目名	社会研究方法論		
担当教員	青山 薫	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

さまざまな質的調査法をカヴァーする方法論を概観しながら、学術書、マスメディア、インターネット媒体、商業媒体などを通じた、映像をふくむ既存の公刊資料の分析、および、調査実習とその分析を行います。これらの実践を通じて、象徴的相互行為論、構造化論、批判理論にのっとった質的調査の基礎を身につけます。

社会調査に必要な調査者自身の社会性についても考察、訓練します。

### 授業の概要と計画

下記の週ごとの予定は、内容順番が変わることがあります。実習はクラス全体への報告までを含みます。翌週提出の課題を出す場合があります。

1. 質的調査と認識論・表象のポリティクス
2. フィールドの位置づけ
3. 実習1：参加型アクション・リサーチ
4. 実習1-2：参加型アクション・リサーチ2
5. ポストコロニアリズムと質的調査
6. セクシュアリティ・クイア理論と質的調査
7. 実習2：エスノグラフィーとグラウンデッド・セオリー
8. 実習2-2：エスノグラフィーとグラウンデッド・セオリー2
9. 語られない物語：質的調査と研究助成
10. ライフ・ヒストリーとポストモダニズム
11. 実習3：インタビュー：構成する者・交渉する者
12. 実習3-2：インタビュー：構成する者・交渉する者2
13. 方法としての映像
14. 実習4：分析対象としての映像
15. 書く：解釈のポリティクス

### 成績評価と基準

討論・グループ実習・報告などによるクラスへの貢献：50% + 学期中（あれば）と期末の実習課題：50%

欠席が多ければ評価は下がり、5回の欠席で単位は失われます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

実習は基本的にグループワークです。積極的参加が必須です。

クラスへの貢献が評価の要点ですので、欠席が多ければ成績は下がります。欠席5回で単位はなくなります。

一定の教科書はありませんが、下記と授業中に紹介する参考書を参照してください。

### オフィスアワー・連絡先

月曜5限、水曜4限、金曜4限。事前にEmail ( kaoru@jca.apc.org ) でアポイントを取ってください。その際は、差出人を明記してください。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

## 教科書

### 参考書・参考資料等

質的研究のパラダイムと眺望(質的研究ハンドブック 1) / ノーマン・K. デンジン、イヴォンナ・S. リンカン(編) : 北大路書房, 2006, ISBN: 978-4861200018  
ライブ講義・質的研究とは何か(SCORMベースック編) / 西條剛央: 新曜社, 2007, ISBN: 978-4861200025  
「セックスワーカー」とは誰か 移住、性労働、人身取引の構造と経験 / 青山薫: 大月書店, 2007, ISBN: 978-4861200032

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	アカデミック・ライティング（日本語）		
担当教員	水野 マリ子	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

ある程度専門性を含んだレポートや、修了レポート作成につながる日本語の論理的な文章を構成する力を養う。

### 授業の概要と計画

まず、各自専門内容を含む小論文をいくつか選んで、その分野に特徴的な表現や語彙を抽出し、それを使った短文練習から長文、さらにはまとまった文章へと練習をつなげる。宿題として作文を課し、教師が添削ののち、クラスでフィードバックして全員の共有知識とする。論文の基本的な書き方のほか、発表時のレジュメの作成法についても学習する。

### 成績評価と基準

最終課題(作文) 60%、出席20%、授業活動(発表他) 20%で評価する。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

授業活動には発表のほか、各自の誤用訂正などの宿題の検討も含むので、出席点は重視される。

### オフィスアワー・連絡先

学期開始後に連絡。

### 学生へのメッセージ

主として上級レベルの外国人留学生を対象とするが、日本人の参加も歓迎する。なお、日本語レベルが日本語能力試験2級、N2レベルの留学生は状況により参加を認めることがあるので、相談に来ること。

### 今年度の工夫

日本語での論文作成能力を中心に学習するほか、レジュメの作成法についても練習する。

### 教科書

学期開始後に連絡。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

### キーワード

開講科目名	日米文化交流論特殊講義		
担当教員	遠田 勝	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

近代日本文学の代表的作品を原典と英訳で読み比べ、文学作品が言語と文化の境界を越え翻訳されたとき、いかなる変容が生じるかを具体的な事例を通して検討し、それぞれがもつ、「文化的な枠組み」を明らかにする。テキストの多文化的な理解を目標とする。

### 授業の概要と計画

目安としては、明治期から2篇、大正から戦前まで2篇、戦後から現代までの作品2篇程度をとりあげる。講義形式の授業であるが、出席者は、最低限、指定された作品をあらかじめ読んでおき、疑問点や問題点を質問できるようにしておくこと。

### 成績評価と基準

授業中の発言内容や授業への貢献度3割、期末レポート7割

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回配布される日本語、英語テキストを読み、十分理解して授業に臨むこと。授業後は、比較検討の結果をレポート用にまとめておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み、またはメールで連絡のうえ隨時  
mtodaアットkobe-u.ac.jp(アットは@に変換すること)

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

適宜指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

Japanese. Lectures on modern Japanese novels. Students will compare the original Japanese stories with their English translations and appreciate some major works of national literature transculturally.

### キーワード

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ文化論演習		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

アメリカ小説、映画、もしくは視覚文化を研究する際のテーマ、視点、および方法論を身につける。

### 授業の概要と計画

英文テキストに基づいて、受講生による報告と議論によって進めていく。テキストはこちらが提示するものから、受講生と相談の上、適宜選択する。昨年度はヘミングウェイの小説とその映画化に関する論考を読んだ。

### 成績評価と基準

平常の活動(50%)、期末レポート(50%)によって評価する。レポートの評価基準は次の通り。

- ・オリジナリティ 4割
- ・記述の正確さ、わかりやすさ 3割
- ・文献・資料の活用度 3割

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

テキストを注意深く読むこと。

### オフィスアワー・連絡先

研究室 E202  
メールアドレス takuyan@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

質問、議論を活発にするための事前学習

### 教科書

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

授業において提示する。

### 授業における使用言語

主として日本語、教科書は英語。

### キーワード

開講科目名	日本学演習		
担当教員	昆野 伸幸	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

「大正デモクラシー」期に独特の主張を展開し、戦後首相にもなった石橋湛山の著作を読む。

### 授業の概要と計画

最初に導入を行ったあと、石橋湛山の論説を講読していく。

### 成績評価と基準

平常点10割（出席、討論への参加、報告内容など）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

報告者以外も事前にテキストを読んだうえで出席し、授業中の討論に積極的に参加すること。討論にあらわれた重要な論点について各自で調べること。

### オフィスアワー・連絡先

随時。事前に連絡すること（nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp）。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

松尾尊兌編『石橋湛山評論集』岩波文庫、1984年

### 参考書・参考資料等

参考文献は、適宜授業中に紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

石橋湛山 小日本主義 大正デモクラシー 戦後保守政治

開講科目名	アジア・太平洋文化論演習		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

履修者の主体的な発表と討論を通じ、アジア・太平洋地域の様々な問題領域で、各自の修論につながるテーマの発見、およびデータに基づいた論理的考察の修練の場となることを目指します。

### 授業の概要と計画

参加人数にもよるが、（1）共通テキストの講読、（2）履修者の関心テーマについての発表と全体討論、の二本立てを予定している。

### 成績評価と基準

平常点。ただし、単なる出席点のことではありません。発表や討論における主体性や、皆にとって有益な視点を提供するなどの貢献度を重視します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

私の専門は東南アジア地域ですが、この授業ではそれにこだわるつもりはありません。幅広い地域や問題に関心のある人を歓迎します。ただし、授業で私に質問し答えを求めるだけでなく、図書館などを利用し、自分で問題を解決したり掘り下げる習慣をつけてください。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日休み。ysd@kobe-u.ac.jpへ予め連絡ください。

### 学生へのメッセージ

とにかく対面状況下でたくさん言葉を交わし、お互いの発表能力や思考力を高め合いましょう。

### 今年度の工夫

### 教科書

未定（受講生の顔ぶれ次第で、インドネシア語、中国語、英語などの原典を読む可能性もある）

### 参考書・参考資料等

各回の主題に応じ、適宜お教えします。

### 授業における使用言語

日本語、インドネシア語

### キーワード

学問的態度

開講科目名	国際社会論演習		
担当教員	坂井一成	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ユーロをめぐる成功と危機という経済的側面がクローズアップされがちなEUであるが、EUのもつ本質的重要性は政治面にこそあるとの認識に立ち、その対外政策に焦点を当てながら国際関係論上のEUの意義について考察したい。

### 授業の概要と計画

テキストの内容について参加者により順次報告してもらい、不明点を吟味・解消しながら、EUの対外政策とその変容を理解した上で、EUの国際関係上の役割について検討する。また、近年脚光を浴びている、対外政策を支える基盤にある安全保障文化という観点についても検討し、政治と文化が交錯するなかでのEU統合の意義を考えたい。

### 成績評価と基準

報告の内容(50%)、議論への参加の度合い(50%)。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

教科書の当該箇所(あるいは授業時に指定する文献)を熟読して事前に疑問点を挙げてくるとともに、授業後には授業内容の定着を図ること。

### オフィスアワー・連絡先

随時。ただしメール(kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp)で事前連絡が望ましい。  
国際文化学研究科 E407研究室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

The Foreign Policy of the European Union: Assessing Europe's Role in the World, 2nd Edition / Federica Bindi and Irina Angelescu, eds. : Brookings Institution Press, 2012, ISBN:

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語、英語

### キーワード

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ文化論演習		
担当教員	小澤 卓也	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマは「食文化と国民国家」です。食文化と国民意識の関係性について、受講生自らが具体的な事例に基づいて分析・検討できるようになることを到達目標とします。

### 授業の概要と計画

本演習のテーマと到達目標にふさわしい英語文献を選択し、クラス全体で読み進めながら、その内容について議論します。英語論文の内容をレジュメにまとめて報告してもらうこともあります。

### 成績評価と基準

80%以上の出席を前提とし、発表や発言の学術性や授業への積極性を基盤とした日常点(50%)と学期末レポート(50%)によって評価します。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

受講生は予習として毎回指定された英語文献の翻訳をしておかなければなりません。まったく予習していないと判断された場合、その日の受講生の出席点は認められません。なお、あらかじめ食文化に関する本(あるいは論文)を最低1冊読んでおいてください(論考は自ら選択して構いませんが、学術性の高いものを選んでください)。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは金曜日の3限目です(メールによるアポが必要)。メールアドレスはozataku(AT)harbor.kobe-u.ac.jpです。

### 学生へのメッセージ

受講生による発表や報告、また討論の時間は確保しますので、毎回ただ延々と英語を翻訳するわけではありません。あくまでもテキストはたたき台であり、その内容を批判的に読んでいくところに重きを置きたいと思います。また、内容の解説にも力を入れています。

### 今年度の工夫

### 教科書

特に指定しません。使用するテキストはこちらでコピーして授業中に配布します。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて授業のなかで紹介することもあります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

食文化 国民国家

開講科目名	国際社会論演習		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

現在、先進諸国の福祉国家は大きな転換期を迎えている。本講義では、日本とヨーロッパ諸国を取り上げながら、福祉国家と福祉政治の国際比較を行う。関連する専門書（日本語、英語、ドイツ語のいずれか）を輪読し、受講者の専門的知識を深めることに、本演習の目的がある。

### 授業の概要と計画

受講者と相談した上で、図書を選定し、輪読する。毎週、発表担当者を決め、発表の後、受講者で討論を行う。受講者はあらかじめ指定図書を読んでおくこと。

予定しているテーマは、以下の通り。

福祉国家の国際比較

日本型福祉国家の政治力学

ヨーロッパ諸国における福祉国家再編の共通性と多様性

日本とヨーロッパ諸国における福祉国家改革の比較

そのほか、受講生の希望により、隣接テーマも取り扱う予定。

### 成績評価と基準

出席および授業での発言（50%）、プレゼンテーション（50%）。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

比較福祉国家や現代ヨーロッパ政治に関して、一定の予備知識を持っていることが望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めない。授業内容や研究に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとること。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指定する。

### 参考書・参考資料等

授業中に指定する。

### 授業における使用言語

日本語、英語、ドイツ語

### キーワード

福祉国家、比較政治、ヨーロッパ政治、多文化主義

開講科目名	比較政治社会論特殊講義		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

政治過程を中心に、各自の問題設定や研究テーマの考察・分析に必要な、比較政治学の理論や分析手法を習得することを目標とする。

### 授業の概要と計画

下記の各章毎に受講生が事前に読んできていることを前提として、教員による問題提起と受講学生による応答を通じて理解を深めていく。『政治過程論』をメイン・テキストとしつつ、該当する章毎にサブ文献をセットすることによって、各回のテーマについてより多角的に考察する。

なお、サブ文献については、事前に配布する。

各回の授業内容・計画は以下の通りである。

第1回 第1章 政治過程の理論と方法

\* 第1章 比較政治学とは何か p.2-22 (『比較政治制度論』)

第2回 第2章 政策決定過程

第3回 第3章 議題設定・政策実施・政策評価

\* 第9章 政策実施(執行)論 (『公共政策学』)

第4回 第4章 政治システムと個人

\* 第17章 政策過程とソーシャルキャピタル (『公共政策学』)

第5回 第5章 世論と投票行動

第6回 第6章 選挙制度と政治参加

\* 第3章 選挙制度 (『比較政治制度論』)

第7回 第7章 利益団体

第8回 第8章 政党

\* 第5章 政党制度 (『比較政治制度論』)

第9回 第9章 議会と立法過程

\* 第6章 議会制度 (『比較政治制度論』)

第10回 第10章 官僚制と政策過程

\* 第7章 官僚制 (『比較政治制度論』)

第11回 第11章 政策ネットワーク

第12回 第12章 執政集団とリーダーシップ

\* 第4章 執政制度 (『比較政治制度論』)

第13回 第13章 國際化における政治過程

第14回 終章 政治過程論の発展と課題

### 成績評価と基準

授業での活動 40% (質問への応答力、理解力、ディスカッションへの参与度など)

レポート 40% (テーマ設定、先行研究の整理、分析力、論旨の説得性、データの収集力など)

出席点 20%

### 履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

準備学習として、配布されたテキストについて事前に精読し、疑問点を整理すること、また授業後は、メイン・テキストの章末に設けられている設問を利用して、主要な論点や概念について理解を深めることが求められる。

### オフィスアワー・連絡先

毎週火曜日、研究室 (E414)。

それ以外は事前にメールで連絡して下さい。

E-mail: sakano@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

## 教科書

政治過程論 / 伊東光利編 : ,2000年 ,ISBN:  
比較政治制度論 / 建林正彦他 : ,2008年 ,ISBN:  
公共政策学 / 足立幸男・森脇俊雄編 : ,2003年 ,ISBN:

## 参考書・参考資料等

## 授業における使用言語

日本語

## キーワード

政治過程 政治制度論 選挙制度 投票行動 立法過程

開講科目名	比較地域政治論特殊講義		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

本講義では、世界の政治経済に圧倒的な影響力をもつアメリカ合衆国が抱える様々な政治的・社会的问题とその背景、および合衆国と国際社会との関係をできるだけ体系的に概観したい。2012年11月の選挙でオバマ大統領は再選されたが、財政再建と景気回復、医療保険改革、アフガニスタンからの撤兵、緊張する北東アジア、南シナ海問題への対応、銃規制、混乱が続く中東・北アフリカ情勢への対処、低迷する欧州経済、対中外交など課題は山積している。こうした内外の厳しい環境の中で、オバマ政権は直面する課題にどのように取り組んでいくのか？巨大な移民国家であるアメリカは内部に多数の「異文化」を抱えており、世界戦略を構想することなくして、国内を統治することもできない状態にある。本講義ではこうしたアメリカ社会の今日の姿を、日本を初めとする他の先進デモクラシー社会と比較しながら、最新データと理論研究を通じて明らかにしてゆきたい。

### 授業の概要と計画

1. 第1次オバマ政権の成果と限界
2. アメリカの政党制と連邦議会
3. 連邦最高裁判所の政治的役割
4. グリーン・ニューディールと揺れる原発推進政策
5. 世界金融危機以後のアメリカ経済
6. 「テロとの戦い」とアメリカの安全保障政策
7. 犯罪、銃、ドラッグ規制への取り組みと現状
8. オバマ政権と人種問題
9. ジェンダーをめぐるアメリカの政策と政治
10. ネット時代のアメリカのメディアとジャーナリズム
11. アメリカの中東外交の展開と問題点
12. G2時代の米中関係と東アジア国際秩序
13. プーチン再登板と米日外交の行方
14. オバマ政権下の日米関係とその課題

### 成績評価と基準

授業中の発表・発言: 40%  
期末レポート: 60%

を総合して評価します

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

最近は大学院でも欠席する学生が増えていますが、3回以上欠席した場合、単位を認定しません。今回はテキストを指定し、テキスト内容に関連するプレゼンテーションを15分ほど受講生に行ってもらった後に教員が解説するという形で講義を進めたいと思います。テキストの指定された章を毎回予習し、質問を考えることが授業参加の前提です。

### オフィスアワー・連絡先

水、金の昼休み  
(その他は要予約 yasuoka@kobe-u.ac.jp)  
研究室 E409

### 学生へのメッセージ

政治というナマモノを扱うので日ごろからニュースや新聞に関心をもって、授業で習ったことを自分でもフォローしてほしい。

### 今年度の工夫

昨年までは主に教員の方で解説する講義形式で行っていましたが、毎回、居眠りするなど、受け身の姿勢の受講生が少くないので今年はまず学生にテキスト内容を発表してもらったうえで講義・解説をしたいと考えています。

### 教科書

以下の本を購入すること  
アメリカ政治経済論 / 藤木剛康：ミネルヴァ書房 ,2012 ,ISBN:978-4623062102

### 参考書・参考資料等

授業で毎回参考文献リストを配布する。

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

アメリカ政治 / アメリカ外交 / 2012年大統領選挙 / グローバリゼーション / 連邦制 / マルチカルチュアリズム / 二大政党制 / リベラリズム / アメリカ例外主義/国際協調主義 / G 2

開講科目名	日本学演習		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

説話・伝承学研究のための基礎知識や文献操作の方法など、説話・伝承学研究の基本的方法を身につけ、習熟する。その上で新たな問題発見に導くことを目指す。本期は特に和漢比較文学に関わるテキストを取り上げ、『今昔物語集』巻十を読む。この巻は中国の歴史説話を多く収めている。

### 授業の概要と計画

『今昔物語集』を読む。各自関心のある説話を取り上げ、注釈する。かつその成立や展開、享受の問題について考察する。

- 1 『今昔物語集』 研究入門 1
- 2 『今昔物語集』 入門 2
- 3 『今昔物語集』 輪読 1
- 4 『今昔物語集』 輪読 2
- 5 『今昔物語集』 輪読 3
- 6 『今昔物語集』 輪読 4
- 7 『今昔物語集』 輪読 5
- 8 『今昔物語集』 輪読 6
- 9 『今昔物語集』 輪読 7
- 10 『今昔物語集』 輪読 8
- 11 『今昔物語集』 輪読 9
- 12 『今昔物語集』 輪読 10
- 13 『今昔物語集』 輪読 11
- 14 『今昔物語集』 輪読 12
- 15 『今昔物語集』 輪読 13

### 成績評価と基準

ディスカッションへの参加(30%)、発表(30%)、レポート(40%)。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

日本史、中国史、日中交流史関連の歴史書や平安、鎌倉、室町時代の文学作品などを進んで読んでください。

### オフィスアワー・連絡先

国際文化学研究科 E201 研究室(内線 7451)  
kinosita@harbor.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

修士論文につながるテキストを選んでいる。

### 教科書

講談社学術文庫『今昔物語集』9。そのほか、岩波大系、新大系でも可。  
講談社学術文庫 今昔物語集 9 / 国東文暦全訳注: 講談社, 1984, ISBN:4061583131

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

今昔物語集 震旦部 和漢比較

開講科目名	比較地域社会論特殊講義		
担当教員	中村 覚	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

講義者による最新研究をとりあげつつ、地域研究や国際安全保障学の方法論的発展、さらに日本外交の政策的インプリケーションを総合的に考察する。

### 授業の概要と計画

- (1)中東の地政学
- (2)日本・中東関係
- (3)イスラーム政治論
- (4)アラブ政治論
- (5)同盟論
- (6)オムニバランシング論
- (7)国際紛争論
- (8)地域安全保障論

### 成績評価と基準

- ・担当の報告
- ・授業中の討論
- ・指定した研究会への出席

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

中東地域、イスラーム、国際安全保障学に関する基本的知識が備わっていることが望ましい。報告者は、それらに關して調べて、質問に対して準備することが期待される。

### オフィスアワー・連絡先

金曜12:20-13:10.satnaka@kobe-u.ac.jp.

### 学生へのメッセージ

私が持っている研究上のノウハウをみなさんに隠すことなく伝えたいと思います。

### 今年度の工夫

最新研究を生み出す考え方を積極的に紹介する。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語、英語

### キーワード

中東の地政学、日本、中東、イスラーム政治、アラブ政治、同盟、国際紛争、地域安全保障、オムニバランシング論。

開講科目名	伝統文化翻訳論特殊講義		
担当教員	北村 結花	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：越境する日本古典文学研究

到達目標：1) 古典を読む。2) 海外の研究動向に触れる。

### 授業の概要と計画

最初の2回ほど、教員が海外における日本古典文学受容史についての講義を行い、その後は、最近海外で出版された日本古典文学関係の研究書（英文）のなかからいくつかの論考を輪読しながら、海外の研究動向に触れるとともに、日本古典の受容について考察する。

### 成績評価と基準

平常点50%（授業での発表内容+ディスカッションへの参加度）+レポート50%。

3回以上欠席の場合は、授業を放棄したものとする。なお、各自の報告の際に欠席した場合も同様。（ただし特段の理由——忌引、伝染性の病気——がある場合は除く。診断書等の提出が必要。）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

発表者であるか否かにかかわらず、翌週の課題の読解は必須である。また、各論考で取り上げられている古典作品の原文（=古文あるいは英文）を読むことも必要に応じて求めらる。

### オフィスアワー・連絡先

yuika <AT> kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

英語の読解能力は必須。古文についても基礎的レベルの読解力があることが望ましい。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指示・配布する

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	古代越境文化論特殊講義		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 古代ギリシア・ローマ文化に関する欧文テキストを講読する。			
<b>授業の概要と計画</b> 学位論文作成に重要と思われる文献を取り上げ、批判的に精読する。			
<b>成績評価と基準</b> 授業への参加 50%、期末レポート 50%。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 事前に文献を十分読みこんだ上で、授業に臨むこと。また、指示に従って次週までの課題をこなすこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 月曜日休み（事前連絡を乞う） yamasawa@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語。			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	日本社会変容論特殊講義		
担当教員	長志珠絵	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

現代史研究のなかで戦争の時代は人びとの記憶にまで踏み込んだ研究が蓄積される一方、戦争の時代と地続きの占領期は集団的記憶を欠落させた時代ではないか。講義では歴史学の手法を用いつつ、占領期日本を文化研究として、かつ歴史認識の焦点として考える。現代史研究と現在の歴史認識を結ぶ試み。

### 授業の概要と計画

- 1 日本現代史研究のなかの「占領期」/占領期像
- 2 文化研究と占領期
- 3 戦争の記憶と占領期、東アジア冷戦

### 成績評価と基準

学期半ばの課題レポート（30%）を経て学期末の試験（20%）を受ける資格を得る。成績はこれらのほか授業中のコメントおよびミニテスト等による平常点（50%）を加え、総合的に判断する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

事前に参考文献には目を通しておいてください。また毎回配布物があるので、講義の前後によく読んでおいてください。

### オフィスアワー・連絡先

研究室E207。オフィスアワーは随時。事前にs.osa（アットマーク）people.kobe-u.ac.jpまで連絡してください。

### 学生へのメッセージ

参考文献や特に初回の講義等で講義全体の内容の方向性を提示します。これらを理解し、自分の研究主題とのマッチングを充分に吟味、理解したうえでの受講を求めます。また成績は厳密につけます。

### 今年度の工夫

視覚資料等を多用する。

### 教科書

なし

### 参考書・参考資料等

竹前栄治 / 『GHQ』：岩波新書, 1983, ISBN:  
 『ワシントンハイツ』 / 秋尾紗戸子：新潮文庫, 2011, ISBN:  
 『敗北を抱きしめて』 / J.ダワー：邦訳、岩波書店, 2004, ISBN:

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

占領期研究 ラジオ 冷戦 東アジア ジェンダー

開講科目名	アジア・太平洋文化論演習		
担当教員	伊藤 友美	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習では、アジア・太平洋地域に関する日本語の学術雑誌に掲載された論文を購読し、学術論文における問題設定、研究意義、資料の扱い、論理展開のあり方について、批判的に学ぶ。

### 授業の概要と計画

アジア・太平洋地域に関する日本語の学術雑誌の中から、受講生各自が関心のある論文を選び、報告する。発表者は、あらかじめ指定した項目について、根拠を提示しながら、当該論文を評価する。参加者は、発表者による当該論文の評価の是非をめぐって、討論する。

### 成績評価と基準

出席 30%  
発表レジュメ 30%  
口頭発表 40%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

正当な理由なく無断で欠席しないよう注意してください。

### オフィスアワー・連絡先

Email: itot[at]kobe-u.ac.jp  
( [at]の個所に@を入れる )

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

## キーワード

開講科目名	異文化関係論演習		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数
後期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
都市人類学について考える			
<b>授業の概要と計画</b>			
参加者各人は、「都市」に関する人類学的研究のなかから、興味のある論文を担当し、発表する。発表しない者は、その論文の論点についての理解を深めるために、その発表に対して質疑、コメントを行い、発表者も含めて討論を行う。			
<b>成績評価と基準</b>			
発表、出席が80%(発表や議論への参加を考慮して評価する)、学期末のレポートが20%の割合で評価する。なお、1回欠席することにマイナス5点とするとともに、5回欠席すれば「授業放棄」とみなし、単位がでないので注意すること。			
<b>履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)</b>			
毎回、論文を配布するのでそれを読んでおくこと。読んでいないと思われた場合には、欠席扱いをすることがある。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
連絡はメールで行う。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
都市、人類学			

開講科目名	越境文化論演習		
担当教員	三浦 伸夫	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

#### 数量認識の歴史

今日、数量認識がなければ生きていけません。それはアラビア数字を用いた10進法位取り記数法を基礎においています。その成立と応用とを文化史的にみていきます。

### 授業の概要と計画

西洋中世からルネサンス期までのさまざまな分野における、数量認識を取り扱います。時間測定、暦、簿記、遠近法、商業取引、地図作成、航海術など。異常に關する書籍を読み合わせます。

### 成績評価と基準

発表：レポート = 60 : 40

準備を適切にして発表しているか、発表法などを基準に評価します。レポート作成には十分時間をかけて相談に応じていきます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

西洋史の知識が前提です。関連文献も紹介しますので、それを利用してレポート作成してください。

### オフィスアワー・連絡先

メールにて時間調整します。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

数量化革命 / クロスピー：紀伊国屋書店, 2003, ISBN:4314009500

### 参考書・参考資料等

授業中に指示します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

文化史、科学技術史、技術史

開講科目名	中国社会文化論特殊講義		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

講義「日中関係の過去、現在、未来」  
 1、日中関係の歴史事件を振り返り、今日の日中関係に照らし合わせて、歴史的教訓はなにかについて受講生と一緒に考える。  
 2、受講生に自らの問題意識を持ち、独自の視点で分析するような思考の慣習を身につけていただく。

### 授業の概要と計画

講義内容とテキストは次のとおりである。

- 1、近代日中関係と中国ナショナリズムの形成と展開  
 「日本は『先んじた』のか?近代日本と中国のナショナリズム」『世界』605号、岩波書店、1995年
- 2、東アジアにおける「歴史の和解」と「民族」思想の超越  
 『日中関係の過去・現在・未来』連載第一回、『環』2008年冬号(藤原書店)
- 3、清国ムスリム公使の日中外交  
 『日中関係の過去・現在・未来』連載第二回、連載第三回、『環』2008年春号、夏号(藤原書店)
- 4、「民権・政権・国権 中国革命と黒龍会」  
 『辛亥革命と日本』2011年(藤原書店)
- 5、「戦争に収斂された「回教徒」への思い 幻の対中「回教工作」(上)(下)  
 『日中関係の過去・現在・未来』連載第四回、第五回、『環』2008年秋号冬号(藤原書店)
- 6、「日中友好と高崎達之助 歴史の『記憶』と『忘却』」  
 『環』総第42期、藤原書店
- 7、「『周辺』の焦燥とナショナリズムの内面化」  
 『環』総第52期、藤原書店
- まとめ 永遠の「藤野先生」

### 成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 1、中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
- 2、授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。
- 3、指示した教科書を購入すること。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30 ~ 13:10  
 E214室、内線7459

### 学生へのメッセージ

歴史を複眼的に見ることが重要である。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指示

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	アジア・太平洋文化論演習		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
文化人類学の基礎的考え方を理解し、自分の興味とリンクさせる方法を身につける			
授業の概要と計画			
今期は、先住民研究の現在についての論文を扱う予定。 受講者は、テキストを選択し、購読、調査、発表、議論をおこなう。 最終的には、研究レポートを作成する			
成績評価と基準			
出席、発表内容、討議への参加程度(40%)、最終レポート(50%)、参加態度(10%)などの総合評価。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
文化人類学の基礎的知識をもっていること。毎回、十分な準備を行うこと。			
オフィスアワー・連絡先			
要アポイント E222 kubotas@people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
文献は、日本語、英語両方を使います。			
今年度の工夫			
教科書			
講義の最初に提示する。			
参考書・参考資料等			
適宜、指示する			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			

開講科目名	越境文化論演習		
担当教員	塙原 東吾	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

原発とバイオテクノロジー：「読書マラソン」による徹底的な情報収集

### 授業の概要と計画

原発問題とバイオテクノロジーについて、毎週一冊の本を読む「読書マラソン」を行う。それに合わせて、関係のドキュメンタリィフィルムを毎週一本見る、「フィルム・マラソン」も、併用して、問題の基本的な枠組みをとらえる。

### 成績評価と基準

毎週のレポート、エッセイ、書評と映評の提出  
テストは3回

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

知のマラソンなので、かなりの体力を必要とする。  
きわめて難度の高いものとなるが、知的な水準は世界レベルであるので、満足度は高い。  
学問の面白さと深さは、このくらいの「知の基礎トレ」をやった者ではないとわからない、ってくらいまで、勉強する。

### オフィスアワー・連絡先

木・火曜、7:43:5

### 学生へのメッセージ

毎週最低3時間（通常5時間程度）の予習を必要とする。大学生が勉強をしないというのは、基本的に、間違っているとツカハラは考えている。  
まあ、蘭学者ていどの学問修行は行う。

### 今年度の工夫

予習をしないとわからないような授業になっている。  
でも、大学に来たのだから、このくらいの勉強はしておいてほしい。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語だが、英語のテキストも利用するし、英語のドキュメンタリィ・フィルムなどは、原語での視聴を試みる。  
中・独・仏の場合、サブタイトルは英語。  
第2外国語が中・独・仏の場合、それらの原語の使用も試みる。

### キーワード

原発、バイオテクノロジー、ESD、豊島産業廃棄物不法投棄事件、バイオキャピタリズム、フクシマとヒロシマ、3.11、革命による権力の奪取、暴力、平和、国連、チェ・ゲバラ、マルクス、キュー・バ時代の清水翔平、ジャーナリストとしてのケイタ・マチダと山本勇輝、外資系企業とヒロ・伊藤、蘭学、洋学、日本の近代化と中岡哲郎

開講科目名	フランス文化表象論特殊講義		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

今学期のテーマは「フランス文学における恋愛と社会」。ひとつのモノあるいはコトを徹底的に調べることによって、そのモノやコトの固有の特性と普遍的な問題や性格がわかつてくるものだと思います。たとえて言えば、ひとつの井戸を深く掘ることによって地下の豊かな水脈（フランス文化）に達することができるということを実感することがこの授業の到達目標の一つです。

### 授業の概要と計画

12世紀から現代までの有名な文学作品をとりあげて、そこに描かれた恋愛と、作品を生み出した社会との関係についておもに考察します。また、作家のジェンダーが作品にどのような影響を与えたかも考えたいと思います。だいたい1回の授業で1作品（あるいは1作家）をとりあげます。

### 成績評価と基準

平常点（出席、授業の予習、授業への貢献度など）：30点  
期末レポート：70点

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

キーワードなどの予習が必要です。  
フランス語を履修していないても大丈夫です。

### オフィスアワー・連絡先

国際文化学研究科E215

### 学生へのメッセージ

教科書は使用せず、プリントを配布します。

### 今年度の工夫

DVDなどの視聴覚資料も使ってできるだけ単調にならない授業をめざします。

### 教科書

なし

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

フランス文化 フランス文学 恋愛

開講科目名	モンゴル社会文化論特殊講義		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

昨年度に引き続いて、本年度の授業テーマも「モンゴルの近代史研究」とする。目標は、辛亥革命以降現在までの詳しいモンゴル史とその研究状況をしっかりと理解してもらうことである。

### 授業の概要と計画

まず、先に清末期以降現代までのモンゴル近現代史を概説的に紹介する。次いで「最新の研究を用いたボグドハーン政権期と社会主义政権期の研究成果」を述べる。この分野における研究は、日本で特に盛んに行われているため、日本での最新研究、具体的には昨年に引き続いて下記の橋誠による研究を丁寧に紹介していきたい。

### 成績評価と基準

出席とレポートとによって評価する。両者の比率は、半分半分とする。積極的に質問し、しっかりとしたレポートを書くこと。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

極力、欠席しないこと。欠席すると、前後の状況がわかりにくくなるためである。また、事前に復習や予習をしておくと、よりわかりやすくなるであろう。

### オフィスアワー・連絡先

月曜と木曜の昼休み 研究室はE-206  
hagihara@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

気軽に出席してほしい。

### 今年度の工夫

学生諸君からの質問を促したい。

### 教科書

使用しない。必要に応じて、コピーを配布。

### 参考書・参考資料等

下記二冊であるが、もちろん購入の必要は無い。

ボグド・ハーン政権の研究 / 橋 誠 : 風間書房 ,2011年 ,ISBN:978-4-7599-1842-7

モンゴル近現代史研究1921?1924年 / 青木雅浩 : 早稲田大学出版部 ,2011 ,ISBN:978-4-657-11705-2

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ボグド・ハーン政権 モンゴル革命

開講科目名	ドイツ・オーストリア表現文化論特殊講義		
担当教員	谷本 慎介	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：ワーグナー・ニーチェとヨーロッパの世紀末

2013年は19世紀のオペラ芸術を絶頂に導いたワーグナーとヴェルディの生誕200年に当たります。本授業ではワーグナーおよび彼と密接に関係する哲学者ニーチェをヨーロッパ文化の脈絡のなかに位置づけます。

### 授業の概要と計画

ワーグナーのオペラ作品の内実とニーチェの哲学がいかに密接に関係し合っているかを、具体的な作品を見ながら検証します。

ワーグナーの作品についてはDVD等を活用しつつ、ピックアップして鑑賞して、核心部分を理解します。  
具体的な授業プランは、最初の授業のおりに提示します。

### 成績評価と基準

平常点（授業への積極的取り組み）40%、期末レポート60%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

課題に積極的に取り組むこと。

### オフィスアワー・連絡先

火・木曜日の昼休み・研究室はE216  
tanimoto@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

特になし。

### 今年度の工夫

ヴィヴィッドな授業を行います。

### 教科書

プリント配布

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ワーグナー・ニーチェ・世紀末

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ文化論演習		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

アメリカ合衆国のキリスト教史についての文献講読・解説。

### 授業の概要と計画

Chapter 9 Three Revolutionsから読みます。

毎回受講者が用意した原稿をチェックし、内容について議論する。進度は受講者の英語力次第であるが、最低でも2回の授業で一章を終わりたい。

### 成績評価と基準

授業中の発言内容や授業への貢献度 60 %

割り当てられた部分の口頭発表 40 % の総合評価。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

前期開講のイギリス宗教文化論特殊講義を履修していることが望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

研究室 : E204

Email: notani@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

受講希望者はテキストをAmazon等で自分で購入しておいて下さい。

### 今年度の工夫

### 教科書

Martin Marty, Pilgrims in Their Own Land: 500 Years of Religion in America (Penguin)

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	日本文化表象論特殊講義		
担当教員	板倉 史明	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

映画学的な研究テーマと分析手法の多様性を解説することによって、より専門的な映画研究の知識を身につけてもらう。具体的には、ジャンル論、観客論・受容論、ジェンダー論、移民と映画、民族表象、フィルム保存と復元など、さまざまなテーマを取り上げ、適宜学生にも発表してもらう。

### 授業の概要と計画

最初の数回は講義形式だが、それ以降は各学生が、与えられたテーマに関する映画を見て、論文を読み、まとめて発表する。講義内容は、主に日本映画に関する内容となるが、学生による発表は日本映画でなくともよい。

### 成績評価と基準

出席およびディスカッションへの参加度(30パーセント)、授業中のプレゼンテーション(30パーセント)、レポート(40パーセント)

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

各学生は与えられた課題について最低1回、プレゼンテーションをしてもらう。

### オフィスアワー・連絡先

適宜メールにて日時等設定する。itakura(a)people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

映画研究の多様性を知ることで、これから映画の見方が変わるはずです。

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし。

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

映画、ジェンダー、メディア、移民、アーカイブ

開講科目名	文化人類学特殊講義		
担当教員	齋藤 剛	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「文化」の混淆という現象へ関心がもたれる背景には、「文化」間の差異化、対立、葛藤などといった側面が、移民排斥、人種差別、民族紛争など様々な形を取って噴出し、さまざまな国で問題化していることがあると考えられる。

本講義では、こうした「文化」と関連して生じている諸問題の中でも、人種、個人、社会などの諸点について、検討を加えてゆく。

### 授業の概要と計画

文化概念の孕む問題点について簡単に振り返った上で、人種、民族、移民、ディアスボラ、社会、個人などといった諸概念について、中東などからの具体的な事例を参考しながら批判的検討を加えてゆく。

### 成績評価と基準

- 平常点：50点（出席、リアクションペーパー、課題確認テストなど）
- 期末試験：50点
- 欠席は、一回ごとにマイナス5点とします。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 遅刻、私語、携帯電話の使用は厳禁。
- 授業予習・復習のための課題を適宜課す。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの曜日、時間帯や連絡方法については、講義で伝える。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし。

### 参考書・参考資料等

授業に際して適宜伝える。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ文化論演習		
担当教員	青島 陽子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ヨーロッパ近代の社会変容について、議論し考察を深める。とくに市民社会がどう生まれてくるのか、農村社会はそれにどう包摂されていくのか、消費文化や学校文化やメディアがどう人々を均質化していくのかなど、幅広いテーマから検討する。

### 授業の概要と計画

各自、それぞれテーマを選び、文献を集めて分析をし、レジュメを作成して、授業で報告をする。授業では報告をもとに討論を行う。最終的にそれをもとにレポートを提出する。

### 成績評価と基準

授業での積極的な発言（20%）、授業での報告内容（40%）、レポート（40%）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業中の積極的な発言が求められます。毎回、疑問に思った点、分からなかった点などを調べたうえで授業にのぞんでください。ヨーロッパやアメリカの歴史や文化に関係した授業を履修することを勧めます。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

近代化、社会変容、国民国家の成立など、近代史の諸問題に関心がある方を広く歓迎します。

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ネイション、民族問題、宗教、近代史、市民社会

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ文化論演習		
担当教員	井上 弘貴	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

今年度の演習ではE・H・カーの『危機の二十年』を履修者全員で講読します。本書は国際政治学の古典として、国際政治における現実主義と理想主義について考える際に、現在でもなお第一に読まれるべき著作です。20世紀の古典と呼ぶべきこの書物を読むことを通じて、戦間期の国際情勢について歴史的に考える際の視座を得ることを到達目標とします。

### 授業の概要と計画

履修者間で担当者を決めて輪読をしつつ、内容について検討を加えていきます。必要に応じて、教員のほうで解説を加えます。

### 成績評価と基準

平常点で成績評価をおこないます。講読や議論を通じた演習への貢献度を重視します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

出席を重視します。また、事前の予習を必ずしてきてください。

### オフィスアワー・連絡先

随時応相談

hiro\_inouye@port.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

講義への参加を通じて、各自の論文作成に必要な研究書の読解能力を身につけてください。

### 今年度の工夫

テクストが考察しているコンテクストについて解説しつつ、同時にこのテクストそれ自体のコンテクストについても検討していきたいと思います。

### 教科書

教科書は各自で入手したうえで演習に参加してください。なお、旧訳版ではなく、必ず新訳版を入手してください。

危機の二十年 理想と現実 / E.H. カー : 岩波文庫 ,2011年 ,ISBN:978-4003402214

### 参考書・参考資料等

それ以外のものについては、演習のなかで適宜、紹介します。

歴史とは何か / E.H. カー : 岩波新書 ,1962年 ,ISBN:978-4004130017

### 授業における使用言語

議論は基本的に日本語でおこないます。

### キーワード

国際政治、現実主義、理想主義

開講科目名	異文化関係論演習		
担当教員	齋藤 剛	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本年度は、人類学的知見に基づいて「社会」なる概念を批判的に検討に付した論集Conceptualizing Societyをテキストとして用い、人類学的研究に基づく「社会」の捉え方の特性を学ぶのと同時に、個人と社会をいかにして捉えていったら良いのか、理解を深めてゆくことを目的とする。同時に、論文などの執筆のための基礎となる英語文献の読解（精読）能力、議論構築能力を養うくことも目標となる。

### 授業の概要と計画

演習では、初回授業においてテキストの発表分担をあらかじめ決定する。各発表担当者は、テキストの発表箇所を全文訳出したレジュメを発表当日に受講者全員に配布し、全員で訳文の確認を行ってゆく。その上で発表担当箇所に記された内容に関する発表担当者のコメントの提示、全員での討議を行ってゆく。

### 成績評価と基準

成績評価は、発表（30%）、授業における質疑応答への参加（30%）、出席（15%）期末レポート(25%)をもとに、総合的に判断する。なお、発表担当回の演習を無断欠席（直前になっての欠席連絡も含む）した場合には、大幅な減点対象となる。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

各回で取り扱うテキストを事前に読み込み、疑問点、議論に取り上げるべき点、自分なりの論点や考えを明らかにした上で、演習に臨むことが求められる。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

Kuper, Adam (ed.) 1992 Conceptualizing Society. New York: Routledge.

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	現代人類学特殊講義		
担当教員	柴田 佳子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

前期の異文化関係論演習とセットで展開するテーマ（ディアスボラ、グローカリゼーション、トランスナショナリティ、多文化共生、インターマリッジ、異種混交／ハイブリディティ、クレオール、ポストコロニアリズムの具体的な事例を深く理解し、移動、異文化間葛藤、異種混交、多文化共生、文化の創造などの諸相にみられる絡み合いに注目する。これらに関する重要な文献の講読を通じ、各自の関心に合わせて具体的に展開して理解を深めていく。

### 授業の概要と計画

前期の異文化関係論演習で扱ったテーマやトピックをふまえて、さらに関連する現代的諸相を解き明かす諸局面に言及して解説し、いくつかの質問を投げかけて受講生たちとディスカッションをしながら展開する。

授業中に視聴覚映像（英語でのナレーションを含む）を使う。また、課題としての文献解読を含む。

### 成績評価と基準

平常点（50%）と学期末レポート（50%）

授業での貢献度（積極的な質問やコメントなどによる関与）  
レポートの質（形式、内容）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、事前に課題文献などを十分に読み、それを反映した質問やコメントも用意すること。

後期の異文化関係論演習も他の人類学関係の授業も受講することが望ましい。

質問はできるだけ授業中にいて、他の受講生と問題意識を共有してほしい。

テキストは発表担当者でなくともきちんと読み、わからないことがあつたら自分で調べておくこと。担当者は十分な準備が必要で、テキストの内容とそれに関連する問題系へ関心を広げてほしい。

適切な理由なしの欠席3回以上は不可

### オフィスアワー・連絡先

随時：ただし、あらかじめメールなどでアポイントメントをとって下さい。yoshibat@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

各自の知的関心や問題意識に即して展開していってほしい。

### 今年度の工夫

受講生の関心に合わせた内容に触れるなどして、各自が発展的に関連づけられるようにする。受講生の要望もできるだけ取り入れたい。

### 教科書

授業中に指示する

### 参考書・参考資料等

適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語、必要に応じて英語

### キーワード

ディアスボラ、グローカリゼーション、トランスナショナリティ、多文化共生、インターマリッジ、異種混交（ハイブリディティ）、クレオール、ポストコロニアリズム

開講科目名	イギリス市民文化論特殊講義		
担当教員	石塚 裕子	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
イギリスの文化や社会を扱った原書を読みながら、イギリスとりわけ19世紀の社会の問題点を掘り起こしてみたい。			
授業の概要と計画			
授業にて明示			
成績評価と基準			
三分の二以上の出席の上、クラスでの積極的参加と発表			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先			
金曜休み ishizuka@kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
ヴィクトリア朝、ディケンズ、社会小説			

開講科目名	コミュニケーション文法論特殊講義		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
日本語のスピーチアクトに関する諸問題を、特にコミュニケーションにおける認知を中心に講義する。			
<b>授業の概要と計画</b>			
毎回、講師の草稿あるいはそれに代わるものを作成して配布する予定。			
<b>成績評価と基準</b>			
学期末のレポートで評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
より一般的な言語研究・コミュニケーション研究については、水曜1限の「言語と文化」等を利用されたい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
水曜日休み（要予約）			
<b>学生へのメッセージ</b>			
復習をしておかないと、ただ漫然と聞くだけになってしまふので、注意してほしい。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業中に適宜指示する。 ささやく恋人、りきむレポーター：口の中の文化 / 定延利之：岩波書店 ,2005 ,ISBN:4000068369 煩惱の文法：体験を語りたがる人びとの欲望が日本語の文法システムをゆさぶる話 / 定延利之：筑摩書房 ,2008 ,ISBN:9784480064387 日本語社会 のぞきキャラクタリ / 定延利之：三省堂 ,2011 ,ISBN:9784385365251			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
話しことば 書きことば メディア 内容 知識 体験 伝達論的コミュニケーション観 目的論的発話行為観 道具論的言語観			

開講科目名	ITコミュニケーション論演習		
担当教員	清光 英成	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

あらかじめ構造が与えられていないデータの扱いなどについて、該当分野の最新動向や事例について紹介する。

### 授業の概要と計画

次の項目を扱う。

- ・ XMLデータベース
- ・ Dataguide
- ・ クラウドとWebサービス

### 成績評価と基準

出席とレポートあるいは口頭による試問

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

初回に指示し、その後は適宜指示する。

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	言語インターフェース論特殊講義		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

This course introduces the system of human sounds, especially vowels, consonants around the world. Students are required to understand the textbook and to put their knowledge into practice. They are also required to learn how to use Praat and analyze wave sounds.

### 授業の概要と計画

1st class: Introduction  
 2nd class: Ch.2 Pitch and Loudness  
 3rd -5th class: Ch.3 - Ch.5 Vowels  
 6th-7th class: Ch.6 Consonants  
 8th-10th class: Ch.8 Talking Computers  
 11th-12th class:  
     Ch.14 Consonants around the World  
 13h-14th class: Vowels around the World  
 15th class: Summary and presentation

### 成績評価と基準

assingments 30%  
 presentation 10%  
 paper 60%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Basic knowledge of phonetics preferable

### オフィスアワー・連絡先

Fri. 13.30 - 15.00, and by appointment  
 B311

### 学生へのメッセージ

Seeing is believing.

### 今年度の工夫

Use software to visualize sounds and pitch.  
 Learn how to read wave forms.

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

English and Japanese

### キーワード

vowels, consonants around the world  
 wave forms  
 Praat

開講科目名	メディア統合論特殊講義		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

コンピュータの普及によって様々な情報の形態がデジタル化されてきている。テレビ放送が今、まさにデジタル化されようとしているし、インターネットは最早、無視出来ない巨大メディアに成長した。ここでは、様々な情報がどのような形でデジタル化されているかを概観し、ネットワークを通じてそれらが複合され、統合されて人間に提供されている様を技術的な観点から見ていく。この講義では、デジタル情報の仕組みをそれぞれのメディアに対して紹介し、それらが統合されている環境を議論する。

### 授業の概要と計画

以下の内容を予定している:

1. デジタル情報の特性
2. テキスト
3. 音声
4. 画像
5. 動画
6. 圧縮技術とネットワーク
7. マルチメディアの統合(eXtensible Markup Language)
8. ホームページ(HTML)

### 成績評価と基準

平常点と課題のレポートによる評価を予定している。評価のための必要条件として2/3以上の出席を求める。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この授業を履修した後には、前期に「ITコミュニケーション論演習」を開講している。この授業はこの演習の前段階に当る。

### オフィスアワー・連絡先

随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ)  
研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)

### 学生へのメッセージ

マルチメディアに関する基本技術を紹介します。どのような形で今の我々が享受しているマルチメディア情報が成り立っているのかを学習しましょう。

### 今年度の工夫

### 教科書

特に指定しない。参考となる文献については、講義中に紹介する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	芸術文化論演習		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

19世紀から20世紀はじめにかけてのフランス美術と批評を主たる素材として、絵画と文学、絵画とジェンダー、日仏文化交流などの問題を考察する。

### 授業の概要と計画

画家エドゥアル・マネに関する研究文献（日本語、英語、フランス語）を読み、具体的な作品についての分析・考察を行う。

### 成績評価と基準

平常点（出席および授業での発表や議論への参加）50%  
学期末レポート50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

マネの生涯と作品についての基本的な知識を得ておくことが必要。また、授業で取り上げる文献や作品について予習してくること。

### オフィスアワー・連絡先

随時（事前にメールで連絡のこと）ynoriko@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

絵画を「読む」ことの面白さを知ってもらいたいと思います。

### 今年度の工夫

### 教科書

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

フランス美術、マネ

開講科目名	コミュニケーション認知論特殊講義		
担当教員	松本 紘理子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

人間の認知行動について理解を深めることを目標とする。人間がどのようにして情報を知覚し、判断し行動しているのかについて、特に視覚認知、注意、社会的相互作用などの認知機能の特性を解説し議論を深めたい。

### 授業の概要と計画

講義は下記のテーマのうち、幾つかを抜粋して、関連した知見を紹介しながら考察を進めていく。

1.認知神経科学の基礎：認知神経科学の歴史を外観し、どのようにこの分野が進展してきたかについて論じる。  
2.感覚・認知の特性について：視覚認知や顔の認知の特性、発達と老化、障害例などの知見を通じて、人間がいかにして外界の情報を認識しているのかについて論じる。

3.注意と記憶の神経基盤と認知メカニズム：  
人間の注意特性やその限界を知ることで、人間に対する理解を深めると共に、研究やモデルと日常との接点についても考えていく。また、脳損傷による注意や記憶などの高次認知機能に障害を呈した場合の辞令から認知機能を支える神経基盤とそのモデルについて考察する。

4.感情の認知と社会的行動：人間の顔表情認知、感情認知と個人特性や社会行動についてテキストを参照しながら論じる。

5.認知神経科学研究法：認知神経科学、認知心理学の実験研究法の一端に触れ、どのように人のこころの仕組みとその神経基盤が解明されてきたかについて論じる。イメージングの主要な特徴や研究手法、神経科学の基礎、認知心理学実験の方法などを必要に応じて実習を交えながら解説する。

### 成績評価と基準

出席、ディスカッションへの参加、質疑への応答などの授業参加態度：50%

授業内でのプレゼンテーション、プレゼンテーションに用いたレジュメの内容、およびレポートの内容：50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

事前に指示された文献資料については必ず精読し、不明の用語の下調べを行なうことが求められます。また、重要な関連文献についても出来うる限り検索し、目を通しておくことが望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

随時。事前にかならずメールにてアポイントメントを取るようにしてください。

### 学生へのメッセージ

必ずしも認知心理学や神経科学の背景知識をあらかじめ持っている必要はありませんが、授業内で指示する文献を読み、不明な用語があれば調べておく等の態度が望されます。

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書は指定しません。講義内で資料を配布します。

### 参考書・参考資料等

随時、授業内で紹介します。

The student's guide to cognitive neuroscience 2nd edition / Ward, J : Psychology Press ,2010  
ISBN:9781848720039

### 授業における使用言語

日本語

（文献資料、テキストは主として英語です。）

### キーワード

認知心理学、神経科学

開講科目名	先端社会論演習		
担当教員	青山 薫	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ジェンダーとセクシュアリティに基づくアイデンティティの成立をきっかけとして、複合差別について考えます。市民権とさまざまなアイデンティティの関係などにかかわる具体的なイシューを使い、公共圏と親密圏、多様性と平等など世の中を規定する二項対立のウソを見抜く力を培います。

### 授業の概要と計画

受講生の希望も入れてテキストを選び、発表者を中心とした議論によってこれを解読します。「テキスト」は、文字だけでなく映像や現在進行形の運動／出来事などをふくめる場合もあります。

一人の報告者がレジュメを用意してくるのではなく、基本的にすべての時間を討論に使います。司会者は学生が交代で務めます。

### 成績評価と基準

討論司会・参加：50% 期末レポート：50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

参加者全員に、その週の課題テキストから論点を持ち寄ってもらいます。基本的に欠席しないでください。

英語文献を読む場合があります。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：月曜5限、水曜4限、金曜4限。事前にEmailで、差出人を明記して、連絡して下さい。kaoru@jca.apc.org

### 学生へのメッセージ

沈黙と参加は両立しませんのでご注意を。第1回目は、全体の構想とテキスト選定のすり合わせをします。テーマの範囲内で、ある程度具体的な「考えたいこと」をもって来てください。

### 今年度の工夫

理論的な文献・議論もとりあげます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語。期末のレポートは英語可。その他の場合にも必要に応じて英語可。

### キーワード

開講科目名	言語コミュニケーション論演習		
担当教員	齊藤 美穂	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

日本語初級レベルの学習項目について、指導上の問題点や指導方法を検討することで、初級レベルの日本語授業をデザインする基礎を身につける。

### 授業の概要と計画

日本語初級レベルの学習項目の中から主要なものを取り上げ、学習者にとって困難なことは何か、どのように指導すべきかについて検討する。

受講者は、与えられた項目について指導案を作成し、発表する。それについて全員でディスカッションを行う。

### 成績評価と基準

下記の比率で総合的に評価する。

- 1.出席率及び授業への参加態度 : 50%
- 2.期末レポート : 50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業で取り上げる学習項目について、事前に初級テキストの記載などに目を通し、問題点を考えておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

木曜13時-14時半（要事前連絡）  
E-mail:maito@people.kobe-u.ac.jp  
Tel:078-803-5274

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

ハンドアウト

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	外国語教育コンテンツ論演習		
担当教員	石川 慎一郎	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：言語統計学入門

到達目標：英語・日本語コーパスの分析から得られた計量データを統計的に処理する技術を取得し、データに基づく客観的言語分析を行う基礎力を養成する。

### 授業の概要と計画

授業概要：CALL教室を使用し、パソコンを用いた計量データ分析を演習形式で学ぶ。

授業計画：

頻度データ処理、統計学入門、仮説検定、相関分析、回帰分析、判別分析、クラスター分析、主成分分析、因子分析、コレスポンデンス分析

詳細は研究室ウェブサイトで確認のこと。

### 成績評価と基準

成績評価基準：下記を総合的に判断して評価する。

- ・毎回の学生報告
- ・理解確認のための小テスト
- ・ディスカッションへの参加
- ・期末の個人研究発表

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

時間割上は月5に指定されていますが、初回授業で受講生の合意が得られれば月2に移動予定です。受講希望者は必ず初回授業（月実施）においてください。予定のつかない人は事前にメールで連絡を入れること。

### オフィスアワー・連絡先

研究室 D612 石川研究室

メール iskwshin@gmail.com

メールを送る場合は、件名(subject)を明記すること。

授業用ウェブサイト <http://language.sakura.ne.jp/s/>

### 学生へのメッセージ

近年の言語研究、言語教育学研究において重要性を増している計量データの統計手法について演習形式で学びます。統計的な言語データ分析に興味を持つ学生の受講を歓迎します。

### 今年度の工夫

前年度までの実践をふまえ、確認テストや豊富な演習などを用意し、分析手法が着実に理解できるよう配慮して授業を行います。

### 教科書

下記の書籍を教科書として指定します。

『言語研究のための統計入門』（くろしお出版）/石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠：,2010,ISBN:487424498X

### 参考書・参考資料等

下記の書籍を参考書に指定します。

英語コーパスと言語教育（大修館書店）/石川慎一郎：,2008,ISBN:4469213217

### 授業における使用言語

日本語・必要に応じて英語

### キーワード

コーパス、言語教育、計量言語学、言語統計、多変量解析

開講科目名	外国語教育コンテンツ論演習		
担当教員	柏木 治美	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

CALL・eラーニング入門：情報通信技術の外国語教育への応用について、その歴史や理論的背景を振り返るとともに、外国語学習システムの事例を通して、情報通信技術を利用した外国語学習システムの設計について検討議論する。

### 授業の概要と計画

10月：情報通信技術の外国語教育分野への応用に関する研究事例を分担発表  
 12月：モバイルコンピューティングやユビキタスコンピューティング等の情報通信技術の学習環境への応用に関する文献購読  
 1月：これまでの文献購読、議論をもとにレポート提出

詳細については授業で説明する。

### 成績評価と基準

出席、発表、授業参加の態度（40%）  
 課題（課題、中間レポートを含む）（30%）  
 期末レポート（30%）

詳細については授業で説明する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

予め以下のメールアドレスにアポイントをとること。  
 kasiwagi@kobe-u.ac.jp , D610室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

ICTを活用した外国語教育 / 吉田晴世，松田憲，上村隆一，野澤和典編著，CIEC外国語教育研究部会著：東京電機大学出版局,2008年,ISBN:  
 詳細については授業で説明する。 / : , ISBN:

### 参考書・参考資料等

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	言語慣用類型論特殊講義		
担当教員	湯淺 英男	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

様々な言語の文法形式や言語慣用などを比較する際に必要となる種々の文法カテゴリーについての基本的知識や、それらの分析方法を概観します。あくまで日本語や英語などの具体的言語に即して、文法カテゴリーをトピック的に見ていきます。

### 授業の概要と計画

言語機能、テンス、アスペクト、モダリティ、格、品詞などの項目について、主に日本語や英語などを対象に考察を進めます。

### 成績評価と基準

授業での質問内容や発言内容を基にした授業活動を60%、学期末のレポートを40%として総合的に評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

言語やコミュニケーションに関する授業を幅広く履修することを勧めます。前もってレジュメに目を通して授業で行う内容を確認しておいてください。また授業のあとは図書館で関連文献を読んで理解を深めてください。

### オフィスアワー・連絡先

木曜日12時20分から13時10分。事前に連絡してくれることを希望します。研究室はB410。

### 学生へのメッセージ

授業でいろいろ意見を述べて、授業を活性化してください。積極的な発言を期待しています。

### 今年度の工夫

参加学生の母語についても質問し、知識を共有していきたいと思います。

### 教科書

概ね1回ごとの授業概要をまとめたプリントを配布し、それにそって授業を進めます。特に教科書は用いません。

### 参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介します。

日英比較動詞の文法 / 吉川千鶴子 : くろしお出版, 1995, ISBN:4874241069

現代日本語文法の輪郭 / 南不二男 : 大修館書店, 1993, ISBN:4469220922

視点と主觀性 / 澤田治美 : ひつじ書房, 1993, ISBN:493866917X

現代日本語の構造 / 南不二男 : 大修館書店, 1974, ISBN:

日本語の言語学 第三巻 文法I / 服部四郎他 (編) : 大修館書店, 1978, ISBN:

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

コミュニケーション 言語機能 態 主格 対格 能格 絶対格 テンス アスペクト モダリティー 話者 心的態度 命題 陳述

開講科目名	文化規範形成論特殊講義		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

文化規範のなかでも、とくに近代社会におけるジェンダーの規範形成に含まれる問題点を取り上げます。性別分業が、男女の自然な違いにもとづく補完的なものであって、人間の平等の理念に反しない、という議論は、第1派、第2派のフェミニズムによって批判されてきました。また、性関係において男女を非対称的に位置づける一方で、同性愛者というカテゴリーを創出するとともに周縁化してきた、近代のセクシュアリティの編成にたいしても、様々な立場から批判が行われてきています。講義では、それらの批判を行ってきた代表的著作の幾つかを選んで解説します。それによって、歴史的に形成されたジェンダーに関わる規範に含まれる問題点を、明らかにすることを目標にします。

### 授業の概要と計画

昨年は受講者の希望も入れて、以下の著作の抜粋を配布しながら解説をしました。  
Benhabib, Butler, Cornell & Fraser, Feminist Contentions, A Philosophical Exchange.  
—昨年は、以下の著作の抜粋を配布しながら解説をしました。  
ミシェル・フーコー『性の歴史』、イヴ・K・セジウィック『男同士の絆』、同上『クローゼットの認識論』

### 成績評価と基準

一方的な講義でなく、双方向的授業を試みます。  
授業参加の積極性などの平常点が50%と学期末のレポートが50%の割合で評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

解説のため配布された著作の抜粋等をしっかり読んで、毎回出席するようにしてください。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：随時受けつけますが、Eメールで事前に約束をとって下さい。munakatsアットマークperson.kob.e-u.ac.jp

研究室：国際文化学部E棟3階のE306研究室

### 学生へのメッセージ

ジェンダーに関わる問題に关心のある人の受講を歓迎します。

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書は用いません。

### 参考書・参考資料等

解説する著作の抜粋等を配布します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

ジェンダー

開講科目名	言語教育環境論特殊講義		
担当教員	加藤 雅之	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際英語をとりまく社会的・文化的環境について討議する。

### 授業の概要と計画

現在、国際語としての英語はイギリスやアメリカ、オーストラリアといった固有の文化的背景を捨象して、ますます標準化されていく一方で、アジアの英語、アフリカの英語など様々な変奏を伴いながら、使用する人々のアイデンティティを色濃く反映したものとなっている。本講義では社会・文化・政治・経済的文脈における英語（使用、流通）という現象、すなわち「国際語としての英語」、「諸英語(World Englishes)」、「英語帝国主義」などのトピックをとりあげるとともに、こうした知見が英語教育にもたらす意味についての知見を提供したのち、各人の専門性にからめて、討議トピックを設定し、国際英語という概念の有効性および授業での応用について検討する。またアジアにおける国際英語の位置づけについても触れる予定である。

### 成績評価と基準

出席、レポート、プレゼンテーションを総合的に判断する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

D624 , Email: masakato@kobe-u.ac.jp  
オフィスアワー（未定）4月以降研究室に掲示する。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

授業サポートとして下記Moodleシステムを使用する  
<http://moodle.solac.kobe-u.ac.jp/>

### 教科書

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

Farzad Sharifian ed., English as an International Language (Multilingual Matters)  
Murata and Jenkins eds., Global English in Asian Contexts: Current and Future Debates (Palgrave)

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	言語対照応用論特殊講義I		
担当教員	枠田 義一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ヨーロッパの言語教育の指針であり規範となっている「言語共通参考枠(CEFR)」に準拠した文法教育の考察がテーマ。

### 授業の概要と計画

「言語共通参考枠」に準拠した実践解説書、たとえばドイツ語ではProfile Deutsch、における文法をもとにCEFRの日本導入に際しての問題点を考察し、日本の授業における規範となる文法を提示したい。

### 成績評価と基準

授業における発表と期末レポート。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

ヨーロッパの言語が対象となるので、英独仏語のいずれかが出来ることが、受講の対象となる。

### オフィスアワー・連絡先

火曜日昼休み  
研究室（D607）

### 学生へのメッセージ

ヨーロッパ語の文法及びヨーロッパの言語政策に興味を持っている人の受講を歓迎する。

### 今年度の工夫

### 教科書

随時プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

講義にて随時紹介する。

### 授業における使用言語

日本語、ドイツ語

### キーワード

CEFR 複言語主義 Can-Statement

開講科目名	言語コミュニケーション論演習		
担当教員	田中 順子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

1. 第二言語のfeatureの習得に関する文献を読み、この分野の現状についての知見を得る。
2. 実証的な研究の立案、実践、結果解釈までの流れを知る。

### 授業の概要と計画

第二言語のfeatureの習得研究で代表的な論文を4週間に1本ずつ精読し、この分野の現状についての知識を得る。

課題論文の研究目的や研究の枠組み、研究方法の長所・短所、結果解釈の妥当性などについて検討する。

実証的研究のプロポーザルを作成する。

### 成績評価と基準

以下の観点から総合的に判断します。

#### 授業参加と貢献

##### 課題

##### 期末レポート

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

専門分野の英語文献を読む能力が必要です。

### オフィスアワー・連絡先

火曜日休み。  
あらかじめメールで予約してください。

### 学生へのメッセージ

第二言語習得論に興味がある人、実証的研究に興味がある人を歓迎します。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に適宜指示します。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

主として日本語。英語話者には英語を使用。

### キーワード

第二言語習得 feature

開講科目名	芸術文化論演習		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

20世紀初頭のパリで活躍したクチュリエのポール・ポワレの自伝を講読し、ファッションにとどまらない、その幅広いデザイン活動について検討します。ファッション・デザイナーというと、どうしてもその衣服制作ばかりが注目されがちですが、この授業ではポワレの活動を同時代のデザイン運動に位置付けることを試みます。

### 授業の概要と計画

毎回、担当者を決め、内容紹介と関連する重要事項について発表をしてもらい、全体でディスカッションを行います。必要に応じて、教員が解説を加えます。

### 成績評価と基準

平常点（授業への参加度と貢献度）と学期末レポートの総合評価

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

担当者以外も毎回、必ず予習をしてくること。授業への積極的な参加を高く評価します。

### オフィスアワー・連絡先

E棟313

事前にメール(asakura@port.kobe-u.ac.jp)で連絡を取るようにしてください。

### 学生へのメッセージ

自分が当たり前と思っているところから視点を少しずらし、物事を捉えることを普段から意識してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

King of Fashion: the Autobiography of Paul Poiret (Victoria & Albert Museum, 2009)

### 参考書・参考資料等

必要に応じ、適宜、授業で紹介します。

### 授業における使用言語

日本語、英語。ただし、フランス語の資料・文献等を使うこともあります。

### キーワード

ポール・ポワレ、パリ・モード、モダンデザイン、総合芸術

開講科目名	感性コミュニケーション論演習		
担当教員	米谷 淳	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

対人行動に関する基礎的文献から最近の研究論文まで、いろいろな本や論文にあたり、対人行動に関する理論と研究方法について学ぶことがねらいです。

### 授業の概要と計画

- 1 ガイダンス
- 2-4 基本文献講読 1 「日本人の微笑」(ハーン)
- 5-7 基本文献講読 2 「女の咲顔」(柳田)
- 8-9 基本文献講読 3 「愛の心理学」(スタンバーグ)
- 10-15 最近の研究論文の紹介(ゼミ形式)

### 成績評価と基準

出席(30%)、授業中のプレゼン(30%)、レポート(40%)

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

授業で取り上げる文献は変更することがあります。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日の昼休み(12:30?1:00) C507  
TEL 803-7603(研究室)  
E-mail: maiya(@)kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

前半は講義形式、後半はゼミ形式

### 今年度の工夫

比較的最新のレビュー文献を扱うことにします。

### 教科書

授業中にプリントを配布します。

### 参考書・参考資料等

参考書は授業中に指示します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

対人行動 文献講読

開講科目名	ITコミュニケーション論演習		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

人間や生物のコミュニケーションや認知に関わる情報処理と、それをどのようにコンピュータ上で実現し、利用するかについてコンピュータを用いた実習を通して勉強します。

### 授業の概要と計画

以下のような項目に関して扱う予定です。

- 神経回路網と学習
- 遺伝による形質の最適化
- ベイズ推定
- など

### 成績評価と基準

以下の基準により評価します。

- 出席および学習態度、発表や議論への参加によるゼミへの貢献(40%)
- レポートや課題などの提出物(60%)

レポートや課題については、100点満点で採点し、指示された内容が満たされている場合を80点、独自の工夫が成されていれば加点し、内容が足りなければ減点します。これを最終的に60点満点に換算して、平常点の40点とあわせて評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

コンピュータのプログラミングに関する基礎知識が必要です。

### オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。

電子メール : hajime.murao@mulabo.org

研究室 : B棟4階B409室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

授業時に指定します。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて随時指定します。

### 授業における使用言語

日本語、英語

### キーワード

開講科目名	近代社会思想系譜論特殊講義		
担当教員	庁 茂	開講区分	単位数 後期 2単位
<b>授業のテーマと到達目標</b> この講義の目標は、社会理論とその歴史の専門的理解を深めることである。			
<b>授業の概要と計画</b> 社会学理論における「意味」と「システム」の両概念の関係を考察する。			
<b>成績評価と基準</b> 出席と積極的参加。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 金曜日 13:00-13:20			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b> 参考文献は授業中に指示。			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	芸術文化表現論特殊講義		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「世界 = 未来」を創造する演劇・映画：ソ連の場合

ソ連は、新規にゼロから世界を創造することが強く意識化された歴史的にも稀有な「実験国家」であり、芸術家が政治的・社会的な変革運動に深く関わっていた。また、芸術のヴァンギャルド運動と政治的変革が同時進行したことでも特徴である。

社会的なメッセージを発するメディアとして、プロパガンダの手段として、演劇や映画、デザインがどのような役割を果たしていたのか、考察を行う。

また、20世紀前半のソヴィエト演劇・映画は斬新な手法を次々生み出し、日本のみならず、世界的に影響を与えていた。とくに日本とのかかわりについて概観・比較し、理解を深める。

### 授業の概要と計画

ソ連は社会主義体制を標榜した世界初の国家であるが、革命・建国以前の当初から確固としたイメージがあつたわけではない。国家体制作りのプロセスにおいて、ユートピアへの多様な志向性が交差しただけでなく、芸術の創作活動が直接的に政治的・社会的な改革に関わっていたのも特徴である。また、第二次大戦、戦後の冷戦、雪解けなど、社会状況が変わることに芸術表現もまた変化している。

本講では、芸術の革命を牽引した総合芸術としての演劇と、革命の武器として位置づけられた映画に注目し、日本ではなかなか紹介されることの無い作品を概観しながら、どのような社会変革やユートピアとしての未来イメージの創出が行われたのか、検証する。

比較対象として、明治以降の近現代日本における演劇・映画についても合わせて言及する。

### 授業内容

1. イントロダクション  
ロシア・ソ連演劇・映画ガイド  
+ 日本の演劇・映画
2. 革命(1917年)前のロシア演劇と映画の歴史  
・演劇性の追求、メロドラマ映画、アニメ
3. 革命とアヴァンギャルドの盛衰  
・革命劇、心理主義演劇の確立  
・エイゼンシュテインとモンタージュ  
日本の演劇と社会運動
4. 社会主義リアリズム(公式文化)とプロパガンダ  
・戦争と演劇、豊穣なるソ連、民族融和  
大政翼賛と芸術活動
5. 啓蒙と娯楽：映画普及運動
6. ソヴィエト・ヌーヴェルバーグ  
・雪解けと疎外された自己の表象  
日本のヌーヴェルバーグと大島渚
7. ソ連の停滞と崩壊  
・抵抗としての風刺  
日ソのコメディ比較
8. モダン・デザイン概観
9. ソ連のデザイン

### 成績評価と基準

中間レポート（各自による演劇鑑賞）40%

授業中の作品鑑賞レポート(随時) 20%

期末レポート 40%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

取り上げる作品の翻訳やDVDなど、入手可能なものについて授業中に指示するので、できる限り自主的に鑑賞すること。

ソ連史の概略について、各自文献に目を通すこと。

歴史的・社会的背景を知る必要があるので、教科書にしたもの、または参考文献に挙げたソ連史に関する書籍を入手・読破すること。

### オフィスアワー・連絡先

木曜日以外随时。メールによる事前連絡が望ましい。

kumi3@kobe-u.ac.jp

## 学生へのメッセージ

ソ連は19世紀以来のヨーロッパ思想の極端な実験場だったと言ってもいいでしょう。決して日本と関係のない異質な社会なのではなく、われわれと同じ問題を共有していたのではないか。そんな問題意識を出発点として、考えてもらえたなら、と思います。

## 今年度の工夫

日本と比較しながら考察を進める  
海外の研究動向の紹介も行うよう、努める

## 教科書

授業中に隨時、読む必要のある論文を指示する。

## 参考書・参考資料等

Russain Popular Culture / Richard Stites : Cambridge University Press ,1992 ,ISBN:9780521369862  
ソヴェート映画史 七つの時代 / ネーヤ・ゾールカヤ : ロシア映画社 ,2001 ,ISBN:9784998084518  
街頭のスペクタクル 現代ロシア=ソビエト演劇史 / 岩田貴 : 未来社 ,1994 ,ISBN:9784624700775  
歴史のなかのソ連 (世界史リブレット 92) / 松戸清裕 : 山川出版社 ,2005 ,ISBN:9784634349209

## 授業における使用言語

日本語

## キーワード

20世紀、ソ連文化、映画、演劇、デザイン、日本

開講科目名	言語行動科学論特殊講義		
担当教員	林 良子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ことばと認知の仕組みについて様々なトピックを概観し、実験的手法を用いた言語研究に関して基本的な事項を身につける。

### 授業の概要と計画

教科書の以下の項目について、解説していく。各自、該当する項目について、精読およびまとめを行なう。

- 1 . 言語の獲得と習得
- 2 . 脳と言語
- 3 . 音声言語の処理過程
- 4 . 文字言語の処理過程

### 成績評価と基準

授業課題とレポートによる

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

十分に予習を行ってください。欠席するときには必ずメールなどで連絡すること

### オフィスアワー・連絡先

火・木昼休み（メール連絡要）

### 学生へのメッセージ

各トピックの発表課題を与えるため、積極的な参加を求む。

### 今年度の工夫

### 教科書

河野守夫編「ことばと認知のしくみ」三省堂を予定  
詳細は授業時に指示する。

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	外国語教育システム論演習		
担当教員	横川 博一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

外国語運用能力の熟達化に伴う言語情報処理の自動化プロセスおよび社会文化的・認知神経心理学的アプローチによる第二言語処理メカニズムの解明を念頭に置いて、第二言語の獲得・処理・学習にかかる心理言語学・認知神経心理学および関連領域の最新の研究成果について、学術論文の輪読・検討およびディスカッションを通じて理解を深めることを目的とする。

### 授業の概要と計画

授業は、担当者による学術論文のレビュー、受講生全員によるディスカッションを中心としたセミナー形式で進める。各回2本の論文を輪読するが、担当者は授業日一週間前までにDropBoxに論文PDFをアップし、当日は内容をまとめたレジュメを配布する。担当者以外は、論文の内容に関する質疑、ディスカッションになりうるコメントを用意して授業に臨むことが期待されている。また、担当者は、事後2週間以内に、レジュメの修正版にコメント（ディスカッション）を加えたファイルをDropBoxにアップする。

輪読する学術雑誌は、原則として、以下のものとする（神戸大学電子ジャーナルにて利用可）。

&#61548;J. of Memory & Language, J. of Psycholinguistic Research, Language & Cognitive Processes, Cognition, J. of Experimental Psychology, Psychological Review, Memoy & cognition, Language and Speech.

&#61548;Language & Brain, J. of Neurolinguistics J. of Cognitive Neuroscience, Brain Mapping

&#61548;Language Learning, System, Applied Psycholinguistics, J. of Second Language Writing

&#61548;その他、教員が必要と認めたもの（要事前相談）

各担当者の研究テーマおよび研究プロジェクトに即して、輪読論文を選定することとする。

### 成績評価と基準

次の点にもとづき、総合的に評価する。

論文リポートの内容・発表力（30%）

事後リポート（30%）

ディスカッションへの積極的参加、発言内容など（40%）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

事前に論文を熟読した上でDiscussion Pointを設定し、事後は、レビューおよびディスカッションをふまえてコメントを加えたファイルを作成し、提出する。

### オフィスアワー・連絡先

随時。事前にメールにてコンタクトをとること：yokokawa@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

最新の研究成果をふまえつつ、おもしろい研究をしよう。

### 今年度の工夫

担当者は、事後2週間以内に、レジュメの修正版にコメント（ディスカッション）を加えたファイルをDropBoxにアップする。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

spcholinguistics, foreign language education, neuroscience

開講科目名	文化言説系譜論特殊講義		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ジャック・ランシエールの芸術や美学に関する考え方について考える。従来の美学理論やモダニズム芸術の特質と照らし合わせて、その主張の妥当性について批判的に考察する。また、その美学 = 政治理論の可能性と美学の新しい展開について考える。

### 授業の概要と計画

前期の「モダニティ論演習」で読んだランシエール著『感覚的なもののパルタージュ』の内容を踏まえたうえで、彼の美学一般に関する考察にまで視野を広げる。彼が美学について述べたテキストを読み、内容について考える。テキストは仏語原文を適宜参照するが、基本的に英語訳を用いることとする。

### 成績評価と基準

平常点（授業への積極的参加等）とレポートによる。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

いちおう前期の「モダニティ論演習」の続きとなります。前期に受講していなくても参加できるように配慮します。

### オフィスアワー・連絡先

講義内に指示します。

### 学生へのメッセージ

積極的な参加を期待します。テキストをしっかり読んでください。

### 今年度の工夫

なるべく具体的な事例（作品等）を引き合いに出して紹介し、理解を促すように努める。

### 教科書

Jacques Ranciere. *Aesthetics and Its Discontents*. Trans. Steven Corcoran. Polity, 2009. (*Malaise dans l'esthetique*, Galilee, 2004)

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	翻訳行為論特殊講義		
担当教員	藤涛 文子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

異文化コミュニケーションとしての翻訳をテーマとする。日常的に接している翻訳が、異文化間コミュニケーション行為の産物であり、テクスト成立にコミュニケーションの諸要因がどのような作用を及ぼしているのかについて議論を深めることを目指す。

### 授業の概要と計画

1. 翻訳研究の歴史を代表的な理論を取り上げながら紹介する。
2. 様々なジャンルの具体例を手がかりとして、翻訳について概念規定から関連要素まで、語の等価から文化・イデオロギーの影響まで多角的に議論して、翻訳行為について理解を深める。

### 成績評価と基準

平常点 40 % ( 授業での議論への参加 )  
レポート 60 % ( 理解度・論理性・独創性 )

### 履修上の注意 ( 準備学習・復習、関連科目情報等を含む )

毎回のテーマについて意見をまとめる課題を出します。

### オフィスアワー・連絡先

随時 ( 但し要予約 )  
研究室 : B411  
fumiko@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

相談があれば、いつでもご連絡ください。

### 今年度の工夫

翻訳研究を歴史的発展で捉えた教材を使用する。

### 教科書

教材はコピーで配布します。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に指示します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

翻訳理論

開講科目名	芸術文化論演習		
担当教員	藤野一夫	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

劇場、ホール、ミュージアムなどの芸術文化環境を考える上で避けることのできない文化政策の必要性、歴史的生成、理論的基礎、国際比較を通して、日本における文化政策の課題と展望を探る。

### 授業の概要と計画

文化、とりわけ芸術にとってなぜ「政策」が必要なのか？この問い合わせるために、まず文化の「公共性」について、歴史的、理論的考察をふまえて、履修者の研究テーマについて発表してもらい、討議します。

### 成績評価と基準

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

随時・要連絡 fujino@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

芸術文化活動によって社会とかかわることに興味のある学生の履修を希望します。

### 今年度の工夫

実践的事例を通して、自発的に課題を見出し、その理論化と解決方法を提案できるように誘導する。

### 教科書

使用しない

### 参考書・参考資料等

公共文化施設の公共性 / 藤野一夫 : 水曜社 ,2011 ,ISBN:9784880652573

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	外国語教育システム論演習		
担当教員	島津 厚久	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
New York Intellectuals 入門			
授業の概要と計画			
Lionel Trilling, Irving Howe, Alfred Kazin, Isaac Rosenfeld, Norman Podhoretz など20世紀半ばから今日にかけてNew Yorkを中心に活躍したユダヤ系批評家たちの、文学・思想・教育・政治などに関する評論を議論しながら精読する。とりあえず、Lionel Trilling (1905-1975)の、"On the Teaching of Modern Literature" から読み始める。1回の進度は遅くとも、1文1文丁寧に読んでいきたい。意欲ある者の読書会にできたらと思っている。			
成績評価と基準			
授業内活動による			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
教材を下読みしてきて下さい。			
オフィスアワー・連絡先			
水曜昼休み D623			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語、英語			

## キーワード

開講科目名	現代法規範論特殊講義		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

#### 「正義論の基礎」

貧困、経済的不平等、民主主義、人権等をめぐる現代社会の深刻な諸問題を、功利主義や同感理論などの重要な道徳理論を参照しながら検討することによって、1971年のロールズの『正義論』公刊以降盛んになった正義論の基本的知識を得られるようにしたい。

### 授業の概要と計画

アメリカの学者、マイケル・ウォルツァーの代表作の1つである『正義の領分』(而立書房, 1999年)を毎週1章ずつ参照しながら、正義をめぐる現代的な論点のありかを全員で考えたい。そのために、受講生には、毎回、テキストに関する疑問点・感想等を簡潔にまとめたショート・レポートをもとに簡単な発表を行ってもらう予定である。

### 成績評価と基準

ショート・レポート50%、プレゼンテーションとディスカッション50%。特に、毎回のレポートをいかに丁寧かつ緻密に作成できたか、授業での討論にいかに積極的に貢献できたかを中心に評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

上にも述べたように、受講生には、毎回、テキストに関する疑問点・感想等を簡潔にまとめたショート・レポートをもとに簡単な発表を行ってもらう。

### オフィスアワー・連絡先

電子メール(sakurait@kobe-u.ac.jp)にて隨時。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

マイケル・ウォルツァー『正義の領分』(而立書房, 1999年)。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

正義、功利主義、自由、平等、ロールズ、アダム・スミス

開講科目名	モダニティ論演習		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

#### フランクフルト学派 を読む

この授業では思想系の欧文テクストを精密に読むトレーニングを行なう。具体的な素材としてはM・ホルクハイマーーやTh・W・アドルノら「フランクフルト学派」の論考を取り上げる予定である。彼らのテクストには「弁証法」や「物象化」といった思想系の用語が頻出し、また抽象度の相当高い議論が展開されてもいるので、けっして読みやすいものではないが、モダニティ論分野の研究を進めてゆくうえで、この種のテクストに馴染んでおくことは不可欠であろう。この演習では、20世紀の社会思想の古典ともいるべきテクストを素材にアカデミック・リーディングの訓練を行ない、各自の今後の研究へのよき水先案内となるよう努めたいと思う。

### 授業の概要と計画

ホルクハイマーーやアドルノらの主な論考はもちろん基本的には独語で書かれているが、なかには英訳されているものもある。この演習ではそうした「英訳版のある独語テクスト」を取り上げ、独語版をベースにして読み進めてゆく。独語を読めない人は英訳版を参照して参加してもらえばよい。具体的にどのテクストを取り上げるかについては初回の授業で指示する。

演習のスタイルとしては、一言一句をおろそかにせず丁寧に訳読するという、ごくオーソドックスな（つまりきわめて古風な）講読形式で進めてゆく。1回の授業で1頁かせいぜい1頁半程度を読み進めるようなベースになるだろうと思う。

### 成績評価と基準

担当箇所の訳読の水準、毎回の議論への参加、レポートの内容等々をもとに、総合的に評価する。なお演習形式である以上、毎回出席することが前提となるのはいうまでもない。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- (1) 初回の授業でレジュメの担当者などを決めたりするので、一回目からかならず出席してください。やむをえない事情で初回を欠席する場合には、上野に連絡を入れてください。
- (2) 前期に開講される「近代政治思系譜論特殊講義」（上野）では、邦訳文献を用いてフランクフルト学派の思想を概観する予定なので、あらかじめこの授業を履修しておくことを望みます。
- (3) 上野成利『思考のフロンティア---暴力』（岩波書店、2006年）の第2部で、ホルクハイマー、アドルノ、ベンヤミンの思想について簡単に解説しているので、参考文献として活用してもらえばと思います。

### オフィスアワー・連絡先

木曜 17:00-17:30  
ueno@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

取り上げるテクストについては開講時に決定します。

### 参考書・参考資料等

思考のフロンティア---暴力 / 上野成利 : 岩波書店 ,2006 ,ISBN:

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	外国語教育システム論演習		
担当教員	ピンテール ガーボル	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

この授業の目標は言語音声に関わる研究のために必要な技術的な知識を身につけること。

### 授業の概要と計画

この授業は3つの構成要素からなります：

1. デジタル音声信号の理論
2. 音声データの収集と処理
3. 音声データの分析

音声処理は praat で、データ分析は R で行います。

### 成績評価と基準

小テスト 15%  
授業活動 15%  
プロジェクト 70%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

自分のノートパソコンを授業に持ってくる必要があります。

### オフィスアワー・連絡先

相談したい場合、メールでの連絡をお願いします

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

決まった教科書はないです。

### 授業における使用言語

英語

### キーワード

音声学、音声処理、praat, R

開講科目名	外国語教育コンテンツ論演習		
担当教員	朱 春躍	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ある言語のある音声をどのようにすれば「正しく」発音できるのか。物理的に同じ「音」でも、異なる母語話者の耳には違って聞こえることがよくありますが、それはなぜなのか。声の抑揚がどのように発話者の感情・態度・意図を表現するのか。また、外国語の発音を効率よく教える方法はどんなものなのか。この授業ではこれらのことを持った学生を歓迎します。

### 授業の概要と計画

1.母音

2.子音

3.プロソディー

上記の諸相について、調音や音響的特徴を確認しながら、日本語・中国語や英語の発音を観察・分析し、理論的思考を確立していく。

### 成績評価と基準

授業での発言や課題の完成度などにより評価。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

実際に実験機器による分析をしながら、音声の分析能力や理論的素養を高めよう。

### オフィスアワー・連絡先

研究室：D-608（要予約）

E-mail:chunyuez(at)lion.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

調音活動とその産出物である発話音声の関係を常に意識し、外国語教育活動の中での問題意識を高めましょう。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指示。

### 参考書・参考資料等

授業中に指示。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

MRI動画画像の分析、音響分析

開講科目名	言語コミュニケーション論演習		
担当教員	林 博司	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 形態論に関する基本的な知識を習得した後、各自の研究テーマに応用することを目指す。			
<b>授業の概要と計画</b> 以下の教科書を用いて、各受講生を指名して各章の内容をレポートするとともに、練習問題を解いてもらう。			
<b>成績評価と基準</b> 演習なので、指名による発表を主とする平常点を重視するが、筆記試験を行ったりレポートを課すことがあるかもしれない。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 当たってなくても当該の章はきちんと読んでくること。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 形態論と意味 / 影山太郎 : くろしお出版, 1999, ISBN:			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	コンピューター・コミュニケーション・システム論特殊講義		
担当教員	大月一弘	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

情報通信システムの技術的側面を理解することにより、グローバル社会におけるコミュニケーションを捉える視点を習得することを目的とする。情報通信システムを支える基盤技術、同システムを活用するためのアプリケーション技術について解説し、それらの技術を使って実システムがどのように構築され、どのような効果をあげているかを議論する。

### 授業の概要と計画

メーリングリストあるいはFacebookを利用して、インターネット上で課題提出や議論を行う予定である。  
また、web検索などを用いて各自で調べる作業を授業中にも行う。  
各回のテーマについては、授業中に協議して決める。

### 成績評価と基準

課題の提出、出席点、議論への参加度などにより評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

準備学習として、事前調査（各自のネットワーク環境の調査など）をおこなってもらう。  
また、復習のための課題を課す。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	第二言語運用論特殊講義		
担当教員	グリア ティモシー	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

In this class students will build on the basic introduction to CA and conduct a more in-depth investigation of a corpus of naturally occurring talk.

### 授業の概要と計画

In this class, students will read a variety of English papers on Conversation Analysis and Pragmatics, especially with regard to second language learning. They will also engage regularly with recordings on naturally occurring interaction to develop detailed observations about the talk that goes on there. Together they will put together a collection of cases on a given phenomenon and work up an empirical analysis of that interactional practice.

### 成績評価と基準

Students will be graded holistically based on their active participation in class. They will also build a collection of cases and write a paper in English based on that analysis.

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

This class will build on the topics introduced in the semester 1 Contents seminar, so students are highly advised to take that class first.

### オフィスアワー・連絡先

Monday 12:10- 13:00

### 学生へのメッセージ

This class will primarily be conducted in English. Students are expected to contribute actively to the discussion and to read extensively in English.

### 今年度の工夫

### 教科書

Teacher prepared materials, to be handed out in the initial class

### 参考書・参考資料等

Conversation Analysis and Second Language Pedagogy / Jean Wong and Hansun Zhang Waring : Routledge ,2010 ,ISBN:

Observing Talk: Conversation Analytic Studies of Second Language Interaction / Greer, T. : JALT Pragmatics SIG ,2010 ,ISBN:

### 授業における使用言語

English

### キーワード

Pragmatics, Second Language Learning, Conversation Analysis, Discourse

開講科目名	外国語教育内容論特殊講義I		
担当教員	大和 知史	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

#### 【授業のテーマ】

本授業のテーマは、「外国語教育における音声教育」とする。特に英語音声・発音を扱う。外国語教育の内容としての音声を、これまでどのように取り扱われ、何をどのように扱うべきなのか、について、理解する。音声教育・発音指導について、現状を把握し、今後どのように取り組むべきか、についても理解を深めていく。実際にどうするか、についても検討を進め、実践を試みる。

#### 【到達目標】

外国語教育の内容、中でも音声教育について考える上で必要となる基礎知識を身につけ、教育実践の中でどう活用していくかを考察し、教育研究の能力を育成することを目標とする。教育実践能力の育成にも努める。

### 授業の概要と計画

現在の教育現場における英語音声指導の現状把握を下に、音声の扱われ方や指導をどのように改善することができるかを文献講読やディスカッションを通して検討していく。

#### 【シラバス案】

大きく分けて2つの領域に関して見ていくたい。

##### 1. 英語音声体系の概観（復習）

まず、英語音声に関する基礎知識を確認し、十分でない場合には、まずその音声 자체を知覚・産出できるように訓練したい。英語教員として学習者に提示できる音声を目指す。

##### 2. 発音指導の概観

##### 3. 発音と他の領域の関連

##### 4. 指導実践における諸問題

また、発音指導の具体例や具体案を検討し、グループあるいは個人で発表（実演）する機会を設けたい。

### 成績評価と基準

#### 成績評価の方法

授業内外における課題・レポートおよび試験の総合点により評価する。

(1)出席 [ 20% ] (2)授業中の取り組み（積極的な発言、指導案発表、実演など）[ 60% ] (3)レポート課題 [ 20% ]

ただし、授業中の取り組みがなければ出席とはみなしません。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

資料については、事前に内容を理解した上で授業に臨んで下さい。授業では、担当を割り振っての発表形式を取ることもあり、その際には、資料等の準備が必要となります。時間に余裕をもって準備して下さい。

### オフィスアワー・連絡先

第1回目の授業で連絡します。

### 学生へのメッセージ

活発な議論が行われるように、また柔軟に対応できるよう努力しようと思います。準備をしっかりして、積極的に取り組んで下さい。

### 今年度の工夫

### 教科書

Roach, P. (2009). English phonetics and phonology: A practical course. Cambridge: CUP  
Celce-Murcia, et al.(2010). Teaching Pronunciation. 2nd ed. Cambridge: CUP.

その他、資料・文献・論文等のコピーなどを適宜配布する。

### 参考書・参考資料等

授業内に提示、紹介する。

### 授業における使用言語

日本語と英語

## キーワード

開講科目名	先端社会論演習		
担当教員	小笠原 博毅	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
前期に続き、都市と身体の関係について考えます。			
授業の概要と計画			
参加者による読書報告、調査報告			
成績評価と基準			
報告義務の消化と期末課題			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
前期から続けての履修が望ましい			
オフィスアワー・連絡先			
木曜 昼休 hirokio@kobe-u.ac.jp 内線7464			
学生へのメッセージ			
トライ			
今年度の工夫			
フィールドワークをします			
教科書			
参考書・参考資料等			
随时紹介			
授業における使用言語			
日本語もしくは英語			
キーワード			
都市、身体、記憶			

開講科目名	ITコミュニケーション論演習		
担当教員	西田 健志	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

人にとってコンピュータを使いやすくする分野(Human-Computer Interaction: HCI)、および人と人とのコミュニケーションや共同作業をコンピュータによって支援する分野(Computer-supported Cooperative Work; CSCW)の分野に関連した演習を行う。ソフトウェアの作成、評価実験の実施、作成したソフトウェアの有用性の説明を行えるようになることを目標とする。

### 授業の概要と計画

HCI/CSCWの中でも特に興味を持ったテーマについて関連研究・文献を調査・報告する形で演習を行う。さらに、調査を踏まえて、ソフトウェアの作成や評価実験等のプロジェクトを行ってその内容を深く理解する。プロジェクトの内容は履修者のプログラミング技量等に合わせて決める。

### 成績評価と基準

文献調査・報告(50%) + プロジェクト(50%)

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

プロジェクトの遂行に必要となるプログラミング等の知識については講義中にも補助しますが、相当の自習が必要になります。

前期「計算科学応用論特殊講義」を履修・復習した後に受講することが望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。

メール : tnishida@people.kobe-u.ac.jp

研究室 : B棟4階408

### 学生へのメッセージ

アイデアだけでは意味がありません。アイデアを物にする力を磨きましょう。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	芸術文化共生論特殊講義		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

芸術活動とそれを支える制度の形成過程や諸現象、社会との関わりについて深く理解することをめざします。

### 授業の概要と計画

ヨーロッパの芸術文化政策と、関連する具体的な芸術作品や芸術活動について歴史的変遷と現状をたどります。話題の対象としては、ルネサンス（イタリア、北方フランドル、フランス）、アカデミー、劇場の制度化、ロマン主義、海賊版（著作権）、万博、世紀末芸術、大戦と芸術（シュルレアリズム）、現代の文化政策などを考えています。受講者には関心あるジャンルや地域の芸術文化活動や事象について、適宜調べたり紹介をしてもらう予定です。

### 成績評価と基準

授業への積極参加および学期末レポート

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

少人数の講義なので、常に質問やコメントを受けつつ進めたい。そのためにも、テーマに関するある程度の予習をしておくこと。また各自の研究テーマの視点からの補足的説明や議論も積極的にしてほしい。

### オフィスアワー・連絡先

随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

講演会の聴講、展覧会・舞台芸術・映画鑑賞などを補助的活動として行うので積極的に参加すること。またヨーロッパでの現地調査実施もめざします（フランス、ベルギー、ドイツなど）。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

適宜授業中に指示する

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

芸術文化政策 文化的多様性 ヨーロッパ

開講科目名	モダニティ論演習		
担当教員	市田 良彦	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「現代思想と政治」  
前期の講義（「近代経済思想系譜論」）を前提に、そこで話題になった書物を実際に講読形式で精読する。

### 授業の概要と計画

なにをテキストに取り上げるかは、参加者と相談して決めます。なるべく英仏両言語の版がある文献を選びます。

### 成績評価と基準

平常点のみ。出席を重視します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回の予習を。

### オフィスアワー・連絡先

昼休みならいつでも。ただし事前に連絡してください。E棟304。

### 学生へのメッセージ

日々精進！

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語。

### キーワード

開講科目名	現代芸術動態論特殊講義		
担当教員	池上 裕子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

近代以降、芸術家たちは「東洋」や「西洋」という境界を超えて、異文化に触発されて作品を制作してきた。この授業では近現代美術における「異文化理解」や「他者の表象」について考えることで、作品の批判的分析力を高めることを目指す。

### 授業の概要と計画

前半は西洋美術における異文化表象、後半は近代日本における西洋美術受容を中心に講義する。適宜文献を読み、ディスカッションや発表も組み入れていくことにする。取り上げるトピックを以下に紹介する。

- 1 ) 美術における「異文化へのまなざし」とは
  - 2 ) ロココ趣味とシノワズリー
  - 3 ) オリエンタリズムと植民地主義
  - 4 ) ジャポニズム
  - 5 ) 日本近代の美術
  - 6 ) プリミティヴィズム
- など。

### 成績評価と基準

出席・参加：50%  
レポート：50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

講義ですが、授業は対話形式で行います。積極的なディスカッションへの参加が必須です。

### オフィスアワー・連絡先

オフィス：E318  
Email: ikegami@port.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

異文化を理解し、表象するとはどういうことでしょうか？身近な例で考えることのできるテーマですので、自分の体験も交えてディスカッションに参加してください。

### 今年度の工夫

講義とディスカッションを融合させてみたいと思います。

### 教科書

適宜指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

異文化交渉、美術交流、日本近代の美術

開講科目名	レトリカル・コミュニケーション論特殊講義		
担当教員	米本 弘一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ことばによる様々な表現技法の実例を分析し、その表現効果について議論し、考察を深めることを目標とする。

### 授業の概要と計画

より効果的なコミュニケーションの手段としての修辞的表現技法（レトリック）について考察する。授業では、比喩や誇張表現などの様々な表現技法の特徴と用法、表現効果を、具体的な例を分析しながら、受講者と共に議論し、検討していく。様々な表現技法の背景にある認識や思考パターンを知ることによって、より豊かな言語表現の可能性を探究したい。授業では次のような項目について説明する。

- 1 修辞学の歴史
- 2 修辞学の理論
- 3 修辞的表現技法の分類
- 4 各表現技法の特徴と用法
- 5 表現効果についての考察

### 成績評価と基準

出席状況や議論への参加度などの平常点 40 %、期末レポート 60 % の割合で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

普段から文章を読むときに、そこで使われている表現技法を意識し、その効果について考えておくこと。また、授業のあと、重要なポイントについて整理し、内容をまとめておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

火曜 3 限  
B 4 1 3 研究室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

プリントを配布する / : , , ISBN:

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	コンピューター・シミュレーション論特殊講義		
担当教員	康 敏	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

現代の人類社会で起きている高度情報化、グローバル化等に起因する諸問題を、先端的・学際的研究によって体系的に解明するには、多岐な視点からコンピュータを用い定量的に扱う手法も不可欠なものとなっている。この講義では、統計的アプローチを用いて文化的・社会的現象を定量的に解析するテクニックを習得する。

### 授業の概要と計画

統計に関する基本的な知識を学んだ上、情報の分野における応用例を取り上げ、統計的アプローチによる情報処理について議論を行う。

### 成績評価と基準

出席、課題の提出などによって評価を行う。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

EXCELをマスターしていること、R言語についてある程度マスターしていることが望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

昼休み 事前連絡必要。  
kang@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

授業の最初に紹介する。

### 参考書・参考資料等

授業の最初に紹介する。

### 授業における使用言語

### キーワード

開講科目名	モダニティ論演習		
担当教員	松家 理恵	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

18世紀の英国社会について、社会史的な観点からの考察を通して、啓蒙の時代について、またモダニティについての単に思想史的な知識にとどまらない幅広い理解を得ることを目指す。

### 授業の概要と計画

英国の18世紀社会のダイナミックな変化(modernization)をさまざまな側面から論じたロイ・ポーターの*The Creation of the Modern World*から、"From Good Sense to Sensibility"と"Nature"の章を原文(英語)で読みます。

### 成績評価と基準

テキストの理解、準備状況、授業への貢献をもとに平常点評価を行う。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

英文の読解を正確に行うための訓練も兼ねています。毎回の予習が必須です。

### オフィスアワー・連絡先

連絡の上隨時。  
[janjur@kobe-u.ac.jp](mailto:janjur@kobe-u.ac.jp)

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

*The Creation of the Modern World* / Roy Porter : Norton, 2000年, ISBN:9780393322682

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語  
テキストは英語

### キーワード

開講科目名	先端社会論演習		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：「生命倫理学の批判的検討」

目標： 現代社会においては「生命」に関する倫理や規範が揺らぎ、再構築が生命倫理学の下で行われている。この演習では、生命倫理学の分野での種々の話題を取りあげ、それらを批判的に検討することを通して、現代日本における生命倫理規範の在り方を考究する。

### 授業の概要と計画

受講生の報告を中心に演習を進める。受講生は、生命倫理学に関する特定の問題を取り上げ、報告する。  
場合によっては、受講生の求める文献を輪読する。

### 成績評価と基準

平常点(授業での議論への貢献度)(70%)と、学期末のレポート(30%)で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

随時。要連絡。

yy@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書は特に指定しない。

### 参考書・参考資料等

安藤泰至(編)『「いのちの思想」を掘り起こす 生命倫理の再生に向けて』(岩波書店,2011)  
田代志門『研究倫理とは何か: 臨床医学研究と生命倫理』(勁草書房,2011)

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

生命倫理学 法と道徳 法と倫理 脳死 安楽死 生殖医療

開講科目名	日本文化論演習		
担当教員	昆野 伸幸	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
「大正デモクラシー」期に独特の主張を展開し、戦後首相にもなった石橋湛山の著作を読む。			
授業の概要と計画			
最初に導入を行ったあと、石橋湛山の論説を講読していく。			
成績評価と基準			
平常点10割（出席、討論への参加、報告内容など）で評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
報告者以外も事前にテキストを読んだうえで出席し、授業中の討論に積極的に参加すること。討論にあらわれた重要な論点について各自で調べること。			
オフィスアワー・連絡先			
随時。事前に連絡すること（nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp）。			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
松尾尊兌編『石橋湛山評論集』岩波文庫、1984年			
参考書・参考資料等			
参考文献は、適宜授業中に紹介する。			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
石橋湛山 小日本主義 大正デモクラシー 戦後保守政治			

開講科目名	日本文化論演習		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

説話・伝承学研究のための基礎知識や文献操作の方法など、説話・伝承学研究の基本的方法を身につけ、習熟する。その上で新たな問題発見に導くことを目指す。今期は特に和漢比較文学に関わるテキストを取り上げ、『今昔物語集』巻十を読む。この巻は中国の歴史説話を多く収めている。

### 授業の概要と計画

『今昔物語集』を読む。各自関心のある説話を取り上げ、注釈する。かつその成立や展開、享受の問題について考察する。

- 1 『今昔物語集』 研究入門 1
- 2 『今昔物語集』 入門 2
- 3 『今昔物語集』 輪読 1
- 4 『今昔物語集』 輪読 2
- 5 『今昔物語集』 輪読 3
- 6 『今昔物語集』 輪読 4
- 7 『今昔物語集』 輪読 5
- 8 『今昔物語集』 輪読 6
- 9 『今昔物語集』 輪読 7
- 10 『今昔物語集』 輪読 8
- 11 『今昔物語集』 輪読 9
- 12 『今昔物語集』 輪読 10
- 13 『今昔物語集』 輪読 11
- 14 『今昔物語集』 輪読 12
- 15 『今昔物語集』 輪読 13

### 成績評価と基準

ディスカッションへの参加(30%)、発表(30%)、レポート(40%)。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

日本史、中国史、日中交流史関連の歴史書や平安、鎌倉、室町時代の文学作品などを進んで読んでください。

### オフィスアワー・連絡先

国際文化学研究科 E201 研究室(内線 7451)  
kinosita@harbor.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

修士論文につながるテキストを選んでいる。

### 教科書

講談社学術文庫『今昔物語集』9。そのほか、岩波大系、新大系でも可。  
講談社学術文庫 今昔物語集 9 / 国東文暦全訳注: 講談社, 1984, ISBN:4061583131

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

今昔物語集 震旦部 和漢比較

開講科目名	美的言説系譜論特殊講義		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ジャック・ランシエールの芸術や美学に関する考え方について考える。従来の美学理論やモダニズム芸術の特質と照らし合わせて、その主張の妥当性について批判的に考察する。また、その美学 = 政治理論の可能性と美学の新しい展開について考える。

### 授業の概要と計画

前期の「モダニティ論演習」で読んだランシエール著『感覚的なもののパルタージュ』の内容を踏まえたうえで、彼の美学一般に関する考察にまで視野を広げる。彼が美学について述べたテキストを読み、内容について考える。テキストは仏語原文を適宜参照するが、基本的に英語訳を用いることとする。

### 成績評価と基準

平常点（授業への積極的参加等）とレポートによる。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

いちおう前期の「モダニティ論演習」の続きとなります。前期に受講していなくても参加できるように配慮します。

### オフィスアワー・連絡先

講義内に指示します。

### 学生へのメッセージ

積極的な参加を期待します。テキストをしっかり読んでください。

### 今年度の工夫

なるべく具体的な事例（作品等）を引き合いに出して紹介し、理解を促すように努める。

### 教科書

Jacques Ranciere. *Aesthetics and Its Discontents*. Trans. Steven Corcoran. Polity, 2009. (*Malaise dans l'esthetique*, Galilee, 2004)

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	調査・分析法（フィールド調査）		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

Photo Ethnographyの手法による、fieldworkにおける民族誌的データの収集、加工、編集のスキルと、民族誌の構成について学習する。

### 授業の概要と計画

本講義は、映像データ（Photography, Video）を用いたfieldworkの基本的知識の習得、さらに民族誌を作成する実験的演習である。受講者は各自、短期のfieldworkを行い、そこで得たデータを基にして、Photo Ethnographyを作成する。この過程を通して、民族誌データの収集、分類、加工、編集などのskillを学ぶ。作成したPhoto Ethnographyはweb上で公開される。

### 成績評価と基準

学期末は、受講生の研究テーマに即したPhoto Ethnographyを作成し、提出  
講義への参加：40%（口頭コメントなし提出による評価）  
レポート評価60%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講者は、初回講義に必ず出席すること。なお、東北学院大学と神戸市長田区もしくは北淡）での震災関連合同調査プロジェクトの企画も計画中である（任意参加）。

### オフィスアワー・連絡先

木曜日 昼休み  
事前のメール連絡必要  
基本的に掲示板で連絡を行う

### 学生へのメッセージ

- ・課題が出されるので、必ず準備して出席すること。課題提出がない場合、出席とは認められない。
- ・やむを得ず欠席する場合は、当日朝までに掲示板で連絡すること。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語（必要に応じて、英語、韓国語）

### キーワード

Photo Ethnography fieldwork

開講科目名	外国語アカデミック・スキル演習II		
担当教員	QUINN CYNTHIA CROSBY	開講区分	単位数
後期 2単位			
授業のテーマと到達目標			
授業の概要と計画			
成績評価と基準			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
Giving Academic Presentations / Reinhart, Susan : The University of Michigan Press ,2002 ,ISBN:9780-472-0888-43			

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	現代公共文化論特殊研究		
担当教員	中川 幾郎	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

現代社会において、国及び地方公共団体による公共文化政策が果たす役割は大変大きい。この科目では、我が国を基本モデルとして、公共文化政策のあるべき姿、方向性を探求することを主題とする。全体を3部にわけ、第1部では、国・地方公共団体にわける公共文化政策の現状と課題、文化権に関する最新の視点、文化芸術振興基本法について討論する。第2部では、我が国の公共文化政策の最大主体である地方公共団体における文化政策のあるべき姿を考察する。その領域は、市民文化政策、地域・都市文化政策、行政改革の3領域である。第3部では、応用論として、市民社会論、行政評価論、芸術経営論の各分野において公共文化政策をとらえ直していく。

### 授業の概要と計画

- 第1回目 オリエンテーション、序論
- 第2回目-第5回目 上記第1部の内容を学習し、討論する
- 第6回目-第10回目 上記第2部の内容を学習し、討論する
- 第11回目-第15回目上記第3部の内容を学習し、討論する

### 成績評価と基準

成績評価 出席率(50%)及び、各自が授業及び討論等の内容から選択した任意の主題について作成した小論文(50%)によって総合評価する。授業中の質問、意見、小論文における授業の理解度も点数評価に反映する。

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

この科目は、経済学、政治学、法律学などの角度からもアプローチするので、それらの基礎的な文献を読んでおくことをお勧めします。

### オフィスアワー・連絡先

連絡先は、nak-ikuo@tcct.zaq.ne.jpです。

### 学生へのメッセージ

授業は、マルチラテラルに進めます。積極的に質問、意見を出すことを大いに歓迎します。

### 今年度の工夫

実際の学会での発表などを見学、参加することも考えています。

### 教科書

中川幾郎著『分権時代の自治体文化政策』(勁草書房、2001年)

### 参考書・参考資料等

授業を通じて適宜案内します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	外国語教育システム論演習		
担当教員	廣田 大地	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

スマートフォン等のAndroid端末におけるフランス語学習のためのアプリ開発を長期的な目標として、初年度にあたる今年度の演習では、現在どのような語学学習アプリが普及しているかを広く調査・分析する。そのような作業を通して、語学学習がどのような実践を通して行われているのか、そしてまた、語学学習のためには今後どのような新たなツールが必要とされているのかを考える。

### 授業の概要と計画

今年度は、現行のコンピュータ媒体における外国語教育システムがどのように機能しているのかを網羅的に調査・分析していく。その対象としては、Android系端末だけではなく、iPhone用のアプリも含め、またフランス語以外にも英語や諸外国語の学習アプリも調査対象に含める。第1・2回目の授業では、授業方針の解説や受講生との話し合いを中心にすると、それ以降は基本的に、各受講者が調査・分析を行った語学アプリについてのプレゼンテーションと、それに関する受講生全員での議論を中心に授業を組み立てていく。

### 成績評価と基準

プレゼンテーションならびに議論を通じた授業への貢献度を50%、  
学期末のレポートを50%として成績評価を行う。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

フランス語やプログラミング言語、WEBデザインの知識がある者も歓迎するが、特に今年度は既存のフランス学習アプリの性能を検証するためにフランス語未履修者の参加も大いに歓迎する。また、アンドロイド端末やiPhoneを所持している者は授業においてもそれを用いて参加することが望ましい。演習においては先行研究の読解や分析なども行うが、各自が調査した内容のプレゼンテーションや、それに基づいた議論を行うことを中心としたい。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

3年間ほどの長期的展望を予定しているフランス語学習アプリ開発のための初年度の授業に当たります。少々風変わりな演習になってしまふかもしれません、一緒に何かを企画し、実現していく喜びを皆さんと共有できることを願っています。

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

フランス語、Android、iPhone、アプリ開発、外国語学習、プログラミング

開講科目名	言語文化環境論特殊講義II		
担当教員	福岡 麻子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

オーストリア現代文学と美術 2004年ノーベル文学賞受賞作家エルフリー・イェリネクの作品やエッセイを扱い、文学と美術について多面的に考察する。「文学」「美術」といった領域を閉じたものとして考えるのではなく、互いに交流し、成立させあうものとして芸術の諸形態を捉える視点から作品を見る。

### 授業の概要と計画

「テクストの造形性」、「美術の解釈者としての文学者」、「文学と造形芸術との交流」などの観点から、イェリネクの諸テクストと美術作品との関係について論じる。講義形式を中心とするが、意見交換の時間やコメント用紙も設けるので、様々な作品や視点について、その都度自分の感想や考えを形にしてもらいたい。

### 成績評価と基準

- 1) 授業への積極的な参加 (40%)
  - 2) 期末レポート (60%)
- 以上2点から総合的に評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

テクストを配布する場合は、指定日までに読んで、疑問点等をまとめておいてください。  
また、毎回の授業後、授業で考えたり発見したりしたことをコメント用紙にまとめてください。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは未定ですので、最初の授業でお知らせします。

### 学生へのメッセージ

イェリネクはほとんどのテクストをドイツ語で書いていますが、必要に応じて解説をし、ドイツ語非履修者の方も歓迎します。「テクスト／絵画」「見る／読む」といったテーマを材料に、一見「別物」とされるものの対、それらの間に引かれた境界線について、立ち止まって考える視点を磨く時間にしたいと思います。

### 今年度の工夫

講義ではありますが、産出をしてこそ 受容 も活き定着するという観点から、意見交換の時間を設けます。  
また、それ以外の時間でも疑問点や気がついたこと、思いついたことを自由に述べることを歓迎します。

### 教科書

適宜、文献表や抜粋のコピー等を配布します。

### 参考書・参考資料等

隨時紹介します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

オーストリア現代文学 20世紀美術

開講科目名	中国社会経済論特殊講義		
担当教員	谷川 真一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

#### 中国における抗争政治と政治体制

この授業は、現代中国の抗争政治（革命、政治・社会運動、集合的暴力など）と政治体制の変容との関係について学びます。一般に、抗争政治は政治体制のあり方に規定されますが、同時に抗争政治もまた政治体制に変化をもたらします。人民共和国以後の抗争政治と政治変容との関係をたどりながら、中国政治体制の行方を展望していきます。

### 授業の概要と計画

授業ではまず、「抗争政治」、「政治体制」、「レバートリー」などの概念についての説明と批判的検討を行います。その後、現代中国の事例を用いて、実質的問題の検討に入ります。大きくは毛沢東体制のもとでの動員運動と抵抗運動、そして改革開放以後の民主化運動、抗議運動と政治変容との関係に焦点を当てていきます。

### 成績評価と基準

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業は、代表的な論文の批判的検討が中心になりますので、リーディング・アサインメントを必ずこなすこと。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日3時間目

### 学生へのメッセージ

抗争政治が中国の政治体制に与える影響というテーマは難しいですが、同時に中国の将来を占う上で必要不可欠なテーマであるともいえます。ともにこの難題に取り組みましょう。

### 今年度の工夫

### 教科書

TBA

## 参考書・参考資料等

Kevin J. O'Brien, ed., *Popular Protest in China*, Cambridge, MA: Harvard University Press, 2008.  
Elizabeth J. Perry, *Challenging the Mandate of Heaven: Social Protest and State Power in China*, Armonk, NY: M. E. Sharpe, 2002.  
Elizabeth J. Perry and Mark Selden, eds., *Chinese Society: Change, Conflict and Resistance*, 3rd ed., New York, NY: Routledge, 2010.  
Charles Tilly and Sidney Tarrow, *Contentious Politics*, Boulder, Col.: Paradigm Publishers, 2007.  
Jeffrey N. Wasserstrom and Elizabeth J. Perry, eds, *Political Protest and Political Culture in Modern China*, 2nd ed., Boulder, Col.: Westview Press, 1994.  
小野耕二『社会科学の理論とモデル11 比較政治』東京大学出版会、2001年。  
曾良中清司・長谷川公一・町村敬志・樋口直人(編著)『社会運動という公共空間 理論と方法のフロンティア』成文堂、2004年。  
谷川真一『中国文化大革命のダイナミクス』御茶の水書房、2011年。  
毛里和子『現代中国政治〔第3版〕 グローバル・パワーの肖像』名古屋大学出版会、2012年。  
山口定『政治体制』東京大学出版会、1989年。

*Popular Protest in China* / Kevin J. O'Brien, ed. : Harvard University Press ,2008 ,ISBN:  
*Challenging the Mandate of Heaven: Social Protest and State Power in China* / Elizabeth J. Perry : M. E. Sharpe  
,2002 ,ISBN:  
*Chinese Society: Change, Conflict and Resistance* / Elizabeth J. Perry and Mark Selden, eds. : Routledge ,2010 ,ISBN:

## 授業における使用言語

日本語

## キーワード

中国、抗争政治、政治体制、革命、政治運動、社会運動、集合的暴力

開講科目名	非言語コミュニケーション論特殊講義		
担当教員	山本 真也	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

ヒトおよび動物の非言語コミュニケーションについて議論する。どのように他者と意思疎通をおこない、感情を理解し、共同生活を営み、社会や文化を形成しているか、そのメカニズムを深く掘り下げる。心理学全般、とくに実験心理学・認知心理学・社会心理学・進化心理学・発達心理学・比較認知科学・神経科学など、幅広く扱うが、分野にかんしては受講者の知識と興味にあわせて決定する。

### 授業の概要と計画

主なトピックとしては共感・他者理解・協力・社会学習・文化を用意しているが、受講者の事前知識の状況に応じて具体的な授業計画を決める。

### 成績評価と基準

出席および積極参加：50%  
レポート等：50%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

議論のための事前準備、とくに文献の事前精読などを指示することがある。

### オフィスアワー・連絡先

水曜14時～15時半をオフィスアワーとする。できるだけ事前にshinyayamamoto1981@gmail.comまで連絡ください。

### 学生へのメッセージ

ヒトは独りでは生きていくことのできない社会的な動物です。ここに必要とされる社会的認知能力を研究することは、ヒトの本質を考える上で重要な視点を与えてくれます。ヒトおよび動物の心理学に興味がある学生の受講を待っています。一緒に議論していきましょう。

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書はありません。

### 参考書・参考資料等

適宜、参考書は授業の中でお伝えします。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

非言語コミュニケーション、共感、協力、他者理解、社会学習、文化、実験心理学、認知心理学、社会心理学、進化心理学、発達心理学、比較認知科学

開講科目名	言語対照基礎論特殊講義		
担当教員	教員未定	開講区分	単位数
		後期	2単位
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
<作成中>			
<b>授業の概要と計画</b>			
<作成中>			
<b>成績評価と基準</b>			
<作成中>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<作成中>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<作成中>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<作成中>			
<b>今年度の工夫</b>			
<作成中>			
<b>教科書</b>			
<作成中>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<作成中>			
<b>授業における使用言語</b>			
<作成中>			
<b>キーワード</b>			
<作成中>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「論文とはなにか」：資料を批判的に使う方法、論説を展開する手順、論文の語り口、論文の意味などについて、出席者が理解するように説明する。

### 授業の概要と計画

1. 自著を例に中国における国家思想の変遷に関する思考を紹介し、論文における独自の視点と理論的整理の重要性を説明する。
2. 出席者の論文についてその問題点と注意すべき点を指摘し、受講者の質問に答え、質のより良い論文になるようアドバイスする。

### 成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1. 中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
2. 授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30 ~ 13:10  
E 214室、内線7459

### 学生へのメッセージ

歴史を複眼的に見ることが重要である。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指示

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
モンゴル民族史に関する修士論文の執筆を指導する。			
<b>授業の概要と計画</b>			
学生自身の研究テーマに応じて、満洲語・モンゴル語等の史料の用い方、研究上の方法論、論文執筆方法等を指導する。			
<b>成績評価と基準</b>			
平常点、特に研究発表に基づいて評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
自分の研究計画を事前にしっかりと立てておくこと。また、他の学生が発表しているときにも、参考となりそうなる点に常に注意を払う必要がある。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
月・木の昼休み			
<b>学生へのメッセージ</b>			
最先端の水準を持つ本当の研究を目指してほしい。			
<b>今年度の工夫</b>			
説得力のある論文の書き方を指導したい。			
<b>教科書</b>			
特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
修士論文、オリジナリティ、説得力			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	伊藤 友美	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

学生それぞれが自分の修士論文のテーマについて、研究構想、研究計画、研究成果を報告し、担当教員との意見交換を経て、研究を積み上げ組み立てていくことを目的とする。

### 授業の概要と計画

学生それぞれが自分の研究テーマに関してレジュメを準備した上で発表を行い、他の受講生および担当教員と意見交換を行う。

### 成績評価と基準

出席 20%  
議論参加 20%  
研究発表 60%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

月曜日の昼休み。メールにて、事前予約。  
itot[at]kobe-u.ac.jp ([at]に@を入れる)

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	遠田 勝	開講区分	単位数 後期 2単位

**授業のテーマと到達目標**

修士論文、修了研究レポート作成に必要な基本的学力を養成する。

**授業の概要と計画**

実際に論文、レポートの一部を作成しながら、個人指導をおこなう。

**成績評価と基準**

論文（100%）

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）**

毎回、原稿を準備し、授業後、修正加筆をすること。

**オフィスアワー・連絡先**

水曜日休み。

**学生へのメッセージ****今年度の工夫****教科書****参考書・参考資料等****授業における使用言語**

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修士論文の作成に向けた指導を行なう。			
<b>授業の概要と計画</b>			
受講者の研究テーマに応じて、文献資料の講読、先行研究の批判的検討、立論の方法等を指導する。			
<b>成績評価と基準</b>			
授業への参加 50 %、レポート 50 %。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
事前に資料を十分に読み込んだ上で、授業に臨むこと。また、指示に従って、次週までに課題をこなしておくこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
月曜日休み（事前連絡を乞う） yamasawa@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語。			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	寺内 直子	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

レポート執筆に向け、調査収集した資料の分析や考察をさらに深める。受講生は、先行研究をよくふまえ、従来の研究に無いオリジナルな資料、視点を獲得してレポート執筆の準備をする。

### 授業の概要と計画

早い段階から、具体的な個々の事例の分析を進め、それと平行して全体の構想を練り、論文へと組み立てて行く。

### 成績評価と基準

出席と報告

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

随時、ただし要事前連絡（naokotkアットマークkobe-u.ac.jp）

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

なし

### 参考書・参考資料等

授業中に指示する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	青島 陽子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士一年生の前期として修士論文の執筆と完成に向けた基礎固めをおこない、後期からの本格的な準備に備えることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

大学院入学時の研究計画をより洗練させることで研究テーマのさらなる具体化をはかり、この具体化に必要な各種の予備的学習をおこないます。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、この学習が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

平常点をもって成績評価をおこないます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこないます。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

前期の研究指導演習 を踏まえ、修士論文のさらに具体的な構想を練り上げることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

研究テーマの具体化と予備的学習を踏まえて修士論文の暫定的な構成を練り上げつつ、執筆に必要とされる各種の資料、文献、実地調査を確定させたうえで、具体的な研究に着手します。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、論文構成の具体化、執筆に必要な資料、文献、調査の確定が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

平常点をもって成績評価をおこないます。予習・復習など授業への熱意があるかどうかを重視します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこなう場合があります。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

前期の研究指導演習 を踏まえ、修士論文のさらに具体的な構想を練り上げることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

研究テーマの具体化と予備的学習を踏まえて修士論文の暫定的な構成を練り上げつつ、執筆に必要とされる各種の資料、文献、実地調査を確定させたうえで、具体的な研究に着手します。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、論文構成の具体化、執筆に必要な資料、文献、調査の確定が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

平常点をもって成績評価をおこないます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこなう場合があります。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	齋藤 剛	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習は、修士論文執筆に向けて、研究・論文草稿の基礎をかためることを目的とする。

### 授業の概要と計画

修士論文をはじめとした論文、レポート執筆に向け、各受講者に自らの研究計画および研究そのものを発表してもよい、受講生全員で討議を重ねてゆくことにより、研究の深化を図る。

### 成績評価と基準

成績評価は、以下の諸点をもとに総合的に判断する。

- ( 1 ) 出席 (10%)
- ( 2 ) 発表原稿の事前提出 (下段の「履修上の注意」を参照のこと) (30%)
- ( 3 ) 発表 (回数と内容) (15%)
- ( 4 ) 授業への参加度 (15%)
- ( 5 ) 授業に際して指摘された修正個所の改善 (30%)

### 履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

初回の授業では、受講生全員で発表分担を決定するので、必ず出席すること。

発表の1週間前の授業の際に完全原稿を提出することを義務づける。受講生は各自、発表原稿を事前に読み込み、議論すべき点についてきちんと自分なりの考えを練っておくこと。  
なお、発表原稿の事前提出がない場合には、減点対象となる。

### オフィスアワー・連絡先

授業に際して伝える。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	塙原 東吾	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

西川如見と18世紀の天文学・自然観：プロテスタント科学と、カトリック的な東アジア関与(4)

### 授業の概要と計画

西川如見の研究を以下のように、各2回づつ行う。

- (1) 天文学
- (2) 地理学
- (3) 自然観
- (4) 天変觀、農民思想、庶民倫理
- (5) ジエズイットの中国での活動
- (6) マックス・ウェーバーのプロテスタント觀
- (7) 日本における技術優先主義
- (8) 蘭学

### 成績評価と基準

基本的に最終論文で評価をする。

オリジナリティとプライオリティをもって評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

かなり高度の内容となるので、準備には、毎回3時間程度かかる。

### オフィスアワー・連絡先

木、ヒル、M404

### 学生へのメッセージ

蘭学者くらいには勉強しましょう。

### 今年度の工夫

マックス・ウェーバーの蘭学的解釈を入れたところ。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語、英語、オランダ語

### キーワード

西川如見、キリストン科学、プロテスタント科学、蘭学、天文学史、18世紀の自然観

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文のテーマを明確にし、理論の枠組みを構築する。			
<b>授業の概要と計画</b> 修士論文のテーマを決定し、そのテーマの背景となる理論枠組みをどのように構築するのかを指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 出席と発表内容による。積極的な授業への参加がない場合、出席と認めない。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 毎回、十分な準備を行うこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> kubotas@people.kobe-u.ac.jp アポイントにより、隨時。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
修士論文の作成指導を行う。			
授業の概要と計画			
文献講読、調査・報告、発表、討議、添削を繰り返します。			
成績評価と基準			
指摘箇所を適切に改善するかどうか、論文作成上の技術的なポイント、論文の質などを総合的に考慮して判定する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
指導を受けるに当たり、ドラフト（草稿）を準備しておくこと。			
オフィスアワー・連絡先			
随時。事前にメールでアポイントメントをとってください。umeya[at]people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
文献講読を論文指導に並行して行う			
教科書			
作成中の受講生の修士論文。			
参考書・参考資料等			
適宜紹介する。			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	三浦 伸夫	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
和算入門			
<b>授業の概要と計画</b>			
和算のテクストを読み合わせる。数学的に高度な内容ではなく、入門的なテクストを選びます。			
<b>成績評価と基準</b>			
事前に読んで準備してもらいます。それを発表し、皆で議論していきたいと思います。準備具合と議論参加で評価します。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
江戸期出版物そのものではなく、近代編集版を利用するので、書体上読むことに苦労はないが、数学に少しは関心があることが必要です。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
メールにて事前連絡の後時間調整			
<b>学生へのメッセージ</b>			
あまり知られることのない日本の数学を読んでみます。新しい世界が開かれるでしょう。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
使用しない			
<b>参考書・参考資料等</b>			
適宜指示する			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
数学史			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	長志珠絵	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 前期にひきつづき修士論文執筆に向けた指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 各学生の執筆テーマに合わせて発表・討議を行う。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> s.osa ( アットマーク ) people.kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習は、修士課程の学生に対し、段階的な論文執筆に必要なステップを段階的に踏ませることが第一の目的である。またディスカッションを通じ、研究に必要な視点、発想を育成することを目的とする。

### 授業の概要と計画

修了レポート執筆に向けた発表および議論形式の演習です。

第一回は受講者についてのガイダンスを行う。

第二回は、研究方法、論文作成についての講義を行う。

第三回以降、受講者による発表と議論を通して、各自の研究を進展させる。なお複数回の発表を必須とする。

### 成績評価と基準

出席を重視するとともに、発表回数、および内容を重視する。なお、いかなる理由であれ、3回以上欠席の場合は「良」、4回以上欠席の場合は「可」を成績評価の上限とする。発表回避の場合は、他の日程で発表を必ず行うこと。

授業参加および議論への能動的参加：60%（1回あたり5点）

発表（max.20点/回）

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・発表者は論文草稿、レジュメを前日昼までにメールで提出すること。その他の出席者は必ず草稿に目を通し、あらかじめ質問、コメントを作成して授業に臨んで下さい（提出）
- ・演習に遅刻・欠席する場合は、必ず掲示板で連絡すること。受講者は必ず1回は発言すること。

### オフィスアワー・連絡先

掲示板による連絡

### 学生へのメッセージ

初回のガイダンスには必ず出席してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 修士論文作成のための準備を行う。			
授業の概要と計画 1 研究指導演習Iに続いて文献収集をしつつ、文献 研究を進める。 2 各章に即した小レポートを提出する。			
成績評価と基準 修士論文の作成についての準備状況、および、「授業の概要と計画」で示した手順にどの程度従っているかを勘案して、判断する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先 研究室は、国際文化学研究科 E 4 1 3			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語 日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	板倉 史明	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

各受講生の修士論文のテーマに応じて必要な文献を選んだうえで、それらについて適宜報告してもらい、修士論文の構想を深化させることを目標とする。

### 授業の概要と計画

毎回与えられた課題について報告してもらい、議論することで修士論文の準備を進める。具体的な計画については各受講生のテーマに合わせて設定する。

### 成績評価と基準

出席および毎回の報告内容から総合的に判断する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、十分な準備を行なうこと。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

修士論文やそれに相当するフォリオの「意義ある主題」と「研究方法」の設定を、履修者の主体的な作業を基盤にさらに絞り込んでゆくことをめざす。研究指導演習よりやや高度なレベルを目標にする。

### 授業の概要と計画

修論ないしフォリオの題目・意義と方法に関する研究計画を、先行研究や一次資料の解説と共に、毎週履修者に（履修者が複数いる場合は一人一回の順番で）発表して貰い、それを元に全員で討論をする。

### 成績評価と基準

平常点6割、期末レポート4割。ただし、ここでの平常点とは単なる出席点のことではなく（出席は大前提）、発表や討論における貢献度のことである。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

英語やインドネシア語文献の宿題をたくさん課す予定。履修希望者は事前に下記連絡先あて相談すること。

### オフィスアワー・連絡先

随時。ただし、ysd@kobe-u.ac.jpまで予め連絡ください。

### 学生へのメッセージ

学問の厳しさに耐える覚悟のある人のみ、門をたたいてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

履修者の作成する毎回のレジュメがテキストである。

### 参考書・参考資料等

履修者の進度や関心に応じ、適宜指示する予定。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

主題の意義づけ 研究方法 データとロジック

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
論文作成の指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
1ヶ月に1回以上の報告を求め、アドバイスをする。			
<b>成績評価と基準</b>			
発表(4割)、討論(3割)、レポート(3割)、で評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
指導教員と相談して、綿密な計画を立て確実に作業を進めること。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
国際文化学研究科 E201 研究室（内線 7451） kinosita@harbor.kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
計画 相談			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	昆野 伸幸	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
修士論文の完成を目標とする。			
授業の概要と計画			
修士論文の草稿について詳細な検討を行う。			
成績評価と基準			
平常点10割で評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先			
随時。事前に連絡すること（nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp）。			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	柴田 佳子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
各自の研究テーマに合わせ、それを深め、論文としてまとめていくのに必要なスキルを習得する。			
<b>授業の概要と計画</b>			
受講生は毎回、レジュメを作成して発表する。それをもとに質疑応答をへて議論し、次回へのステップに向けての課題を明らかにする。適宜小論文を書く。			
<b>成績評価と基準</b>			
平常点：毎回の授業への準備状況、授業中の質疑応答、課題設定 50% 期末小論文：50%			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
他の文化人類学関連の授業もとることが望ましい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
随時。ただし事前連絡してください。 <a href="mailto:yoshibat@kobe-u.ac.jp">yoshibat@kobe-u.ac.jp</a>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
いかに自分を高めていけるか自覚的になりましょう。			
<b>今年度の工夫</b>			
受講生個人のニーズに合わせて展開する。			
<b>教科書</b>			
特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業中に指示します。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語、必要に応じて英語			
<b>キーワード</b>			
文献解読、批判的検討、論文作成			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	北村 結花	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文・修士フォリオ、修了研究レポートの作成指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 各自のテーマに基づき研究指導を行う。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> yuika < A T > kobe-u.ac.jp.			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 受講生と相談の上、決めたい。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	谷川 真一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

現代中国の社会科学的研究をテーマとした修士論文の作成に必要な理論と方法論についての指導を行います。

### 授業の概要と計画

はじめは、受講者の関心に応じて、先行研究を割り振りますので、熟読の上批判的検討を加えてください。その後は、各受講者の修士論文作成に向けてのアドバイスを適宜行います。

### 成績評価と基準

報告の内容、ペーパーのクオリティによる。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

中国語、英語の習得を心がけてください。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日3時間目

### 学生へのメッセージ

中国語、英語の文献を読めるようになります。

### 今年度の工夫

### 教科書

特になし。

### 参考書・参考資料等

適宜提示します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

現代中国、社会科学、理論、方法論

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	坂井一成	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際関係・比較政治論コースとして、修士論文および修了研究レポート作成に向けての指導を行う。

### 授業の概要と計画

コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。

なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。  
授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### 成績評価と基準

発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行うことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### オフィスアワー・連絡先

各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。

### 学生へのメッセージ

自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。

### 今年度の工夫

発表内容の明確化と発表方法の向上

### 教科書

スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。

### 参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> ゼミナール形式で、修士論文・修了研究レポート作成のための指導をします。			
<b>授業の概要と計画</b> 毎回テーマを決め、文献講読や発表の形式をとりつつ、論文作成を着実に進められるように懇切に指導します。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点によって評価します。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 履修に関する連絡や相談は、sakurait@kobe-u.ac.jpまで。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 授業の中で指示したり、印刷のうえ配布します。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	藤野一夫	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 論文のテーマと方法論に合わせて懇切丁寧に指導します。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 隨時・要連絡 fujino@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 論文指導。修士論文 / フォリオの完成をめざす。			
<b>授業の概要と計画</b> 相談の上、定期的に論文に関する構想や内容を発表してもらい、それについて指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点と研究の進捗状況による。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 芸術文化共生論特殊講義、芸術文化論演習、その他芸術文化論関連科目を合わせて受講することが望ましい。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
一定の課題にそって、論の構成方法および研究レポートの書き方を学ぶ。			
<b>授業の概要と計画</b>			
研究テーマに関するテキストなどを読みながら、レジュメの作り方、問題の立て方、論の構成方法を学び、研究用のテキスト表現を学ぶ。			
<b>成績評価と基準</b>			
平常点（ミニレポート）およびレポートなどにより評価を行う。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
日常的に研究テーマに関するメモを取ったり、論点を文章化するよう心がけてください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
随時。（メールにて事前連絡が望ましい）			
<b>学生へのメッセージ</b>			
課題以外にもたくさんの本を読み、映画、演劇、美術展など文化表現に積極的に触れること。（テレビ番組を含む）			
<b>今年度の工夫</b>			
アカデミックライティングを意識的に行う。複数の課題を出す。			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
教科書については授業中に指定する。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
レポート作成、アカデミックライティング			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	池上 裕子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文執筆に向けての指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 各学生の執筆テーマに合わせて発表・討議を行う。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> ikegami@port.kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 修士論文執筆に向けての指導を行う。			
授業の概要と計画 テーマの絞り方、資料収集とその分析方法、論文の構成等について指導する。			
成績評価と基準 平常点評価。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語 日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数

**授業のテーマと到達目標**

博士前期課程第1学年の学生に、修士論文・フォリオ等執筆に向けての指導を行う。

**授業の概要と計画**

テーマの設定、参考文献の収集と読解などを中心とする。

**成績評価と基準**

論文の進展、提出レポートなどにより総合的に判断する。

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）**

十分な予習と自主的な調査・研究を行うことが必要である。

**オフィスアワー・連絡先**

メールで連絡のこと。ynoriko@kobe-u.ac.jp

**学生へのメッセージ****今年度の工夫****教科書**

授業中に指示する。

**参考書・参考資料等**

授業中に指示する。

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> フォリオ或は論文を提出するために必要な研究指導を行なう。			
<b>授業の概要と計画</b> 各自のテーマに応じて、フォリオ或は論文の提出に向けて、各々の研究活動を支援する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ) 研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	大月一弘	開講区分	単位数
後期		2単位	

### 授業のテーマと到達目標

修士論文・修士フォリオの完成へ向けた学習指導、研究指導ならびに論文作成指導を行う。

### 授業の概要と計画

各自の研究テーマに対し、以下のことを行う。

- ・関連研究の調査方法の指導
- ・研究方法・研究計画に関する指導
- ・論文書き方に関する指導

### 成績評価と基準

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	康 敏	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 フォリオ・論文について指導を行う。			
授業の概要と計画 テーマを決め、毎週資料収集の上、ディスカッションを行う。			
成績評価と基準 平常点で評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先 随時			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

修士フォリオ・修士論文作成に向けた研究指導を行います。

### 授業の概要と計画

以下のようなことを予定していますが、これに限らず、フォリオ・論文作成に必要な指導を行います。

- 研究の進捗状況の確認
- 研究テーマに関する相談
- 研究に必要な知識・技術に関する指導
- フォリオ・論文作成のための技術的な指導

これらの過程を経て修士論文または修士フォリオに関する研究計画書を作成します。

### 成績評価と基準

以下の点に基づいて評価します。

- 出席および学習態度、発表や議論の内容と資料(40%)
- 修士論文または修士フォリオに関する研究計画書(60%)

### 履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。

電子メール : hajime.murao@mulabo.org

研究室 : B棟4階B409室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

特に用いません

### 参考書・参考資料等

隨時指示する。

### 授業における使用言語

日本語、英語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	清光 英成	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 修士論文の作成に向けた研究指導			
授業の概要と計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の確認</li> <li>・研究テーマに関連する周辺事例の紹介</li> <li>・研究をより良くするための知識や技術の紹介</li> <li>・論文の論理・体裁構造の指導</li> <li>・プレゼンテーションの指導</li> </ul>			
成績評価と基準 成果物とプレゼンテーションで評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先 初回に指示する			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等 適宜、紹介する			
授業における使用言語 日本語、時々英語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	西田 健志	開講区分	単位数
後期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
フォリオあるいは論文を作成する能力を習得し、提出することを目標とする。			
<b>授業の概要と計画</b>			
フォリオあるいは論文の提出に向けて、各自のテーマに応じて研究活動を支援する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。 メール : tnishida@people.kobe-u.ac.jp 研究室 : B棟4階408			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数

**授業のテーマと到達目標**

研究論文を作成するための基礎的能力の涵養をはかる。

**授業の概要と計画**

受講者の研究課題、目標に応じて柔軟に対応する予定。

**成績評価と基準**

学期末に課す課題で評価する。

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）**

毎回、十分な準備を行なうこと。

**オフィスアワー・連絡先**

水曜昼休み（要予約）

**学生へのメッセージ**

定延を主たる指導教員とする当該研究科・学年の院生は受講してください。

**今年度の工夫**

**教科書**

特になし。

**参考書・参考資料等**

特になし。

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数 後期 2単位

**授業のテーマと到達目標**

研究者養成型プログラムの学生を対象に、修士フォリオまたは修士論文の完成に向けて研究指導を行う。

**授業の概要と計画**

方法論的ならびに理論的学習を行いながら、修士論文の方向性を決定する。

**成績評価と基準**

平常点評価

**履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）****オフィスアワー・連絡先**

金曜日13:30-15:00

上記以外でも調整します

**学生へのメッセージ**

基礎が大事です

**今年度の工夫**

個人HPで情報を配信します

**教科書****参考書・参考資料等****授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

方法論  
理論的背景

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	藤涛 文子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文を書くための準備段階として、先行研究を読み進め、修士論文の構想を発展させてことを目指します。			
<b>授業の概要と計画</b> 進捗状況に合わせて、指導を進めていきます。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点評価（修士論文の構想に沿った進捗状況と内容）			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 指導を受ける際には、毎回必ず前もってレジュメを送ってください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 研究室：B411 fumiko@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b> いつでも相談にきてください。			
<b>今年度の工夫</b>    			
<b>教科書</b> 必要に応じてコピーを配付します。			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて指示します。			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 翻訳研究			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	湯淺 英男	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修士論文やフォリオを書くための、論文指導です。1年次後期用のため、前期のIと連続させる形で論文・フォリオの研究の進め方などについて話し合うつもりです。			
<b>授業の概要と計画</b>			
受講者と話し合いながら授業の進め方を決めたいと考えます。			
<b>成績評価と基準</b>			
授業での活動内容と、研究の進展具合で評価します。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
自分の学問的関心を広げるような授業の履修の仕方を期待します。事前に自分の問題点を整理しておいてください。また事後には、授業での問題点をさらに深めて研究を進めてください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
木曜日の12時20分から13時10分まで。事前に連絡してくれることを望みます。研究室はB410。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
言語についての問題意識をはぐくんでください。			
<b>今年度の工夫</b>			
履修者の関心にしたがって、研究の刺激になるような議論ができるようにしたいと思います。			
<b>教科書</b>			
特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業中に適宜紹介する。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
言語 コミュニケーション			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	田中 順子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
フォリオや論文を作成するために必要な基礎的能力を養う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
受講者の研究課題、目標に応じて対応します。受講者に共通な習得目標は次のとおりです。			
必要な文献を検索して必要な情報を抽出できる。 先行文献のまとめができる。 APAの論文スタイルをマスターする。 研究計画を立てる。			
<b>成績評価と基準</b>			
修士論文研究の進捗状況の発表による評価(50%)。 学期末に課す課題による評価(50%)。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
特になし。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
火曜日休みを予定（要予約）			
<b>学生へのメッセージ</b>			
特になし。			
<b>今年度の工夫</b>			
学生の皆さんができる意識を明確に持てるようにしたいと思います。			
<b>教科書</b>			
特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし。			
<b>授業における使用言語</b>			
主として日本語。英語話者には英語を使用。			
<b>キーワード</b>			
修士論文研究			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	米谷 淳	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「対人行動研究のためのデータ分析入門」対人行動論に関するテーマで修士研究を進めようとする学生を対象に、研究方法、論文作成法などについて基礎から実践まで習得していただくことをねらいとする。IIはデータ処理技法（統計）を中心に学ぶ。

### 授業の概要と計画

- 1 ガイダンス
- 2 統計とはなにか
- 3 データの種類
- 4 記述統計
- 5 推測統計とはなにか
- 6 統計パッケージの使い方
- 7 標本調査
- 8 正規分布
- 9 推定と検定
- 10 質的データの処理
- 11 分散分析
- 12 回帰と相関
- 13 因子分析
- 14 少数データの処理
- 15 補足とまとめ

### 成績評価と基準

毎回の出席(20%)、課題(40%)、レポート(40%)をもとに総合的に成績評価を行う。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

「フォリオ・論文指導演習」（米谷）を受講する（しておく）ことが前提となります。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日休み  
研究室 803-7603, E-mail:maiya(@)kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

実際にパソコンでデータ分析をしていただきます。

### 今年度の工夫

ICT活用にチャレンジしたいと思います。

### 教科書

授業中にプリントを配布します。

### 参考書・参考資料等

参考書は授業中に指示します。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

対人行動研究 データ分析 統計

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
各自の研究テーマにて即して、修士論文ないし修了研究レポートの完成に向けた個別指導を行います。			
<b>授業の概要と計画</b>			
各自の個別研究の進捗に応じて、個別研究の完成に向けて、段階的に指導を行います。			
<b>成績評価と基準</b>			
上記の目標と計画が達成された程度に応じて評価します。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
修士論文ないし修了研究レポートの完成に向けて、研究が着実に進捗するよう、よく準備してください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
随時。ただし事前に下記に連絡してください。 munakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jp 研究室はE 3 0 6です。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	林 良子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

修士論文または修士修了研究レポートのテーマを選ぶうえで、必要となる先行研究のリサーチについて指導を行います。

### 授業の概要と計画

各自の興味のあるテーマにそって、参考文献、論文等を紹介し、講読、発表を毎回行なっていきます。

### 成績評価と基準

初回授業時に説明します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

指定された文献を精読し、十分に準備を行うこと

### オフィスアワー・連絡先

火・木昼休み（事前メール要）

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	松本 絵理子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

人間の認知機能特性とその神経基盤について理解し、人間の認知・行動特性に関する研究テーマを探索する。

### 授業の概要と計画

論文作成の技法の獲得と文献の精読を通じて、テーマ探索と仮説構築を行う。研究論文を探索、抜粋して読み、論議を行う。

### 成績評価と基準

出席、平常の授業態度、並びに授業内での発表の内容、議論への参加等から総合的に評価を行う。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

支持された文献は事前に必ず目を通し不明な用語を調べておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

随時。事前にかならずメールにてアポイントメントを取るようにしてください。

### 学生へのメッセージ

より良い研究をするためには何が必要なのかを考えながら進めます。講義内で指定した手法を使って授業時間外でも調査・研究を行うことを求めます。

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書は指定しません。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

認知行動、文献精読

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数
		後期	2単位
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修論および修了レポートの作成を指導する。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

生命倫理学 医療倫理 法と倫理 代理母 インフォームドコンセント

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	小笠原 博毅	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

修士論文・フォリオ執筆指導  
論文テーマの決定

### 授業の概要と計画

文献整理・調査、資料調査・検索、執筆要綱等の指導、および各自の進捗状況のモニタリングと研究テーマの詳細な決定の指導

### 成績評価と基準

理解、進展、完成までのロードマップ

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

木 昼休  
hirokio@kobe-u.ac.jp  
内線 7464

### 学生へのメッセージ

「書く」と「考えること」の悦びを

### 今年度の工夫

### 教科書

買う必要はないが、手元にあるとやる気と勇気が出る本

*The Art of Listening / Les Back : Berg ,2007 ,ISBN:9781845201210*

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語もしくは英語

### キーワード

達成

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	林 博司	開講区分	単位数
後期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修士論文又は修了レポート作成のための研究指導を、個人指導の形で行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文完成へ向け、準備を進めるための指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 前期に引き続き、論文の構成・方法・文章について個別に指導を行う。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点のみ（研究への意欲的・生産的な取り組みがなされているか）			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>    			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時メールにて連絡のこと。			
<b>学生へのメッセージ</b> 関連する文献をできるだけ収集し、それを読み進めてください。ときにまわり道することも大切です。			
<b>今年度の工夫</b>    			
<b>教科書</b>    			
<b>参考書・参考資料等</b>    			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>    			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	市田 良彦	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

前期研究指導演習Iの続きです。各自の研究テーマが絞られていることを前提に、基本文献と先行研究の読書を続けます。

### 授業の概要と計画

前期より、発表してもらう機会が増えると考えてください。特に先行研究については詳細な文献リストを作成してもらいます。

### 成績評価と基準

平常点のみ。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

とくになし。

### オフィスアワー・連絡先

昼休み。E304。

### 学生へのメッセージ

研究者としての自覚をもってください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語。

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

思想系の論文を執筆するというのは基本的には孤独な作業である。みずから主題を設定し、そのために必要な文献を広く涉獵しつつ、徹底的にそれを読み込んだうえで、自分なりの観点から論点を整理して一貫した筋道をもった論文へと仕上げてゆく。この一連の作業をすべてたった一人でこなしてゆかなければならぬ。とはいえそうした作業には一定の手順や技術があることもたしかだ。この演習では前期課程1年目の学生を対象に、論文執筆に必要となる基本的な論文作法を身につけてもらい、孤独な作業を最後まで一人でやり抜く基礎力を養成することを目標とする。

### 授業の概要と計画

前期課程1年目ではとりわけ、主題の設定が適切なものかどうか、そのためにはどのような方法論が必要か等々、論文執筆にとって土台となる部分に重点を置いて指導を行なう。自分なりに研究を少しずつ進めてゆくプロセスで、当初の主題設定も大きな修正を迫られることもあるだろうし、すでに書きかけている論文の断章も破棄を余儀なくされることもあるかもしれない。こうした紆余曲折の節目で迷路に入り込まないようにサポートするのがこの演習の役目となる。

### 成績評価と基準

提出された草稿や書き直された草稿の出来などをもとに、総合的に評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

ueno@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

実際に論文を書くのは学生であって教員ではない。また書いたものがなければコメントすることもできない。指導の内実もすべて学生自身の頑張り如何にかかっている。奮励努力を期待したい。

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書はとくに指定しない。必要な文献はそのつど指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	庁 茂	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> マスター論文/フォリオの作成に向けての助言と指導。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 金曜日 13:00-13:20			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	松家 理恵	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文の作成に向けた個別指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 前期から引き続き、研究の途中報告、2年生の場合は論文の構成および原稿について随時必要な助言と指導を行う。			
<b>成績評価と基準</b> 研究の進捗度、論文構成、論文草稿等を総合評価する			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 論文作成の途中報告が随時求められます。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 連絡の上隨時。 janjur@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	齊藤 美穂	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

各自の研究テーマに応じた研究計画を立て、適切な方法でデータを収集・分析し、論文またはレポートにまとめることを目指す。

### 授業の概要と計画

各受講者の研究の進捗状況に応じて決定する。

### 成績評価と基準

修了レポートもしくは修士論文の評価をもって代える。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

発表者は事前にレジュメを作成し、教員及び他の受講生に配布しておくこと。  
受講生は配布されたレジュメに目を通しておくこと。

### オフィスアワー・連絡先

木曜13時-14時半（要事前連絡）  
E-mail:msaito@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

授業時に指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	米本 弘一	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文・修了研究レポートの完成に向けた指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 先行研究のまとめ 論文・レポートのテーマに関する考察 論文・レポートの執筆			
<b>成績評価と基準</b> 授業中の発表、議論への参加度などの平常点により評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 論文のテーマに即して、先行研究をまとめ、論文執筆を進めること。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 火曜 3限 B413 研究室			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 使用しない / : , , ISBN:			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	加藤 雅之	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> フォリオ・修士論文を書く上での基本的知識を教授するとともに、レポートなどを通じて実践的指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 前期の指導演習IIに引き続き、毎週、一定の論文を読み込み、それについてのディスカッションを行う。			
<b>成績評価と基準</b> 授業への貢献および最終レポートによって判定する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>    			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> D624 Email: masakato@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>    			
<b>今年度の工夫</b>    			
<b>教科書</b>    			
<b>参考書・参考資料等</b>    			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	横川 博一	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

Seminar for Master's Thesis/Folio II

修士論文ないしは修士フォリオの作成に向けて、指導教員およびコース教員で研究指導を行う。

### 授業の概要と計画

(1)計画的に各自が研究を進め、その進捗状況を外国語教育システム論コースが開催する「研究指導演習」等で定期的に報告し、それに対して指導助言を行います。

(2)横川研究室所属の大学院生は、博士前期課程・後期課程合同で、金3・4限などにゼミを定期的に開催する予定である。そこでは、研究の進捗状況の報告を中心に進めます。

### 成績評価と基準

最終的には、国際文化学研究科の規程に則り、審査を行い、評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

適宜相談に応じるので、可能な限り事前にメールでコンタクトをとってください。yokokawa@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

授業、ゼミの他、関係学会・研究会などに積極的に出席・参加、発表をおこない、幅広い理解と情報収集に努めてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	石川 慎一郎	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ： チュートリアルゼミ

到達目標： 担当教員とのディスカッションをふまえ、各自の論文の完成度を向上させる。

### 授業の概要と計画

授業概要： 論文進捗状況を学生が報告し、その内容についてディスカッションを行う。

授業計画：毎回、受講生の全員が、各自の論文の進捗状況について報告する。その後、ディスカッションを行う。

### 成績評価と基準

下記を総合的に評価する。

- ・毎回の論文進捗報告
- ・ディスカッション
- ・クリティカルコメント

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講希望者は、開講前に教員にメールで連絡を取ること。

### オフィスアワー・連絡先

研究室 D612

メール iskwshin@gmail.com  
件名（subject）を明記のこと。

### 学生へのメッセージ

研究とはなにか、どのように研究を進めていけばいいのか、ゼミの先輩や仲間と悩みを語り合う中で自分自身の研究の方向性をつかんでもらえればと思います。

### 今年度の工夫

昨年度までの実践をふまえ、学外学会での研究発表への応募に備えた指導を加えていきます。

### 教科書

関連論文などは授業内で指示します。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語または必要に応じて英語

### キーワード

ゼミ、論文作成法、リサーチデザイン

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	柏木 治美	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 受講者各自のテーマにしたがって研究指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 詳細については授業で説明する。			
<b>成績評価と基準</b> 詳細については授業で説明する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 予め以下のメールアドレスにアポイントをとること。 kasiwagi@kobe-u.ac.jp , D610室			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> 詳細については授業で説明する。 / : , , ISBN:			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	木原 恵美子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本授業では、受講者は、認知言語学における構文論研究と第二言語習得における基本概念を学びながら、L2英語学習者の英語の構文学習のメカニズムや、L2英語学習者に対する英文法の指導法を研究する。受講者は、専門書購読と研究発表を通じて、修士論文の作成へとつなげていく。（本授業はゼミ形式で行う。）

### 授業の概要と計画

本授業は主に次の2つからなる。

- I. 認知言語学における構文論と第二言語習得における文法学習に関する学術論文を読む。
- II. 受講者は、月1回、研究発表を行う。

### 成績評価と基準

議論に対する貢献度10%  
発表や議論に対する評価60%  
学期末レポート30%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

研究室：D620  
email: kihara.grad@gmail.com  
前期 & 後期：月曜2限  
注意：必ず事前にアポイントを取って下さい。

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

テキストは使用せず、学術論文を輪読する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

授業中の解説は日本語で行われるが、配布される論文は英語である。

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	グリア ティモシー	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

Students in this class will explore a topic of their own interest, conducting an in-depth literature review and begin to gather some relevant data.

### 授業の概要と計画

This class is for thesis supervision at the graduate level. Students will meet regularly with the supervisor to develop an original thesis paper.

### 成績評価と基準

Holistic evaluation of the students' progress, including regular presentation and group supervision meetings and thesis preparation.

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

（This section is currently empty.）

### オフィスアワー・連絡先

Monday 12:10 to 13:00

### 学生へのメッセージ

Students will be expected to write their paper in English.

### 今年度の工夫

（This section is currently empty.）

### 教科書

（This section is currently empty.）

### 参考書・参考資料等

As appropriate

### 授業における使用言語

English, Japanese

### キーワード

Supervision

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	朱 春躍	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
論文作成指導			
<b>授業の概要と計画</b>			
毎回研究の進捗状況を報告してもらい、研究内容・方法・参考文献などについてディスカッションをする。			
<b>成績評価と基準</b>			
研究計画が適切であるかどうか、研究が予定通り進められているかどうか。発表内容とディスカッションにより判断し、評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
なにもかも先生の指導に頼らずに、ちゃんとご自分の考えをはっきりさせたうえで授業に臨みましょう。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業中に指示			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語（必要に応じて中国語）			
<b>キーワード</b>			
論文作成、実験デザイン			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	枠田 義一	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

前期研究指導演習 の継続。  
ヨーロッパの言語政策とヨーロッパ連合の「言語共通参照枠」を概観し、明らかになった特徴をさらに考究する。

### 授業の概要と計画

言語政策及び「共通参照枠」の背景となっている複言語主義の考え方を明らかにし、それが「参照枠」にどのように取り上げられ、実際のカリキュラムや教材にどのように反映されているかを、選択した言語の教育に則してさらに考察する。

### 成績評価と基準

授業における発表と期末レポート。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

ヨーロッパの言語が対象となるので、英独仏語のいずれかの知識のあることが、望ましい。

### オフィスアワー・連絡先

火曜日昼休み  
研究室（D607）

### 学生へのメッセージ

ヨーロッパの言語政策、ヨーロッパ語の言語教育に興味を持っている人の受講を歓迎する。

### 今年度の工夫

### 教科書

随時プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

講義にて随時紹介する。

### 授業における使用言語

日本語、ドイツ語

### キーワード

ヨーロッパの言語政策、ヨーロッパ語の言語教育に興味を持っている人の受講を歓迎する。

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	大和 知史	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
<論文作成指導>			
授業の概要と計画			
各自の研究課題に応じ、論文完成に向けた指導を行います。			
成績評価と基準			
出席、課題の進捗（発表資料作成、発表内容）などを総合的に判断して評価します。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
発表資料の作成、それに伴う文献の精読・整理等は必須課題とする。			
オフィスアワー・連絡先			
研究室：国文（鶴甲第一）キャンパスD棟622 連絡方法：電子メール yamato@port.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
修士論文、修了レポートをよりよいものにするために、一緒に悩み、議論しましょう。			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	青山 薫	開講区分	単位数
		後期	2単位

## 授業のテーマと到達目標

修士論文・フォリオ執筆 発展編

## 授業の概要と計画

調査研究の倫理に重点をおきながら、理論・方法論を学びます。参加学生の関心に合わせた個々の調査研究の検討と、執筆進捗状況の検討も行います。

成績評価と基準

## 出席と進捗状況

欠席が多ければ成績は下がります。欠席5回で単位は失われます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

無断欠席をしないこと

#### オフィスアワー・連絡先

月曜5限、水曜4限、金曜

## 学生へのメッセージ

いずれも、他の

教科書

#### 参考書・参考資料等

#### 必要に応じて紹介

## 授業における使用言語

日本語または英語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	谷本 慎介	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文を書くためのいわば第4ステップです。 修士論文完成に向けて、最後の作業を行います。			
<b>授業の概要と計画</b> 学生と相談のうえ決めます。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点（積極的取り組み）100%			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 課題に積極的に取り組むこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 火・木曜日の昼休み・研究室はE216			
<b>学生へのメッセージ</b> 特になし。			
<b>今年度の工夫</b> ヴィヴィッドな授業を行います。			
<b>教科書</b> 学生と相談のうえ決めます。			
<b>参考書・参考資料等</b>    			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 修士論文・第4ステップ			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文の作成を目標とする。			
<b>授業の概要と計画</b> 研究指導演習で執筆した修士論文の章に統いて、結論に向かって論旨を整えながら、最後まで書きあげるための、指導を行う。			
<b>成績評価と基準</b> 執筆の進捗状況を勘案して評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 研究室は、国際文化学研究科 E 4 1 3			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
修士論文			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
修士論文の作成指導を行う。			
授業の概要と計画			
文献講読、調査・報告、発表、討議、添削を繰り返します。			
成績評価と基準			
指摘箇所を適切に改善するかどうか、論文作成上の技術的なポイント、論文の質などを総合的に考慮して判定する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
指導を受けるに当たり、ドラフト（草稿）を準備しておくこと。			
オフィスアワー・連絡先			
随時。事前にメールでアポイントメントをとってください。umeya[at]people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
文献講読を論文指導に並行して行う			
教科書			
作成中の受講生の修士論文。			
参考書・参考資料等			
適宜紹介する。			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> モンゴル民族史に関する修士論文の執筆を指導する。			
<b>授業の概要と計画</b> 学生自身の研究テーマに応じて、満洲語・モンゴル語等の史料の用い方、方法論等を指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点、特に研究発表に基づいて評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 自分の研究計画を事前にしっかりと立てておくこと。また、他の学生が発表しているときにも、参考となりそうな点に常に注意を払う必要がある。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 月・木の昼休み			
<b>学生へのメッセージ</b>    			
<b>今年度の工夫</b> 説得力のある論文の書き方を指導したい。			
<b>教科書</b> 特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> モンゴル民族史			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

前期の研究指導演習IIIを踏まえ、修士論文各章のチェック、新たな課題を克服し、最終的に論文をまとめることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

研究テーマの具体化と予備的学習を踏まえて修士論文の執筆に必要とされる各種の資料、文献、をいかに使って論文を書いていくか、ここの課題を克服する為の助言を行う。

### 成績評価と基準

毎回の授業時の発表をもって成績評価をおこないます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこなう場合があります。

### オフィスアワー・連絡先

notani@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

修士論文の実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生の自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

本演習は、修士課程の学生に対し、段階的な論文執筆に必要なステップを段階的に踏ませることが第一の目的である。またディスカッションを通じ、研究に必要な視点、発想を育成することを目的とする。

### 授業の概要と計画

修士論文、修了レポート、フォリオ執筆に向けた発表および議論形式の演習です。

第一回は受講者についてのガイダンスを行う。

第二回は、研究方法、論文作成についての講義を行う。

第三回以降、受講者による発表と議論を通して、各自の研究を進展させる。なお複数回の発表を必須とする。

### 成績評価と基準

出席を重視するとともに、発表回数、および内容を重視する。なお、いかなる理由であれ、3回以上欠席の場合は「良」、4回以上欠席の場合は「可」を成績評価の上限とする。発表回避の場合は、他の日程で発表を必ず行うこと。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 発表者は論文草稿、レジュメを前日昼までにメールで提出すること。その他の出席者は必ず草稿に目を通し、あらかじめ質問、コメントを作成して授業に臨んで下さい（提出）
- ・演習に遅刻・欠席する場合は、必ず掲示板で連絡すること。

### オフィスアワー・連絡先

掲示板による連絡

### 学生へのメッセージ

初回のガイダンスには必ず出席してください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修論やフォリオの完成を唯一の目標とする。			
<b>授業の概要と計画</b>			
各自の主体的発表と討論を通じ、主題・視座の適切さやオリジナリティの再確認、研究手法やデータ処理の確かさ、論理的構成の如何などを、厳しくチェックする。			
<b>成績評価と基準</b>			
研究態度の主体性と、授業の過程で提出されたあらゆるプロダクツ（レジュメ、口頭発表、レポート、原稿など）の質で総合的に評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
英語やインドネシア語文献の宿題をたくさん課す予定。履修前に下記の連絡先へいちど相談すること。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
随時。ただし、ysd@kobe-u.ac.jpへ予め連絡してください。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
私の狭い経験の範囲内で、進路などの人生相談にも応じます。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
学生自身の作った議論の材料（レジュメ、原稿など）が唯一のテキストです。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
履修者の進度や関心に応じ、適宜指示する予定。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
学問			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標			
修士論文を完成させる。			
授業の概要と計画			
修士論文の執筆、研究の完成にむけて指導する。			
成績評価と基準			
論文の内容と、研究態度による総合評価。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
毎回、十分な準備を行うこと。			
オフィスアワー・連絡先			
kubotas@people.kobe-u.ac.jp アポイントにより、隨時。			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	伊藤 友美	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

学生それぞれが自分の修士論文のテーマについて、研究構想、研究計画、研究成果を報告し、担当教員との意見交換を経て、研究を積み上げ組み立てていくことを目的とする。

### 授業の概要と計画

学生それぞれが自分の研究テーマに関してレジュメを準備した上で発表を行い、他の受講生および担当教員と意見交換を行う。

### 成績評価と基準

出席 20%  
議論参加 20%  
研究発表 60%

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

月曜日の昼休み。メールにて、事前予約。  
itot[at]kobe-u.ac.jp ([at]に@を入れる)

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際関係・比較政治論コースとして、修士論文および修了研究レポート作成に向けての指導を行う。

### 授業の概要と計画

コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。

なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。  
授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### 成績評価と基準

発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行なうことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### オフィスアワー・連絡先

各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。

### 学生へのメッセージ

自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。

### 今年度の工夫

発表内容の明確化と発表方法の向上

### 教科書

スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。

### 参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

「論文とはなにか」：資料を批判的に使う方法、論説を展開する手順、論文の語り口、論文の意味などについて、出席者が理解するように説明する。

### 授業の概要と計画

1. 自著を例に中国における国家思想の変遷に関する思考を紹介し、論文における独自の視点と理論的整理の重要性を説明する。
2. 出席者の論文についてその問題点と注意すべき点を指摘し、受講者の質問に答え、質のより良い論文になるようアドバイスする。

### 成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1. 中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
2. 授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。

### オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30 ~ 13:10  
E 214室、内線7459

### 学生へのメッセージ

歴史を複眼的に見ることが重要である。

### 今年度の工夫

### 教科書

授業中に指示

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	庁 茂	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> マスター論文/フォリオの作成に向けての助言と指導。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 金曜日 13:00-13:20			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 論文指導。修士論文 / フォリオの完成をめざす。			
<b>授業の概要と計画</b> 相談の上、定期的に論文に関する構想や内容を発表してもらい、それについて指導する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点と研究の進捗状況による。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 論文の完成に向けて、自主的、計画的に毎回の準備を行なってください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	米谷 淳	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

実験心理学的アプローチにより研究をしようとする学生を対象に、心理学研究法を徹底的に習得していただきます。後期はより高度な研究法について学びます。とくに、データ処理と統計の技法をしっかり習得していただきます。

### 授業の概要と計画

初回にガイダンスをしたのち、3つのブロックに分けて具体的な対人行動研究に取り組みながら、研究技法を学んでいきます。

- 1. ガイダンス
- 2 5 実験計画と統計的検定・分散分析
- 6 9 尺度構成と多変量解析
- 10 14 研究論文の書き方
- 15 まとめ

### 成績評価と基準

授業中に実施する様々なアクティビティへの積極的な参加とプレゼンやレポートを基に総合的に判断します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

大学で心理学を専攻したか、それに相当する知識をもっている学生を前提とします。

### オフィスアワー・連絡先

毎週水曜日昼休み・TEL078-803-7603/email:maiya@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

心理学関係の学会での研究発表をめざして、実践的な学習をしていきましょう。

### 今年度の工夫

しっかり研究力を身につけてもらえるよう、グループワークをしていただきます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

実験心理学 心理学研究法 統計

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	藤涛 文子	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文完成に向けて、最終的な指導をし、納得のいく論文が書けることを目指します。			
<b>授業の概要と計画</b> 論文執筆について、毎回進捗状況を報告してもらうとともに、質問に対応し、当該テーマについて議論します。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点評価（修士論文完成に向けての進捗状況と内容）			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 毎回、必ず前もってレジュメをメールで送ってください。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時 研究室：B411 fumiko@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b> 行き詰ったら、必ずその都度ご連絡ください。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b> なし。			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて指示します。			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 翻訳研究			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> フォリオ或は論文を提出するために必要な研究指導を行なう。			
<b>授業の概要と計画</b> 各自のテーマに応じて、フォリオ或は論文の提出に向けて、各々の研究活動を支援する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ) 研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 研究者養成型プログラムの学生を対象に、修士フォリオまたは修士論文の完成に向けて研究指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 方法論的ならびに理論的学習を行いながら、修士論文の方向性を決定する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点評価			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 金曜日13:30 - 15:00 上記以外でも調整します			
<b>学生へのメッセージ</b> 基礎が大事です			
<b>今年度の工夫</b> 個人HPで情報を配信します			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 方法論 理論的背景			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	西田 健志	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> フォリオあるいは論文を作成する能力を習得し、提出することを目標とする。			
<b>授業の概要と計画</b> フォリオあるいは論文の提出に向けて、各自のテーマに応じて研究活動を支援する。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。 メール : tnishida@people.kobe-u.ac.jp 研究室 : B棟4階408			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> アカデミック・ライティングの実践として、修士論文作成を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 修士論文の章立てにしたがって、論文を作成する。			
<b>成績評価と基準</b> 平常点（資料の読解およびレポート作成）100%			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b> 修士論文作成に向けて、自主的に文献の収集と読解を行うこと。 関連科目：芸術文化論演習			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> kumi3@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b> 日本語			
<b>キーワード</b> 研究指導 アカデミックライティング、論文作成			

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

修士フォリオ・修士論文作成に向けた研究指導を行います。

### 授業の概要と計画

以下のようなことを予定していますが、これに限らず、フォリオ・論文作成に必要な指導を行います。

- 研究の進捗状況の確認
- 研究テーマに関する相談
- 研究に必要な知識・技術に関する指導
- フォリオ・論文作成のための技術的な指導

これらの過程を経て修士論文または修士フォリオに関する研究計画書を作成します。

### 成績評価と基準

以下の点に基づいて評価します。

- 出席および学習態度、発表や議論の内容と資料 (40%)
- 修士論文または修士フォリオ (60%)

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。

電子メール : hajime.murao@mulabo.org

研究室 : B棟4階B409室

### 学生へのメッセージ

### 今年度の工夫

### 教科書

特に用いません

### 参考書・参考資料等

隨時指示する。

### 授業における使用言語

日本語、英語

## キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	島津 厚久	開講区分	単位数
後期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修了研究レポートの作成			
<b>授業の概要と計画</b>			
他の教員とも連携しながら、折に触れ指導に当たる。			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	ピンテール ガーボル	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

In this course we are going to read articles about recent achievements in phonology and phonetics.

### 授業の概要と計画

In this course we are going to discuss major achievements in the field of phonology and phonetics. The articles to be covered are chosen from the following topics:

- phonotactics and L2 acquisition
- syllable theory
- perceptual phonology
- historically important articles
- recently hot topics (e.g., prosody)

Students are required to write an article about a topic of their choice at the end of the course.

### 成績評価と基準

Final grades will be based on class activity and seminar reports.

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

It is an advanced phonology class. It is highly recommended to take the introductory phonology class (言語科学論 特殊講義) before applying to this course.

### オフィスアワー・連絡先

g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

Students are expected to read one article per week.

### 今年度の工夫

### 教科書

articles will be distributed in pdf or printed format

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

English

### キーワード

advanced phonology, phonetics

開講科目名	研究指導演習IV		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

思想系の論文を執筆するというのは基本的には孤独な作業である。みずから主題を設定し、そのために必要な文献を広く涉獵しつつ、徹底的にそれを読み込んだうえで、自分なりの観点から論点を整理して一貫した筋道をもった論文へと仕上げてゆく。この一連の作業をすべてたった一人でこなしてゆかなければならぬ。とはいえそうした作業には一定の手順や技術があることもたしかだ。この演習では前期課程2年目の学生を対象に、論文の草稿を章ごとに提出してもらいながら、論文全体の完成度を上げることに重点を置いた指導を行なう。

### 授業の概要と計画

前期課程2年目ではとりわけ、研究の進捗とともに主題がぶれていないかどうか、新たな論点や方法論が必要になってきていないかどうか等々、本格的な論文執筆を視野に入れた指導を行なう。自分なりに研究を少しづつ進めてゆくプロセスで、当初の主題設定も大きな修正を迫られることもあるだろうし、すでに書きかけている論文の断章も破棄を余儀なくされることもあるかもしれない。こうした糺余曲折の節目で迷路に入り込まないようにサポートするのがこの演習の役目となる。

### 成績評価と基準

提出された草稿や書き直された草稿の出来などをもとに、総合的に評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

木曜日17:00 - 17:30  
ueno@people.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

実際に論文を書くのは学生であって教員ではない。また書いたものがなければコメントすることもできない。指導の内実もすべて学生自身の頑張り如何にかかっている。奮励努力を期待したい。

### 今年度の工夫

### 教科書

教科書はとくに指定しない。必要な文献はそのつど指示する。

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

## キーワード

開講科目名	修士論文		
担当教員	教授会	開講区分	単位数
後期			
授業のテーマと到達目標 <作成中>			
授業の概要と計画 <作成中>			
成績評価と基準 <作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む） <作成中>			
オフィスアワー・連絡先 <作成中>			
学生へのメッセージ <作成中>			
今年度の工夫 <作成中>			
教科書 <作成中>			
参考書・参考資料等 <作成中>			
授業における使用言語 <作成中>			
キーワード <作成中>			

開講科目名	修了研究レポート		
担当教員	教授会	開講区分	単位数
授業のテーマと到達目標 <作成中>			
授業の概要と計画 <作成中>			
成績評価と基準 <作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む） <作成中>			
オフィスアワー・連絡先 <作成中>			
学生へのメッセージ <作成中>			
今年度の工夫 <作成中>			
教科書 <作成中>			
参考書・参考資料等 <作成中>			
授業における使用言語 <作成中>			
キーワード <作成中>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	石塚 裕子	開講区分	単位数
後期 2単位			
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
修士論文/レポートの完成に向け、指導する			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価と基準</b>			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
金曜日昼休み ishizuka@kobe-u.ac.jp			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			

**参考書・参考資料等**

**授業における使用言語**

日本語

**キーワード**

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	谷本 慎介	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
目標：前期の研究指導演習Ⅰを踏まえ、修士論文のさらに具体的な構想を練り上げます。			
<b>授業の概要と計画</b>			
学生と相談のうえ決めます。			
<b>成績評価と基準</b>			
平常点(積極的取り組み) 100%			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
課題に積極的に取り組むこと。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
火・木曜日の昼休み：研究室はE216			
<b>学生へのメッセージ</b>			
特になし。			
<b>今年度の工夫</b>			
ヴィヴィッドな授業を行います。			
<b>教科書</b>			
学生と相談のうえ決めます。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
セカンドステップ			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

研究指導演習 を踏まえ、修士論文のさらに具体的な構想を練り上げることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

研究テーマの具体化と予備的学習を踏まえて修士論文の暫定的な構成を練り上げつつ、執筆に必要とされる各種の資料、文献、を確定させたうえで、具体的な研究に着手します。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、論文構成の具体化、執筆に必要な資料、文献、が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

毎回の授業時の発表をもって成績評価をおこないます。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこなう場合があります。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	小澤 卓也	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

前期の研究指導演習 を踏まえ、修士論文のさらに具体的な構想を練り上げることをこの演習の目標とします。

### 授業の概要と計画

研究テーマの具体化と予備的学習を踏まえて修士論文の暫定的な構成を練り上げつつ、執筆に必要とされる各種の資料、文献、実地調査を確定させたうえで、具体的な研究に着手します。教員はヨーロッパ・アメリカ文化論コースの他の教員の研究指導演習と緊密に連携をしつつ、論文構成の具体化、執筆に必要な資料、文献、調査の確定が円滑に進むように助言とサポートをおこないます。

### 成績評価と基準

平常点をもって成績評価をおこないます。予習・復習など授業への熱意があるかどうかを重視します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必要に応じてコースとして合同指導をおこなう場合があります。

### オフィスアワー・連絡先

各教員が指導のなかで説明します。

### 学生へのメッセージ

修士論文のテーマの決定、実際の執筆に際して、教員はサポート役にすぎません。学生のみなさんの自主的探究に期待します。

### 今年度の工夫

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース所属の各教員が緊密に連絡をとりあうように努めます。

### 教科書

### 参考書・参考資料等

各教員が指導のなかで相談に乗ります。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	井上 弘貴	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

履修した学生の修士論文が研究論文として十分な水準に到達するよう、論文の章構成やパラグラフの組み立て方、注釈等の整備の仕方をサポートすることを、この演習の目的とする。

### 授業の概要と計画

各自の研究計画に沿って、毎回の演習のなかで修士論文の構想メモやドラフトを発表してもらい、それを踏まえて教員のほうからコメントとアドバイスをおこなう。

### 成績評価と基準

平常点によって評価をおこなう。この平常点には、修士論文の構想メモやドラフトの発表を含む。評価にあたっては、演習における積極的な参加態度を重視する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

修士論文の構想メモやドラフトにかんしては、事前の十分な準備を求める。

### オフィスアワー・連絡先

演習のなかで説明する。

### 学生へのメッセージ

論文の完成は一日にしてならず。しっかりとした行程の管理が必要です。

### 今年度の工夫

### 教科書

研究指導演習の性格上、教科書はない。

### 参考書・参考資料等

各自の論文のテーマに沿って、執筆に必要と思われる文献は適宜紹介する。

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際関係・比較政治論コースとして、修士論文等の作成に向けての指導を行う。

### 授業の概要と計画

コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。

なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。  
授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### 成績評価と基準

発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行なうことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### オフィスアワー・連絡先

各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。

### 学生へのメッセージ

自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。

### 今年度の工夫

発表内容の明確化と発表方法の向上

### 教科書

スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。

### 参考書・参考資料等

適宜授業中指示

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
国際関係・比較政治論コースとして、修士論文および修了研究レポート作成に向けての指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。 なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。 授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。			
<b>成績評価と基準</b>			
発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行なうことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。			
<b>今年度の工夫</b>			
発表内容の明確化と発表方法の向上			
<b>教科書</b>			
スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業時に適宜指示する。			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	中村 覚	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
学位論文の作成に向けた指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
国際関係・比較政治論コースの教員・院生との合同演習となる。学期の初めに、院生各位による報告の予定を作成する。			
<b>成績評価と基準</b>			
演習での報告と議論。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
集団指導演習での報告の一週間前までには、各院生は、指導教員と報告の内容に関して検討を実施する。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
金曜12:20-13:10. E314号室. satnaka@kobe-u.ac.jp.			
<b>学生へのメッセージ</b>			
研究準備や討論を通じて、研究者として、あるいは社会人として通用する思考方法やマナーを身に付けてもらいたい。			
<b>今年度の工夫</b>			
院生による研究進捗状況や就職活動に対する配慮を工夫する。			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語。			
<b>キーワード</b>			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

国際関係・比較政治論コースとして、修士論文および修了研究レポート作成に向けての指導を行う。

### 授業の概要と計画

コースの教員全員参加の下、学生の研究報告とそれに対する議論を中心に行う。学生は、学期内に数回の報告を行う。

なお、前期課程1年生は、スーパーヴァイズドリーディング（コース教員が選定する文献の書評報告）を行う。  
授業の実施方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### 成績評価と基準

発表・発言を含む平常点およびスーパーヴァイズドリーディング・レポート（前期課程1年次のみ）で評価する。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修科目を決定については、指導教員と相談し、加えてコース教員の助言を求めながら行うことが望ましい。本科目の履修方法については、指導教員やコース教員によく確認すること。

### オフィスアワー・連絡先

各教員の研究室および連絡先は授業中に通知する。

### 学生へのメッセージ

自分の研究テーマや専門分野を追究するとともに、他分野への関心を深め、幅広い視野を涵養すること。

### 今年度の工夫

発表内容の明確化と発表方法の向上

### 教科書

スーパーヴァイズドリーディングの文献については授業中指示する。

### 参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	島津 厚久	開講区分	単位数
後期 2単位			
授業のテーマと到達目標 論文作成を目指して指導する			
授業の概要と計画			
成績評価と基準			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	ピンテール ガーボル	開講区分	単位数

### 授業のテーマと到達目標

In this course we are going to read articles about recent achievements in phonology and phonetics.

### 授業の概要と計画

In this course we are going to discuss major achievements in the field of phonology and phonetics. The articles to be covered are chosen from the following topics:

- phonotactics and L2 acquisition
- syllable theory
- perceptual phonology
- historically important articles
- recently hot topics (e.g., prosody)

Students are required to write an article about a topic of their choice at the end of the course.

### 成績評価と基準

Final grades will be based on class activity and seminar reports.

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

It is an advanced phonology class. It is highly recommended to take the introductory phonology class (言語科学論 特殊講義) before applying to this course.

### オフィスアワー・連絡先

g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

Students are expected to read one article per week.

### 今年度の工夫

### 教科書

articles will be distributed in pdf or printed format

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

English

### キーワード

advanced phonology, phonetics

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	山本 真也	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b>			
ヒトおよび動物の行動・認知にかんする研究指導をおこない、修士論文作成の基礎を築きあげる。			
<b>授業の概要と計画</b>			
受講者の知識と興味に応じて方法論的・理論的学習をおこない、修士論文の方向性を決定する。			
<b>成績評価と基準</b>			
演習への積極的な参加を評価する。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
議論のための事前準備、とくに文献の事前精読などを指示することがある。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
水曜14時～15時半をオフィスアワーとする。できるだけ事前にshinyayamamoto1981@gmail.comまで連絡ください。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
ヒトは独りでは生きていくことのできない社会的な動物です。社会行動や、それに必要とされる社会的認知能力を研究することは、ヒトの本質を考える上で重要な視点を与えてくれます。ヒトおよび動物の心理学に興味がある学生の受講を待っています。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
教科書はありません。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
参考書は適宜お伝えします。 APA論文作成マニュアル /著=APA(アメリカ心理学会)、訳=江藤裕之、前田樹海、田中建彦:医学書院,38169 ,ISBN:ISBN 4-260-33354-2			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			
<b>キーワード</b>			
非言語コミュニケーション、共感、協力、他者理解、社会学習、文化、実験心理学、認知心理学、社会心理学、進化心理学、発達心理学、比較認知科学			

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	廣田 大地	開講区分	単位数
<b>授業のテーマと到達目標</b> 修士論文ないしは修士フォリオの作成に向けて、指導教員およびコース教員で研究指導を行う。			
<b>授業の概要と計画</b> 計画的に各自が研究を進め、その進捗状況を外国语教育システム論コースが開催する「研究指導演習」等で定期的に報告し、それに対して指導助言を行います。			
<b>成績評価と基準</b> 最終的には、国際文化学研究科の規程に則り、審査を行い、評価します。			
<b>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b> 授業、ゼミの他、関係学会・研究会などに積極的に出席・参加、発表をおこない、幅広い理解と情報収集に努めてください。			
<b>今年度の工夫</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>授業における使用言語</b>			
日本語			

## キーワード

開講科目名	研究指導演習II		
担当教員	福岡 麻子	開講区分	単位数 後期 2単位

### 授業のテーマと到達目標

Seminar for Master's Thesis/Folio

修士論文ないしは修士フォリオの作成に向けて、指導教員およびコース教員で研究指導を行う。

### 授業の概要と計画

計画的に各自が研究を進め、その進捗状況を外国语教育システム論コースが開催する「研究指導演習」等で定期的に報告し、それに対して指導助言を行います。

### 成績評価と基準

最終的には、国際文化学研究科の規程に則り、審査を行い、評価します。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

### オフィスアワー・連絡先

適宜相談に応じます。オフィスアワー等については、初回授業時にお知らせします。

### 学生へのメッセージ

授業、ゼミの他、関係学会・研究会などに積極的に出席・参加、発表をおこない、幅広い理解と情報収集に努めてください。

### 今年度の工夫

### 教科書

### 参考書・参考資料等

### 授業における使用言語

日本語

### キーワード

Course title	Academic Writing (English)		
Instructor	KIHARA Emiko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The objectives of this class are as follows:  
 To improve the ability to effectively write academic topics in English,  
 To learn the basic skill for writing academic English.

### Description and Schedule

This course is designed to support students in writing an essay about their academic interests in English. To this end, students will practice a variety of skills that help writers express better to their readers, such as logical writing, paragraph writing, critical thinking, describing and explaining data effectively.

Students will have plenty of opportunities to write English and learn academic English in this class, through essay assignment, TOEFL TWE Quiz, Academic English Quiz, peer feedback discussions.

The essay assignment will ask students to write a personal statement (for your future job) related to their major field of study. In addition, students will revise their essay every week based on peer feedback in class.

TOEFL TWE Quiz will ask students to write an essay in 15 minutes. This essay will be returned the following week, after a teaching assistant and the teacher write down feedback.

Academic English Quiz will ask students to answer several questions about academic usage and expressions used in English academic papers.

### Evaluation

1. Weekly Assignment : 20%
2. Weekly Quiz : 20%
3. Practice Test ( twice ) : 30%
4. Final Essay : 30%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

This class accepts only 15 students in the Master's course of Graduate School of Intercultural Studies. The students will be selected by Placement Test on April 15.

The 15 students will be announced by email in 1-2 days.

### Office Hour and Contact Information

Room #: D620  
 Date: Monday 2nd period  
 email: e.sakubun@gmail.com  
 Notice: Remember to arrange your appointment in advance.

### Message

This class asks students to make the use of the following three basic IT skills:

- 1.type and spell-check English using a word processor software
- 2.save the file as text file (.txt)
- 3.send and receive emails with attachment files

### Improvements in Teaching

This class asks students to register for " Academic Communication " (Fall Semester) as well. (The textbook "Giving Academic Presentations" is to be used in Academic Communication.)

### Textbook

The Elements of Style (4th ed.). / Strunk Jr., William & White, E. B. : Longman ,2000年 ,ISBN:020530902X  
 Giving Academic Presentations (Michigan Series in English for Academic & Professional Purposes) illustrated edition版 / Susan M. Reinhart : University of Michigan Press ,2002年 ,ISBN:047208884X

## Reference Materials

A Pocket Style Manual: Includes 2009 MLA & 2010 APA Updates / Diana Hacker, Nancy Sommers, Tom Jehn, Jane Rosenzweig : Bedford/St Martins ,2010年 ,ISBN:031266480X

First moves : an introduction to academic writing in English / Paul Rossiter : 東京大学出版会 ,2004年  
,ISBN:4130821210

Writing for Academic Purposes 英作文を卒業して英語論文を書く / 田地野 彰、ティム・スチュワート、デビッド・ダルスキー : ひつじ書房 ,2010年 ,ISBN:4894764903

成功する科学論文 ライティング・投稿編 / Janice R. Matthews (著), Robert W. Matthews (著), 畠山 雄二 (翻訳), 秋田 カオリ (翻訳) : ,2009年 ,ISBN:4621081357

## Classroom Language

The instruction is spoken in Japanese, but the essays are to be written in English.

## Keywords

Course title	Second Language Academic Skills I		
Instructor	KIHARA Emiko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The objectives of this class are as follows:  
 To improve the ability to effectively write academic topics in English,  
 To learn the basic skill for writing academic English.

### Description and Schedule

This course is deigned to support students in writing an essay about their academic interests in English. To this end, students will practice a variety of skills that help writers express better to their readers, such as logical writing, paragraph writing, critical thinking, describing and explaining data effectively.

Students will have plenty of opportunities to write English and learn academic English in this class, through essay assignment, TOEFL TWE Quiz, Academic English Quiz, peer feedback discussions.

The essay assignment will ask students to write a personal statement (for your future job) related to their major field of study. In addition, students wil revise their essay every week based on peer feedback in class.

TOEFL TWE Qiuz will ask students to write an essay in 15 minutes. This essay will be returned the following week, after a teaching assistant and the teacher write down feedback.

Academic English Quiz will ask students to answer several questions about academic usage and expressions used in English academic papers.

### Evaluation

1. Weekly Assignment : 20%
2. Weekly Quiz : 20%
3. Practice Test ( twice ) : 30%
4. Final Essay : 30%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

This class accepts only 15 students in the Master's course of Graduate School of Intercultural Studies. The students will be selected by Placement Test on April 15.

The 15 students will be announced by email in 1-2 days.

### Office Hour and Contact Information

Room #: D620  
 Date: Monday 2nd period  
 email: e.sakubun@gmail.com  
 Notice: Remember to arrange your appointment in advance.

### Message

This class asks students to make the use of the following three basic IT skills:  
 1.type and spell-check English using a word processor software  
 2.save the file as text file (.txt)  
 3.send and receive emails with attachment files

### Improvements in Teaching

This class asks students to register for " Academic Communication " (Fall Semester) as well. (The textbook "Giving Academic Presentations" is to be used in Academic Communication.)

### Textbook

## Reference Materials

### Classroom Language

The instruction is spoken in Japanese, but the essays are to be written in English.

### Keywords

Course title	Computer Skills Development		
Instructor	MORISHITA Junya	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

No matter what your major or vocation, knowing how to use computer software is an important skill. This course is designed for students to acquire basic information literacy which is required to proceed your academic activities in our school.

### Classroom Language

japanese

Course title	Computer Skills		
Instructor	MORISHITA Junya	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

No matter what your major or vocation, knowing how to use computer software is an important skill. This course is designed for students to acquire basic information literacy which is required to proceed your academic activities in our school.

### Classroom Language

japanese

Course title	Academic Writing (Japanese)		
Instructor	MIZUNO Mariko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This class will acquire the ability to write Japanese academic articles, which contain some teachers on students' major fields.

### Classroom Language

Course title	Seminar in Modern Culture-Information Literacy		
Instructor	KANEDA Junpei	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course will provide you an introductory instruction for academic usage of non-text data namely images, sounds and motion pictures. Humanities as well as social science nowadays require students and researchers to acquire skills or literacy enough to deal with digital media in order to analyze data collected from fieldwork or experiment using sound recorders and/or videocams. In addition, now the data-sharing age, your research may be needed to show in the Internet and share to other researchers or citizens all over the world, so this course will show you how to process, upload and share your media data in the Web.

The goal is to acquire skills or literacy to deal with media data by yourself and to make use of them to your research or business activities. In every class you will use PCs and multimedia devices and process data you have collected on your research or in your life.

### Description and Schedule

You will learn things as shown below:

- Digitalizing images and retouching them
- Shooting, processing and authoring video and audio data
- Uploading and sharing your data in the Web
- Protecting of copyrights, portraiture rights, privacies etc.

### Evaluation

Class activities: 20%

Assignments (including the final assignment): 80%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Everybody are welcome. No specific knowledge or skills about multimedia processing are required in advance, but you need to have PC literacy at no lower than a basic level.

### Office Hour and Contact Information

Please contact me by mail: its.annex [at] gmail.com (replace [at] with @)

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

No textbooks are needed.

### Reference Materials

昔の映像・音楽・写真をデジタル化する方法 / 村上俊一 : 翔泳社 ,2010 ,ISBN:978-4798120171  
準デジタル・アーキビスト / 後藤忠彦・高納成幸・片桐郁至・谷口知司 : 日本文教出版 ,2008  
ISBN:978-4536600088

デジタルアーカイブ 基点・手法・課題(文化とまちづくり叢書) / 笠羽 晴夫 : 水曜社 ,2010 ,ISBN:978-4880652450

### Classroom Language

Japanese (Supplementary information/instructions in English if needed)

## Keywords

Course title	Issues in Communication		
Instructor	YAMADA Reiko	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

The aim of this class is to understand the role of speech in foreign language learning, through lecture, demonstration and experiments on speech science, and basic lessons on spectrogram reading technique.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Asia-Pacific Culture Studies		
Instructor	HAGIHARA Mamoru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The theme is the introduction to Manchu language and the training of reading Manchu resources. Our purpose is to learn the Manchu language which was the official language of Qing dynasty in China, and to read the historical documents written in Manchu language.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Transcultural Studies		
Instructor	KITAMURA Yuika	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

An overview of the Heian classics, with some attention to their reception in pre-modern periods.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Japanese Language and Culture		
Instructor	KONNO Nobuyuki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

It is said that the Tenno system is a tradition peculiar to Japan. Although evaluated before highly, still such evaluation is visible only to a conservative intellectual's speech these days. However, as a fact the Imperial Household is continued till today. Why was the Imperial Household continued till the present age? Is it necessary in accidental one?

I would like to set up the theme "the Japanese thought seen from an Emperor view", and to examine Japanese various Emperor views historically by this lesson, for the purpose of acquiring the key of the answer to such a difficult problem.

### Classroom Language

Course title	Science, Technology and Civilization		
Instructor	MIURA Nobuo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

History of Mathematics in the civilisations

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Literary and Visual Culture in North America		
Instructor	NISHITANI Takuya	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A comparative study of American fiction and film.

### Description and Schedule

1. Narration in fiction and film.
2. What novels can do and films can't and vice versa.
3. Poetry, theater, and film.
4. Problems in adaptation.
5. Adaptation by the novelist.
6. Examples.

### Evaluation

Activities in the class: 50%

Term paper: 50%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Read texts very carefully.

### Office Hour and Contact Information

takuyan@kobe-u.ac.jp

### Message

### Improvements in Teaching

Presentations by students are more than welcome.

### Textbook

Materials will be distributed in the class.

### Reference Materials

### Classroom Language

Mainly Japanese.

Some materials are in English.

### Keywords

American fiction, American film, adaptation.

Course title	International Relations		
Instructor	SAKAI Kazunari	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This class focuses on analysis of European integration, especially its political and socio-cultural aspects.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Intercultural Relations		
Instructor	SHIBATA Yoshiko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

We will examine series of socio-cultural phenomena which have been specifically problematized in the modern world, such as: diaspora, glocalization, transnationality, multicultural co-existence, hybridity, and creole/creoleness. Those topics are considered particularly in terms of colonialism and post-colonialism. Our specific interests are: intermarriage, tourism, development, and popular culture, and I use examples from the Caribbean and its diaspora world, where different kinds of movement/migration, (dis)location, conflicts and/or collaboration/co-operation among different races/ethnic groups and cultures, creolization and hybridization, multicultural co-existence, creation of new cultures have constantly been observed. The class will be conducted interactively with students based on lectures and discussions.

### Classroom Language

Japanese, English if necessary

Course title	Culture and Society in the Slavic World		
Instructor	青島 陽子	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The Ruling System of A Empire: The Russian Empire, the Soviet Union, and the Russian Federation  
 This lecture will focus on the imperical systems of Russia, which emcompasses various religious and ethnic groups. It will trace foundation, breakdown and resturction of the ruling system in Russia.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in International Politics and Societies		
Instructor	YASUOKA Masaharu	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

We will read Congressional research reports every week in order to analyse international affairs and american foreign policy.

**Classroom Language**

Spoken Japanese and Written English

Course title	Seminar in Japanology		
Instructor	OSA Shizue	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

This lecture supports the capability for decoding a text as historical text.

**Classroom Language**

Course title	Seminar in International Politics and Societies		
Instructor	SAKANO Tomokazu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

It is aimed to examine Europeanization by the most new text which provides a systematic assessment of Europeanization and a synthesis of the existing theoretical debates and empirical research in this area. Among other things, we are concerned with following subjects: which impacts European integration has on national institution, in particular executives, parliaments, party and interest groups as well as domestic policy and foreign policy by addressing the adjustments made by national administration.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Japanology		
Instructor	ITAKURA Fumiaki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course will explore different themes and methodologies of film studies, focusing on mainly Japanese cinema. Each student will give at least one presentation in the class.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in International Politics and Societies		
Instructor	NAKAMURA Satoru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course aims to introduce a perspective to combine international security studies and area studies. This seminar aims participant master basics on international security studies. The selection of case studies will be mainly on the Middle East conflicts and their prevention.

### Description and Schedule

Reading list will be distributed at first class.

### Evaluation

- Preparation and presentation.
- Participation in discussion.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Friday 12:20-13:10.

### Message

A high standard applied academic skill will be acquired by participants in this seminar.

### Improvements in Teaching

This seminar aims to create an interdisciplinary perspective to harmonize international security studies and area studies.

### Textbook

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese. English is possible if any students request.

### Keywords

International security studies, Middle East, Islam, Area Studies, Interdisciplinary Studies.

Course title	Science, Technology and Society		
Instructor	TSUKAHARA Togo	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Multiethnicity in North America		
Instructor	INOUE Hirotaka	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This semester we focus on the relationship between social problems and mass media in the United States and other countries. Only through the media can people in the modern society approach the reality of their society. Therefore it is important to know the process in which most of social realities are manufactured as news and the agenda-setting takes place through the mass media if we make deep study and research into a specific research field. In this class we read the texts on media politics and discuss issues about it.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

ニュース・メディアと世論 / マックスウェル・マコームズ、デービッド・ウィーバー、エドナ・AINSEYER : 関西大学出版部 , 1994年 , ISBN:978-4873541723  
 メディア仕掛けの政治 現代アメリカ流選挙とプロパガンダの解剖 / ドリス・A・グレイバー : 現代書館 , 1996年 , ISBN: 978-4768466896

## Reference Materials

世論(上)・(下) / ウォルター・リップマン : 岩波文庫 ,1987年 ,ISBN:978-4003422212

## Classroom Language

In this class, the medium of language is Japanese.

## Keywords

Course title	Seminar in European and American Culture Studies		
Instructor	TANIMOTO Shinsuke	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Thema: myth, legend and fantasy in the european culture

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Intercultural Relations		
Instructor	UMEYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

Students will develop their skills for research, analysis, and effective rhetoric to write their essays and dissertations in cultural and social anthropology.

#### Description and Schedule

(Leave blank)

#### Evaluation

(Leave blank)

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

#### Office Hour and Contact Information

(Leave blank)

#### Message

(Leave blank)

#### Improvements in Teaching

(Leave blank)

#### Textbook

Magical Interpretations, Material Realities / Moore, Henrietta & Todd Sanders : Routledge ,2001  
ISBN:0-415-25867-7

#### Reference Materials

呪術化するモダニティ / 阿部・小田・近藤 : 風響社 ,2007 ,ISBN:978-4-89489-119-7  
呪術の人類学 / 白川・川田 : 人文書院 ,2012 ,ISBN:978-4-409-53042-9  
/ スピリチュアル・アフリカ : 落合 (編) ,2009 ,ISBN:978-4-7710-2089-4

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Ethnology		
Instructor	UMEYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Our goal is to introduce ethnographic facts in order to briefly discuss the history of cultural and social anthropology and to understand the diverse ways of life of all ethnic groups around the world.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

文化人類学群像 1 / 綾部（編）：アカデミア出版, 1985, ISBN:ASIN: B000J6M7MY  
 文化人類学群像 2 / 綾部（編）：アカデミア出版, 1988, ISBN:ASIN: B000J6M7MY  
 文化人類学のエッセンス / 蒲生（編）：ペリカン, 1978, ISBN:1039-782181-7612

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Seminar in Transcultural Studies		
Instructor	TODA Masaru	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar on Koizumi Yakumo and his transcultural creation of Kwaidan.  
His Japanese sources will be examined and compared with the original texts.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Traditional Japanese Literature		
Instructor	KINOSHITA Motoichi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

**Classroom Language**

Japanese (usually use Classical Japanese and Classical Chinese)

Course title	Seminar in Asia-Pacific Culture Studies		
Instructor	WANG Ke	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Latin America and Global History		
Instructor	OZAWA Takuya	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Theme: Globalization of Foods

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Intercultural Relations		
Instructor	OKADA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in European and American Culture Studies		
Instructor	SAKAMOTO Chiyo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Participants will read closely some books on Paris (culture, history, monuments etc), and discuss about them.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Religion and Culture in Britain		
Instructor	NOTANI Keiji	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

Religion and Culture in Britain

**Description and Schedule**

**Evaluation**

**Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects**

**Office Hour and Contact Information**

**Message**

**Improvements in Teaching**

**Textbook**

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Japanese Performing Arts		
Instructor	TERAUCHI Naoko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

'Aesthetics and practices of Japanese performing arts'  
 In Japan, there are a variety of traditional performing arts, which have maintained idiosyncratic aesthetics and practices. Some aesthetical thoughts seem to hold universal value that go beyond periods, and others might carry only limited meaning within a particular genre of a particular period. This class explores practice, artists' social status, value and meaning, aesthetics and thoughts toward Japanese performing arts, all through analyzing historical sources concerning arts.

### Description and Schedule

Following texts will be focused on; Ryojin-hisho, Rakuyo-dengakuki, Kyokunsho, Zanyaho, and Fushikaden

### Evaluation

attendance 20%, discussion 10%, presentation 30%, paper 40%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Students are required to have a basic knowledge of Japanese classical language.

### Office Hour and Contact Information

by appointment (naokotk(at)kobe-u.ac.jp)

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

aesthetics gagaku imayo engaku noh

Course title	Culture and Society in Oceania		
Instructor	KUBOTA Sachiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Understand the current academic trends of Anthropology and learn the way to connect one's own research theme with it.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Social Anthropology		
Instructor	YOSHIOKA Masanori	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The aim is to learn knowledges concerning Social Anthropology or Cultural Anthropology.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Transcultural Studies		
Instructor	YAMAZAWA Takayuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Training for writing a M.A. thesis.

**Classroom Language**

Japanese.

Course title	National Integration in Southeast Asia		
Instructor	SADAYOSHI Yasushi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

to make basis of academic attitude through considering and debating on so-called Chinese problems in national integration of Indonesia.

**Classroom Language**

Japanese, Indonesian, Mandarin, English

Course title	Politics in Multicultural Society		
Instructor	近藤 正基	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

In this course we review multicultural politics in OECD countries, especially Japan and Continental Europe.

**Classroom Language**

Japanese, German, English

Course title	Seminar in European and American Culture Studies		
Instructor	ISHIZUKA Hiroko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

We study a few aspects of British society and cultures, especially those of the Victorian era, reading novels or a text on the cultures.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Human Communication		
Instructor	MATSUMOTO Eriko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Through reading papers and discussion, students will deeply understand the recent progress in the field of cognitive psychology/neuroscience. This will help to advance research which investigates visual perception, attention, and social interaction in humans.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Computers and Communication		
Instructor	KANG Min	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Introduction to data analysis with R.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Second Language Learning and Technology		
Instructor	KASHIWAGI Harumi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This class will provide students with basic knowledge of foreign language education.

### Description and Schedule

Based on reading articles or chapters of the handbook, students will have some presentation session or discussion.

### Evaluation

- (1) participation & prentation 40%
- (2) mid-term report & assignment 30%
- (3) final report 30%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Notice: Remember to arrange your appointment in advance by sending me an email.  
kasiwagi@kobe-u.ac.jp、Room: D610

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

詳細については授業で説明する。 / : ,ISBN:  
「英語教育学大系」第1-13巻 / : 大修館書店, ISBN:

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

## Keywords

Course title	Information Systems and Databases		
Instructor	KIYOMITSU Hidenari	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Information Retrievals and Database Systems. The purpose of this class is to explore the Relationships between Logic and Technology.

### Description and Schedule

This class consists of three parts.

- Automata Theory, Languages and Computation.
- Relational Database.
- Semi-Structured Data and its Management.

### Evaluation

Students must attend all classes. The total evaluation is made by his presentations in the classes.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Attendance is expected, and may be recorded from time to time. Absences for legitimate professional activities and illnesses are acceptable only if prior notice is given to the instructor by e-mail. Scheduling conflicts with your work, extra-curricular activities, or any other such activities is not a valid excuse.

### Office Hour and Contact Information

E-Mail:kiyomitsu@carp.kobe-u.ac.jp

### Message

I expect you to observe the highest ethical standards. Simply put, we count on you to do the right thing. You are expected to always do your own work.

### Improvements in Teaching

From this year, students must file reports proposed in the lecture.

### Textbook

Reference documents will be introduced when it needs.

### Reference Materials

Reference documents will be introduced when it needs.

### Classroom Language

(Mainly)Japanese, English

### Keywords

Automata Theory, Relational Database, Semi-Structured Data

Course title	言語文化表象論特殊講義		
Instructor	SHIMAZU Atsuhsia	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Introduction to Jewish American Culture

**Classroom Language**

Japanese and English

Course title	Applied Contrastive Linguistics II		
Instructor	ZHU Chunyue	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

How can one pronounce a certain sound “ accurately ” ? Even when that sound is substantially the same, it may sound different to people with different native languages. How is this possible? How do intonation and modulation express the speaker ’ s emotions, attitudes and intentions? How can we teach the pronunciation of a foreign language efficiently? These will be the themes for this class. The focus of this class is not only theory but practice as well. Students who are interested in language phonetics, pronunciation and teaching pronunciation are welcome

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Linguistics and Communication Studies		
Instructor	YUASA Hideo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The aim of this seminar is to discuss functions and usage of living languages. Languages which are used as examples are mainly Japanese and English.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Art in Contemporary Society		
Instructor	ASAKURA Mie	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

This class will consider the characteristic of modern and contemporary art from the point of view of fashion. This semester, we will focus on fashion design of painter Sonia Delaunay, who participated actively in the Paris fashion world of the 1910-20s.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Second Language Acquisition		
Instructor	TANAKA Junko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course aims: (1) to help students to be informed of major theories in second language acquisition (SLA), and (2) to help students to set a research theme of their own in the domain of experimental language acquisition studies.

### Description and Schedule

Chapter 1 . Introduction  
 Chapter 2 . Age (1) (2) (3)  
 Chapter 3 . Crosslinguistic influences (1) (2) (3)  
 Chapter 4 . The linguistic environment (1) (2) (3)  
 Presentations (1) (2)

The above schedule is subject to change. In addition, an opportunity to search the literature hands-on or video viewing will be added.

### Evaluation

attendance (20%)  
 assignments (30%)  
 presentation & term paper (50%)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Students need to finish the reading assignments prior to the class

### Office Hour and Contact Information

Tuesdays lunch time.  
 Advance appointment by email is necessary.

### Message

SLA is a discipline that can be a foundation to other related areas such as psycholinguistics, immersion education, bilingualism, and TEFL. Students who are interested in those disciplines are encouraged to take this course.

### Improvements in Teaching

### Textbook

Understanding second language acquisition. / Ortega, L. : ,2009 ,ISBN:978-0340905593

### Reference Materials

Shirahata, T., Muranoi, H., Wakabayashi, S., & Tomita, Y. (2009). Eigo kyooiku yoogo ziten. Tokyo: Taisyuukan.  
 Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics (4th Edition). / Richards, J. C., & Schmidt, R. W. : London: Longman ,2010 ,ISBN:978-1408204603  
 英語教育用語辞典 / 白畑知彦 , 村野井仁 , 若林茂則 , 富田祐一 : 東京 : 大修館書店 ,2009 ,ISBN:978-4469245394  
 Second Language Acquisition: An Advanced Resource Book / de Bot, K., Lowie, W., & Verspoor, M. : ,2006 ,ISBN:9780415338707

### Classroom Language

Mostly in Japanese.  
 English will be used to English speakers.

### Keywords

second language, introductory course, language acquisition.

Course title	Seminar in Modernity Studies		
Instructor	ISHIDA Keiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This seminar aims to examine the transition of aesthetics and politics in modern era by reading Jacques Ranciere's *Le Partage du sensible*.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Contemporary Social Issues		
Instructor	MUNAKATA Satoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This seminar examines fundamental social issues concerning gender in our time through reading textbooks pertinent in surveying these issues.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Computers and Communication		
Instructor	OHTSUKI Kazuhiro	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This class discusses about topics on computer communication systems by surveying new technical papers, and trains network programming.

**Classroom Language**

japanese

Course title	Seminar in Contents in Second Language Education		
Instructor	GREER Tim	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This class will introduce students to micro analytic investigation of naturally occurring interaction, with a particular emphasis on second language talk.

### Description and Schedule

- 1 Overview and Introduction
- 2 Transcribing talk
- 3 Turn-taking
- 4 Sequence
- 5 Adjacency
- 6 Preference
- 7 Repair
- 8 A single case study
- 9 Multimodality
- 10 Identity and interaction
- 11 Building a collection
- 12 What is not DA
- 13 Data Session
- 14 CA and Learning
- 15 CA for SLA

### Evaluation

Students will be graded holistically based on their active participation in class. They will also complete a two part assignment in which they will (1) transcribe a short piece of data using CA transcription conventions and (2) work up some preliminary analytic observations on that data and present them to the group in both written and oral form.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Monday 12:10- 13:00

### Message

This class will primarily be conducted in English. Students are expected to contribute actively to the discussion and to read extensively in English.

### Improvements in Teaching

### Textbook

Teacher prepared materials, to be handed out in the initial class

### Reference Materials

Conversation Analysis and Second Language Pedagogy / Jean Wong and Hansun Zhang Waring : Routledge ,2010  
ISBN:

### Classroom Language

English

**Keywords**

Pragmatics, Second Language Learning, Conversation Analysis, Discourse

Course title	Comparative and Contrastive Linguistics		
Instructor	HAYASHI Hiroshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Discussion of some topics in Japanese linguistics from a viewpoint of contrastive linguistics

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Interpersonal Communication		
Instructor	MAIYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

In this course, students and teacher discuss various topics related to interpersonal communication, using English monograph and VTR as textbooks.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Gender and Society		
Instructor	AOYAMA Kaoru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course looks at "Globalisation of Care" from multiple dimensions: discourse of care, political/economic/cultural system and personal hopes, motivation or pressures, etc. It also tries to theoretically link the relationship between society and agents to social changes.

### Description and Schedule

This course explores globalisation of care in the following areas: trafficking in persons - which has become a big issue in the discourses of the UN; the ethics of care which has become fashionable in today's academic and social discourses; inter-state relationships and civil society; and the voluntary movement of workers, particularly those who are involved in care work including elderly care, nursing, housework and sexwork. Audio-visual material may be used if time permits.

### Evaluation

Participation and contribution to the class: 40% and An end-of-term essay: 60%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

The rough design of this course will be one half of the term consisting of lectures and the other of participants' presentations on designated texts although this will depend on the numbers of participants. In-depth English reading is a must.

Basic non-absence is a requirement.

### Office Hour and Contact Information

Office Hour: Monday 5th hour; Wednesday 4th hour and Friday 4th hour. Contact: kaoru@jca.apc.org (clarify who you are when emailing)

### Message

The Theme of this course above can be changed with negotiation, or as the contemporary topic of the time requires. Proactive participation is a must.

### Improvements in Teaching

Relevant teaching material and/or references are distributed when needed.

### Textbook

There is no fixed textbook. The following texts are referred to frequently.

### Reference Materials

「セックスワーカー」とは誰か：移住・性労働・人身取引の構造と経験 / 青山薫：大月書店,2007 ,ISBN:国際移動と「連鎖するジェンダー」：再生産領域のグローバル化 / 伊藤るり、足立眞理子編：作品社,2008 ,ISBN:

### Classroom Language

Japanese. But you may write the term-end essay in English.

### Keywords

Course title	Teaching Japanese as a Second Language (Method)		
Instructor	SAITO Miho	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this course is to learn how investigation or research on education of Japanese language should be designed through reading academic papers of the related area.

### Description and Schedule

Each student will be required to contribute the discussion on the academic papers after reading them regarding to the research method and application of the result.

### Evaluation

Evaluation standard:

- 1 . Attendance and performance in class : 50%
- 2 . Final report : 50%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Students are required to read the papers selected to be read in class in advance.

### Office Hour and Contact Information

13:00-14:30 on Thursday ( Recommended to contact in advance )

E-mail:msaito@people.kobe-u.ac.jp

Tel:078-803-5274

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

English papers may be taken up.

## Keywords

Course title	Applied Computer Science		
Instructor	NISHIDA Takeshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this course, we discuss how information technology should be applied to our daily activities by looking at various researches in the following two fields: Human-Computer Interaction (HCI) and Computer-Supported Cooperative Work. Students will be able to read and understand research papers in the fields.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Contents in Second Language Education		
Instructor	KIHARA Emiko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this class is to analyze English written by L2 learners and to write a term paper about L2 writing. In order to achieve these goals, in class, you read papers about English writing in ESL studies.

### Description and Schedule

In this class, you are expected to work on the following activities:

#### READING:

You read academic papers about L2 writing in advance. (The papers are to be given in advance.)

#### HANDOUT:

One or two of you make a handout about the paper that you read in advance and make a presentation in class.

#### DISCUSSION:

All of you critically discuss problematic issues in the paper.

#### PRESENTATION:

You make a presentation about your analysis of L2 writing, at least once in a term. (The L2 written English are to be given in the beginning of the term.)

### Evaluation

Class participation: 10%

Reading, Handout, Discussion: 40%

Presentation: 20%

Term paper: 30%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Room: #D620

Date: Monday 2nd period

email: kihara.grad@gmail.com

Notice: Remember to arrange your appointment in advance.

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

Papers are to be given. No textbooks.

## Reference Materials

リーディングとライティングの理論と実践 英語を主体的に「読む」・「書く」(英語教育学大系) / 大学英語教育学会(監修) : ,2010年,ISBN:4469142409  
テスティングと評価 4技能の測定から大学入試まで(英語教育学大系) / : 大学英語教育学会(監修) ,2011年,ISBN:4469142433  
Dimensions of L2 Performance and Proficiency: Complexity, Accuracy and Fluency in SLA (Language Learning & Language Teaching) / : ,ISBN:9027213062

## Classroom Language

The instruction is spoken in Japanese and English. The papers to be given are written in English.

## Keywords

L2 writing, grammar of L2 learners, analysis from a perspective of Cognitive Linguistics

Course title	Contemporary Cultural Policy		
Instructor	FUJINO Kazuo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Over the complex relationship between art and society, according to the paper by considering the study of social sciences and the arts mainly. Grab a clue to improve the environment and Japanese art and culture.

**Classroom Language**

japanese

Course title	Applied Linguistics II		
Instructor	ISHIKAWA Shin'ichiro	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Content: Introduction to Corpus Linguistics

Aim: To understand the outline of corpus linguistics and the corpus-based research methodologies

**Classroom Language**

Japanese, English

Course title	Seminar in Modernity Studies		
Instructor	CHO Shigeru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course aims to deepen technical understanding of social theory.

### Description and Schedule

We will read A. Schutz's *"The Structures of the Life-World"* and N. Luhmann's *"Soziale Systeme"*

### Evaluation

Attendance, active participation.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Friday 13:00-13:20

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

/ : , , ISBN:

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

Course title	Seminar in Systems of Second Language Education		
Instructor	KATO Masayuki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course is an advanced seminar to cover the issues on "World Englishes" and "English as an International Language".

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Psycholinguistics and Language Teaching		
Instructor	YOKOKAWA Hirokazu	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Seminar in Linguistics and Communication Studies		
Instructor	FUJINAMI Fumiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Translation Studies. The purpose of this class is to explore the relationship between translation and culture in a context. Students will compare and analyze translated texts.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Human Communication		
Instructor	SADANOBU Toshiyuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Through presentations and intensive discussion, students will achieve deep understanding of the conception of "characters" in language and communication.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Contents in Second Language Education		
Instructor	MASUDA Yoshikazu	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Modern Political Thought		
Instructor	UENO Naritoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar on the Frankfurt School

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Bioinformatics		
Instructor	MURAO Hajime	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The purpose of the course is to understand communication and information processing of living organisms, and how utilize them in computer science through a lecture and exercises.

### Description and Schedule

The following topics will be mentioned in the course:

- Neural networks
- Reinforcement learning
- Genetic algorithms
- Hidden Markov Model
- Bayesian inference
- etc.

### Evaluation

The grade will be based on participation and attitude (40%) and assignments (60%).

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Please contact by e-mail beforehand.  
E-mail: hajime.murao@mulabo.org

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

Textbook will be specified at the first class.

### Reference Materials

References will be indicated at the class if necessary.

### Classroom Language

Japanese, English

### Keywords

Course title	Linguistic Science		
Instructor	PINTER Gabor	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Seminar in Contemporary Social Issues		
Instructor	SAKURAI Tetsu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

#### What Is Global Justice?

Theories of global justice have been discussing whether there can be any fair principles which coordinate the distribution of benefits and burdens not just in a society but also across national boundaries. Recently the idea of global justice has become one of the most burning issues in social sciences, particularly in politics, philosophy, international relations and legal philosophy. This class examines basic articles in English on global justice by leading theorists, such as John Rawls, Peter Singer, Robert Goodin, and Thomas Pogge, and aims to understand the theoretical foundations of the idea of global justice.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Contents in Second Language Education		
Instructor	YAMATO Kazuhito	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

【them of this class】

basics of second language acquisition / applied linguistics and its methodology

【objectives of this class】

this class will provide students with basic knowledge of SLA / applied linguistics.

### Description and Schedule

Based on reading articles or chapters of the handbook, students will have some presentation session or discussion.

### Evaluation

- (1) attendance 20%
- (2) participation 30%
- (3) assignment 50%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

外国語教育研究ハンドブック / 竹内理 : 水本篤 ,2012 ,ISBN:9784775401835

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese and English

## Keywords

Course title	Media and Cultural Studies		
Instructor	OGASAWARA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Topic: The Body in Contemporary British urban Culture

Participants are required to read a variety of texts in the field of urban studies in its widest sense, in relation to the body in imaginary as well as physical senses.

### Description and Schedule

- 1. Introduction
- 2. Streets
- 3. Public Sphere
- 4. Sexuality
- 5. The Odor
- 6. The Visual
- 7. The Auditory
- 8. Sports
- 9. The Constituent Body
- 10. Summary

The class consists of lecture, discussion and summary.

### Evaluation

Participation, understanding and the end of term assignment

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Your willingness to read English texts and to discuss in English is a key to the participation.

### Office Hour and Contact Information

Thursday lunch time  
hiroko@kobe-u.ac.jp  
ext.7464

### Message

Challenge and make effort, otherwise why are you here in this graduate school?

### Improvements in Teaching

### Textbook

Introduced in the first meeting.

### Reference Materials

Introduced in the class.

### Classroom Language

Japanese or English

### Keywords

City, Location, Streets, Philosophy, and the Body

Course title	Seminar in Art, Culture and Society		
Instructor	IWAMOTO Kazuko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this seminar we examine and deepen our understanding on the evolution and various aspects of artistic activities with their background of political and social systems. Students trains to develop their literacy skills for analyzing works of arts and their skills for research, presentation and discussion.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Modern Economic Thought		
Instructor	ICHIDA Yoshihiko	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Visual Arts and Modern Society		
Instructor	YOSHIDA Noriko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The aim of this class is to consider the problems of modern society and art representation by using as main material French paintings from the 19th century to the beginning of the 20th century.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Bioethics		
Instructor	YAMAZAKI Yasuji	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

This lecture provides a clear perspective over contemporary issues concerning bioethics and norms through reviewing several texts of pertinence.

### Classroom Language

Course title	Seminar in Linguistics and Communication Studies		
Instructor	YONEMOTO Koichi	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

#### Theme and Objectives

The aim of this seminar is to consider and discuss the problems of verbal communication by reading a textbook dealing with the relationship between language and gender.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

プリントを配布する / : , , ISBN:

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Cultural Representation		
Instructor	MATSUYA Rie	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This course will focus on the representations of the city and the country in the 19th century English literature and their a socio-historical background.

**Classroom Language**

Japanese and English

Course title	Seminar in Art, Culture and Society		
Instructor	IKEGAMI Hiroko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This seminar examines the issue of site-specific art by reading Miwon Kwon's One Place After Another. Students will read this text on the subject and make a presentation according to their own interest and chosen topic. By doing so, they will train their ability to analyze works of art and deliver their opinion to others.

### Classroom Language

Japanese and/or English

Course title	Seminar in Human Communication		
Instructor	MIZUGUCHI Shinobu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course introduces the system of sounds in Japanese, covering a range of topics including vowels, consonants, syllables, accents, intonation and phonemics. Students are required to do exercises to put their knowledge into practice.

### Description and Schedule

- 1:Introduction
- 2.English prosody, Three Ts and Three tones : 3.Statements, Questions and Other sentence types 4. Sequence of tones
- 5. Tone meanings: Old and New Information, and Focus
- 6. Tonality
- 7. Summary

### Evaluation

assignments 30%  
report 70%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Basic knowledge of phonetics preferable

### Office Hour and Contact Information

Fri. 15.30-, and by appointment

### Message

Seeing is believing.

### Improvements in Teaching

By using software that visualizes sound waves and pitch, students know the very picture of their own sounds.

### Textbook

English Intonation / J.C.Wells : Cambridge University Press. ,2006 ,ISBN:9780521683807

### Reference Materials

### Classroom Language

English, Japanese

### Keywords

English  
intonation  
prosody  
pitch  
software

Course title	Issues in Intercultural Communication		
Instructor	ITO Tsutomu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Class Theme: Journalism and Understanding of the International Community

Freedom of the media is essential to democracy, as it serves the public by checking the use of power and responding to people's rights to knowledge. People access news through various types of media, which shape their opinions on everyday events including those outside their home countries.

As countries around the globe become increasingly interrelated, the role of the media is all the more important in understanding international affairs.

Based on the lecturer's decades-long experience of international reporting, the class will explore the ambitions and challenges of contemporary journalism from a global perspective.

The class will also focus on the issue of media literacy--the ability to analyze and evaluate media in various forms. Media literacy is a critical theme in today's journalism.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Modern Culture-Information Literacy		
Instructor	IIDA Taku	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course focuses on various kinds of information which don't necessarily accompany written language, aiming at mastering skill to "read" them. They include verbal and non-verbal languages, sounds, images, and 3D ethnographic objects.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Multicultural Societies		
Instructor	近藤 正基	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

In this course we review multicultural politics in OECD countries, especially Japan and Continental Europe.

**Classroom Language**

Japanese, German, English

Course title	Popular Culture and Modern Society		
Instructor	ASAKURA Mie	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This class will consider the characteristic of modern and contemporary art from the point of view of fashion. This semester, we will focus on fashion design of painter Sonia Delaunay, who participated actively in the Paris fashion world of the 1910-20s.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Language and Cultural Representation II		
Instructor	SHIMAZU Atsuhsia	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Introduction to Jewish American Culture

**Classroom Language**

Japanese and English

Course title	Seminar in Japanese Culture Studies		
Instructor	OSA Shizue	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

This lecture supports the capability for decoding a text as historical text.

**Classroom Language**

Course title	Seminar in Japanese Culture Studies		
Instructor	ITAKURA Fumiaki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course will explore different themes and methodologies of film studies, focusing on mainly Japanese cinema. Each student will give at least one presentation in the class.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Methods for the Behavioral Sciences		
Instructor	籠宮 隆之	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Introductory statistics for non-mathematicians. (1) Basic statics (sigma, mean, standard deviation). (2) Statistical tests including t-test, chi-square test and ANOVA. (3) Usage of R (a free software for statistics),

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Social and Behavioral Research Methods		
Instructor	籠宮 隆之	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Introductory statistics for non-mathematicians. (1) Basic statics (sigma, mean, standard deviation). (2) Statistical tests including t-test, chi-square test and ANOVA. (3) Usage of R (a free software for statistics),

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Language and Culture I		
Instructor	廣田 大地	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

By reading the studies of the French Linguistit, Emile Benveniste (1902-1976), especially his theorie about the utterance, we will study the basis of the modern linguistic which focuses often on the function of the communication.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Systems of Second Language Education		
Instructor	福岡 麻子	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Austrian post-war literature and the culture of remembrance: "Remembrance" is an important issue in Austrian post-war culture, including literature. The aim of this seminar is to acquire some knowledge about Austrian literature since 1945 and a perspective from which we can understand (literary) art in a historical context.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Art, Culture and Society		
Instructor	TATEOKA Kumi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Cultural Semiotics in 20th Century: Designs, Mass Media (TV), Films.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	WANG Ke	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	HAGIHARA Mamoru	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

I will lead to write the article for master degree about the history of Mongolia.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SHIBATA Yoshiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese, English if necessary

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	TODA Masaru	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YAMAZAWA Takayuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar for the advisees.

**Classroom Language**

Japanese.

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MIURA Nobuo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Hstory of Arabic Sciences

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	UMEYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for students writing the master ' s thesis/folio in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	TERAUCHI Naoko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

**Description and Schedule**

**Evaluation**

**Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects**

**Office Hour and Contact Information**

**Message**

**Improvements in Teaching**

**Textbook**

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	青島 陽子	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis/folio to the students in the researcher training program

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SAKAMOTO Chiyo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis to the students.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	NISHITANI Takuya	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SAITO Tsuyoshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This seminar is designed for the M.A. students who prepare their master theses, articles for academic journals, and some other papers that have equivalent level to the above-mentioned theses and articles. Students are required to submit their drafts in advance for the discussions in the course. To promote and assist writers to improve their drafts, attendants will discuss on the submitted drafts from various aspects, such as its content, structure of the article, the adequacy of the materials and the cases used in it, appropriateness of the way of explanation, and so forth.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	TSUKAHARA Togo	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	OSA Shizue	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	ITAKURA Fumiaki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this class is to develop each student ' s plan and concept of master thesis. Each student is required to read essays and books which are relevant to ones thesis and to report in the class.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SADAYOSHI Yasushi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

to make the first step to write each participant's thesis or folio.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YOSHIOKA Masanori	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KINOSHITA Motoichi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Guidance for study and writing papers.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KUBOTA Sachiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

To make clear the theme of MA thesis

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KITAMURA Yuika	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Research guidance for the master ' s thesis/folio/research report.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KONNO Nobuyuki	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	OKADA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SAKAI Kazunari	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

#### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SAKURAI Tetsu	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	FUJINO Kazuo	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	IWAMOTO Kazuko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	TATEOKA Kumi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Academic writing in Japanese.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	IKEGAMI Hiroko	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	ASAKURA Mie	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YOSHIDA Noriko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SADANOBU Toshiyuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Students will acquire basic knowledge and skill for completing their research papers.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YAMAZAKI Yasuji	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MORISHITA Junya	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KANG Min	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar for Master's Thesis/Folio I

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MURAO Hajime	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This is the consulting seminar to develop the proposal for the M.A. research projects.

### Description and Schedule

Necessary consultation for making the research proposal including information skills training will be given through the seminar.

### Evaluation

The grade will be based on participation and attitude (40pts) and resulting research proposal draft 1 (60pts).

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Please contact by e-mail beforehand.  
E-mail: hajime.murao@mulabo.org

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

No textbook is planned to be used.

### Reference Materials

References will be indicated at the class if necessary.

### Classroom Language

Japanese, English

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KIYOMITSU Hidenari	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

### Evaluation

The total evaluation is made by reports and presentations.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	NISHIDA Takeshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty adviser provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	FUJINAMI Fumiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YUASA Hideo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The aim of this seminar is to discuss the linguistic theme in which a student is interested.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	TANAKA Junko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course aims at fostering students basic skills to write master' theses or master's research papers.

### Description and Schedule

To be decided depending on students research theme.

### Evaluation

50% based on students' progress in their thesis preparation.

50% based on research projects

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

N/A

### Office Hour and Contact Information

Tuesday lunch time (may subject to change. appointment by email necessary)

### Message

N/A

### Improvements in Teaching

This course aims to help students plan their thesis research. Students need to be highly motivated to keep working on their thesis.

### Textbook

N/A

### Reference Materials

--

### Classroom Language

Mostly in Japanese. English may be used to English speakers.

### Keywords

Thesis research

--

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MAIYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The purpose of this course is to learn how to study interpersonal behaviors. Students are expected to learn how to start psychological research and to write scientific articles.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	OHTSUKI Kazuhiro	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MUNAKATA Satoshi	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

#### Description and Schedule

(Leave blank)

#### Evaluation

(Leave blank)

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

#### Office Hour and Contact Information

(Leave blank)

#### Message

(Leave blank)

#### Improvements in Teaching

(Leave blank)

#### Textbook

(Leave blank)

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MATSUMOTO Eriko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	OGASAWARA Hiroki	Lecture category	Credit(s)
1st semester 2			
<b>Theme and Objectives</b>			
Guiding students to writing master thesis and folio work			
<b>Description and Schedule</b>			
How to tackle subject-seeking, literature review, archival survey and other necessary guidance and supervision. Monitoring research and writing process.			
<b>Evaluation</b>			
Understanding, development, provisional achievement			
<b>Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects</b>			
<b>Office Hour and Contact Information</b>			
Thursday lunch time hiroko@kobe-u.ac.jp ext. 7464			
<b>Message</b>			
Seeking for pleasure of writing			
<b>Improvements in Teaching</b>			
<b>Textbook</b>			
For encouragement and courage, see this book, but no rush to buy. <i>The Art of Listening</i> / Les Back : Berg ,2007 ,ISBN:9781845201210			
<b>Reference Materials</b>			
<b>Classroom Language</b>			
Japanese or English			
<b>Keywords</b>			
Self-monitoring			

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	ISHIDA Keiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	ICHIDA Yoshihiko	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	UENO Naritoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar on Academic Writing

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	CHO Shigeru	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis / folio to the students in the researcher training program.

#### Description and Schedule

(Leave blank)

#### Evaluation

(Leave blank)

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

#### Office Hour and Contact Information

Friday 13:00-13:20

#### Message

(Leave blank)

#### Improvements in Teaching

(Leave blank)

#### Textbook

(Leave blank)

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MATSUYA Rie	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The aim of this course is to help students work on their theses.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	HAYASHI Hiroshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This seminar provides research guidance for the M.A. thesis and/or articles.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SAITO Miho	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this class is to learn the previous studies and to be able to apply their results to students' own researches in an appropriate way.

### Description and Schedule

Students will be required to introduce a previous study concerning their own research topics and discuss its problems and how they should be improved.

### Evaluation

Evaluation standard:

- 1 . Attendance and performance in class 20%
- 2 . Presentation 30%
- 3 . Final report 50%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

The student to give a presentation must prepare and distribute handouts to all participants beforehand. The other students must read them before the presentation.

### Office Hour and Contact Information

13:00-14:30 on THU (Recommended to contact in advance)  
E-mail:msaito@people.kobe-u.ac.jp

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Handouts

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YONEMOTO Koichi	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis to the students in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

使用しない / : , ,ISBN:

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MIZUGUCHI Shinobu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to students in the researcher training program.

### Description and Schedule

Guidance focuses on theoretical and methodological perspectives.

### Evaluation

discussion 100%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Friday 15.30 - and by appointments

### Message

Basics are important.

### Improvements in Teaching

Refer to HP for details.

### Textbook

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

methodology  
theoretical analysis

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KATO Masayuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YOKOKAWA Hirokazu	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

Seminar for Master's Thesis/Folio I

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	ISHIKAWA Shin'ichiro	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Content: Tutorial Seminar

Aim: To enhance the quality of the thesis by supervision

**Classroom Language**

Japanese, English

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KASHIWAGI Harumi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Research guidance Seminar (for Master's Thesis/Folio)

### Description and Schedule

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

### Evaluation

(Leave blank)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

### Office Hour and Contact Information

Notice: Remember to arrange your appointment in advance by sending me an email.  
kasiwagi@kobe-u.ac.jp、Room: D610

### Message

(Leave blank)

### Improvements in Teaching

(Leave blank)

### Textbook

詳細については授業で説明する。 / : ,ISBN:

### Reference Materials

(Leave blank)

### Classroom Language

Japanese

## Keywords

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	KIHARA Emiko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The goal of this seminar is

- 1: to explore theoretically cutting-edge questions about grammar teaching methods,
- 2: to analyze the questions within the framework of construction grammar (cognitive grammar),
- 3: to develop a research paper about a grammar teaching method that you are interested in from a cognitive approach.

Students should seek to actively engage with and respond to all instructional activities, (a) readings, (b) demonstrations, (c) homework exercise, (d) email communication. (Students can engage with the activities above either in Japanese or English.)

### Description and Schedule

- 1: READING: you read papers about Construction Grammar and SLA (especially about teaching grammar or writing).
- 2: PRESENTATION: you make a presentation once in a month about your term paper.

### Evaluation

Class participation: 10%  
 Reading and Presentation: 60%  
 Term Paper: 30%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Room #620  
 Date: Monday 2nd period  
 email: kihara.grad@gmail.com  
 Remember to arrange your appointment in advance.

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

Papers are to be given in class.

## Reference Materials

### Classroom Language

The instruction is spoken in Japanese, but the papers to be given are written in English.

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	GREER Tim	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Students in this class will explore a topic of their own interest, conducting an in-depth literature review and begin to gather some relevant data.

### Description and Schedule

This class is for thesis supervision at the graduate level. Students will meet regularly with the supervisor to develop an original thesis paper.

### Evaluation

Holistic evaluation of the students' progress, including regular presentation and group supervision meetings and thesis preparation.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Empty form area)

### Office Hour and Contact Information

Monday 12:10 to 13:00

### Message

Students will be expected to write their paper in English.

### Improvements in Teaching

(Empty form area)

### Textbook

(Empty form area)

### Reference Materials

As appropriate

### Classroom Language

English, Japanese

### Keywords

Supervision

(Empty form area)

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	ZHU Chunyue	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

consultation for completing research paper

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	MASUDA Yoshikazu	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YAMATO Kazuhito	Lecture category	Credit(s)
1st semester 2			
<b>Theme and Objectives</b> <consultation for completing research paper>			
<b>Description and Schedule</b> according to students' research topics, thorough discussion and consultation will be held in order to complete a quality research paper.			
<b>Evaluation</b> evaluation includes attendance, progress of research (including presentation of each class, contents of presentation/research).			
<b>Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects</b>			
<b>Office Hour and Contact Information</b> office: D622 contact: <a href="mailto:yamato@port.kobe-u.ac.jp">yamato@port.kobe-u.ac.jp</a>			
<b>Message</b> what we can do to improve our research paper is to read, read and read, and think, think and think, and discuss, discuss and discuss.			
<b>Improvements in Teaching</b>			
<b>Textbook</b>			
<b>Reference Materials</b>			
<b>Classroom Language</b>			

## Keywords

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	AOYAMA Kaoru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Basic skills to write a master thesis or folio work

### Description and Schedule

This course provides a basic methodology for writing academic theses and research projects. Starting from general issues such as how to decide on a theme, writing style, organising research material, etc, we will further discuss research methods appropriate for individual participants and monitor development.

### Evaluation

Participation and development

Absences lower your final score; 5 times' absences means loosing the credit.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

No absence without notice

### Office Hour and Contact Information

Monday 5th hour, Wednesday 4th hour and Friday 4th hour. E-mail for appointment (kaoru@jca.apc.org)

### Message

All work is done as group work with peer students.

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

Introduced when necessary

### Classroom Language

Japanese or English

### Keywords

Course title	Seminar for Master's Thesis/Folio I		
Instructor	YOKOKAWA Hirokazu	Lecture category	Credit(s)
		full year course	4

### Theme and Objectives

Seminar for Master's Thesis/Folio I

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	UMEYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for students writing the master ' s thesis/folio in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	YASUOKA Masaharu	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

#### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	TANIMOTO Shinsuke	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The 3rd step to the thesis

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	KUBOTA Sachiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Obtain basic skills for writing MA thesis.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	YOSHIOKA Masanori	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	NOTANI Keiji	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis to the students.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	HAGIHARA Mamoru	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

I will lead to write the article for master degree about the history of Mongolia.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	SADAYOSHI Yasushi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

to make up each participant's preliminary thesis of folio.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	OKADA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Japanise

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	WANG Ke	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	CHO Shigeru	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis / folio to the students in the researcher training program.

#### Description and Schedule

(Empty box for description and schedule)

#### Evaluation

(Empty box for evaluation)

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Empty box for preparation, review, and related subjects)

#### Office Hour and Contact Information

Friday 13:00-13:20

#### Message

(Empty box for message)

#### Improvements in Teaching

(Empty box for improvements in teaching)

#### Textbook

(Empty box for textbook)

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	IWAMOTO Kazuko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	MAIYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

This course is for the students who are going to conduct experimental study and to write their master's thesis in the field of interpersonal behavior. They are to learn basic method of psychological research in the field.

### Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	FUJINAMI Fumiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	TATEOKA Kumi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Traning of academic writing

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	MORISHITA Junya	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	MURAO Hajime	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This is the consulting seminar to develop the proposal for the M.A. research projects.

### Description and Schedule

Necessary consultation for making the research proposal including information skills training will be given through the seminar.

### Evaluation

The grade will be based on participation and attitude (40pts) and resulting research proposal draft 3 (60pts).

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Please contact by e-mail beforehand.  
E-mail: hajime.murao@mulabo.org

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

No textbook is planned to be used.

### Reference Materials

References will be indicated at the class if necessary.

### Classroom Language

Japanese, English

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	NISHIDA Takeshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty adviser provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	MIZUGUCHI Shinobu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to students in the researcher training program.

### Description and Schedule

Guidance focuses on theoretical and methodological perspectives.

### Evaluation

discussion 100%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Discuss in your own words.

### Office Hour and Contact Information

Friday 13.30- 15.00  
and by appointments

### Message

Basics are important.

### Improvements in Teaching

Refer to HP for details.

### Textbook

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

methodology  
theoretical analysis

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	SHIMAZU Atsuhsia	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	PINTER Gabor	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this course we are going to read articles about recent achievements in phonology and phonetics.

### Description and Schedule

In this course we are going to discuss major achievements in the field of phonology and phonetics. The articles to be covered are chosen from the following topics:

- phonotactics and L2 acquisition
- syllable theory
- perceptual phonology
- historically important articles
- recently hot topics (e.g., prosody)

Students are required to write an article about a topic of their choice at the end of the course.

### Evaluation

Final grades will be based on class activity and seminar reports.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

It is an advanced phonology class. It is highly recommended to take the introductory phonology class (言語科学論 特殊講義) before applying to this course.

### Office Hour and Contact Information

g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### Message

Students are expected to read one article per week.

### Improvements in Teaching

### Textbook

articles will be distributed in pdf or printed format

### Reference Materials

### Classroom Language

English

### Keywords

advanced phonology, phonetics

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	YOKOKAWA Hirokazu	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

### Theme and Objectives

Seminar for Master's Thesis/Folio III

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar III		
Instructor	UENO Naritoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar on Academic Writing

**Classroom Language**

Japanese

Course title	MA's Thesis		
Instructor	Faculty Council	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

<作成中>

Classroom Language

<作成中>

Course title	MA Project		
Instructor	Faculty Council	Lecture category 1st semester	Credit(s)

Theme and Objectives

<作成中>

Classroom Language

<作成中>

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	ISHIZUKA Hiroko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis/folio to the students in the researcher training program

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	TANIMOTO Shinsuke	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The 1st step to the thesis

**Classroom Language**

japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	NOTANI Keiji	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis to the students.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	OZAWA Takuya	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis to the students.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	INOUE Hirotaka	Lecture category	Credit(s)
		1st semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis to the students.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

## Reference Materials

### Classroom Language

In this class, the medium of language is Japanese.

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	近藤 正基	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

#### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SAKANO Tomokazu	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

#### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	NAKAMURA Satoru	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	YASUOKA Masaharu	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

#### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SHIMAZU Atsuhsia	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	SHIMAZU Atsuhisa、PINTER Gabor	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this course we are going to read articles about recent achievements in phonology and phonetics.

### Description and Schedule

In this course we are going to discuss major achievements in the field of phonology and phonetics. The articles to be covered are chosen from the following topics:

- phonotactics and L2 acquisition
- syllable theory
- perceptual phonology
- historically important articles
- recently hot topics (e.g., prosody)

Students are required to write an article about a topic of their choice at the end of the course.

### Evaluation

Final grades will be based on class activity and seminar reports.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

It is an advanced phonology class. It is highly recommended to take the introductory phonology class (言語科学論 特殊講義) before applying to this course.

### Office Hour and Contact Information

g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### Message

Students are expected to read one article per week.

### Improvements in Teaching

### Textbook

articles will be distributed in pdf or printed format

### Reference Materials

### Classroom Language

English

### Keywords

advanced phonology, phonetics

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	廣田 大地	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar for Master's Thesis/Folio I

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar I		
Instructor	福岡 麻子	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Seminar for Master's Thesis/Folio : To gain skills and knowledge that are necessary for writing a thesis. In order to do this, students should have a presentation and discuss how their work is developing with their supervisor and course instructors.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Academic Communication (English)		
Instructor	QUINN Cynthia	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Course objectives:

- To become effective presenters through skills and strategies practice
- To learn how to plan and organize material for oral presentation
- To improve ability to critically analyze speech content and performance (of self and others)
- To become more comfortable speaking about academic subjects in English

### Description and Schedule

This course is designed to support students in presenting and discussing academic material in English. To this end, students will practice a variety of skills that help speakers communicate better with their audiences, such as creating and using visuals effectively, signposting, preparing effective openers, managing question and answer sessions, explaining data clearly, etc.. Planning and organizing speech material in a way that maximizes communication and engages the audience will also be addressed, especially through analysis of successful speeches.

Students will have plenty of opportunities to practice speaking through prepared formal speeches, in-class practice (impromptu-style) speeches, peer feedback discussions, and other presentation planning activities and skills practice. Most speech assignments will ask learners to present material related to their major field of study, so students can incorporate material being studied in their other courses by having a chance to share it with classmates in English. After completing a speech, students will write self-evaluations of their work by watching video recordings of their own speeches in order to have a more objective understanding of how they can improve their presentations.

Students will build a portfolio of speech materials throughout the semester and will have several chances to revise their work based on teacher and peer feedback. The portfolio will contain all speech preparation materials (such as Power Point slides, visuals, preparation outlines, etc.), all feedback (teacher, peer and self) and a final reflection paper.

### Overall Lesson Sequence:

Lesson 1: Placement test

Lesson 2: Course introduction

Lesson 3 - 4: Poster presentation (= review of Academic Writing course content)

Lesson 5 - 6: Describing an object/visual

Lesson 7 - 8: Explaining a process/procedure

Lesson 9 - 11: Defining a concept

Lesson 12 - 15: Problem-solution speech

### Evaluation

Presentation portfolio 50%

Oral presentations 30%

In-class exercises 20%

(impromptu speeches, skills practice, feedback discussions, etc.)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

This course accepts only Kokusai Bunka Kenkyuu-ka Master's course students (25 students maximum).

Doctoral students interested in auditing the course should contact the Instructor directly to find out whether space is available.

### Office Hour and Contact Information

Fridays, 2nd period and by appointment

Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

### Message

## Improvements in Teaching

### Textbook

Please bring this textbook to the first class.  
Giving Academic Presentations / Reinhart, Susan : The University of Michigan Press ,2002 ,ISBN:9780-472-0888-43

### Reference Materials

The Elements of Style (4th ed.) / Strunk Jr., William & White, E. B. Longman ,2000 ,ISBN:020530902X

### Classroom Language

English

### Keywords

Course title	Ethnographic Fieldwork		
Instructor	OKADA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Japanese

Course title	Social Research Methods		
Instructor	AOYAMA Kaoru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Skimming through methodologies to cover various qualitative research methods, this course analyses material published through academic books, massmedia, internet, and commercial media and deals with hands-on research practices and meta-analyses of them. Via these practices, this course aims to equip the participants with basic research skills framed by symbolic interactionism, stracturation theory and critical theory.

### Description and Schedule

The weekly schedule below may change or be swapped. Research practices include reporting their results to the class. There might be assignments submitted in the following week.

1. Qualitative research and politics of epistemology/representation
2. Situating the field
3. Practice 1: participatory action research
4. Practice 1-1: participatory action research 2
5. Post-colonialism and qualitative research
6. Sexuality, queer theory and qualitative research
7. Practice 2: ethnography and grounded theory
8. Practice 2-2: ethnography and grounded theory 2
9. The unspoken story: qualitative research and research funding
10. Life-history and post-modernism
11. Practice 3: Interview: the constructed and the negotiator
12. Practice 3-2: Interview: the constructed and the negotiator 2
13. Visual image as a method
14. Practice 4: Visual image as the object of analysis
15. Writing: politics of interpretation

### Evaluation

Contribution to the class by participating discussion, group work and reporting: 50% + assignments (when applicable) and a term-end report: 50%

Absences lower your final score; 5 times' absences means loosing the credit.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Research practices are usually based on group work; aggressive participation is required.

### Office Hour and Contact Information

Mon. 5th hour; Wed. 4th hour; and Fri. 4th hour. Email kaoru@jca.apc.org for an appointment.

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

## Reference Materials

質的研究のパラダイムと眺望(質的研究ハンドブック 1) / ノーマン・K. デンジン、イヴォンナ・S. リンカン(編) :  
北大路書房, 2006, ISBN:  
ライプ講義・質的研究とは何か(SCORMベーシック編) / 西條剛央:新曜社, 2007, ISBN:  
「セックスワーカー」とは誰か 移住、性労働、人身取引の構造と経験 / 青山薫:大月書店, 2007, ISBN:

## Classroom Language

## Keywords

Course title	Academic Writing (Japanese)		
Instructor	MIZUNO Mariko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This class will acquire the ability to write Japanese academic articles, which contain some teachers on students' major fields.

### Classroom Language

Course title	Japan-US Cultural Exchange		
Instructor	TODA Masaru	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Lectures on modern Japanese novels.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in European and American Culture Studies		
Instructor	NISHITANI Takuya	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This seminar course aims to provide students with basic approaches and methods to study American literary and visual cultures.

### Description and Schedule

Students will read articles and discuss some issues in American literature and film.

### Evaluation

Activities in the class 50%  
Term paper 50%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Read texts very carefully.

### Office Hour and Contact Information

Office: E202  
E-mail: takuyan@kobe-u.ac.jp

### Message

### Improvements in Teaching

Previewing students' presentations

### Textbook

Materials will be distributed in the class.

### Reference Materials

### Classroom Language

Mainly in Japanese. Reading materials are written in English.

### Keywords

Course title	Seminar in Japanology		
Instructor	KONNO Nobuyuki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

An opinion peculiar to a "Taisho democracy" term is developed, and the writing of Tanzan Ishibashi who also became the prime minister after the war is read.

### Classroom Language

Course title	Seminar in Asia-Pacific Culture Studies		
Instructor	SADAYOSHI Yasushi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

to find out your own theme and to practice logical thinking based on credible data.

**Classroom Language**

Japanese, Indonesian.

Course title	Seminar in International Politics and Societies		
Instructor	SAKAI Kazunari	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This class is aimed at considering the importance of the EU, focusing on analysis of its political aspects through the foreign and security policy, security culture and political role in the world.

### Description and Schedule

Presentation of the text by students and discussion on the foreign policy of the EU. Discussion will extend to security culture which forms the base of external policies.

### Evaluation

Presentations (50%), Participation in discussion (50%)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Through a critical reading of the textbook (or other materials), students are requested to prepare comments and questions and to review the discussion.

### Office Hour and Contact Information

Anytime by appointment via e-mail.  
kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp

### Message

(Large empty box for message)

### Improvements in Teaching

(Large empty box for teaching improvements)

### Textbook

The Foreign Policy of the European Union: Assessing Europe's Role in the World, 2nd Edition / Federica Bindi and Irina Angelescu, eds. : Brookings Institution Press ,2012 ,ISBN:

### Reference Materials

(Large empty box for reference materials)

### Classroom Language

Japanese, English

### Keywords

(Large empty box for keywords)

Course title	Seminar in European and American Culture Studies		
Instructor	OZAWA Takuya	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Theme: Food Culture and Nation States

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in International Politics and Societies		
Instructor	近藤 正基	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

In this course we review welfare states in OECD countries, especially Japan and Continental Europe.

**Classroom Language**

Japanese, German, English

Course title	Comparative Politics		
Instructor	SAKANO Tomokazu	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The aim of the lecture is master main theories and frameworks of comparative politics by using a common book as well as relevant articles.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Contemporary Politics		
Instructor	YASUOKA Masaharu	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This lecture course provides an introduction to American Government and Politics from a comparative perspective.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Japanology		
Instructor	KINOSHITA Motoichi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Readuing Heian era short legendary stories "KONJYAKU MONOGATARI SYU ".  
We study Japanese clasic, culture and history.

### Classroom Language

JAPANESE

Course title	Regional Politics		
Instructor	NAKAMURA Satoru	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Translating Classical Literature		
Instructor	KITAMURA Yuika	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This course will focus on Japanology in North America.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Transcultural Studies in the Ancient World		
Instructor	YAMAZAWA Takayuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Text reading on Greco-Roman Culture.

**Classroom Language**

Japanese.

Course title	Contemporary Japanese Society		
Instructor	OSA Shizue	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

**Theme and Objectives**

This class is designed as the cultural study to Occupied Japan.

**Classroom Language**

Course title	Seminar in Asia-Pacific Culture Studies		
Instructor	ITO Tomomi	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Seminar in Intercultural Relations		
Instructor	YOSHIOKA Masanori	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Theme: Anthropology of the City

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Transcultural Studies		
Instructor	MIURA Nobuo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Cultural history of the understanding of number and quantity.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Culture and Society in China		
Instructor	WANG Ke	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Seminar in Asia-Pacific Culture Studies		
Instructor	KUBOTA Sachiko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

To attain basic knowledge on anthropology and understand the way to link own interest with academic discourse.

### Description and Schedule

I am planning the theme concerning, indigeneity, nation state and multicultrism.  
Students will make a presentation in turn followed by discussion among the members. Everyone is required to read the basic article given every week. and int he end of the term, it is needed to write up the report based on your own research.

### Evaluation

presentation and discussion 40%  
final paper 50%  
attendance 10%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Basic Anthropological knowledge is required.

### Office Hour and Contact Information

With appointments (E222)  
kubotas@people.kobe-u.ac.jp

### Message

Texts are English and Japanese

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

Course title	Seminar in Transcultural Studies		
Instructor	TSUKAHARA Togo	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Cultural Representation in France		
Instructor	SAKAMOTO Chiyo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The main subject of this lecture is "Love and Society in French Literature".

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Culture and Society in Mongolia		
Instructor	HAGIHARA Mamoru	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The theme of this year is the modern history of Mongolia. The purpose is to understand the history of Mongolia since Xinhai revolution to present period in detail.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Cultural Expression in Germany and Austria		
Instructor	TANIMOTO Shinsuke	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Thema: Wagner and Nietzsche in the 19th century of the european culture

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in European and American Culture Studies		
Instructor	NOTANI Keiji	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Seminar in European and American Culture Studies  
We will have a general understanding of Christianity in the USA.

### Description and Schedule

We will read Martin Marty's Pilgrims in Their Own Land: 500 Years of Religion in America (Penguin)

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Japanese Visual Arts		
Instructor	ITAKURA Fumiaki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course will explore different themes and methodologies of film studies, focusing on mainly Japanese cinema. We will examine the themes from the stand points of genre, spectatorship/reception, gender, relationship between cinema and immigrant, representation of ethnicities and preservation/restoration of films in archives. Each student will give at least one presentation in the class.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Cultural Anthropology		
Instructor	SAITO Tsuyoshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

With reference to contributions accomplished by anthropological studies on the Middle East, this class explores various problems and issues provoked by significant concepts such as, culture, society, individual, race, and so forth.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in European and American Culture Studies		
Instructor	青島 陽子	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

In this seminar, we will discuss transformation of traditional society in Modern Europe.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in European and American Culture Studies		
Instructor	INOUE Hirotaka	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this seminar we read Twenty Years' Crisis, 1919-1939: An Introduction to the Study of International Relations.  
As a seminar, this class requires regular preparation and participation by all students.

### Description and Schedule

(Leave blank)

### Evaluation

(Leave blank)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

### Office Hour and Contact Information

(Leave blank)

### Message

(Leave blank)

### Improvements in Teaching

(Leave blank)

### Textbook

危機の二十年 理想と現実 / E.H. カー : 岩波文庫 ,2011年 ,ISBN:978-4003402214

### Reference Materials

歴史とは何か / E.H. カー : 岩波新書 ,1962年 ,ISBN:978-4004130017

### Classroom Language

We will read the book in English and discuss in Japanese.

## Keywords

Course title	Seminar in Intercultural Relations		
Instructor	SAITO Tsuyoshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

One of the goals of this seminar is to acquire basic knowledge on Cultural Anthropology through reading, examining and discussing a collection of thesis edited by social anthropologist Adam Kuper, Conceptualizing Society.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Contemporary Cultural Anthropology		
Instructor	SHIBATA Yoshiko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

We will examine series of socio-cultural phenomena which have been specifically problematized in the modern world, such as: diaspora, glocalization, transnationality, multicultural co-existence, hybridity, and creole/creoleness. Those topics are considered particularly in terms of colonialism and post-colonialism. Our specific interests are: intermarriage, tourism, development, and popular culture, and I use examples from the Caribbean and its diaspora world, where different kinds of movement/migration, (dis)location, conflicts and/or collaboration/co-operation among different races/ethnic groups and cultures, creolization and hybridization, multicultural co-existence, creation of new cultures have constantly been observed. The class will be conducted interactively with students based on lectures and discussions.

### Classroom Language

Japanese, English if necessary

Course title	Victorian Studies		
Instructor	ISHIZUKA Hiroko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Reading a text on British society and cultures in 19th century, we make research into some of the problems.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Interactional Grammar		
Instructor	SADANOBU Toshiyuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

We discuss several topics in Japanese speech acts and grammar with special reference to cognition in communication.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Computers and Communication		
Instructor	KIYOMITSU Hidenari	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Data Management on Semi-Structured Data.

In this class, we will meet today's technologies and science on the corresponding subjects.

### Description and Schedule

This class consists of three parts.

- XML and the World Wide Web.
- Dataguide.
- Cloud Systems and Web Services.

### Evaluation

Students must attend all classes. The total evaluation is made by his presentations and/or reports proposed in the classes.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Linguistic Interface Theory		
Instructor	MIZUGUCHI Shinobu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course introduces the system of human sounds, especially vowels, consonants around the world. Students are required to understand the textbook and to put their knowledge into practice. They are also required to learn how to use Praat and analyze wave sounds.

### Description and Schedule

1st class: Introduction  
 2nd class: Ch.2 Pitch and Loudness  
 3rd -5th class: Ch.3 - Ch.5 Vowels  
 6th-7th class: Ch.6 Consonants  
 8th-10th class: Ch.8 Talking Computers  
 11th-12th class:  
     Ch.14 Consonants around the World  
 13h-14th class: Vowels around the World  
 15th class: Summary and presentation

### Evaluation

assingments 30%  
 presentation 10%  
 paper 60%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Basic knowledge of phonetics preferable

### Office Hour and Contact Information

Fri. 13.30 - 15.00, and by appointment  
 B311

### Message

Seeing is believing.

### Improvements in Teaching

Use software to visualize sounds and pitch.  
 Learn how to read wave forms.

### Textbook

(Blank area for textbook information)

### Reference Materials

(Blank area for reference materials)

### Classroom Language

English and Japanese

### Keywords

vowels, consonants around the world  
 wave forms  
 Praat

Course title	Multimedia Information		
Instructor	MORISHITA Junya	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Theme: Introduction to multimedia, the concept of multimedia information and integration of multimedia data on network communication.

Objective: To acquire a technical knowledge for integration of multimedia data on computer network and to lead a better understanding of multimedia information concept.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Art, Culture and Society		
Instructor	YOSHIDA Noriko	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

### Theme and Objectives

This seminar focuses on art history and art criticism in 19th and 20th century France and discusses the topics such as art and literature, art and gender, as well as cultural exchanges between Japan and France.

### Classroom Language

Course title	Neuropsychology and Communication		
Instructor	MATSUMOTO Eriko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

To acquire advanced knowledge of cognitive psychology/neuroscience, in this course we will use original English articles published by international psychology and neuroscience journals as the textbook. We will discuss how the human brain represents the higher-cognitive functions such as visual perception, attention, and social interaction.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Contemporary Social Issues		
Instructor	AOYAMA Kaoru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The formation of identity based on gender and sexuality as a trigger, this seminar deals with the multi-layered nature of discrimination. Using concrete and contemporary issues surrounding identity and citizenship, this seminar also aims to develop participants' ability to read through the 'lies' of seemingly defining dichotomy about this world such as public/private and diversity/equality.

### Description and Schedule

The seminar interprets 'texts', chosen with the participants, through discussion centred around a reporter for each week. The 'texts' may mean not only literary texts but also visual images, current movements or happenings, etc.

The whole of each session will be used for discussion led by a moderator student, not one reporter spending half of the time by reading prepared summary of the text.

### Evaluation

Moderation and participation into discussion: 50% and end-of-term essay: 50%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Every participant must find and bring a discussion point from the assigned text each week. Basic non-absence is a requirement.

We may be reading English texts sometimes.

### Office Hour and Contact Information

Office Hour: Monday 5th hour; Wednesday 4th hour; and Friday 4th hour. Contact: kaoru@jca.apc.org (please clarify who you are when emailing).

### Message

Note that being silent and participation contradict with each other. The 1st session is used for structuring the whole course and what will be chosen as texts; bring along fairly concrete ideas of what you want to think about through this course.

### Improvements in Teaching

The course focused on theoretical material/discussion as well as contemporary issues.

### Textbook

--

### Reference Materials

--

### Classroom Language

Japanese, but you may write the term-end essay in English. English may also be used in other times when necessary.

## Keywords

Course title	Seminar in Linguistics and Communication Studies		
Instructor	SAITO Miho	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this course is to be able to design the Japanese language course for elementary level.

### Description and Schedule

We will examine the main items taught in elementary Japanese classes to find what are the difficult points and how they should be introduced to the learners.  
Students are required to make a teaching plan for the given item and participate in discussion on the plan presented by the others.

### Evaluation

Evaluation standard:

- 1 . Attendance and performance in class : 50%
- 2 . Final report : 50%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Prepare for the discussion in class referring to the textbooks of elementary Japanese beforehand.

### Office Hour and Contact Information

13:00-14:30 on Thursday ( Recommended to contact in advance )  
E-mail:msaito@people.kobe-u.ac.jp  
Tel:078-803-5274

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Handouts

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

Course title	Seminar in Contents in Second Language Education		
Instructor	ISHIKAWA Shin'ichiro	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Contents: Introduction to Statistics for Language Studies  
Aim: To deepen understanding in basic statistics

**Classroom Language**

Japanese, English

Course title	Seminar in Contents in Second Language Education		
Instructor	KASHIWAGI Harumi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This subject serves as an introduction to educational technology in foreign language education. In this class students will be familiarised with the history and basic terminology of educational technology in foreign language education. On completion of this subject, students will be able to understand modern technology and its impact on foreign language education.

### Description and Schedule

Based on reading articles or chapters of the handbook, students will have some presentation session or discussion.

### Evaluation

- (1) participation & presentation 40%
- (2) mid-term report & assignment 30%
- (3) final report 30%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Notice: Remember to arrange your appointment in advance by sending me an email.  
kasiwagi@kobe-u.ac.jp、Room: D610

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

ICTを活用した外国語教育 / 吉田晴世, 松田憲, 上村隆一, 野澤和典編著, CIEC外国語教育研究部会著: 東京電機大学出版局, 2008年, ISBN:  
詳細については授業で説明する。 / : , , ISBN:

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

## Keywords

Course title	Usage-based Linguistic Typology		
Instructor	YUASA Hideo	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this lecture is to understand main issues of construction and function of Japanese (and partly English) including grammatical categories as tense, aspect and modality.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Norms and Cultures		
Instructor	MUNAKATA Satoshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This lecture provides a clear perspective over contemporary issues concerning gender norms of our cultures through reviewing several texts of pertinence.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Language Learning Environments		
Instructor	KATO Masayuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This course is an introductory lecture to cover the issues on "World Englishes" and "English as an International Language".

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Applied Contrastive Linguistics I		
Instructor	MASUDA Yoshikazu	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Seminar in Linguistics and Communication Studies		
Instructor	TANAKA Junko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this course is to study previous research in the field of second language acquisition (SLA) and to understand what needs to be done in the areas of learnability and/or feature acquisition research.

### Classroom Language

Mostly in Japanese. English will be used to English speakers.

Course title	Seminar in Art, Culture and Society		
Instructor	ASAKURA Mie	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this class, we will read the autobiography of fashion designer Paul Poiret: The King of Fashion (1930). Through the reading, we will try to place his activity in the context of contemporary design movement.

### Classroom Language

Japanese, English

Course title	Seminar in Human Communication		
Instructor	MAIYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The purpose of this course is for students to master theories and methods in the field of interpersonal behavior.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Computers and Communication		
Instructor	MURAO Hajime	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The purpose of the course is to understand communication and information processing of living organisms, and how utilize them in computer science through exercises making models and computer simulations.

### Description and Schedule

The following topics will be mentioned in the course:

- Neural networks
- Reinforcement learning
- Genetic algorithms
- Hidden Markov Model
- Bayesian inference
- etc.

### Evaluation

The grade will be based on participation and attitude (40%) and assignments (60%).

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Students are expected having basic computer programming skills.

### Office Hour and Contact Information

Please contact by e-mail beforehand.  
E-mail: hajime.murao@mulabo.org

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

Textbook will be specified at the first class.

### Reference Materials

References will be indicated at the class if necessary.

### Classroom Language

Japanese, English

### Keywords

Course title	Modern Social Thought		
Instructor	CHO Shigeru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The purpose of the course is to deepen technical understanding of sociological theory and its history.

### Description and Schedule

The Lecture will deal with A. Schutz's and N. Luhmann's social theory, especially the relation of "meaning" and "system" will be discussed.

### Evaluation

Attendance and active participation.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Friday 13:00-13:20

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

Reference books are to be referred in class.

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

Course title	Modernism in Art		
Instructor	TATEOKA Kumi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Theatre, Cinema and Design in Soviet Union as Experiments of Creating future:  
in Comparison with Japnasene cases.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Neurolinguistics		
Instructor	HAYASHI Ryoko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this course, recent topics of language and cognition will be discussed, especially with focus on experimental linguistic research.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Seminar in Systems of Second Language Education		
Instructor	YOKOKAWA Hirokazu	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Cultural Discourse		
Instructor	ISHIDA Keiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

We will examine the possibilities of Jacques Ranciere's aesthetics and politics in this seminar.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Translation Theory		
Instructor	FUJINAMI Fumiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This course deals with various approaches from equivalence to functionalism of translation studies and discusses many concrete examples.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Art, Culture and Society		
Instructor	FUJINO Kazuo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

To clarify the historical and theoretical necessity of cultural policy. International comparison of cultural policies we also explore the cultural policy in Japan: Problems and Prospects.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Systems of Second Language Education		
Instructor	SHIMAZU Atsuhsia	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Introduction to New York Intellectuals

**Classroom Language**

Japanese and English

Course title	Contemporary Jurisprudence		
Instructor	SAKURAI Tetsu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

#### Basics of the Theories of Justice

This class aims to acquire basic knowledge of the theories of justice, which have flourished since the publication of John Rawls ' s *A Theory of Justice* in 1971. Through examining the familiar but serious social issues such as poverty, economic inequality, democracy, human rights etc., this course tries to find out what kind of theories and principles are important to address these problems.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Modernity Studies		
Instructor	UENO Naritoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar on the Frankfurt School

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Systems of Second Language Education		
Instructor	PINTER Gabor	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

In this class students will learn how to do phonetic research.

**Classroom Language**

Course title	Seminar in Contents in Second Language Education		
Instructor	ZHU Chunyue	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

How can one pronounce a certain sound “ accurately ” ? Even when that sound is substantially the same, it may sound different to people with different native languages. How is this possible? How do intonation and modulation express the speaker ’ s emotions, attitudes and intentions? How can we teach the pronunciation of a foreign language efficiently? These will be the themes for this class. The focus of this class is not only theory but practice as well. Students who are interested in language phonetics, pronunciation and teaching pronunciation are welcome.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Linguistics and Communication Studies		
Instructor	HAYASHI Hiroshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Morphology and Meaning: In reporting the contents of each chapter and in solving the exercises in it, students will get the knowledges necessary to treat morphological phenomena.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Computer Communication Systems		
Instructor	OHTSUKI Kazuhiro	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This class offers new topics in the field of information and communication systems.

**Classroom Language**

japanese

Course title	Second Language Pragmatics		
Instructor	GREER Tim	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this class students will build on the basic introduction to CA and conduct a more in-depth investigation of a corpus of naturally occurring talk.

### Description and Schedule

In this class, students will read a variety of English papers on Conversation Analysis and Pragmatics, especially with regard to second language learning. They will also engage regularly with recordings on naturally occurring interaction to develop detailed observations about the talk that goes on there. Together they will put together a collection of cases on a given phenomenon and work up an empirical analysis of that interactional practice.

### Evaluation

Students will be graded holistically based on their active participation in class. They will also build a collection of cases and write a paper in English based on that analysis.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

This class will build on the topics introduced in the semester 1 Contents seminar, so students are highly advised to take that class first.

### Office Hour and Contact Information

Monday 12:10- 13:00

### Message

This class will primarily be conducted in English. Students are expected to contribute actively to the discussion and to read extensively in English.

### Improvements in Teaching

### Textbook

Teacher prepared materials, to be handed out in the initial class

### Reference Materials

Conversation Analysis and Second Language Pedagogy / Jean Wong and Hansun Zhang Waring : Routledge ,2010 ,ISBN:

Observing Talk: Conversation Analytic Studies of Second Language Interaction / Greer, T. : JALT Pragmatics SIG ,2010 ,ISBN:

### Classroom Language

English

### Keywords

Pragmatics, Second Language Learning, Conversation Analysis, Discourse

Course title	Applied Linguistics I		
Instructor	YAMATO Kazuhito	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

【theme of this class】

Topic of this class is to understand what to teach and how to teach pronunciation.

【objectives of this class】

Before discussing what and how to teach pronunciation, students are strongly advised to pronounce appropriately themselves first.

### Description and Schedule

Understanding how oral communication is taught in Japanese context, ways to improve the situation will be discussed through reading articles or discussion.

### Evaluation

- (1) attendance 20%
- (2) participation 60%
- (3) assignment 20%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

active participation required; reading assignment

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

**Classroom Language**

Japanese and English

**Keywords**

Course title	Seminar in Contemporary Social Issues		
Instructor	OGASAWARA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Following the spring term, we continue to examine the inter-relationship between the city and the body.

### Description and Schedule

Literature review or survey report

### Evaluation

Participants must give a few seminar presentations during the term time.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Please take the spring term lecture if you wish to participate in this seminar.

### Office Hour and Contact Information

Thursday lunch time  
hiroko@kobe-u.ac.jp  
ext.7464

### Message

Try

### Improvements in Teaching

Participants will be required to conduct fieldwork on the body in the city.

### Textbook

### Reference Materials

Introduced in the class.

### Classroom Language

Japanese or English

### Keywords

City, the Body, Memory

Course title	Seminar in Computers and Communication		
Instructor	NISHIDA Takeshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this course, students will be able to conduct projects related to Human-Computer Interaction (HCI) and Computer-Supported Cooperative Work (CSCW).

### Classroom Language

Japanese

Course title	Art and Multicultural Society		
Instructor	IWAMOTO Kazuko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this lecture we examine and deepen our understanding on the evolution and various aspects of artistic activities with their background of political and social systems.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Modernity Studies		
Instructor	ICHIDA Yoshihiko	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Modern and Contemporary Art Studies		
Instructor	IKEGAMI Hiroko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This class examines issues in cross-cultural interaction in modern and contemporary art. Students will improve the interpretive skills by considering representation of the cultural other in modern and contemporary art.

### Classroom Language

Course title	Rhetorical Communication		
Instructor	YONEMOTO Koichi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this lecture is to analyse the examples of various kinds of figures of speech and to consider their effects.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

プリントを配布する / : , ,ISBN:

### Reference Materials

**Classroom Language**

Japaense

**Keywords**

Course title	Computer Simulation		
Instructor	KANG Min	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A discussion-based course on data analysis approaches.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Seminar in Modernity Studies		
Instructor	MATSUYA Rie	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this course is to achieve a better understanding of British Enlightenment through socio-historical approach.

### Description and Schedule

We will focus on the emergence of "sensibility" and the new attitude towards "nature" in eighteenth-century Britain, reading Roy Porter's *The Creation of the Modern World*.

### Evaluation

Grading is based on class participation.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

This course is basically a reading session of the above book in English. Preparation for the class is necessary.

### Office Hour and Contact Information

By appointment.  
janjur@kobe-u.ac.jp

### Message

(Large empty box for message)

### Improvements in Teaching

(Large empty box for improvements in teaching)

### Textbook

The Creation of the Modern World / Roy Porter : Norton , 2 0 0 0 年 , ISBN:9780393322682

### Reference Materials

(Large empty box for reference materials)

### Classroom Language

Japanese and English

### Keywords

(Large empty box for keywords)

Course title	Seminar in Contemporary Social Issues		
Instructor	YAMAZAKI Yasuji	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Theme: Bioethics in Modern Societies.

Objective: Try to examine the characteristics of bioethical norms

### Classroom Language

Course title	Seminar in Japanese Culture Studies		
Instructor	KONNO Nobuyuki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

An opinion peculiar to a "Taisho democracy" term is developed, and the writing of Tanzan Ishibashi who also became the prime minister after the war is read.

### Classroom Language

Course title	Seminar in Japanese Culture Studies		
Instructor	KINOSHITA Motoichi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Readuing Heian era short legendary stories "KONJYAKU MONOGATARI SYU ".  
We study Japanese clasic, culture and history.

**Classroom Language**

JAPANESE

Course title	Aesthetic Discourse		
Instructor	ISHIDA Keiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

We will examine the possibilities of Jacques Ranciere's aesthetics and politics in this seminar.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Field Research Methods		
Instructor	OKADA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Japanese

Course title	Second Language Academic Skills II		
Instructor	QUINN Cynthia	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Course objectives:

- To become effective presenters through skills and strategies practice
- To learn how to plan and organize material for oral presentation
- To improve ability to critically analyze speech content and performance (of self and others)
- To become more comfortable speaking about academic subjects in English

### Description and Schedule

This course is designed to support students in presenting and discussing academic material in English. To this end, students will practice a variety of skills that help speakers communicate better with their audiences, such as creating and using visuals effectively, signposting, preparing effective openers, managing question and answer sessions, explaining data clearly, etc.. Planning and organizing speech material in a way that maximizes communication and engages the audience will also be addressed, especially through analysis of successful speeches.

Students will have plenty of opportunities to practice speaking through prepared formal speeches, in-class practice (impromptu-style) speeches, peer feedback discussions, and other presentation planning activities and skills practice. Most speech assignments will ask learners to present material related to their major field of study, so students can incorporate material being studied in their other courses by having a chance to share it with classmates in English. After completing a speech, students will write self-evaluations of their work by watching video recordings of their own speeches in order to have a more objective understanding of how they can improve their presentations.

Students will build a portfolio of speech materials throughout the semester and will have several chances to revise their work based on teacher and peer feedback. The portfolio will contain all speech preparation materials (such as Power Point slides, visuals, preparation outlines, etc.), all feedback (teacher, peer and self) and a final reflection paper.

### Overall Lesson Sequence:

Lesson 1: Placement test

Lesson 2: Course introduction

Lesson 3 - 4: Poster presentation (= review of Academic Writing course content)

Lesson 5 - 6: Describing an object/visual

Lesson 7 - 8: Explaining a process/procedure

Lesson 9 - 11: Defining a concept

Lesson 12 - 15: Problem-solution speech

### Evaluation

Presentation portfolio 50%

Oral presentations 30%

In-class exercises 20%

(impromptu speeches, skills practice, feedback discussions, etc.)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

This course accepts only Kokusai Bunka Kenkyuu-ka Master's course students (25 students maximum).

Doctoral students interested in auditing the course should contact the Instructor directly to find out whether space is available.

### Office Hour and Contact Information

Fridays, 2nd period and by appointment

Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

### Message

## Improvements in Teaching

### Textbook

Please bring this textbook to the first class.

### Reference Materials

The Elements of Style (4th ed.) / Strunk Jr., William & White, E. B. Longman ,2000 ,ISBN:020530902X

### Classroom Language

English

### Keywords

Course title	Issues in Contemporary Public Culture		
Instructor	NAKAGAWA Ikuo	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In the modern society, the role that the public culture policy by a nation and the local government serves as is very big. The subject of this subject is to search a figure, the directionality that a basic model should include the public culture policy in our country. By the class, we divide the whole into three copies. we learn and, in Part 1, discuss the present conditions of the public culture policy about country, local public entity and a problem, the latest viewpoint about the culture right, Basic Law for culture art promotion in all the members. In Part 2, we consider the figure which there should be of the culture policy in the local public entity which is the maximum main constituent of the public culture policy of our country. The domain is a people's culture policy, an area, an urbiculture policy, 3 domains of the administrative reform. In Part 3, we catch a public culture policy as an applied idea again in citizen's synousiacs, an administrative evaluation theory, each field of the art management theory.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Seminar in Systems of Second Language Education		
Instructor	廣田 大地	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

By investigating the language educational applications which have spread now in Android terminals, such as a smart phone, we will analyse what kind of new tool is needed for French language education.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Language and Culture II		
Instructor	福岡 麻子	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Austrian contemporary literature and the visual arts: In this lecture-based course, we examine the relationship between literature and the visual arts from different perspectives (e.g. the visuality of text and the cooperation between different types of artists) using texts by the austrian author Elfriede Jelinek.

### Classroom Language

Japanese

Course title	中国社会経済論特殊講義		
Instructor	谷川 真一	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

#### Contentious Politics and Political Regimes in China

This course focuses on contentious politics?revolution, political and social movements, collective violence, and other forms of politics by “other means”?in contemporary China. Contentious politics has mutually transformative relationships with political regimes: Contentious politics shapes and, at the same time, is shaped by political regimes. By tracing the trajectory of the mutual relations, this course provides insight into China’s political future.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Nonverbal Communication		
Instructor	山本 真也	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

We will study nonverbal communicative behaviors in humans and non-human animals. Typically, our study will focus on how we communicate, understand others, live with others, and develop societies and cultures. This lecture will cover various fields in psychology (e.g. experimental psychology, cognitive psychology, social psychology, evolutionary psychology, developmental psychology, comparative psychology, neuroscience, etc), but this is flexible depending on the students' knowledge and interest.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Contrastive Linguistics and Cognition		
Instructor	教員未定	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

<作成中>

Classroom Language

<作成中>

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	WANG Ke	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	HAGIHARA Mamoru	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

I will lead to write the article for master degree about the history of Mongolia.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	ITO Tomomi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The purpose of this class is for each student to construct the structure of their own M.A. thesis through presentations and discussions about their study plan and research results.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	TODA Masaru	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YAMAZAWA Takayuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar for the advisees.

**Classroom Language**

Japanese.

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	TERAUCHI Naoko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

**Description and Schedule**

**Evaluation**

**Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects**

**Office Hour and Contact Information**

**Message**

**Improvements in Teaching**

**Textbook**

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	青島 陽子	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis/folio to the students in the researcher training program

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SAKAMOTO Chiyo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master's thesis.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	NISHITANI Takuya	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master's thesis to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SAITO Tsuyoshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This seminar is designed for the M.A. students who prepare their master theses, articles for academic journals, and some other papers that have equivalent level to the above-mentioned theses and articles. Students are required to submit their drafts in advance for the discussions in the course. To promote and assist writers to improve their drafts, attendants will discuss on the submitted drafts from various aspects, such as its content, structure of the article, the adequacy of the materials and the cases used in it, appropriateness of the way of explanation, and so forth.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	TSUKAHARA Togo	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KUBOTA Sachiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Clarify the main theme of MA thesis

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	UMEYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for students writing the master ' s thesis/folio in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MIURA Nobuo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Introduction to the Traditional Japanese Mathematics

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	OSA Shizue	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	OKADA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YOSHIOKA Masanori	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	ITAKURA Fumiaki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this class is to develop each student ' s plan and concept of master thesis. Each student is required to read essays and books which are relevant to ones thesis and to report in the class.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SADAYOSHI Yasushi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

to make academic bases for each participant's thesis or folio.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KINOSHITA Motoichi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Guidance for studies and writing papers.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KONNO Nobuyuki	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SHIBATA Yoshiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese, English if necessary

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KITAMURA Yuika	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Research guidance for master thesis, master folio and research report

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	谷川 真一	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

The purpose of this course is to study various issues of contemporary China through social scientific approaches. The instructor will provide theoretical and methodological advice necessary to write a MA thesis in the field.

#### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SAKAI Kazunari	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SAKURAI Tetsu	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	FUJINO Kazuo	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	IWAMOTO Kazuko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	TATEOKA Kumi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Academic writing

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	IKEGAMI Hiroko	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	ASAKURA Mie	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YOSHIDA Noriko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MORISHITA Junya	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	OHTSUKI Kazuhiro	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KANG Min	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar for Master's Thesis/Folio I

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MURAO Hajime	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This is the consulting seminar to develop the proposal for the M.A. research projects.

### Description and Schedule

Necessary consultation for making the research proposal including information skills training will be given through the seminar.

### Evaluation

The grade will be based on participation and attitude (40pts) and resulting research proposal draft 2 (60pts).

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Please contact by e-mail beforehand.  
E-mail: hajime.murao@mulabo.org

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

No textbook is planned to be used.

### Reference Materials

References will be indicated at the class if necessary.

### Classroom Language

Japanese, English

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KIYOMITSU Hidenari	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

- The check of progress of the research.
- Introduction of the circumference example relevant to a subject of the research.
- Instruction of the logic and appearance structure of writing a paper and presentation.

### Evaluation

Papers and Presentations.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

E-Mail:kiyomitsu@carp.kobe-u.ac.jp

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

Reference documents will be introduced when it needs.

### Classroom Language

Japanese(mainly), English

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	NISHIDA Takeshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty adviser provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SADANOBU Toshiyuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Students will acquire basic knowledge and skill for completing their research papers.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MIZUGUCHI Shinobu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to students in the researcher training program.

### Description and Schedule

Guidance focuses on theoretical and methodological perspectives.

### Evaluation

discussion 100%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Friday 13.30- 15.00  
and by appointments

### Message

Basics are important.

### Improvements in Teaching

Refer to my HP for details.

### Textbook

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

methodology  
theoretical analysis

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	FUJINAMI Fumiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YUASA Hideo	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The aim of this seminar is to discuss the linguistic theme in which a student is interested.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	TANAKA Junko	Lecture category	Credit(s)
2nd semester 2			
<b>Theme and Objectives</b> This course aims at fostering students basic skills to write master' theses or master's research papers.			
<b>Description and Schedule</b> To be decided depending on students research theme.			
<b>Evaluation</b> 50% based on students' progress in their thesis preparation. 50% based on research projects			
<b>Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects</b> N/A			
<b>Office Hour and Contact Information</b> Tuesday lunch time (may subject to change. appointment by email necessary)			
<b>Message</b> N/A			
<b>Improvements in Teaching</b> This course aims to help students plan their thesis research. Students need to be highly motivated to keep working on their thesis.			
<b>Textbook</b> N/A			
<b>Reference Materials</b>    			
<b>Classroom Language</b> Mostly in Japanese. English may be used to English speakers.			
<b>Keywords</b> Thesis research			

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MAIYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The purpose of this course is to learn how to study interpersonal behaviors. Students are expected to master basic methods of data processing and statistics.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MUNAKATA Satoshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

(Leave blank)

### Evaluation

(Leave blank)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

### Office Hour and Contact Information

(Leave blank)

### Message

(Leave blank)

### Improvements in Teaching

(Leave blank)

### Textbook

(Leave blank)

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	HAYASHI Ryoko	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MATSUMOTO Eriko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YAMAZAKI Yasuji	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	OGASAWARA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Guiding students to writing master thesis and folio work, aiming to fix the research topic.

### Description and Schedule

How to tackle literature review, archival survey and other necessary guidance and supervision.  
Monitoring the research and writing process to decide the research topic in details.

### Evaluation

Understanding, development, make-up of the road-map for completion

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Thursday lunch time  
hiroko@kobe-u.ac.jp  
ext. 7464

### Message

Seeking for pleasure of writing and thinking

### Improvements in Teaching

### Textbook

For encouragement and courage, see this book, but no rush to buy.  
*The Art of Listening* / Les Back : Berg ,2007 ,ISBN:9781845201210

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese or English

### Keywords

Achievement

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	HAYASHI Hiroshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This seminar provides research guidance for the M.A. thesis and/or articles

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	ISHIDA Keiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

This class is designed for students to write their master's thesis.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	ICHIDA Yoshihiko	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	UENO Naritoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar on Academic Writing

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	CHO Shigeru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis / folio to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

(Leave blank)

### Evaluation

(Leave blank)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

### Office Hour and Contact Information

Friday 13:00-13:20

### Message

(Leave blank)

### Improvements in Teaching

(Leave blank)

### Textbook

(Leave blank)

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MATSUYA Rie	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The aim of this course is to help students complete their theses.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SAITO Miho	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The aim of this class is to be able to design and conduct students' own researches in an appropriate way and to write a thesis or report.

### Description and Schedule

The plan will be made according to the progress of research of each student.

### Evaluation

Final report

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

The student to give a presentation must prepare and distribute handouts to all participants beforehand. The other students must read them before the presentation.

### Office Hour and Contact Information

13:00-14:30 on THU(Recommended to contact in advance)  
E-mail:msaito@people.kobe-u.ac.jp

### Message

(Large empty box for message)

### Improvements in Teaching

(Large empty box for improvements in teaching)

### Textbook

(Large empty box for textbook)

### Reference Materials

(Large empty box for reference materials)

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

(Large empty box for keywords)

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YONEMOTO Koichi	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis to the students in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

使用しない / : , ,ISBN:

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KATO Masayuki	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YOKOKAWA Hirokazu	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

### Theme and Objectives

Seminar for Master's Thesis/Folio II

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

### Evaluation

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	ISHIKAWA Shin'ichiro	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Content: Tutorial Seminar

Aim: To enhance the quality of the thesis by supervision

**Classroom Language**

Japanese, English

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KASHIWAGI Harumi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Research guidance Seminar (for Master's Thesis/Folio)

### Description and Schedule

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

### Evaluation

(Leave blank)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

### Office Hour and Contact Information

Notice: Remember to arrange your appointment in advance by sending me an email.  
kasiwagi@kobe-u.ac.jp、Room: D610

### Message

(Leave blank)

### Improvements in Teaching

(Leave blank)

### Textbook

詳細については授業で説明する。 / : ,ISBN:

### Reference Materials

(Leave blank)

### Classroom Language

Japanese

## Keywords

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	KIHARA Emiko	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

The goal of this seminar is

- 1: to explore theoretically cutting-edge questions about grammar teaching methods,
- 2: to analyze the questions within the framework of construction grammar (cognitive grammar),
- 3: to develop a research paper about a grammar teaching method that you are interested in from a cognitive approach.

Students should seek to actively engage with and respond to all instructional activities, (a) readings, (b) demonstrations, (c) homework exercise, (d) email communication. (Students can engage with the activities above either in Japanese or English.)

### Description and Schedule

- 1: READING: you read papers about Construction Grammar and SLA (especially about teaching grammar or writing).
- 2: PRESENTATION: you make a presentation once in a month about your term paper.

### Evaluation

Class participation: 10%  
 Reading and Presentation: 60%  
 Term Paper: 30%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

### Office Hour and Contact Information

Room #620  
 Date: Monday 2nd period  
 email: kihara.grad@gmail.com  
 Remember to arrange your appointment in advance.

### Message

### Improvements in Teaching

### Textbook

Papers are to be given in class.

## Reference Materials

### Classroom Language

The instruction is spoken in Japanese, but the papers to be given are written in English.

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	GREER Tim	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Students in this class will explore a topic of their own interest, conducting an in-depth literature review and begin to gather some relevant data.

### Description and Schedule

This class is for thesis supervision at the graduate level. Students will meet regularly with the supervisor to develop an original thesis paper.

### Evaluation

Holistic evaluation of the students' progress, including regular presentation and group supervision meetings and thesis preparation.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Empty box)

### Office Hour and Contact Information

Monday 12:10 to 13:00

### Message

Students will be expected to write their paper in English.

### Improvements in Teaching

(Empty box)

### Textbook

(Empty box)

### Reference Materials

As appropriate

### Classroom Language

English, Japanese

### Keywords

Supervision

(Empty box)

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	ZHU Chunyue	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

consultation for completing research paper

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	MASUDA Yoshikazu	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YAMATO Kazuhito	Lecture category	Credit(s)
<b>Theme and Objectives</b> <consultation for completing research paper>			
<b>Description and Schedule</b> according to students' research topics, thorough discussion and consultation will be held in order to complete a quality research paper.			
<b>Evaluation</b> evaluation includes attendance, progress of research (including presentation of each class, contents of presentation/research).			
<b>Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects</b>			
<b>Office Hour and Contact Information</b> office: D622 contact: <a href="mailto:yamato@port.kobe-u.ac.jp">yamato@port.kobe-u.ac.jp</a>			
<b>Message</b> what we can do to improve our research paper is to read, read and read, and think, think and think, and discuss, discuss and discuss.			
<b>Improvements in Teaching</b>			
<b>Textbook</b>			
<b>Reference Materials</b>			
<b>Classroom Language</b>			

## Keywords

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	AOYAMA Kaoru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Advanced skills to write a master thesis or folio work

### Description and Schedule

Focusing on research ethics, this course provides an opportunity to learn some theory and methodology for conducting research projects. We will further discuss individual participants' projects and monitor development.

### Evaluation

Participation and development

Absences lower your final score; 5 times' absences means loosing the credit.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

No absence without notice

### Office Hour and Contact Information

Monday 5th hour, Wednesday 4th hour and Friday 4th hour. E-mail for appointment ( kaoru@jca.apc.org )

### Message

All work is done as group work with peer students.

### Improvements in Teaching

### Textbook

### Reference Materials

Introduced when necessary

### Classroom Language

Japanese or English

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	TANIMOTO Shinsuke	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The 4th step to the thesis

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	YOSHIOKA Masanori	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	UMEYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for students writing the master ' s thesis/folio in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	HAGIHARA Mamoru	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

I will lead to write the article for master degree about the history of Mongolia.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	NOTANI Keiji	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis to the students.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	OKADA Hiroki	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	SADAYOSHI Yasushi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

to make semi-final version of each participant's thesis or folio.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	KUBOTA Sachiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Accopmlish MA thesis

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	ITO Tomomi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The purpose of this class is for each student to construct the structure of their own M.A. thesis through presentations and discussions about their study plan and research results.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	YASUOKA Masaharu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	WANG Ke	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	CHO Shigeru	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis / folio to the students in the researcher training program.

### Description and Schedule

(Leave blank)

### Evaluation

(Leave blank)

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

(Leave blank)

### Office Hour and Contact Information

Friday 13:00-13:20

### Message

(Leave blank)

### Improvements in Teaching

(Leave blank)

### Textbook

(Leave blank)

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	IWAMOTO Kazuko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	MAIYA Kiyoshi	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

This course is for the students who are going to conduct experimental study in the field of interpersonal behavior. They are to learn advanced method of experimental psychology including data analysis and statistics.

### Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	FUJINAMI Fumiko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	MORISHITA Junya	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

**Reference Materials**

**Classroom Language**

Japanese

**Keywords**

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	MIZUGUCHI Shinobu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance for the master ' s thesis/folio to students in the researcher training program.

### Description and Schedule

Guidance focuses on theoretical and methodological perspectives.

### Evaluation

discussion 100%

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

Discuss in your own words.

### Office Hour and Contact Information

Friday 13.30-15.00  
and by appointments

### Message

Basics are important.

### Improvements in Teaching

Refer to my HP for details.

### Textbook

### Reference Materials

### Classroom Language

Japanese

### Keywords

methodology  
theoretical analysis

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	NISHIDA Takeshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty adviser provides research guidance to complete the master ' s thesis/folio to the students in the researcher training program.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	TATEOKA Kumi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Traning of academic writing

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	MURAO Hajime	Lecture category	Credit(s)
<b>Theme and Objectives</b>			
This is the consulting seminar to develop M.A Theses.			
<b>Description and Schedule</b>			
Necessary consultation for making M.A. Theses including information skills training will be given through the seminar.			
<b>Evaluation</b>			
The grade will be based on participation and attitude (40pts) and M.A. Theses or Folios (60pts).			
<b>Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects</b>			
<b>Office Hour and Contact Information</b>			
Please contact by e-mail beforehand. E-mail: hajime.murao@mulabo.org			
<b>Message</b>			
<b>Improvements in Teaching</b>			
<b>Textbook</b>			
No textbook is planned to be used.			
<b>Reference Materials</b>			
References will be indicated at the class if necessary.			
<b>Classroom Language</b>			
Japanese, English			
<b>Keywords</b>			

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	SHIMAZU Atsuhsia	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	PINTER Gabor	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this course we are going to read articles about recent achievements in phonology and phonetics.

### Description and Schedule

In this course we are going to discuss major achievements in the field of phonology and phonetics. The articles to be covered are chosen from the following topics:

- phonotactics and L2 acquisition
- syllable theory
- perceptual phonology
- historically important articles
- recently hot topics (e.g., prosody)

Students are required to write an article about a topic of their choice at the end of the course.

### Evaluation

Final grades will be based on class activity and seminar reports.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

It is an advanced phonology class. It is highly recommended to take the introductory phonology class (言語科学論 特殊講義) before applying to this course.

### Office Hour and Contact Information

g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### Message

Students are expected to read one article per week.

### Improvements in Teaching

### Textbook

articles will be distributed in pdf or printed format

### Reference Materials

### Classroom Language

English

### Keywords

advanced phonology, phonetics

Course title	Research Guidance Seminar IV		
Instructor	UENO Naritoshi	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar on Academic Writing

**Classroom Language**

Japanese

Course title	MA's Thesis		
Instructor	Faculty Council	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

<作成中>

Classroom Language

<作成中>

Course title	MA Project		
Instructor	Faculty Council	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

<作成中>

Classroom Language

<作成中>

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	ISHIZUKA Hiroko	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master's thesis/folio to the students in the researcher training program

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	TANIMOTO Shinsuke	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

The 2nd step to the thesis

**Classroom Language**

japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	NOTANI Keiji	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance for the master's thesis to the students.

**Classroom Language**

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	OZAWA Takuya	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master's thesis.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	INOUE Hirotaka	Lecture category	Credit(s)
		2nd semester	2

#### Theme and Objectives

A chief faculty advisor provides research guidance to complete the master's thesis.

#### Description and Schedule

#### Evaluation

#### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

#### Office Hour and Contact Information

#### Message

#### Improvements in Teaching

#### Textbook

## Reference Materials

### Classroom Language

In this class, the medium of language is Japanese.

### Keywords

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	近藤 正基	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SAKANO Tomokazu	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	NAKAMURA Satoru	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	YASUOKA Masaharu	Lecture category	Credit(s)

#### Theme and Objectives

Our department holds a collective seminar every week, in which five professors and all students participate. Students make presentations to report the progress of their research for the master thesis.

#### Classroom Language

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	SHIMAZU Atsuhsia	Lecture category	Credit(s)

Theme and Objectives

Classroom Language

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	PINTER Gabor	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

In this course we are going to read articles about recent achievements in phonology and phonetics.

### Description and Schedule

In this course we are going to discuss major achievements in the field of phonology and phonetics. The articles to be covered are chosen from the following topics:

- phonotactics and L2 acquisition
- syllable theory
- perceptual phonology
- historically important articles
- recently hot topics (e.g., prosody)

Students are required to write an article about a topic of their choice at the end of the course.

### Evaluation

Final grades will be based on class activity and seminar reports.

### Information Regarding Preparation, Review and Related Subjects

It is an advanced phonology class. It is highly recommended to take the introductory phonology class (言語科学論 特殊講義) before applying to this course.

### Office Hour and Contact Information

g-pinter@shark.kobe-u.ac.jp

### Message

Students are expected to read one article per week.

### Improvements in Teaching

### Textbook

articles will be distributed in pdf or printed format

### Reference Materials

### Classroom Language

English

### Keywords

advanced phonology, phonetics

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	山本 真也	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

You will be trained for empirical research on behavior and cognition in human and non-human animals.

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	廣田 大地	Lecture category	Credit(s)

**Theme and Objectives**

Seminar for Master's Thesis/Folio II

**Classroom Language**

Japanese

Course title	Research Guidance Seminar II		
Instructor	福岡 麻子	Lecture category	Credit(s)

### Theme and Objectives

Seminar for Master's Thesis/Folio : To gain skills and knowledge that are necessary for writing a thesis. In order to do this, students should have a presentation and discuss how their work is developing with their supervisor and course instructors.

### Classroom Language

Japanese